

2022 (令和 4) 年度

履 修 要 項

文 学 部

文 学 研 究 科

鶴 見 大 学

2022 (令和 4) 年度

履 修 要 項

文 学 部

文 学 研 究 科

鶴 見 大 学

文学部の教育

文学部長 角田 裕之

他者に対する思いやりの心を涵養し、幅広い視野と柔軟な思考力及び体系的な専門知識を修得して、これからの社会に貢献できる人材の育成が文学部の教育目標です。知的能力は勿論、人間性の涵養も大学においては学問を通して形成されます。個々の興味や関心を伸ばし、不足している箇所を補い、理想の実現に向かってたゆまぬ努力を続けてください。

普遍的で基礎的な力を養う共通科目

文学部には、独自の研究領域を持つ日本文学科・英語英米文学科・文化財学科・ドキュメンテーション学科の4学科があります。この多彩な学科構成が本学文学部の特色であり、みなさんはいずれかの学科に所属して専門的な力を獲得します。しかし、将来実社会で活躍するための一般的知識や、各専門を支える基礎的技能も欠かせません。そこで、広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的として「共通科目」が用意されています。外国語科目群、文化・芸術系科目群、人間・社会系科目群、生活・環境系科目群、キャリア形成科目群の幅広い科目群から構成されています。履修にあたり、得意な学問系統あるいは専門の研究に関連する領域だけではなく、今まで関心の無かった分野や苦手な科目にも挑戦してください。新たな気づきや発見があるでしょう。

該博な知見に根ざす独自の専門科目

個性的な4つの学科では、専門性の土台作りとなる基礎科目や、最先端の研究成果を伝える科目を、体系的に用意しています。他学科開講の専門科目のなかにも履修可能な科目もあります。どの科目も学科の特色を発揮した創意工夫が凝らされていますので、学問の魅力や真理を探究する醍醐味を存分に堪能してください。

将来を見据えた学修設計

卒業後、社会に出て活躍される方、学問を続ける方、多様な進路がみなさんの前に開けており、どのようにそれぞれの明日を設計するかは、一人ひとりに委ねられています。将来に有益となる科目や、職業と直結する各種資格に関わる科目も充実しています。教職をはじめ、図書館司書・司書教諭・博物館学芸員など、様々な資格取得が可能です。その他に、横浜市内12大学で「単位互換」の協定により、他大学の開講科目を受講し、その単位を本学の卒業単位として認定する制度もあります。これらを活用して将来を見据えた学修を設計してください。

最適な学修の整備

本学では、対面授業と遠隔授業の2つの授業形態を整備しています。社会情勢に応じて柔軟に授業形態を選択し、最適な学修が継続できるように支援します。授業形態の特徴を熟知し、学修の効果を高めてください。

卒業の時、輝かしい未来があなた方の前に開けていることを期待します。

2022(令和4)年度

4

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

5

日	月	火	水	木	金	土
1	2	③	④	⑤	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

6

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

7

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

8

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

9

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

10

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

11

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	③	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

12

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

1

日	月	火	水	木	金	土
①	②	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30	31				

2

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

3

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

2023(令和5)年度

4

日	月	火	水	木	金	土
					1	
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

5

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	③	④
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

6

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

7

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

8

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

9

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

10

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29

11

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	③
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

12

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

1

日	月	火	水	木	金	土
①	2	3	4	5	6	
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

2

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	

3

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

※祝日は、法改正により変更になる場合があります。

目 次

文学部の教育

《文学部》

2022(令和4)年度文学部学年暦	1
-------------------	---

学修について

1. まえがき	5
2. 単位制	5
3. 履修に関する一般的注意	5
4. 履修科目の登録	6
5. 履修登録単位数の上限	6
6. 授業	7
7. 試験	8
8. 成績の評価とその通知	11
9. 卒業	12
10. 卒業論文	12
11. 学籍	13
12. 横浜市内大学間単位互換制度	15
13. 東京国立博物館キャンパスメンバーズ	16
14. その他の注意事項	16

教育課程

日本文学科

2020(令和2)年度以降入学生に適用

1. 卒業所要単位	23
2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者	24

《共通科目》

- ① 基礎科目
- ② 外国語科目
- ③ 文化・芸術系科目
- ④ 人間・社会系科目
- ⑤ 生活・環境系科目
- ⑥ キャリア形成科目

《専門科目》

- ① 必修科目
- ② 選択科目
 - (1) 選択A群
 - (2) 選択B群
 - (3) 選択C群

【書道実技科目】

2018(平成30)～2019(令和元)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位	32
2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者	33

《共通科目》

- ① 基礎科目
- ② 外国語科目
- ③ 文化・芸術系科目
- ④ 人間・社会系科目
- ⑤ 生活・環境系科目
- ⑥ キャリア形成科目

《専門科目》

- ① 必修科目
- ② 選択科目
 - (1) 選択A群
 - (2) 選択B群
 - (3) 選択C群

【書道実技科目】

2017(平成29)年度以前入学生に適用

1. 卒業所要単位	41
2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者	42

《共通科目》

- ① 基礎科目
- ② 外国語科目
- ③ 文化・芸術系科目
- ④ 人間・社会系科目
- ⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 46

①必修科目

②必修選択科目

③選択科目

(1) 選択A群

(2) 選択B群

(3) 選択C群

【書道専門科目】

英語英米文学科

2020(令和2)年度以降入学生に適用

1. 卒業所要単位 53

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者 ... 54

《共通科目》 54

① 基礎科目

② 外国語科目

③ 文化・芸術系科目

④ 人間・社会系科目

⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 58

- ①必修科目
- ②選択科目
- (1) 選択A群
- (2) 選択B群

2018(平成30)～2019(令和元)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位 63

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者 ... 64

《共通科目》 64

① 基礎科目

② 外国語科目

③ 文化・芸術系科目

④ 人間・社会系科目

⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 68

①必修科目

②選択科目

(1) 選択A群

(2) 選択B群

2016(平成28)～2017(平成29)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位 73

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者 ... 74

《共通科目》 74

① 基礎科目

② 外国語科目

③ 文化・芸術系科目

④ 人間・社会系科目

⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 78

①必修科目

②選択科目

(1) 選択A群

(2) 選択B群

文化財学科

2021(令和3)年度以降入学生に適用

1. 卒業所要単位 85

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者 ... 86

《共通科目》 86

① 基礎科目

② 外国語科目

③ 文化・芸術系科目

④ 人間・社会系科目

⑤ 生活・環境系科目

⑥ キャリア形成科目

《専門科目》 90

①必修科目

②選択科目(専攻科目)

2020(令和2)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位	93
2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者	94
《共通科目》	94
(A) 基礎科目	
(B) 外国語科目	
(C) 文化・芸術系科目	
(D) 人間・社会系科目	
(E) 生活・環境系科目	
(F) キャリア形成科目	
《専門科目》	98
①必修科目	
②選択科目(専攻科目)	

2019(令和元)年度以前入学生に適用

1. 卒業所要単位	101
2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者	102
《共通科目》	102
(A) 基礎科目	
(B) 外国語科目	
(C) 文化・芸術系科目	
(D) 人間・社会系科目	
(E) 生活・環境系科目	
(F) キャリア形成科目	
《専門科目》	106
①必修科目	
②選択科目(専攻科目)	

ドキュメンテーション学科

2022(令和4)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位	111
2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者	112
《共通科目》	112
(A) 基礎科目	
(B) 外国語科目	
(C) 文化・芸術系科目	
(D) 人間・社会系科目	

(E) 生活・環境系科目

(F) キャリア形成科目

《専門科目》 116

①必修科目

②選択科目

2020(令和2)～2021(令和3)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位	119
2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者	120
《共通科目》	120
(A) 基礎科目	
(B) 外国語科目	
(C) 文化・芸術系科目	
(D) 人間・社会系科目	
(E) 生活・環境系科目	
(F) キャリア形成科目	

《専門科目》 124

①必修科目

②選択科目

(1) 選択A群

(2) 選択B群

2019(令和元)年度以前入学生に適用

1. 卒業所要単位	127
2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者	128
《共通科目》	128
(A) 基礎科目	
(B) 外国語科目	
(C) 文化・芸術系科目	
(D) 人間・社会系科目	
(E) 生活・環境系科目	
(F) キャリア形成科目	

《専門科目》 132

①必修科目

②選択科目

(1) 選択A群

(2) 選択B群

資格課程	135
教職課程	137
司書・司書教諭課程	153
学芸員課程	159
宗侶養成課程	165
学校司書養成プログラム	169
諸規程	175

英米文学専攻
文化財学専攻
ドキュメンテーション専攻

その他の事項	217
--------	-----

諸規程	223
-----	-----

《履修登録の手引き》	243
------------	-----

Web 履修登録・資格申請・ 成績照会の操作方法	251
-----------------------------	-----

《文学研究科》

2022 (令和 4) 年度大学院文学研究科学年暦	189
---------------------------	-----

開講科目及び担当者

1. 日本文学専攻	193
博士前期課程	
博士後期課程	
2. 英米文学専攻	195
博士前期課程	
博士後期課程	
3. 文化財学専攻	197
博士前期課程	
博士後期課程	
4. ドキュメンテーション専攻	199
博士前期課程	
博士後期課程	

《教室等配置図》	267
----------	-----

《災害等への対応》	283
-----------	-----

1. 大規模地震発生時の措置	285
2. 南海トラフ地震臨時情報発令時の 諸注意	286
3. Jアラート(全国瞬時警報システム) を活用した緊急情報が配信された場 合の対応	286

履修方法・研究指導

1. 博士前期課程	205
日本文学専攻	
英米文学専攻	
文化財学専攻	
ドキュメンテーション専攻	
2. 博士後期課程	212
日本文学専攻	

《文 学 部》

鶴見大学文学部における3つのポリシーについて

◆ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

文学部では、他者に対する思いやりの心を涵養し、幅広い視野と柔軟な思考力及び体系的な専門知識を修得して、これからの社会に貢献しようとする学修者が、所定年限在籍・所定単位数修得の要件を満たした場合において、学士（文学）を授与します。

1. 共通教育の多面的履修と人文科学の広汎な学修により、広い世界認識に到達することができる。
2. 深い自己認識を備え、他者への豊かな共感を持つことができる。
3. 自立した社会人となり、学問の意義と重要性を理解して積極的に生涯学び続けることができる。
4. 専門分野の知識・技能を体系的に修得し、社会の多様な問題解決に寄与できる。

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

文学部では、自己を正しく認識し慈愛の心を育み、広い教養と深い専門知識を備え、社会の発展に貢献できる人材を育成するために、以下の教育課程を編成し、実施しています。

1. 基礎的教養教育

自己開発と現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵及び技能を養成するために、A基礎科目、B外国語科目、C文化・芸術系科目、D人間・社会系科目、E生活・環境系科目、Fキャリア形成科目を開講する。

2. 禅的情操教育

深い自己認識を備え、他者への豊かな慈愛の心を育み、学修内容を実践的に生かすために宗教学を開講し、各種の宗教行事を催す。

3. キャリア教育

自立した社会人に求められるコミュニケーション能力や自己表現などのスキル向上のための科目を開講する。

4. 専門教育

基礎から高度に実践的・学問的な専門知識までを体系的に修得できるよう、科目を編成し開講する。

5. 独自教育

- 1) 全学部学生に対し、多彩な資格（教職・司書・学芸員）取得のための教育課程が開かれている。
- 2) 高度な専門分野の知識・技能の修得を目的として、少人数教育の科目を多数開講する。
- 3) 他学科開講科目の履修も一定の範囲内で可能であり、多彩な履修によって幅広い世界認識や他者への豊かな共感力を育てる。
- 4) 曹洞宗宗侶養成課程を開設している。
- 5) その他、各学科で独自の教育を実施している。以下は、その一例である。

（日本文学科）

伝統文化理解に必須の古文・漢文に関する能力を基礎から養成する。

（英語英米文学科）

異文化理解を促進し、英語多読の体系的・先端的教育を実施する。

（文化財学科）

実践的知識・技能の修得のために、各種実習を多彩に開講する。

（ドキュメンテーション学科）

図書館の古典籍を活用して即時の書誌学教育を行う。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

文学部では、自己と世界に関わる諸問題を真摯に学び、各専門分野に積極的関心を持ち、新たな知的価値の創造と未来社会への貢献にむけて努力する人を歓迎します。

1. 世界や他者に対する幅広い関心と豊かな共感を備えている人。
2. 自己を深く認識することに関心があり、常に学びの努力を惜しまない人。
3. 社会に貢献する意志を持ち、現実の多様な問題に対して主体的に取り組む人。
4. 総合的基礎学力と専門分野の知識を有し、積極的学修をとおして高度な知識・技能を身につける意欲がある人。

アセスメント・ポリシー（学修成果の評価方針）

- (1) 個々の授業科目について、出席状況、試験やレポート等の成績、担当教員が必要と認める学習作業の結果などを総合して合格判定を行う。したがって、試験の成績が合格の程度に達していても、不合格となることがある。
- (2) 各授業科目の成績評価方法は、「授業概要（シラバス）」に掲載している。
- (3) 試験・成績に係る詳細な事項については、「履修要項」に掲載している。
- (4) 令和元年度以前入学生の年間履修上限単位数は44単位とする。前年度のGPAが3.0以上の場合は、履修上限単位数は52単位になる。
令和2年度以降入学生の年間履修上限単位数は1～3年次は44単位、4年次は48単位とする。前年度のGPAが3.0以上の場合は、履修上限単位数は48単位になる。
なお、年間履修上限単位数に含めない科目については、「履修要項」に掲載している。
- (5) 定期試験は、筆記、レポート、実技等の方法で実施し、評価する。
 - ① 当該授業科目について、1期または1年を通じて授業時数の3分の2以上出席していない場合、定期試験を受験できない。
 - ② 授業時間内に行う平常試験については、科目担当者の指示に従う。
 - ③ 定期試験がレポート提出をもって行われる場合も、1期または1年を通じて授業時数の3分の2以上出席していない場合はレポート提出資格を失う。
- (6) 卒業論文や卒業研究小論文、卒業課題研究については、「履修要項」に記載している。
- (7) GPA制度を導入している。GPAは学生の学修成果を総合的に示す指標であり、これにより学修成果の評価を実施する。学部内での成績優秀者の認定や、年間履修上限単位数の算定等に利用される。GPAによる成績評価は次のとおりとする。

	可否	評価	成績評価基準	GP	評価内容
成績評価対象	合格	S	100～90点	4.0	特に優れた成績
		A	89～80点	3.0	優れた成績
		B	79～70点	2.0	妥当と認められる成績
		C	69～60点	1.0	合格と認められる最低限の成績
		合	可否のみ判定	—	合格と認められる成績
	D	59点以下	0.0	不合格の成績	
不合格	E	受験失格 レポート未提出 試験欠席	0.0	不合格の成績	
	否	可否のみ判定	—	不合格の成績	
対象外	T	単位認定科目	—	編入学等により他大学等で修得した単位を本学の単位として認定した科目	
	W	履修中止科目	—	所定の手続を経て履修を中止した科目	

■評価に関する指標

	評価レベル	新入生	在學生	卒業生
1	機関レベル (大学)	入試選抜 学修・生活に関する調査	GPA・成績分布状況 学修・生活に関する調査 休学率 留年率 退学・除籍率	卒業率 就職率 進学率 卒業時アンケート 卒業後アンケート 企業アンケート
2	教育課程レベル (学部・学科)	プレイスメントテスト 入学前教育取組状況	GPA・成績分布状況 取得単位数	卒業時アンケート 卒業後アンケート 卒業論文提出率
3	科目レベル		成績評価 出席率 学修履歴 学外実習評価 授業評価アンケート	
	対応するポリシー	アドミッション・ポリシー (AP)	ディプロマ・ポリシー (DP) カリキュラム・ポリシー (CP)	ディプロマ・ポリシー (DP)

2022(令和4)年度文学部学年暦

2022年 3月28日(月)から	}	新入学生履修指導及び在学生2022(令和4)年度時間割発表、全学生健康診断
4月4日(月)まで		
5日(火)		入学式、クラブ関係オリエンテーション
5日(火)から	}	履修登録期間
12日(火)まで		
6日(水)		前期授業開始
14日(木)から	}	履修中止申請期間
20日(水)まで		
29日(金)		昭和の日(授業実施)
5月3日(火)		憲法記念日
4日(水)		みどりの日
5日(木)		こどもの日
24日(火)		新入生本山参禅会(8:30~12:40)(日本文学科・文化財学科)
25日(水)		新入生本山参禅会(8:30~12:40)(英語英米文学科・ドキュメンテーション学科)
7月1日(金)		精霊祭参列(2時限休講)
14日(木)		前期試験時間割発表
18日(月)		海の日(授業実施)
22日(金)		補講日
23日(土)		補講日
25日(月)		補講日
26日(火)		前期授業最終日
27日(水)から	}	前期試験期間
8月2日(火)まで		
3日(水)から	}	夏季休暇期間
9月14日(水)まで		
8月11日(木)		山の日
9月2日(金)		前期成績発表(郵送)
9日(金)から	}	後期科目履修修正期間
21日(水)まで		
15日(木)		後期授業開始
19日(月)		敬老の日(授業実施)
22日(木)から	}	後期科目履修中止申請期間
27日(火)まで		
23日(金)		秋分の日(授業実施)
10月10日(月)		スポーツの日(授業実施)
13日(木)		御征忌
14日(金)		大学祭準備(全時限休講)
15日(土)から	}	大学祭(全時限休講)
16日(日)まで		

10月17日 (月)	大学祭後片付け (1・2時限休講) ※午後は通常授業
20日 (木)	防災訓練 (2時限目)
11月3日 (木)	文化の日
18日 (金)	太祖降誕会 (予修)
21日 (月)	開学記念日 (授業実施)
23日 (水)	勤労感謝の日
12月8日 (木)	成道会参列 (2時限休講)
12日 (月)	卒業論文提出期間
13日 (火)	
14日 (水)	
22日 (木)	後期試験時間割発表
27日 (火)	補講日
29日 (木) から	冬季休暇期間
2023年 1月5日 (木) まで	
6日 (金)	
9日 (月)	授業再開
10日 (火)	成人の日
11日 (水)	英語英米文学科「卒業研究」小論文提出期間
12日 (木)	
13日 (金)	
14日 (土)	午前補講日※午後休講
16日 (月)	大学入学共通テスト
17日 (火)	午前月曜授業振替日、午後補講日、後期授業最終日
18日 (水)	補講日
19日 (木)	補講日
20日 (金) から	後期試験期間
31日 (火) まで	
2月11日 (土)	建国記念の日
15日 (水)	涅槃会
17日 (金)	4年生後期成績発表
23日 (木)	天皇誕生日
3月2日 (木)	1～3年生後期成績発表 (郵送)
14日 (火)	卒業式
21日 (火)	春分の日

※予定を変更する場合には1週間前までに教務課掲示板に発表する。

※追試験、特別試験及び再試験の予定は別に教務課掲示板に発表する。

学 修 に つ い て

1. まえがき

所定の授業科目を適切な計画のもとに順序よく履修することは、大学生活の根幹をなすもので、そのためには、学則の第5章（「学生生活」参照）を熟読することが必要であるが、ここでは履修に関する必要な諸事項について説明する。

2. 単位制

単位制は、一定の授業科目を履修し、それらに割り当てられている所定の単位を修得することによって成り立つものである。

1単位を修得するにあたって45時間の学修を基本とし、授業時間以外に必要な学修時間については、自主学習時間（予習および復習）を行うことを標準とする。

1年間の授業週数は、定期試験などの期間を含めて35週である。これを前期及び後期の2期に分ける。

授業科目は、定期試験期間をのぞきそれぞれ1年間30週をもって完結するのが原則であるが、前期または後期の15週だけで完結するものもある。1年間30週をもって完結する科目を通年科目といい、前期または後期の15週をもって完結する科目を1期科目という。また、この他にも、定められた短期間に集中して授業を行うことにより完結する集中講義がある。

大学教育における単位の一般的算定基準として決められているものは次のとおりである。

- (1) 講義および演習については、15時間から30時間までの授業をもって1単位とする。
- (2) 実験、実習および実技については、30時間から45時間までの授業をもって1単位とする。文学部においては、授業科目は、(a) 講義、(b) 演習、(c) 実験・実習・実技の3種類に分けられ、1時限の授業が2時間として計算され、通年科目及び1期科目の単位は次のように算定されている。
 - (a) 講義科目は毎週1時限の授業が1年間行われて4単位が与えられる。前期または後期のみで終了する場合は、毎週1時限の授業が半年間行われて2単位が与えられる。
 - (b) 演習科目は毎週1時限の授業が1年間行われて2単位又は4単位が与えられる。前期または後期のみで終了する場合は、毎週1時限の授業が半年間行われて1単位又は2単位が与えられる。
 - (c) 英語・フランス語・ドイツ語・中国語および書道は毎週1時限の授業が1年間行われて2単位が与えられる。前期または後期のみで終了する場合は、毎週1時限の授業が半年間行われて1単位が与えられる。
 - (d) 実習・実技においては、毎週1時限の学内授業を1年間、または毎週2時限の学内授業を半年間履修することによって2単位が与えられる。

実習・実技の科目は、教科の特質上実践することが必要である。期を通して所定の出席回数に足りないと、単位を修得できないことになるので、担当教員の指示にしたがって、極力出席することが大切である。

3. 履修に関する一般的注意

- (1) 卒業のために必要な授業科目及びその単位数に関する規定は極めて厳格なものであって、1単位の不足があっても、卒業はできない。
- (2) 個々の授業科目について、出席状況、試験やレポートなどの成績、担当教員が必要と認める学習作業の結果などを総合して、合格と判定された科目に対しては所定の単位が与えられ

る。したがって、試験の成績が合格の程度に達していても他の評価が基準に達していない場合には不合格となることがある。

- (3) 授業科目の選択は1年間の勉学方針の決定であり、次年度以降の科目の履修にも大きく影響するので、本履修要項を熟読の上、慎重に決定することが望ましい。
- (4) 自分の履修する科目について不明な点または疑問点があったなら、担当教員または教務課にたずね、疑問を残さないようにしなければならない。
- (5) 前年度までに修得すべき科目が未修得のままに残っている場合には、履修登録前に、学級担任、担当教員または教務課の助言を受けることが望ましい。

4. 履修科目の登録

- (1) 学生は学年の初めの所定の期日までに、履修登録を完了しなければならない。具体的な履修登録の手続きは本文241頁「履修登録の手引き」による。期日までにこの手続きをとらなかった者は、その年度の履修が認められず、たとえ授業を受けても試験を受ける資格がなく、したがって単位は与えられない。
- (2) 履修科目の登録は、指定された期間に必ず本人が行うものとする。登録期間内に手続きができない場合は必ず事前に教務課まで申し出ること。
- (3) すでに単位を修得した科目を、重ねて履修することはできない。また、同一年度に同一科目を重複して履修することはできない。
- (4) 上級学年配当科目を下級年次において履修することは認めない。ただし、下級学年配当科目を上級年次において履修することは差し支えない。
- (5) 履修できなかった必修科目または不合格となった必修科目は、次の年度以降において再履修しなければならない。再履修すべき必修科目が時間割の上で当該学年の履修科目と重なった場合には、再履修科目の方を優先して履修しなければならない。
- (6) 必修科目の演習については、当該クラスで履修することを原則とする。

5. 履修登録単位数の上限

1年間に履修科目として登録できる単位数の上限を以下のとおり定める。

〈2020(令和2)年度以降入学生〉

卒業所要単位に算入される科目について、履修登録単位数の上限を1～3年次は44単位、4年次は48単位とする。履修登録単位数の上限には再履修科目の単位数も含むこととする。

なお、前年度のGPAが3.0以上の学生については、履修登録単位数の上限を48単位とする。

※但し、以下の集中科目については、履修登録単位数の上限には含めないこととする。

【英語英米文学科専門科目】

「海外英語研修」「海外文化研修」「オーラル・コミュニケーション集中A・B」「特別英語研修」

〈2019(令和元)年度以前入学生〉

卒業所要単位に算入される科目について、履修登録単位数の上限を44単位とする。44単位には再履修科目の単位数も含むこととする。

なお、前年度のGPAが3.0以上の学生については、履修登録単位数の上限を52単位とする。

6. 授 業

(1) 授業時間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00 }	10:40 }	13:00 }	14:40 }	16:20 }
10:30	12:10	14:30	16:10	17:50

※補講については
その都度掲示する。

(2) 休 講

- ① 担当教員より連絡があり次第、休講掲示板にその旨を掲示する。
始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務課に申し出てその指示を受けること。
- ② 「暴風警報」、「大雨警報」、「洪水警報」、「大雪警報」、「暴風雪警報」又は「特別警報」の気象警報が発令された場合

(1) 対象となる警報並びに条件

神奈川県下に「暴風警報・大雨警報・洪水警報」が同時に発令された場合及び「大雪警報」、「暴風雪警報」又は「特別警報」が発令された場合、次項(2)の基準を適用する。

(2) 授業・試験の実施基準

【警報解除時刻】	【授業・試験の取扱】
午前7時までに警報が解除された場合	平常どおり実施
午前11時までに警報が解除された場合	1・2時限目は休講・試験延期とし、 3時限目から実施
午後1時までに警報が解除された場合	1・2・3時限目は休講・試験延期とし、 4時限目から実施
午後1時を過ぎても警報が解除されない場合	全時限休講・試験延期

※授業又は試験中に上記の事態が発生した場合は、学長の判断で措置を決定し、掲示（鶴見大学ポータルシステム、大学ホームページへの掲載を含む）や緊急放送等を以って速やかに通知しますので、これに従ってください。

- ③ 自然災害や交通ストライキによって交通機関の運行が停止した場合

(1) 対象となる交通機関

下記2線のいずれも不通となった場合のみ、次項(2)の基準を適用する。

J R 京浜東北線・根岸線（東京～大船間）

私鉄 京浜急行線（品川～三崎口間）

(2) 授業・試験の実施基準

【運行開始時刻】	【授業・試験の取扱】
午前7時までに運行開始された場合	平常どおり実施
午前11時までに運行開始された場合	1・2時限目は休講・試験延期とし、 3時限目から実施
午後1時までに運行開始された場合	1・2・3時限目は休講・試験延期とし、 4時限目から実施
午後1時を過ぎても不通の場合	全時限休講・試験延期

※授業又は試験中に上記の事態が発生した場合は、学長の判断で措置を決定し、掲示（鶴見大学ポータルシステム、大学ホームページへの掲載を含む）や緊急放送等を以って速やかに通知しますので、これに従ってください。

- ④ 南海トラフ地震臨時情報が発令された場合の措置等については、286頁を参照してください。

(3) 欠 席

1週間以上にわたる欠席、または忌引での欠席のときは、事前または事後に、速やかに事由および日時を詳記し教務課に届け出なければならない。届出様式は「学生生活」を参照。試験に欠席した場合の欠席届については「7. 試験」の項を参照すること。

- ① 病欠は医師の診断書を添える。
- ② 事故の時はその理由を明らかにする。
- ③ 忌引は次の期間内に限り欠席時数に算入しない。父母またはこれに代わる者（保護者、正保証人）の証明書を添えること。

両親の忌引は7日以内

祖父母、兄弟、姉妹の忌引は3日以内

(4) 授業の方法

授業は対面のほか、遠隔で実施することがある。遠隔授業は同時双方向型、オンデマンド型等があり、担当教員の指示に従い、学内外でインターネットを介しパソコン等の端末を利用して受講する。

7. 試 験

学則第12条第3項の規定で定める試験についての細則は次のとおりとする。

試験には定期試験、追試験、特別試験、再試験がある。

(1) 定期試験

前期および後期の末に行う。試験の方法には、筆記、レポート、実技などがある。

定期試験の時間割は試験開始日から遅くとも1週間前までに掲示をもって発表する。発表後に変更する場合もあるので注意すること。

なお、所定の定期試験期間1週間前の授業時に実施する試験も定期試験とみなす。

① 受験資格

次のいずれかに該当する場合は、定期試験を受験することができない。また、受験しても無効となる。

- (a) 履修登録されていない授業科目
- (b) 授業料等学納金が未納の場合
- (c) 当該授業科目について、1期または1年を通じて授業時数の3分の2以上出席していない場合

② 平常試験

随時授業時間内に行う。この場合すべて科目担当者の指示に従うこと。

③ レポート

定期試験が筆記試験によらず、レポート提出をもって行われる場合は、下記に従うこと。

- (a) レポート提出の資格は、受験資格に準ずる。
- (b) 題目、枚数、提出期日、提出先は、掲示等により確認すること。
- (c) 教務課提出の場合
 - (イ) 必ず表紙を付け、学籍番号、氏名、科目名、科目担当者名等、必要事項を記載すること。
 - (ロ) 提出場所は教務課カウンターとし、本人が直接提出すること。

(ハ) 提出期日は、定められた日 1 日限りとする。

提出時間 9:00～16:00

(ただし、土曜日は、9:00～12:00)

※提出期日および提出時間を過ぎたレポートは、受理しない。

(ニ) 一度提出したレポートの変更、訂正は認めない。

(d) 科目担当者に直接提出する場合は、科目担当者の指示に従うこと。

(2) 追 試 験

下記の事情により定期試験を欠席した者は、当該科目の試験実施の日を含めて 1 週間以内に、科目名、科目担当者名、詳細な欠席理由を明記した所定の「試験欠席届」に下記の証明書を添えて教務課に提出し、許可を受けることにより追試験を受験することができる。

前期試験の追試験は、前期終了科目について行う。ただし、通年科目についても行う場合がある。

なお、定期試験に代わるものとして課せられた提出先が教務課のレポートについて、提出期日に提出できなかった場合も同様に扱う。

(イ) 病気（診断書を要する）

(ロ) 交通事故（相当証明書を要する）

(ハ) その他特別な事情により、文学部教授会が正当と認めた場合（相当証明書を要する）
追試験に関する手続きは次のとおりである。

① 所定の期間内に「追試験申込用紙」（用紙は教務課にある）を教務課に提出する。

② 受験料は 1 科目 1,000 円とし、納付書に記入の上、証紙を貼付し提出する。

③ 教務課で認印を受けた学生控を受け取り、試験場に持参する。

(3) 特別試験

下記の事情により定期試験を欠席した者は、当該科目の試験実施の日を含めて 1 週間以内に、科目名、科目担当者名、詳細な欠席理由を明記した所定の「試験欠席届」に下記の証明書を添えて教務課に提出することにより、特別試験を受験することができる。

なお、定期試験に代わるものとして課せられた提出先が教務課のレポートについて、提出期日に提出できなかった場合も同様に扱う。

(イ) 忌引（父母またはこれに代わる者（保護者、正保証人）の証明書を要する）

(ロ) 就職試験（就職試験受験先よりの証明書を要する）

(ハ) 教育実習、介護等の体験、博物館実習及び特殊安居

特別試験に関する手続きは次のとおりである。

① 所定の期間内に「特別試験申込用紙」（用紙は教務課にある）を教務課に提出する。

② 教務課で認印を受けた学生控を受け取り、試験場に持参する。

(4) 再 試 験

再試験は 4 年次で履修登録をした科目について実施する。

4 年次で定期試験ならびに特別試験を受験し、不合格となった者で、1 科目再試験を受験することによって、卒業所要単位を充足し得る者についてのみ実施する。なお、9 月卒業申請者については、前期の定期試験ならびに特別試験を受験し、不合格となった者で、1 科目再試験を受験することによって、前期終了日までに卒業所要単位を充足し得る場合にも実施する。

ただし、追試験を受験し、不合格になった者については行わない。

次に掲げる学科目の再試験は行わない。

(イ) 卒業論文、卒業研究及び卒業課題研究

(ロ) 体育

(ハ) 資格に関する科目

再試験に関する手続きは次のとおりである。

- ① 所定の期間内に「再試験申込用紙」（用紙は教務課にある）を教務課に提出する。
- ② 受験料は1科目2,000円とし、納付書に記入の上、証紙を貼付し提出する。
- ③ 教務課で認印を受けた学生控を受け取り、試験場に持参する。

(5) 受験上の注意事項

- (a) 試験は指定されたクラス・試験場で受験しなければならない。
- (b) 試験場における座席は学籍番号順とする。
- (c) 試験中は机上に学生証を提示しなければならない。
- (d) 学生証を忘れた者は、教務課で当日限り有効の仮受験票(1,000円)の交付を受けること。
- (e) 着席後は私語を慎み、学生証、筆記具(鉛筆またはペン、および消しゴム)のみ机の上に置き、科目担当者があらかじめ持ち込みを許可したものを除いては、教科書、参考書、辞書、ノート、下敷、携帯電話、情報端末等の電子機器や、撮影・録音機能を有するもの等、不要なものはいっさい机に出してはならない。これに従わない場合は、不正行為とみなす。特に、携帯電話、情報端末等は時計としての利用も認めず、受験者が試験中に手に取ったり操作したことを監督者が目視した時点で不正行為とみなされるので注意すること。また、携行品は、かばん・紙袋等に入れること。
- (f) ノート・参考書等の参照が許可された科目を受験するときには、科目担当者が許可した場合を除き、必ず自分のものを使用し、コピー等の参照は不可とする。また、試験中の貸借は不正行為とみなす。
- (g) 試験に遅刻した者は、試験開始後20分を経過した場合は、試験場に入ることができない。また、試験場に入った者は、試験終了まで退席は認めない。
- (h) 答案用紙は試験場を退出する際必ず提出しなければならない。棄権は認めない。また無記名の答案は無効とする。
- (i) 試験場における秩序維持等すべて監督者の指示に従わなければならない。
- (j) 定期試験の実施時間は次のとおりである。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:20 }	10:40 }	13:20 }	14:40 }	16:00 }
10:10	11:30	14:10	15:30	16:50

- (k) 受験中不正行為をなした者は、ただちに当該試験を含め試験期間中の全ての受験が停止される。その後、事実確認が行われ、文学部教授会の審議を経て、その科目を含む当該期に履修中の全ての科目が失格となる。なお、前期に不正行為が行われた場合、通年科目も失格となる。

8. 成績の評価とその通知

	可否	評価	成績評価基準	GP	評価内容
成績評価対象	合格	S	100～90点	4.0	特に優れた成績
		A	89～80点	3.0	優れた成績
		B	79～70点	2.0	妥当と認められる成績
		C	69～60点	1.0	合格と認められる最低限の成績
		合	可否のみ判定	—	合格と認められる成績
	不合格	D	59点以下	0.0	不合格の成績
		E	受験失格 レポート未提出 試験欠席	0.0	不合格の成績
否		可否のみ判定	—	不合格の成績	
対象外		T	単位認定科目	—	編入学等により他大学等で修得した単位を本学の単位として認定した科目
		W	履修中止科目	—	所定の手続を経て履修を中止した科目

- (a) 各科目の成績は、定期試験のほかに随時行われる平常試験・レポートなどの成績、平常の学習態度を総合して定める。
- (b) 成績評価基準、成績評価および付与される評定値（GP）は上記の表のとおりとし、可否欄に合格と記された評価を得た科目について所定の単位が与えられる。
- (c) GPA制度

GPAとは、Grade Point Average の略で、成績評価に評定値（GP）を設定し、履修した科目の1単位あたりの評定平均値を計算したものである。GPAは、各学生の学修成果を総合的に示す指標となるものであり、成績通知書並びに成績証明書に表示される。GPAの計算方法は、以下のとおりとする。

〈2017(平成29)年度以降入学生〉

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{卒業要件科目の総履修単位数（評価S,A,B,C,D,Eのすべてを含む）}}$$

- ※不合格科目を再履修して合格した場合には、不合格分の単位数も分母に含める。
GPA計算に参入する単位数は卒業要件科目のみとする。

〈2016(平成28)年度以前の入学生〉

$$\frac{4.0 \times S \text{ の修得単位数} + 3.0 \times A \text{ の修得単位数} + 2.0 \times B \text{ の修得単位数} + 1.0 \times C \text{ の修得単位数}}{\text{総履修単位数（評価S,A,B,C,D,Eのすべてを含む）}}$$

- ※不合格科目を再履修して合格した場合には、不合格分の単位数も分母に含める。

前期及び後期の学期末に成績の確認が行われ、当該学期のGPA1.0未満の学生には、学修支援面談が行われる。次の学期後においてもGPA1.0未満の場合、再面談が行われる。特段の理由なしに以上の面談に応じない場合、また、更に次の学期後においても改善の意欲が見られない場合、退学勧告等の措置を含めた指導が行われる。なお、学修支援面談は、学生本人から事情を聞き、改善方法を共に探すことを目的とする。

- (d) 成績は、前期においては前期科目のみの発表とし、後期においては、通年科目および後期科目を発表する。
- (e) 成績通知書は前期末および年度末に本人に交付する。

(f) 再試験の成績は、合格点を全て60点とする。

(g) 成績優秀者の認定

GPAに基づいて、当該年度、成績が優秀であったと認められる者については、「成績優秀者」として認定し、認定証を授与する。

9. 卒業

卒業の要件は、4年以上在学し、各学科毎に定められた卒業に必要な単位を修得することとする。卒業の時期は、学年の終了日とする。ただし、在学期間が4年を超える学生については、妥当な事由があり、次のいずれかに該当する場合は、教授会の審議を経てこれを前期の終了日とすることができる。

この規定の適用を希望する者は、履修登録の際、必ず教務課配布の「9月卒業申請書」に必要な事項を記入し申し出ることとする。

- (1) 前期に開講する授業科目を履修して、前期の終了日までに卒業に必要な単位を修得した場合。
- (2) 前期の終了日までに卒業論文を除く他の卒業に必要な単位を修得している者が、教授会の承認を得て卒業論文を提出し、その単位を修得した場合。

10. 卒業論文

(1) 履修手続き

卒業論文の題目は、2回にわたり提出することとする。題目は第1回目を4年次の5月、第2回目を4年次の11月中の定められた日までに教務課へ届け出なければならない。第2回目の題目は最終題目であり、提出後の変更は一切できない。提出の日時等詳細についてはその都度掲示で連絡する。

履修登録をしても、卒業論文題目届を所定の期間に届け出ない場合は、卒業論文を提出することができない。

(2) 指導教員の発表・指導

日本文学科では、3年次に行われる希望調査に基づいて指導教員が発表されるので、各教員が開講する「卒業論文指導」を履修し、指導を受けなければならない。

文化財学科では、4年次に履修した「文化財演習Ⅱ」の教員の指導を受けなければならない。

ドキュメンテーション学科では、4年次に履修した「卒業論文演習」の教員の指導を受けなければならない。

(3) 論文の形態

印刷又は手書きの論文を提出する。ただしドキュメンテーション学科では、指導教員が許可した場合には、印刷又は手書きの論文に代えて、電子ファイルを提出することもできる。

この場合は、第2回目の題目提出に際し、その旨を届け出なければならない。

(4) 論文の体裁

① 論文を印刷又は手書きで提出する場合は、必ず綴じたうえ、表紙に、論文題目、指導教員名、学籍番号、氏名を明記すること。

上記の事項を、表紙の次の扉紙（原稿の第1枚目）にのみ記入してある場合は、受理されないので注意すること。

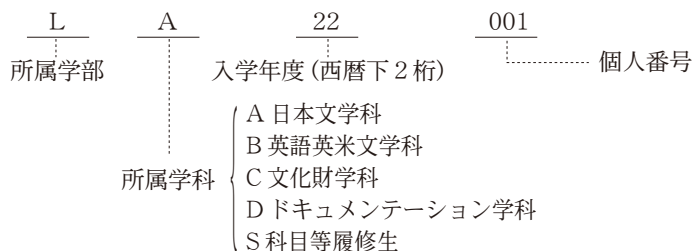
- ② 論文を電子ファイルで提出する場合も、表紙は紙に印刷し、論文題目、指導教員名、学籍番号、氏名を明記すること。
- ③ 論文は各学科で定められた用紙・ファイル形式・ページ数の条件を満たすように作成する。本文にはページを付すること。
- (5) 提出期間
卒業論文の提出期間は、毎年度12月の定められた3日間とする。提出期限を過ぎた場合は受理しない。なお、詳細については、掲示により指示する。
- (6) 提出場所
文学部教務課
- (7) 提出方法
- ① 論文を印刷又は手書きで提出する場合は、卒業論文に、所定の卒業論文提出票を添付し、学生証を提示のうえ提出する。このうちいずれかが不備の場合は受理されない。
- ② 論文を電子ファイルで提出する場合は、電子ファイルは事前に所定のシステムにアップロードして、指導教員に確認を受けなければならない。教務課には、印刷した表紙と所定の卒業論文提出票を提出する。ファイルがアップロードされていても、書類が提出期間内に受理されなければ、提出は無効である。
- ③ 卒業論文は本人が直接提出すること。本人が直接提出できない場合は、直ちに教務課に連絡し、その指示に従うこと。
- (8) 口述試問
卒業論文提出後成績発表以前に、論文に関連して口述試問を受けなければならない。日時は論文提出後、改めて掲示する。
- (9) 各学科からの指示
卒業論文の履修手続き・指導・形式等に関して各学科より連絡・掲示を行うことがあるので、各自注意してその指示に従うこと。
※本節における記述は、ドキュメンテーション学科の学生については、2021(令和3)年度以前の入学生に適用される。

11. 学 籍

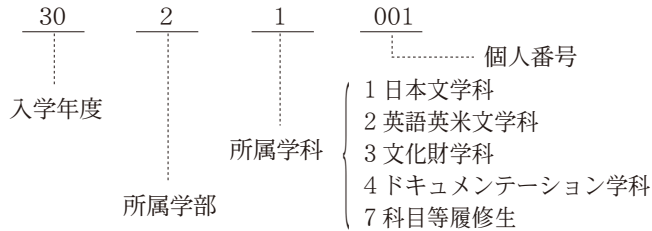
(1) 学籍番号

- ① 入学と同時に各学生の学籍番号が決められ、卒業までこれを用いる。
- ② 学籍番号の構造は次のとおりである。

〈2019(令和元)年度以降入学生〉



〈2018(平成30)年度以前の入学生〉



③ 試験、諸証明書申込等、学内の事務は全て学籍番号によって処理されるので、正確に記入しなくてはならない。

(2) 学籍異動

休学、復学、退学を希望する場合には、学則第8章第26条、第27条、第28条（「学生生活」参照）により、所定の書類を提出しなければならない。

① 休学

休学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の休学願に、病気の場合は医師の診断書を添えて、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

書類は教務課まで提出すること。

休学を許可された者には、休学許可書を交付する。

なお、休学者は現学年に留まり、復学に際しては休学時の学年に復学する。

② 復学

休学の事情が解消して復学しようとする時は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の復学願に、病気休学の場合は医師の診断書を添えて、休学期間終了の1ヵ月前までに学長に願い出て許可を受けて復学することができる。

書類は教務課まで提出すること。

復学を許可された者には、復学許可書を交付する。

復学にあたっては現学年（休学した学年）に復学する。

復学後の事項については、必要に応じて連絡する。

③ 退学

退学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の退学願により、学長に願い出て許可を受けなければならない。

書類は教務課まで提出すること。

退学願提出と同時に学生証を返還しなければならない。

退学を許可された者には、退学許可書を交付する。

④ 除籍

学則第8章第26条の2（「学生生活」参照）により、以下のいずれかに該当する者を学長は除籍することができる。

- (1) 指定の期日までに学生納付金等を納入せず、督促してもなお納入に応じない者
- (2) 学則第7条第1項に定める在学期間を超えた者
- (3) 学則第27条第3項に定める休学期間を超えて復学できない者
- (4) 死亡の届けがあった者

- (注) 1 提出書類は全てペン書とし、鉛筆書は受け付けない。
2 提出書類は押印を要するものが多いので、常に印鑑を用意すること。

12. 横浜市内大学間単位互換制度

(1) 横浜市内大学間単位互換制度について

単位互換制度とは、この制度に参加する大学が提供する科目を履修し、それを所属大学の単位として認定してもらうという制度です。

この制度においては、各参加大学から、人文科学（哲学・歴史・芸術等）、社会科学（法律・政治経済等）、自然科学（物理・化学・医学工学等）のほぼ全分野にわたる科目が提供されています。自分の専攻を深めるため、あるいは自分の大学に無い分野の科目を学ぶためなど、学生の皆さんの幅広い関心と興味に応じた履修の機会が大幅に拡がることが期待されます。

今年度は、横浜市内の12大学が単位互換制度に参加します。これらの大学に在学する学生は、所属大学の定める範囲内において、単位互換科目を履修することができます。受講料は原則として無料です。

具体的な出願方法については、「横浜市内大学間単位互換生募集要項」を参照してください。

(2) 2022年度 単位互換制度への参加大学

今年度、横浜市内大学間の単位互換に参加する大学・学部は次のとおりです。

- ・ 神奈川大学 法学部、経済学部、外国語学部、人間科学部、工学部、経営学部、理学部、国際日本学部、建築学部
- ・ 関東学院大学 経済学部、法学部、理工学部、建築・環境学部、看護学部、国際文化学部、社会学部、教育学部、栄養学部、人間共生学部、経営学部
- ・ 國學院大學 文学部、法学部、経済学部、神道文化学部、人間開発学部、観光まちづくり学部
- ・ 鶴見大学 文学部
- ・ 桐蔭横浜大学 法学部、医用工学部、スポーツ健康政策学部
- ・ 東洋英和女学院大学 人間科学部、国際社会学部
(ただし、受入れは女子学生のみ)
- ・ フェリス女学院大学 文学部、国際交流学部、音楽学部
(ただし、受入れは女子学生のみ)
- ・ 東京都市大学 環境学部、メディア情報学部
- ・ 横浜国立大学 経済学部、経営学部、理工学部、教育学部、都市科学部
- ・ 横浜商科大学 商学部
- ・ 横浜市立大学 国際教養学部、国際商学部、理学部、医学部、国際総合科学部、データサイエンス学部
- ・ 明治学院大学 社会学部、法学部、国際学部

(3) 本学文学部における単位互換履修の取り扱い

①出願資格

本学では、単位互換履修の出願資格を以下のとおり定めます。

《日本文学科》

すべての学年で単位互換履修の申請ができます。ただし、1年生は、後期開講科目のみの履修が可能です。

《英語英米文学科》

2年生～4年生が、単位互換履修を申請できます。

《文化財学科》

2年生～4年生が、単位互換履修を申請できます。

《ドキュメンテーション学科》

2年生～4年生が、単位互換履修を申請できます。

②履修可能単位数および卒業所要単位への算入方法

全学科とも履修科目数・単位数に上限はありません。また、単位互換により修得した単位は、本学で修得した単位として認定されます。ただし、単位互換により修得した単位のうち、卒業所要単位に算入できる単位数の上限は8単位とします。

13. 東京国立博物館キャンパスメンバーズ

文学部学生は、東京国立博物館キャンパスメンバーズに加入しています。東京国立博物館に入館する際に、学生証を提示してください。総合文化展（常設展）の無料観覧、博物館セミナーへの参加、特別展の入場料の割引等が適用されますので、活用してください。

14. その他の注意事項

(1) 掲 示

履修をはじめ教務に関する学生への通知事項は、すべて教務課の掲示板に発表するので、登校下校の際は必ず掲示板を見ること。

(2) 問い合わせ

行事予定、休講、その他授業及び試験等に関しての電話での問い合わせにはいっさい応じない。

必要ある場合は、登校のうえ、掲示板を見るか教務課に出向いて問い合わせること。

(3) 健康診断

春の定期健康診断は必ず受けなければならない。これを受けなければ諸証明書の発行及び教育実習は認められない。

(4) 証明書発行について

各種証明書の発行については、証明書自動発行機及び教務課窓口申込の2通りの方法がある。教務課で発行する証明書及び手数料は次のとおりである。なお、原則として在学証明書以外の証明書は卒業年次生について発行する。

①証明書自動発行機による発行

事 項	手数料	交付日	有効期限	備 考
単位成績証明書（和文）	200	即日	3ヶ月	
単位修得証明書（和文）	200	〃	〃	

卒業見込証明書（和文）	100	即日	3ヶ月	履修登録終了後より発行
教員免許状取得見込証明書	100	〃	〃	〃
司書資格取得見込証明書	100	〃	〃	〃
学芸員資格取得見込証明書	100	〃	〃	〃
在学証明書（和文）	100	〃	〃	

(イ) 利用時間は教務課窓口取扱時間内とする。

※大学行事、メンテナンス等により利用時間が変更となる場合には、掲示及び鶴見大学ポータルシステムで知らせる。

(ロ) 証明書自動発行機の操作には、学生証と鶴見大学ポータルシステムのログイン用パスワードが必要である。操作方法は証明書自動発行機に表示される手順に従って行なうこと。

(ハ) 証明書用封筒は教務課窓口にある。また、厳封が必要な場合には教務課窓口に申し出ること。

(ニ) 証明書自動発行機での証明書発行は在学生のみとなる。4年生については卒業式以降の証明書発行は、教務課窓口での申込受付となるので注意すること。

②教務課窓口申込による発行

事 項	手数料(円)		交 付 日	有効期限
	和文	英文		
単 位 成 績 証 明 書	200	1000	3日以降（英文は7日以降）	3ヶ月
単 位 修 得 証 明 書	200		3日以降	〃
卒 業（見 込）証 明 書	100	500	3日以降（英文は7日以降）	〃
教員免許状取得見込証明書	100		3日以降	〃
司書資格取得（見込）証明書	100		〃	〃
学芸員資格取得（見込）証明書	100		〃	〃
調 査 書（大学院受験用）	1000		7日以降	〃
在 籍 証 明 書	100		3日以降	〃
在 学 証 明 書	100	500	〃（英文は7日以降）	〃
備考 英文による証明書は同文2通目からは全て200円とする。				

申し込みは、所定用紙に必要事項を記入し、手数料相当の証紙を貼付のうえ申し込むこと。なお、英文証明書申し込みの際は、教務課に相談すること。

(ホ) 証明書は学生証を提示のうえ交付を受けること。

(ヘ) 証明書交付の所要日数は原則として3日以降とする。ただし、調査書(大学院受験用)及び英文による証明書は7日以降とする。また、4月から7月と3月はたいへん混雑が予想されるので、掲示に注意し十分余裕をもって申し込むこと。

(5) 事務室の事務取り扱い時間

◇授業実施期間（※補講を含む）

月～金曜日 8時50分～18時00分

土曜日 8時50分～13時00分

◇上記以外の期間

月～金曜日 8時50分～16時50分

土曜日 8時50分～13時00分

ただし、春、夏、冬の休暇および定期試験期間の事務取り扱い時間については、その都度
掲示で連絡する。

教 育 課 程

日 本 文 学 科

2020(令和2)年度以降入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	36 単位以上	124 単位以上(注)
	外国語科目	6	2	16 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	18	2			
専門科目	必修科目	28 単位		80 単位以上		
	選択科目	48 単位以上				
	卒業論文	4 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 124 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修18単位、必選2単位、選択16単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	宮崎展昌	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a)小原佳那子 (b)小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志、平川澄子、 鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑥外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a)草薙優加 (b)上村祐子 (c)大淵利春 (再)松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a)菅野素子 (b)山口哲央 (c)宮下治政 (再)深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a)松山明子 (b)上村祐子 (c)大淵利春 (再)草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	2022年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	選択	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語 II B	1	選択	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	選択	前期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
ドイツ語 II B	1	選択	後期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
中国語 II A	1	選択	前期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
中国語 II B	1	選択	後期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、IA・IBの計2単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）IA・IBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲学	2	選択	前期	小林直子	1	

言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)(2)(3)横山 博	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)(b)安藤 裕	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	手塚芳晴	2	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

日本文学科では、古典から近代まで幅広く国文学（日本文学）を中心に学ぶことができる。そのためのカリキュラムには、様々な配慮がされている。基礎的学力を重視すること、学生一人一人の興味や関心を伸ばすことが、その2つの柱である。

必修科目は、身につけなければならない、学習上の核となる科目である。たとえば1年次の「基礎古文」「基礎古典文法」「基礎漢文」「現代文読解」などを通して、基礎的な学力を固め、学習の土台作りをする。2年次の「国文学講読」「国文学概論」「日本語学概論」では、国文学と日本語学に関するおおまかな見通しを学び、学習と研究の方法を身につける。また、国文学と密接な関係を持つ中国文学についても、「漢文講読」「中国古典文学」などを通して学ぶ。

その上で、各人の関心を深く学習できる科目として、「国文学史」「日本語史」「国文学演習」「日本語学演習」および各時代の「講義」などが、2年次から4年次に配当されている。

これらの科目は、すべての時代、分野にわたって学んでもよいし、各人の関心に応じて重点的に学んでもよい。たとえば上代から近代のうち、特定の時代に興味をもつ学生は、その時代の文学史、演習、講義を重点的に選択し、学ぶことができる。日本語学関連の科目も、充実して提供されている。これらの科目以外にも、関連科目として「中国文学史」「有職故実」、他学科の専門科目などが選択でき、広汎な興味に応えられるよう配慮されている。また、教職に直結する科目として、「教職国語科」「教職国語科演習」などが用意されている。

以上のような学習を積み重ねた上で、学生生活の総決算である「卒業論文」を作成する。各人の関心に応じてテーマを定め、その研究成果をまとめることになる。

なお、修得した単位を基礎として、国語の教育職員免許状（高等学校教諭一種・中学校教諭一種）を取得することができる。また、書道関連科目を修得することで、書道の教育職員免許状（高等学校教諭一種）を取得することができる。

国文学そのものを深く学ぶ、あるいは資格を目指す、いずれにしても生き生きとした興味をもって、広く豊かに学び、充実した学生生活を送ってもらいたい。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
基礎古文	2	通年	(a)(b)河田翔子 (c)(d)丸山陽子	1		注
基礎漢文	2	通年	(a)(b)張 名揚 (c)(d)表野和江	1		注
基礎古典文法	2	通年	(a)河田翔子 (b)丸山陽子 (c)(d)新沢典子	1		注
現代文読解	2	通年	(a)小原佳那子 (b)小橋孝子 (c)(d)奥村英司	1		注
漢文講読	2	通年	(a)(b)石川就彦 (c)金 英順 (d)吉永壮介	2		注
国文学概論	4	通年	(a)神林尚子 (b)石澤一志	2		
日本語学概論	4	通年	(a)遠藤佳那子 (b)小林恭治	2		
国文学講読（古典）	2	通年	(a)田口暢之 (b)石澤一志 (c)中川博夫 (d)神林尚子	2		
国文学講読（近代）	2	通年	(a)片山倫太郎 (b)岩田ななつ	2		
中国古典文学	4	通年	吉永壮介	3		

卒業論文指導	2	通年		4		
卒業論文	4			4		
必要単位合計	32					

注) 指定されたクラスで履修すること。

② 選択科目

以下の A、B、C 各群で規定された修得条件を充足し、かつ合計48単位以上修得すること。

(1) 選択 A 群

以下の科目の中から8単位以上を修得すること。また、これらの科目は2年次・3年次で履修することを原則とする。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学史 上代・中古	4	通年	田口暢之	2・3・4	○	注
国文学史 中世・近世	4	通年	平藤 幸	2・3・4	○	注
国文学史 近代	4	通年	片山倫太郎	2・3・4	○	注
日本語史	4	通年	遠藤佳那子	2・3・4	○	

注) 教育職員免許状取得希望者は、全て履修しなければならない。

(2) 選択 B 群

以下の科目の中から12単位以上を修得すること。また、これらの科目は2年次・3年次で履修することを原則とする。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学演習 上代・中古Ⅰ	4	通年	新田奈穂子	2・3・4		
国文学演習 上代・中古Ⅱ	4	通年	田口暢之	2・3・4		
国文学演習 上代・中古Ⅲ	4	通年	石澤一志	2・3・4		
国文学演習 中世・近世Ⅰ	4	通年	平藤 幸	2・3・4		
国文学演習 中世・近世Ⅱ	4	通年	金 英順	2・3・4		
国文学演習 中世・近世Ⅲ	4	通年	神林尚子	2・3・4		
国文学演習 近代Ⅰ	4	通年	—————	2・3・4		2022年度閉講
国文学演習 近代Ⅱ	4	通年	岩田ななつ	2・3・4		
国文学演習 近代Ⅲ	4	通年	小橋孝子	2・3・4		
国文学演習 近代Ⅳ	4	通年	片山倫太郎	2・3・4		
日本語学演習 Ⅰ	4	通年	広瀬満希子	2・3・4		
日本語学演習 Ⅱ	4	通年	遠藤佳那子	2・3・4		
国文学演習	4	通年	遠藤佳那子	2・3・4		注
漢文学演習	4	通年	表野和江	2・3・4		注

注) 教育職員免許状取得希望者は、履修することが望ましい。

(3) 選択C群

以下の科目の中から4単位以上を修得すること。ただし、備考欄に※印のついた科目を1科目以上含んでいなければならない。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
日本語学入門	4	通年	広瀬満希子	1		
中国文学演習	4	通年	表野和江	3・4		
上代文学講義Ⅰ	4	通年	新沢典子	3・4	○	
上代文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
中古文学講義Ⅰ	4	通年	田口暢之	3・4	○	※
中古文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
中世文学講義Ⅰ	4	通年	中川博夫	3・4	○	※
中世文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
近世文学講義Ⅰ	4	通年	神林尚子	3・4	○	※
近世文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
近代文学講義Ⅰ	4	通年	片山倫太郎	3・4	○	※
近代文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
日本語学講義Ⅰ	4	通年	遠藤佳那子	3・4	○	
日本語学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	2022年度閉講
中国文学史	4	通年	表野和江	3・4	○	
書道史	4	通年	佐々木佑記	3・4	○	
書道Ⅰ(漢字)	2	通年	(a)(b) 山本まり子	全学年	○	
書道Ⅱ(かな)	2	通年	(a)(b) 山本まり子	2・3・4	○	
書道Ⅲ(漢字)	2	通年	豊口和士	2・3・4	○	★
書道Ⅳ(かな)	2	通年	山本まり子	3・4	○	★
書道Ⅴ	2	通年	山本まり子	3・4		★
書道Ⅵ	2	通年	—————	3・4		★2022年度閉講
古筆鑑賞	4	通年	石澤一志	3・4	○	
教職国語科	4	通年	岩間正則	3・4		
教職国語科演習	2	後期	中野修一	3・4	○	
世界の中の日本文学	2	通年	(a)(b) ラットクリフ	3・4		
有職故実Ⅰ	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
有職故実Ⅱ	2	後期	近藤祐介	2・3・4	○	

★書道Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵは、修得単位のうち2単位までを卒業所要単位に含めることができる。

ただし、GPAにはすべて算入する。他学科の学生が履修する場合、書道Ⅲ・Ⅳの修得単位すべてを、卒業所要単位に含める。

【書道実技科目】

選択C群の内、書道Ⅰ～書道Ⅵは、教育職員免許状取得希望者が、単位修得を必要とする書道実技科目である。教育職員免許状取得希望者以外の学生も受講できる。各科目のおもな内容と履修順序は下記の通りである。詳しくは「文学部授業概要」で確認すること。

- ・ 書道Ⅰ(漢字) 結構法、楷書・行書の臨書、中学校書写。
- ・ 書道Ⅱ(かな) 基本、古筆の臨書、中学校書写。
- ・ 書道Ⅲ(漢字) 隸書・草書の臨書。

- ・ 書道Ⅳ(かな) 古筆の臨書、実用書。
- ・ 書道Ⅴ・Ⅵ 篆書の臨書、古典の臨書、漢字かな交じりの書、臨書作品制作、学内展示。

※書道実技科目には、難易度の差があるので、以下の順序で履修するのが望ましい。

- ・ 書道Ⅲは、書道Ⅰの単位修得後に履修
- ・ 書道Ⅳは、書道Ⅱの単位修得後に履修
- ・ 書道Ⅴ・書道Ⅵは、書道Ⅰと書道Ⅱ両方の単位修得後に履修

「書道」の教育職員免許状取得希望者は、書道実技科目 10 単位以上の修得が必要である。4 年次において、書道Ⅴまたは書道Ⅵを履修することが望ましい。書道Ⅴ・書道Ⅵでは、学内展示への出品・参加を単位修得の要件とする。

2018(平成30)～2019(令和元)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	38 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	6	2	18 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	18	2			
専門科目	必修科目	28 単位		84 単位以上		
	選択科目	52 単位以上				
	卒業論文	4 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修18単位、必選2単位、選択18単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	宮崎展昌	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a)小原佳那子 (b)小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志、平川澄子、 鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑥外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a) 草薙優加 (b) 上村祐子 (c) 大瀨利春 (再) 松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a) 菅野素子 (b) 山口哲央 (c) 宮下治政 (再) 深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a) 松山明子 (b) 上村祐子 (c) 大瀨利春 (再) 草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	2022 年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	選択	前期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
フランス語 II B	1	選択	後期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	選択	前期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
ドイツ語 II B	1	選択	後期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
中国語 II A	1	選択	前期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
中国語 II B	1	選択	後期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、IA・IBの計2単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）IA・IBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲学	2	選択	前期	小林直子	1	

言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)(2)(3)横山 博	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)(b)安藤 裕	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	手塚芳晴	2	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

日本文学科では、古典から近代まで幅広く国文学（日本文学）を中心に学ぶことができる。そのためのカリキュラムには、様々な配慮がされている。基礎的学力を重視すること、学生一人一人の興味や関心を伸ばすことが、その2つの柱である。

必修科目は、身につけなければならない、学習上の核となる科目である。たとえば1年次の「基礎古文」「基礎古典文法」「基礎漢文」「現代文読解」などを通して、基礎的な学力を固め、学習の土台作りをする。2年次の「国文学講読」「国文学概論」「日本語学概論」では、国文学と日本語学に関するおおまかな見通しを学び、学習と研究の方法を身につける。また、国文学と密接な関係を持つ中国文学についても、「漢文講読」「中国古典文学」などを通して学ぶ。

その上で、各人の関心を深く学習できる科目として、「国文学史」「日本語史」「国文学演習」「日本語学演習」および各時代の「講義」などが、2年次から4年次に配当されている。

これらの科目は、すべての時代、分野にわたって学んでもよいし、各人の関心に応じて重点的に学んでもよい。たとえば上代から近代のうち、特定の時代に興味をもつ学生は、その時代の文学史、演習、講義を重点的に選択し、学ぶことができる。日本語学関連の科目も、充実して提供されている。これらの科目以外にも、関連科目として「中国文学史」「有職故実」、他学科の専門科目などが選択でき、広汎な興味に応えられるよう配慮されている。また、教職に直結する科目として、「教職国語科」「教職国語科演習」などが用意されている。

以上のような学習を積み重ねた上で、学生生活の総決算である「卒業論文」を作成する。各人の関心に応じてテーマを定め、その研究成果をまとめることになる。

なお、修得した単位を基礎として、国語の教育職員免許状（高等学校教諭一種・中学校教諭一種）を取得することができる。また、書道関連科目を修得することで、書道の教育職員免許状（高等学校教諭一種）を取得することができる。

国文学そのものを深く学ぶ、あるいは資格を目指す、いずれにしても生き生きとした興味をもって、広く豊かに学び、充実した学生生活を送ってもらいたい。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
基礎古文	2	通年	(a)(b)河田翔子 (c)(d)丸山陽子	1		注
基礎漢文	2	通年	(a)(b)張 名揚 (c)(d)表野和江	1		注
基礎古典文法	2	通年	(a)河田翔子 (b)丸山陽子 (c)(d)新沢典子	1		注
現代文読解	2	通年	(a)小原佳那子 (b)小橋孝子 (c)(d)奥村英司	1		注
漢文講読	2	通年	(a)(b)石川就彦 (c)金 英順 (d)吉永壮介	2		注
国文学概論	4	通年	(a)神林尚子 (b)石澤一志	2		
日本語学概論	4	通年	(a)遠藤佳那子 (b)小林恭治	2		
国文学講読（古典）	2	通年	(a)田口暢之 (b)石澤一志 (c)中川博夫 (d)神林尚子	2		
国文学講読（近代）	2	通年	(a)片山倫太郎 (b)岩田ななつ	2		

中国古典文学	4	通年	吉永壮介	3		
卒業論文指導	2	通年	(a)新沢典子 (b)田口暢之 (c)中川博夫 (d)神林尚子 (e)片山倫太郎 (f)小橋孝子	4		
卒業論文	4		(a)新沢典子 (b)田口暢之 (c)中川博夫 (d)神林尚子 (e)片山倫太郎 (f)小橋孝子	4		
必要単位合計	32					

注) 指定されたクラスで履修すること。

②選択科目

以下の A、B、C 各群で規定された修得条件を充足し、かつ合計52単位以上修得すること。

(1) 選択A群

以下の科目の中から8単位以上を修得すること。また、これらの科目は2年次・3年次で履修することを原則とする。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学史 上代・中古	4	通年	田口暢之	2・3・4	○	注
国文学史 中世・近世	4	通年	平藤 幸	2・3・4	○	注
国文学史 近代	4	通年	片山倫太郎	2・3・4	○	注
日本語史	4	通年	遠藤佳那子	2・3・4	○	

注) 教育職員免許状取得希望者は、全て履修しなければならない。

(2) 選択B群

以下の科目の中から12単位以上を修得すること。また、これらの科目は2年次・3年次で履修することを原則とする。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学演習 上代・中古Ⅰ	4	通年	新田菜穂子	2・3・4		
国文学演習 上代・中古Ⅱ	4	通年	田口暢之	2・3・4		
国文学演習 上代・中古Ⅲ	4	通年	石澤一志	2・3・4		
国文学演習 中世・近世Ⅰ	4	通年	平藤 幸	2・3・4		
国文学演習 中世・近世Ⅱ	4	通年	金 英順	2・3・4		
国文学演習 中世・近世Ⅲ	4	通年	神林尚子	2・3・4		
国文学演習 近代Ⅰ	4	通年	—————	2・3・4		2022年度閉講
国文学演習 近代Ⅱ	4	通年	岩田ななつ	2・3・4		
国文学演習 近代Ⅲ	4	通年	小橋孝子	2・3・4		
国文学演習 近代Ⅳ	4	通年	片山倫太郎	2・3・4		
日本語学演習 Ⅰ	4	通年	広瀬満希子	2・3・4		
日本語学演習 Ⅱ	4	通年	遠藤佳那子	2・3・4		
国文法演習	4	通年	遠藤佳那子	2・3・4		注
漢文学演習	4	通年	表野和江	2・3・4		注

注) 教育職員免許状取得希望者は、履修することが望ましい。

(3) 選択C群

以下の科目の中から4単位以上を修得すること。ただし、備考欄に※印のついた科目を1科目以上含んでいなければならない。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
日本語学入門	4	通年	広瀬満希子	1		
中国文学演習	4	通年	表野和江	3・4		
上代文学講義Ⅰ	4	通年	新沢典子	3・4	○	
上代文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
中古文学講義Ⅰ	4	通年	田口暢之	3・4	○	※
中古文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
中世文学講義Ⅰ	4	通年	中川博夫	3・4	○	※
中世文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
近世文学講義Ⅰ	4	通年	神林尚子	3・4	○	※
近世文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
近代文学講義Ⅰ	4	通年	片山倫太郎	3・4	○	※
近代文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
日本語学講義Ⅰ	4	通年	遠藤佳那子	3・4	○	
日本語学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	2022年度閉講
中国文学史	4	通年	表野和江	3・4	○	
書道史	4	通年	佐々木佑記	3・4	○	
書道Ⅰ(漢字)	2	通年	(a)(b) 山本まり子	全学年	○	
書道Ⅱ(かな)	2	通年	(a)(b) 山本まり子	2・3・4	○	
書道Ⅲ(漢字)	2	通年	豊口和士	2・3・4	○	★
書道Ⅳ(かな)	2	通年	山本まり子	3・4	○	★
書道Ⅴ	2	通年	山本まり子	3・4		★
書道Ⅵ	2	通年	—————	3・4		★2022年度閉講
古筆鑑賞	4	通年	石澤一志	3・4	○	
教職国語科	4	通年	岩間正則	3・4		
教職国語科演習	2	後期	中野修一	3・4	○	
世界の中の日本文学	2	通年	(a)(b) ラットクリフ	3・4		
有職故実Ⅰ	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
有職故実Ⅱ	2	後期	近藤祐介	2・3・4	○	

★書道Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵは、修得単位のうち2単位までを卒業所要単位に含めることができる。

ただし、GPAにはすべて算入する。他学科の学生が履修する場合、書道Ⅲ・Ⅳの修得単位すべてを、卒業所要単位に含める。

【書道実技科目】

選択C群の内、書道Ⅰ～書道Ⅵは、教育職員免許状取得希望者が、単位修得を必要とする書道実技科目である。教育職員免許状取得希望者以外の学生も受講できる。各科目のおもな内容と履修順序は下記の通りである。詳しくは「文学部授業概要」で確認すること。

- ・ 書道Ⅰ(漢字) 結構法、楷書・行書の臨書、中学校書写。
- ・ 書道Ⅱ(かな) 基本、古筆の臨書、中学校書写。

- ・ 書道Ⅳ(かな) 古筆の臨書、実用書。
- ・ 書道Ⅴ・Ⅵ 篆書の臨書、古典の臨書、漢字かな交じりの書、臨書作品制作、学内展示。

※書道実技科目には、難易度の差があるので、以下の順序で履修するのが望ましい。

- ・ 書道Ⅲは、書道Ⅰの単位修得後に履修
- ・ 書道Ⅳは、書道Ⅱの単位修得後に履修
- ・ 書道Ⅴ・書道Ⅵは、書道Ⅰと書道Ⅱ両方の単位修得後に履修

「書道」の教育職員免許状取得希望者は、書道実技科目 10 単位以上の修得が必要である。4 年次において、書道Ⅴまたは書道Ⅵを履修することが望ましい。書道Ⅴ・書道Ⅵでは、学内展示への出品・参加を単位修得の要件とする。

2017(平成 29)年度以前入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	38 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	6	2	18 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	18	2			
専門科目	必修科目	24 単位		72 単位以上		
	必修選択科目	4 単位以上				
	選択科目	40 単位以上				
	卒業論文	4 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修18単位、必選2単位、選択18単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	宮崎展昌	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a)小原佳那子 (b)小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志、平川澄子、 鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑥外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a) 草薙優加 (b) 上村祐子 (c) 大瀨利春 (再) 松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a) 菅野素子 (b) 山口哲央 (c) 宮下治政 (再) 深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a) 松山明子 (b) 上村祐子 (c) 大瀨利春 (再) 草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	2022年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	選択	前期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
フランス語 II B	1	選択	後期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	選択	前期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
ドイツ語 II B	1	選択	後期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
中国語 II A	1	選択	前期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
中国語 II B	1	選択	後期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、IA・IBの計2単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）IA・IBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲学	2	選択	前期	小林直子	1	

言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b)吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b)吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)(2)(3)横山 博	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)(b)安藤 裕	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅴ	2	選択	後期	中野修一	3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

日本文学科では、国文学と日本語学を学ぶ。

そのために、日本文学科のカリキュラムには、いろいろの配慮がなされているが、大きくとらえれば、基礎的学力を重視することと、学生一人一人の興味や関心を伸ばすことの、二点が挙げられる。

まず、日本文学科の学生として、どうしても身につけておいてもらいたい、いわば学習上の核になる科目を必修科目として置いてある。たとえば1年次の「基礎古文」「基礎漢文」「現代文読解」などを学ぶことで基礎的学力を固め、以後の学習の土台を作り上げることをめざす。2年次の「国文学講読」「国文学概論」「日本語学概論」で、国文学・日本語学に関するおおまかな見通しを学び、学習・研究の方法を身につけるようにする。また、国文学・日本語学と密接な関係を持つ中国文学についても、「漢文講読」「中国古典文学」などを学ぶことになる。

その上で、2年次から4年次に配当されている国文学・日本語学に関する科目を、一人一人の学生の関心に応じて選択して学び、興味のある分野について、より深く学習することができるように工夫してある。「国文学史」「日本語史」「国文学演習」「日本語学演習」および上代から近代に至る、各時代の文学の「講義」、「日本語学講義」などがそれである。

これらの科目は、すべての時代、分野にわたって、ひろく学んでもよいし、自分の関心に応じて、ある分野に重点を置いて学んでもよい。たとえば古典文学あるいは近代文学に興味のある学生は、古典文学あるいは近代文学関係の文学史、演習、講義を重点的に選択して学ぶことができる。日本語学に興味がある学生は、日本語史、日本語学演習、日本語学講義を重点的に選択することができるのである。

これらの科目以外にも、関連科目として「中国文学史」「有職故実」など、他の学科の専門科目も含めて選択できるようになっていて、学生の幅広い興味にこたえられるように配慮してある。また、社会に直結する科目として、「教職国語科」「就職日本語」が用意されている。各々の進路希望に従って学ぶことになる。

こうして学習を積み重ねて、力を養った上で、学生生活の総決算とも言うべき「卒業論文」を作成することになる。一人一人、それぞれの関心に応じて国文学・日本語学に関するテーマを決め、成果をまとめるのである。

なお、日本文学科では、修得した国文学・日本語学の単位を基礎として、国語の教育職員免許状（高等学校教諭一種・中学校教諭一種）を取得することができるし、書道専門科目を修得することで、書道の教育職員免許状（高等学校教諭一種）を取得することもできる。

国文学・日本語学そのものを深く学ぶ、あるいは資格を目指す。いずれにせよ生き生きとした興味を持って、広く豊かに学び、充実した学生生活を送ってほしいものである。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
基礎古文	2	通年	(a)(b)河田翔子 (c)(d)丸山陽子	1		注
基礎漢文	2	通年	(a)(b)張名揚 (c)(d)表野和江	1		注
現代文読解	2	通年	(a)小原佳那子 (b)小橋孝子 (c)(d)奥村英司	1		注

漢文講読	2	通年	(a)(b)石川就彦 (c)金英順 (d)吉永壮介	2		注
国文学概論	4	通年	(a)神林尚子 (b)石澤一志	2		
日本語学概論	4	通年	(a)遠藤佳那子 (b)小林恭治	2		
中国古典文学	4	通年	吉永壮介	3		
専門英語	2	通年	(a)(b)ラットクリフ	3		
卒業論文指導	2	通年	(a)新沢典子 (b)田口暢之 (c)中川博夫 (d)神林尚子 (e)片山倫太郎 (f)小橋孝子	4		
卒業論文	4		(a)新沢典子 (b)田口暢之 (c)中川博夫 (d)神林尚子 (e)片山倫太郎 (f)小橋孝子	4		
必要単位合計	28					

注) 指定されたクラスで履修すること。

②必修選択科目

以下の科目から2科目4単位以上を修得すること。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学講読(古典)	2	通年	(a)田口暢之 (b)石澤一志 (c)中川博夫 (d)神林尚子	2		
国文学講読(近代)	2	通年	(a)片山倫太郎 (b)岩田ななつ	2		
日本語学資料処理	2	通年	—————	2		2022年度閉講

③選択科目

以下のA、B、C各群で規定された修得条件を充足し、かつ合計40単位以上修得すること。

(1) 選択A群

以下の科目の中から8単位以上を修得すること。また、これらの科目は2年次・3年次で履修することを原則とする。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学史(上代・中古)	4	通年	田口暢之	2・3・4	○	
国文学史(中世・近世)	4	通年	平藤 幸	2・3・4	○	
国文学史(近代)	4	通年	片山倫太郎	2・3・4	○	
日本語史	4	通年	遠藤佳那子	2・3・4	○	

(2) 選択B群

以下の科目の中から12単位以上を修得すること。また、これらの科目は2年次・3年次で履修することを原則とする。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
国文学演習（上代・中古）Ⅰ	4	通年	新田奈穂子	2・3・4		
国文学演習（上代・中古）Ⅱ	4	通年	田口暢之	2・3・4		
国文学演習（上代・中古）Ⅲ	4	通年	石澤一志	2・3・4		
国文学演習（中世・近世）Ⅰ	4	通年	平藤 幸	2・3・4		
国文学演習（中世・近世）Ⅱ	4	通年	金 英順	2・3・4		
国文学演習（中世・近世）Ⅲ	4	通年	神林尚子	2・3・4		
国文学演習（近代）Ⅰ	4	通年	—————	2・3・4		2022年度閉講
国文学演習（近代）Ⅱ	4	通年	岩田ななつ	2・3・4		
国文学演習（近代）Ⅲ	4	通年	小橋孝子	2・3・4		
日本語学演習Ⅰ	4	通年	広瀬満希子	2・3・4		
日本語学演習Ⅱ	4	通年	遠藤佳那子	2・3・4		
日本語学演習Ⅲ	4	通年	—————	2・3・4		2022年度閉講

(3) 選択C群

以下の科目の中から4単位以上を修得すること。ただし、備考欄に※印のついた科目を1科目以上含んでいなければならない。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
日本語学入門	4	通年	広瀬満希子	1		
中国文学演習	4	通年	表野和江	3・4		※
上代文学講義Ⅰ	4	通年	新沢典子	3・4	○	※
上代文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
中古文学講義Ⅰ	4	通年	田口暢之	3・4	○	※
中古文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
中世文学講義Ⅰ	4	通年	中川博夫	3・4	○	※
中世文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
近世文学講義Ⅰ	4	通年	神林尚子	3・4	○	※
近世文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
近代文学講義Ⅰ	4	通年	片山倫太郎	3・4	○	※
近代文学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
日本語学講義Ⅰ	4	通年	遠藤佳那子	3・4	○	※
日本語学講義Ⅱ	4	通年	—————	3・4	○	※2022年度閉講
中国文学史	4	通年	表野和江	3・4	○	
書道史	4	通年	佐々木佑記	3・4	○	
古筆鑑賞	4	通年	石澤一志	3・4	○	
教職国語科	4	通年	岩間正則	3・4		
就職日本語	4	通年	—————	3・4		2022年度閉講
有識故実Ⅰ	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
有識故実Ⅱ	2	後期	近藤祐介	2・3・4	○	

【書道専門科目】

カリキュラムの目的及び特徴

書道専門科目は教育職員免許状取得希望者のために開講する。取得資格を満たすために、本書139頁以後の注意を読んで誤りがないように履修登録をすること。また「書道Ⅴ・Ⅵ」は、学内展示への出品が単位認定の要件になる。

なお、書道専門科目は卒業所要単位には含まれない。

各科目の内容

詳しくは「文学部授業概要」で確認すること。

- ・Ⅰは漢字で、結構法、楷書・行書の臨書を学ぶ。
- ・Ⅱはかなで、基本、古筆の臨書を学ぶ。
- ・Ⅲは漢字で、隷書・草書の臨書を学ぶ。
- ・Ⅳはかなで、古筆の臨書を学ぶ。変体がなの読みに習熟する。
- ・Ⅴ・Ⅵでは、漢字・かなの古典を臨書し、作品制作と展覧会の準備・開催を経験する。

これら実技科目以外にも日本文学科の開講科目には、免許状取得の必修科目「書道史」「古筆鑑賞」「書道科教育法」がある。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	備考
書道Ⅰ（漢字）	2	通年	(a)(b) 山本まり子	全学年	
書道Ⅱ（かな）	2	通年	(a)(b) 山本まり子	2・3・4	
書道Ⅲ（漢字）	2	通年	豊口和士	2・3・4	
書道Ⅳ（かな）	2	通年	山本まり子	3・4	
書道Ⅴ	2	通年	山本まり子	4	
書道Ⅵ	2	通年	—————	4	2022年度閉講
必要単位合計	10				

※ 中学校（国語）の免許状取得希望者は書道Ⅰ・書道Ⅱが必修科目である。2年次以後、書道Ⅰと書道Ⅱを同時に履修してもよい。書道Ⅲは書道Ⅰの単位を、書道Ⅳは書道Ⅱの単位を修得しなければ履修することができない。また、書道Ⅴ並びに書道Ⅵは、書道Ⅰおよび書道Ⅱの2科目の単位を修得しなければ履修することができない。

英語 英米 文学 科

2020(令和2)年度以降入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	30 単位以上	124 単位以上(注)
	外国語科目	—	4	14 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	12	4	14 単位以上		
専門科目	必修科目	32 単位			78 単位以上	
	選択科目	46 単位以上				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 124 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修12単位、必選4単位、選択14単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	宮崎展昌	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a)小原佳那子 (b)小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志 平川澄子、鈴川清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑧外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
選択英語Ⅰ	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語Ⅱ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅲ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅳ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅴ	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語Ⅵ	1	選択	後期	—————	2	2022年度閉講
フランス語ⅠA	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語ⅠB	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠA	1	必選	前期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠB	1	必選	後期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語ⅠA	1	必選	前期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語ⅠB	1	必選	後期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語ⅡA	1	必選	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語ⅡB	1	必選	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語ⅡA	1	必選	前期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
ドイツ語ⅡB	1	必選	後期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
中国語ⅡA	1	必選	前期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
中国語ⅡB	1	必選	後期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
フランス語ⅢA	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語ⅢB	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語ⅢA	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語ⅢB	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語ⅢA	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語ⅢB	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※2022年度閉講
フランス語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※2022年度閉講
ドイツ語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※2022年度閉講
ドイツ語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※2022年度閉講
中国語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※2022年度閉講
中国語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※2022年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲 学	2	選択	前期	小林直子	1	
言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)小南理恵 (2)(3)鈴木かおり	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)(b)安藤 裕	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	手塚芳晴	2	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

英語英米文学科はコース制を取り入れている。1. 英語コミュニケーションコース（英語で話したり書いたりするといった実践的な英語能力の養成に最重点を置くコース）、2. 英語文学コース（英語で書かれた様々な文学を読み、人間と社会の関係を深く考察するコース）、3. 国際文化コース（広く世界の文化を学び、グローバル化した世界についての知識と認識を深めるコース）、4. 英語教育コース（幼児から高校生までの英語教育に関わる能力を養成するコース）の4つのコースが設けられている。2年次から各自の希望により4つのいずれかに所属して、そのコースに特徴的な科目を重点的に学ぶことにより、目的意識を強く持ち、学習効果がより高められることを意図している。それぞれのコースで履修しなくてはならない科目を指定するが、他のコースの科目も履修することができ、各自の関心で自由に履修できる科目もあるので、それらの単位を総合して卒業単位に組み入れることになる。実態は比較的緩やかなコース制ということができる。

必修科目である「リーディング A」（1年）、「リーディング B」（1年）、「ライティング A」（1年）、「ライティング B」（1年）、「オーラル・コミュニケーション I A」（1年）、「オーラル・コミュニケーション I B」（1年）、「オーラル・コミュニケーション II A」（1年）、「オーラル・コミュニケーション II B」（1年）は学科の基礎の科目であるが、さらなる英語能力の向上のため、「コンプリヘンシブ・イングリッシュ A」（2年）、「コンプリヘンシブ・イングリッシュ B」（2年）と「メディア・イングリッシュ A」（3年）、「メディア・イングリッシュ B」（3年）も必修とする。一方で、少人数編成のクラスで「教養演習」（1年）、「特別演習 I」（2年）及び「特別演習 II」（3年）を必修としているのは、情報の取得と調査方法、その整理と発表の方法、レポートの書き方を学び、それらの学習を踏まえ、専門的な内容の研究をすることを段階的に指導するためである。このうち「特別演習 II」及び「卒業研究」は、各コースに対応した内容で履修できる。最終学年に履修する「卒業研究」では、それぞれのコースにふさわしい内容の研究が、小論文という形式で、それまでの学習が総合された結果として示されることを期待している。

なお、1年次の「リーディング A」、「リーディング B」と「ライティング A」、「ライティング B」の4科目は、プレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
リーディング A	1	前期	(a) 菅野素子 (b) 鈴木周太郎 (c) 深谷素子 (d) 草薙優加	1		注 1
リーディング B	1	後期	(a) 菅野素子 (b) 鈴木周太郎 (c) 深谷素子 (d) 草薙優加	1		注 1
ライティング A	1	前期	(a) 有賀明子 (b) 菅野素子 (c) 竹田道代 (d) 宮下治政	1		注 1
ライティング B	1	後期	(a) 有賀明子 (b) 菅野素子 (c) 竹田道代 (d) 宮下治政	1		注 1
オーラル・コミュニケーション I A	1	前期	(a)(d) コネリー (b)(c) スレイポー	1		注 1
オーラル・コミュニケーション I B	1	後期	(a)(d) コネリー (b)(c) スレイポー	1		注 1
オーラル・コミュニケーション II A	1	前期	(a)(d) モートソン (b)(c) ミラー	1		注 1
オーラル・コミュニケーション II B	1	後期	(a)(d) モートソン (b)(c) ミラー	1		注 1

教養演習	4	通年	(a)宮下治政 (b)根岸純子 (c)加川順治 (d)梅 香央里 (e)草薙優加	1		注1
コンプリヘンシブ・イングリッシュA	1	前期	(a)(b)宮上久仁子(c)市川泰弘 (d)片山七三雄	2		注1
コンプリヘンシブ・イングリッシュB	1	後期	(a)(b)宮上久仁子(c)市川泰弘 (d)片山七三雄	2		注1
特別演習 I	4	通年	(a)渡辺一美 (b)松山明子 (c)宮下治政 (d)根岸純子 (e)深谷素子	2		注1
メディア・イングリッシュA	2	前期	(a)伊藤満里 (b)大西 慧 (c)(d)野川浩美	3		注1
メディア・イングリッシュB	2	後期	(a)伊藤満里 (b)大西 慧 (c)(d)野川浩美	3		注1
特別演習 II	4	通年	(a)コネリー (b)(c)ミラー (d)菅野素子 (e)鈴木周太郎 (f)渡辺一美 (g)草薙優加	3		注1
卒業研究	6	通年		4		注2
必要単位合計	32					

注1) 指定されたクラスで履修すること。

注2) 卒業研究小論文を1月の定められた3日間に教務課に提出しなければならない。

②選択科目

以下の(1)選択A群・(2)選択B群で規定された、コース毎の修得条件を充足し、かつ(1)・(2)の中から、合計46単位以上修得すること。

(1) 選択A群

各自が選択したコースに指定された科目を4単位含み、8単位以上修得すること。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目(○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
英語文学概論ⅠA	2	前期	菅野素子	全学年		○		○	○	
英語文学概論ⅠB	2	後期	菅野素子	全学年		○		○	○	
英語文学概論ⅡA	2	前期	深谷素子	全学年		○		○	○	
英語文学概論ⅡB	2	後期	深谷素子	全学年		○		○	○	
イギリス文化概論A	2	前期	渡辺一美	全学年			○		○	
イギリス文化概論B	2	後期	渡辺一美	全学年			○		○	
アメリカ文化概論A	2	前期	鈴木周太郎	全学年			○		○	
アメリカ文化概論B	2	後期	鈴木周太郎	全学年			○		○	
英語学概論A	2	前期	宮下治政	全学年	○			○	○	
英語学概論B	2	後期	宮下治政	全学年	○			○	○	
英語コミュニケーション概論A	2	前期	草薙優加	全学年	○				○	
英語コミュニケーション概論B	2	後期	草薙優加	全学年	○				○	

(2) 選択B群

各自が選択したコースに指定された科目の中から20単位以上を修得しなければならない。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
海外英語研修	4	集中	—————	全学年	○			○	○	★隔年開講 2022年度閉講
海外文化研修	4	集中	菅野素子 深谷素子	全学年			○	○	○	★隔年開講
TOEIC IA	2	集中	(a)内田 愛 (b)山口哲央	全学年	○				○	土曜午後前期集中 注3
TOEIC IB	2	集中	山口哲央	全学年	○				○	土曜午後後期集中
オーラル・コミュニケーション集中A	2	集中	—————	全学年	○				○	隔年開講夏季集中 2022年度閉講
オーラル・コミュニケーション集中B	2	集中	ミラー	全学年	○				○	隔年開講夏季集中
イギリス史 A	2	前期	土方史織	全学年			○	○	○	
イギリス史 B	2	後期	土方史織	全学年			○	○	○	
アメリカ史 A	2	前期	鈴木周太郎	全学年			○	○	○	
アメリカ史 B	2	後期	鈴木周太郎	全学年			○	○	○	
英語文学入門 A	2	前期	(a)木村利夫 (b)野川浩美	全学年		○				
英語文学入門 B	2	後期	宮崎敬子	全学年		○				
英文法 A	2	前期	(a)市川泰弘 (b)片山七三雄	全学年				○		
英文法 B	2	後期	(a)市川泰弘 (b)片山七三雄	全学年				○		
スクリーン・イングリッシュA	2	前期	広川 治	2・3・4			○			
スクリーン・イングリッシュB	2	後期	広川 治	2・3・4			○			
英語音声学 A	2	前期	(a)宮下治政 (b)竹田道代	2・3・4				○		
英語音声学 B	2	後期	(a)宮下治政 (b)竹田道代	2・3・4				○		
ライティング・スキル A	2	前期	(a)宮崎敬子 (b)上村祐子 (c)松村香奈	2・3・4		○		○		
ライティング・スキル B	2	後期	(a)宮崎敬子 (b)上村祐子 (c)松村香奈	2・3・4		○		○		
ビジネス・ライティングA	2	前期	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	2・3・4	○		○			
ビジネス・ライティングB	2	後期	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	2・3・4	○		○			
プレゼンテーション・スキルA	2	前期	根岸純子	2・3・4	○			○		

プレゼンテーション・スキルB	2	後期	根岸純子	2・3・4	○			○		
コミュニケーション・スキルIA	2	前期	(a)コネリー (b)ミラー	2・3・4	○					
コミュニケーション・スキルIB	2	後期	(a)コネリー (b)ミラー	2・3・4	○					
リーディング・スキルA	2	前期	(a)山口哲央 (b)有賀明子	2・3・4		○				
リーディング・スキルB	2	後期	(a)山口哲央 (b)有賀明子	2・3・4		○				
T O E I C II A	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○				○	土曜午後前期集中 注4
T O E I C II B	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○				○	土曜午後後期集中 注4
イギリス小説研究A	2	前期	コネリー	2・3・4		○				
イギリス小説研究B	2	後期	コネリー	2・3・4		○				
アメリカ小説研究A	2	前期	深谷素子	2・3・4		○				
アメリカ小説研究B	2	後期	深谷素子	2・3・4		○				
英米児童文学研究A	2	前期	渡辺一美	2・3・4		○			○	
英米児童文学研究B	2	後期	渡辺一美	2・3・4		○			○	
イギリス文化研究A	2	前期	土方史織	2・3・4			○		○	
イギリス文化研究B	2	後期	土方史織	2・3・4			○		○	
アメリカ文化研究A	2	前期	鈴木周太郎	2・3・4			○		○	
アメリカ文化研究B	2	後期	鈴木周太郎	2・3・4			○		○	
英語教育研究A	2	前期	根岸純子	2・3・4				○		
英語教育研究B	2	後期	根岸純子	2・3・4				○		
特別実習	2	集中	加川順治	2・3・4	○	○	○	○		
特別英語研修	2	集中	菅野素子	2・3・4	○	○	○	○		
異文化間コミュニケーション研究A	2	前期	松山明子	3・4	○			○	○	
異文化間コミュニケーション研究B	2	後期	松山明子	3・4	○			○	○	
翻訳演習A	2	前期	菅野素子	3・4		○				
翻訳演習B	2	後期	菅野素子	3・4		○				
英米詩研究	2	前期	内田 愛	3・4		○				
英米演劇研究	2	後期	木村利夫	3・4		○				
比較文化研究A	2	前期	加川順治	3・4			○		○	
比較文化研究B	2	後期	榎 香央里	3・4			○		○	
社会言語学研究A	2	前期	松山明子	3・4	○			○	○	
社会言語学研究B	2	後期	松山明子	3・4	○			○	○	
国際文化研究A	2	前期	榎 香央里	3・4			○		○	
国際文化研究B	2	後期	加川順治	3・4			○		○	
コミュニケーション・スキルIIA	2	前期	(a)(b)エルウッド	3・4	○					
コミュニケーション・スキルIIB	2	後期	(a)(b)エルウッド	3・4	○					

★〔海外英語研修〕は英語圏の大学での集中語学研修3週間であり、研修の修了書の確認によって単位が認定される。

★〔海外文化研修〕は英語圏への文化・文学の研修旅行2週間である。事前授業があり、旅行後提出されるレポートの点検後、単位が認定される。

なお、〔海外英語研修〕と〔海外文化研修〕の実施は隔年を原則とする。

注3) 人数調整のため、履修登録後にクラス指定を行なう場合もある。

注4) TOEIC IA・IB 履修者及び TOEIC 受験経験者対象。

長期留学制度

長期留学制度とは鶴見大学と協定を結んでいる大学に留学する制度である。本年度はカナダ、サスカチュワン州立リジャイナ大学及びオーストラリア、ニューサウスウェールズ州のニューイングランド大学への留学プログラムが実施される。このプログラムは、留学時に2年次以上の学生を対象とする。プログラムに参加する学生は、鶴見大学を休学することなく留学することができ、留学期間終了後、リジャイナ大学及びニューイングランド大学での英語コースを所定の期間履修することにより、英語英米文学科の卒業所要単位として認定される。また参加学生には、留学支援金が支給される。詳しくは、留学プログラム学生募集時に説明する。

なお、この長期留学制度を利用しないで留学することもできる。その場合は「文学部学生の外国留学に関する内規」に従う。

2018(平成30)～2019(令和元)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	32 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	—	4	16 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	12	4			
専門科目	必修科目	32 単位			78 単位以上	
	選択科目	46 単位以上				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修12単位、必選4単位、選択16単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	宮崎展昌	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a)小原佳那子 (b)小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志 平川澄子、鈴川清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑥外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
選択英語Ⅰ	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語Ⅱ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅲ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅳ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅴ	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語Ⅵ	1	選択	後期	—————	2	2022年度閉講
フランス語ⅠA	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語ⅠB	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠA	1	必選	前期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠB	1	必選	後期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語ⅠA	1	必選	前期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語ⅠB	1	必選	後期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語ⅡA	1	必選	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語ⅡB	1	必選	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語ⅡA	1	必選	前期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
ドイツ語ⅡB	1	必選	後期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
中国語ⅡA	1	必選	前期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
中国語ⅡB	1	必選	後期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
フランス語ⅢA	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語ⅢB	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語ⅢA	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語ⅢB	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語ⅢA	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語ⅢB	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※2022年度閉講
フランス語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※2022年度閉講
ドイツ語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※2022年度閉講
ドイツ語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※2022年度閉講
中国語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※2022年度閉講
中国語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※2022年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世 界 歴 史 Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日 本 歴 史 Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政 治 学 Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社 会 学 Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経 済 学 Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫 理 学 Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲 学	2	選択	前期	小林直子	1	
言 語 学	2	選択	前期	海老澤志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	
心 理 学 Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)小南理恵 (2)(3)鈴木かおり	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)(b)安藤 裕	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	手塚芳晴	2	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

英語英米文学科はコース制を取り入れている。1. 英語コミュニケーションコース（英語で話したり書いたりするといった実践的な英語能力の養成に最重点を置くコース）、2. 英語文学コース（英語で書かれた様々な文学を読み、人間と社会の関係を深く考察するコース）、3. 国際文化コース（広く世界の文化を学び、グローバル化した世界についての知識と認識を深めるコース）、4. 英語教育コース（幼児から高校生までの英語教育に関わる能力を養成するコース）の4つのコースが設けられている。2年次から各自の希望により4つのいずれかに所属して、そのコースに特徴的な科目を重点的に学ぶことにより、目的意識を強く持ち、学習効果がより高められることを意図している。それぞれのコースで履修しなくてはならない科目を指定するが、他のコースの科目も履修することができ、各自の関心で自由に履修できる科目もあるので、それらの単位を総合して卒業単位に組み入れることになる。実態は比較的緩やかなコース制ということができる。

必修科目である「リーディング A」（1年）、「リーディング B」（1年）、「ライティング A」（1年）、「ライティング B」（1年）、「オーラル・コミュニケーション I A」（1年）、「オーラル・コミュニケーション I B」（1年）、「オーラル・コミュニケーション II A」（1年）、「オーラル・コミュニケーション II B」（1年）は学科の基礎の科目であるが、さらなる英語能力の向上のため、「コンプリヘンシブ・イングリッシュ A」（2年）、「コンプリヘンシブ・イングリッシュ B」（2年）と「メディア・イングリッシュ A」（3年）、「メディア・イングリッシュ B」（3年）も必修とする。一方で、少人数編成のクラスで「教養演習」（1年）、「特別演習 I」（2年）及び「特別演習 II」（3年）を必修としているのは、情報の取得と調査方法、その整理と発表の方法、レポートの書き方を学び、それらの学習を踏まえ、専門的な内容の研究をすることを段階的に指導するためである。このうち「特別演習 II」及び「卒業研究」は、各コースに対応した内容で履修できる。最終学年に履修する「卒業研究」では、それぞれのコースにふさわしい内容の研究が、小論文という形式で、それまでの学習が総合された結果として示されることを期待している。

なお、1年次の「リーディング A」、「リーディング B」と「ライティング A」、「ライティング B」の4科目は、プレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
リーディング A	1	前期	(a) 菅野素子 (b) 鈴木周太郎 (c) 深谷素子 (d) 草薙優加	1		注 1
リーディング B	1	後期	(a) 菅野素子 (b) 鈴木周太郎 (c) 深谷素子 (d) 草薙優加	1		注 1
ライティング A	1	前期	(a) 有賀明子 (b) 菅野素子 (c) 竹田道代 (d) 宮下治政	1		注 1
ライティング B	1	後期	(a) 有賀明子 (b) 菅野素子 (c) 竹田道代 (d) 宮下治政	1		注 1
オーラル・コミュニケーション I A	1	前期	(a)(d) コネリー (b)(c) スレイポー	1		注 1
オーラル・コミュニケーション I B	1	後期	(a)(d) コネリー (b)(c) スレイポー	1		注 1
オーラル・コミュニケーション II A	1	前期	(a)(d) モートソン (b)(c) ミラー	1		注 1
オーラル・コミュニケーション II B	1	後期	(a)(d) モートソン (b)(c) ミラー	1		注 1

教養演習	4	通年	(a)宮下治政 (b)根岸純子 (c)加川順治 (d)梅 香央里 (e)草薙優加	1		注1
コンプリヘンシブ・イングリッシュA	1	前期	(a)(b)宮上久仁子 (c)市川泰弘 (d)片山七三雄	2		注1
コンプリヘンシブ・イングリッシュB	1	後期	(a)(b)宮上久仁子 (c)市川泰弘 (d)片山七三雄	2		注1
特別演習 I	4	通年	(a)渡辺一美 (b)松山明子 (c)宮下治政 (d)根岸純子 (e)深谷素子	2		注1
メディア・イングリッシュA	2	前期	(a)伊藤満里 (b)大西 慧 (c)(d)野川浩美	3		注1
メディア・イングリッシュB	2	後期	(a)伊藤満里 (b)大西 慧 (c)(d)野川浩美	3		注1
特別演習 II	4	通年	(a)コネリー (b)(c)ミラー (d)菅野素子 (e)鈴木周太郎 (f)渡辺一美 (g)草薙優加	3		注1
卒業研究	6	通年	(a)コネリー (b)(c)ミラー (d)深谷素子 (e)鈴木周太郎 (f)渡辺一美 (g)根岸純子	4		注2
必要単位合計	32					

注1) 指定されたクラスで履修すること。

注2) 卒業研究小論文を1月の定められた3日間に教務課に提出しなければならない。

②選択科目

以下の(1)選択A群・(2)選択B群で規定された、コース毎の修得条件を充足し、かつ(1)・(2)の中から、合計46単位以上修得すること。

(1) 選択A群

各自が選択したコースに指定された科目を4単位含み、8単位以上修得すること。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
英語文学概論 I A	2	前期	菅野素子	全学年		○		○	○	
英語文学概論 I B	2	後期	菅野素子	全学年		○		○	○	
英語文学概論 II A	2	前期	深谷素子	全学年		○		○	○	
英語文学概論 II B	2	後期	深谷素子	全学年		○		○	○	
イギリス文化概論A	2	前期	渡辺一美	全学年			○		○	
イギリス文化概論B	2	後期	渡辺一美	全学年			○		○	
アメリカ文化概論A	2	前期	鈴木周太郎	全学年			○		○	
アメリカ文化概論B	2	後期	鈴木周太郎	全学年			○		○	
英語学概論A	2	前期	宮下治政	全学年	○			○	○	
英語学概論B	2	後期	宮下治政	全学年	○			○	○	
英語コミュニケーション概論A	2	前期	草薙優加	全学年	○				○	
英語コミュニケーション概論B	2	後期	草薙優加	全学年	○				○	

(2) 選択B群

各自が選択したコースに指定された科目の中から20単位以上を修得しなければならない。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
海外英語研修	4	集中	—————	全学年	○			○	○	★隔年開講 2022年度閉講
海外文化研修	4	集中	菅野素子 深谷素子	全学年			○	○	○	★隔年開講
TOEIC IA	2	集中	(a)内田 愛 (b)山口哲央	全学年	○				○	土曜午後後期集中 注3
TOEIC IB	2	集中	山口哲央	全学年	○				○	土曜午後後期集中
オーラル・コミュニケーション集中A	2	集中	—————	全学年	○				○	隔年開講夏季集中 2022年度閉講
オーラル・コミュニケーション集中B	2	集中	ミラー	全学年	○				○	隔年開講夏季集中
イギリス史 A	2	前期	土方史織	全学年			○	○	○	
イギリス史 B	2	後期	土方史織	全学年			○	○	○	
アメリカ史 A	2	前期	鈴木周太郎	全学年			○	○	○	
アメリカ史 B	2	後期	鈴木周太郎	全学年			○	○	○	
英語文学入門 A	2	前期	(a)木村利夫 (b)野川浩美	全学年		○				
英語文学入門 B	2	後期	宮崎敬子	全学年		○				
英文法 A	2	前期	(a)市川泰弘 (b)片山七三雄	全学年				○		
英文法 B	2	後期	(a)市川泰弘 (b)片山七三雄	全学年				○		
スクリーン・イングリッシュA	2	前期	広川 治	2・3・4			○			
スクリーン・イングリッシュB	2	後期	広川 治	2・3・4			○			
英語音声学 A	2	前期	(a)宮下治政 (b)竹田道代	2・3・4				○		
英語音声学 B	2	後期	(a)宮下治政 (b)竹田道代	2・3・4				○		
ライティング・スキル A	2	前期	(a)宮崎敬子 (b)上村祐子 (c)松村香奈	2・3・4		○		○		
ライティング・スキル B	2	後期	(a)宮崎敬子 (b)上村祐子 (c)松村香奈	2・3・4		○		○		
ビジネス・ライティングA	2	前期	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	2・3・4	○		○			
ビジネス・ライティングB	2	後期	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	2・3・4	○		○			
プレゼンテーション・スキルA	2	前期	根岸純子	2・3・4	○			○		
プレゼンテーション・スキルB	2	後期	根岸純子	2・3・4	○			○		
コミュニケーション・スキルIA	2	前期	(a)コネリー (b)ミラー	2・3・4	○					

コミュニケーション・スキルIB	2	後期	(a)コネリー (b)ミラー	2・3・4	○					
リーディング・スキルA	2	前期	(a)山口哲央 (b)有賀明子	2・3・4		○				
リーディング・スキルB	2	後期	(a)山口哲央 (b)有賀明子	2・3・4		○				
T O E I C II A	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○				○	土曜午後前期集中 注4
T O E I C II B	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○				○	土曜午後後期集中 注4
イギリス小説研究A	2	前期	コネリー	2・3・4		○				
イギリス小説研究B	2	後期	コネリー	2・3・4		○				
アメリカ小説研究A	2	前期	深谷素子	2・3・4		○				
アメリカ小説研究B	2	後期	深谷素子	2・3・4		○				
英米児童文学研究A	2	前期	渡辺一美	2・3・4		○			○	
英米児童文学研究B	2	後期	渡辺一美	2・3・4		○			○	
イギリス文化研究A	2	前期	土方史織	2・3・4			○		○	
イギリス文化研究B	2	後期	土方史織	2・3・4			○		○	
アメリカ文化研究A	2	前期	鈴木周太郎	2・3・4			○		○	
アメリカ文化研究B	2	後期	鈴木周太郎	2・3・4			○		○	
英語教育研究A	2	前期	根岸純子	2・3・4				○		
英語教育研究B	2	後期	根岸純子	2・3・4				○		
特別実習	2	集中	加川順治	2・3・4	○	○	○	○		
特別英語研修	2	集中	菅野素子	2・3・4	○	○	○	○		
異文化間コミュニケーション研究A	2	前期	松山明子	3・4	○			○	○	
異文化間コミュニケーション研究B	2	後期	松山明子	3・4	○			○	○	
翻訳演習A	2	前期	菅野素子	3・4		○				
翻訳演習B	2	後期	菅野素子	3・4		○				
英米詩研究	2	前期	内田 愛	3・4		○				
英米演劇研究	2	後期	木村利夫	3・4		○				
比較文化研究A	2	前期	加川順治	3・4			○		○	
比較文化研究B	2	後期	梅 香央里	3・4			○		○	
社会言語学研究A	2	前期	松山明子	3・4	○			○	○	
社会言語学研究B	2	後期	松山明子	3・4	○			○	○	
国際文化研究A	2	前期	梅 香央里	3・4			○		○	
国際文化研究B	2	後期	加川順治	3・4			○		○	
コミュニケーション・スキルIIA	2	前期	(a)(b)エルウッド	3・4	○					
コミュニケーション・スキルIIB	2	後期	(a)(b)エルウッド	3・4	○					

★〔海外英語研修〕は英語圏の大学での集中語学研修3週間であり、研修の修了書の確認によって単位が認定される。

★〔海外文化研修〕は英語圏への文化・文学の研修旅行2週間である。事前授業があり、旅行後提出されるレポートの点検後、単位が認定される。

なお、〔海外英語研修〕と〔海外文化研修〕の実施は隔年を原則とする。

注3) 人数調整のため、履修登録後にクラス指定を行なう場合もある。

注4) TOEIC IA・IB 履修者及び TOEIC 受験経験者対象。

長期留学制度

長期留学制度とは鶴見大学と協定を結んでいる大学に留学する制度である。本年度はカナダ、サスカチュワン州立リジャイナ大学及びオーストラリア、ニューサウスウェールズ州のニューイングランド大学への留学プログラムが実施される。このプログラムは、留学時に2年次以上の学生を対象とする。プログラムに参加する学生は、鶴見大学を休学することなく留学することができ、留学期間終了後、リジャイナ大学及びニューイングランド大学での英語コースを所定の期間履修することにより、英語英米文学科の卒業所要単位として認定される。また参加学生には、留学支援金が支給される。詳しくは、留学プログラム学生募集時に説明する。

なお、この長期留学制度を利用しないで留学することもできる。その場合は「文学部学生の外国留学に関する内規」に従う。

2016 (平成 28) ~ 2017 (平成 29) 年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	32 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	—	4	16 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	12	4			
専門科目	必修科目	32 単位			78 単位以上	
	選択科目	46 単位以上				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修12単位、必選4単位、選択16単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	宮崎展昌	1	
日 本 語	4	必修	通年	(a)小原佳那子 (b)小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2)(3) 田村浩志 平川澄子、鈴川清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
選択英語Ⅰ	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語Ⅱ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅲ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅳ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅴ	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語Ⅵ	1	選択	後期	—————	2	2022年度閉講
フランス語ⅠA	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語ⅠB	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠA	1	必選	前期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠB	1	必選	後期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語ⅠA	1	必選	前期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語ⅠB	1	必選	後期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語ⅡA	1	必選	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語ⅡB	1	必選	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語ⅡA	1	必選	前期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
ドイツ語ⅡB	1	必選	後期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
中国語ⅡA	1	必選	前期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
中国語ⅡB	1	必選	後期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
フランス語ⅢA	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語ⅢB	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語ⅢA	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語ⅢB	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語ⅢA	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語ⅢB	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※2022年度閉講
フランス語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※2022年度閉講
ドイツ語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※2022年度閉講
ドイツ語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※2022年度閉講
中国語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※2022年度閉講
中国語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※2022年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡBの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢBとⅣA・ⅣBは、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠBを履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲 学	2	選択	前期	小林直子	1	
言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	
心理学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)小南理恵 (2)(3)鈴木かおり	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)(b)安藤 裕	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅴ	2	選択	後期	中野修一	3	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

英語英米文学科はコース制を取り入れている。1. 英語コミュニケーションコース（英語で話したり書いたりするといった実践的な英語能力の養成に最重点を置くコース）、2. 英語文学コース（英語で書かれた様々な文学を読み、人間と社会の関係を深く考察するコース）、3. 国際文化コース（広く世界の文化を学び、グローバル化した世界についての知識と認識を深めるコース）、4. 英語教育コース（幼児から高校生までの英語教育に関わる能力を養成するコース）の4つのコースが設けられている。2年次から各自の希望により4つのいずれかに所属して、そのコースに特徴的な科目を重点的に学ぶことにより、目的意識を強く持ち、学習効果がより高められることを意図している。それぞれのコースで履修しなくてはならない科目を指定するが、他のコースの科目も履修することができ、各自の関心で自由に履修できる科目もあるので、それらの単位を総合して卒業単位に組み入れることになる。実態は比較的緩やかなコース制ということができる。

必修科目である「リーディング A」（1年）、「リーディング B」（1年）、「ライティング A」（1年）、「ライティング B」（1年）、「オーラル・コミュニケーション I A」（1年）、「オーラル・コミュニケーション I B」（1年）、「オーラル・コミュニケーション II A」（1年）、「オーラル・コミュニケーション II B」（1年）は学科の基礎の科目であるが、さらなる英語能力の向上のため、「コンプリヘンシブ・イングリッシュ A」（2年）、「コンプリヘンシブ・イングリッシュ B」（2年）と「メディア・イングリッシュ A」（3年）、「メディア・イングリッシュ B」（3年）も必修とする。一方で、少人数編成のクラスで「教養演習」（1年）、「特別演習 I」（2年）及び「特別演習 II」（3年）を必修としているのは、情報の取得と調査方法、その整理と発表の方法、レポートの書き方を学び、それらの学習を踏まえ、専門的な内容の研究をすることを段階的に指導するためである。このうち「特別演習 II」及び「卒業研究」は、各コースに対応した内容で履修できる。最終学年に履修する「卒業研究」では、それぞれのコースにふさわしい内容の研究が、小論文という形式で、それまでの学習が総合された結果として示されることを期待している。

なお、1年次の「リーディング A」、「リーディング B」と「ライティング A」、「ライティング B」の4科目は、プレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者		履修学年	他学科	備考
リーディング A	1	前期	(a) 菅野素子 (c) 深谷素子	(b) 鈴木周太郎 (d) 草薙優加	1		2017年度までは「1デイング」2単位 通年で開講
リーディング B	1	後期	(a) 菅野素子 (c) 深谷素子	(b) 鈴木周太郎 (d) 草薙優加	1		注 1
ライティング A	1	前期	(a) 有賀明子 (c) 竹田道代	(b) 菅野素子 (d) 宮下治政	1		2017年度までは「1行イング」2単位 通年で開講
ライティング B	1	後期	(a) 有賀明子 (c) 竹田道代	(b) 菅野素子 (d) 宮下治政	1		注 1
オーラル・コミュニケーション I A	1	前期	(a)(d) コネリー	(b)(c) スレイポー	1		2017年度までは「1-ル・コミュニケーション I」 2単位 通年で開講
オーラル・コミュニケーション I B	1	後期	(a)(d) コネリー	(b)(c) スレイポー	1		注 1

オーラル・コミュニケーションIIA	1	前期	(a)(d) モートソン (b)(c) ミラー	1		2017年度までは「 <small>オーラル・コミュニケーションII</small> 」 2単位 通年で開講
オーラル・コミュニケーションIIB	1	後期	(a)(d) モートソン (b)(c) ミラー	1		注1
教養演習	4	通年	(a) 宮下治政 (b) 根岸純子 (c) 加川順治 (d) 梅 香央里 (e) 草薙優加	1		注1
コンパニシップ・イングリッシュA	1	前期	(a)(b) 宮上久仁子 (c) 市川泰弘 (d) 片山七三雄	2		2017年度までは「 <small>コンパニシップ・イングリッシュ</small> 」 2単位 通年で開講
コンパニシップ・イングリッシュB	1	後期	(a)(b) 宮上久仁子 (c) 市川泰弘 (d) 片山七三雄	2		注1
特別演習I	4	通年	(a) 渡辺一美 (b) 松山明子 (c) 宮下治政 (d) 根岸純子 (e) 深谷素子	2		注1
メディア・イングリッシュA	2	前期	(a) 伊藤満里 (b) 大西 慧 (c)(d) 野川浩美	3		2017年度までは「 <small>メディア・イングリッシュ</small> 」 4単位 通年で開講
メディア・イングリッシュB	2	後期	(a) 伊藤満里 (b) 大西 慧 (c)(d) 野川浩美	3		注1
特別演習II	4	通年	(a) コネリー (b)(c) ミラー (d) 菅野素子 (e) 鈴木周太郎 (f) 渡辺一美 (g) 草薙優加	3		注1
卒業研究	6	通年	(a) コネリー (b)(c) ミラー (d) 深谷素子 (e) 鈴木周太郎 (f) 渡辺一美 (g) 根岸純子	4		注2
必要単位合計	32					

注1) 指定されたクラスで履修すること。

注2) 卒業研究小論文を1月の定められた3日間に教務課に提出しなければならない。

②選択科目

以下の (1) 選択A群・(2) 選択B群で規定された、コース毎の修得条件を充足し、かつ (1)・(2) の中から、合計46単位以上修得すること。

(1) 選択A群

各自が選択したコースに指定された科目を4単位含み、8単位以上修得すること。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
イギリス文学概論A	2	前期	菅野素子	全学年		○		○	○	2017年度までは「 <small>イギリス文学概論</small> 」 4単位 通年で開講
イギリス文学概論B	2	後期	菅野素子	全学年		○		○	○	
アメリカ文学概論A	2	前期	深谷素子	全学年		○		○	○	2017年度までは「 <small>アメリカ文学概論</small> 」 4単位 通年で開講
アメリカ文学概論B	2	後期	深谷素子	全学年		○		○	○	
イギリス文化概論A	2	前期	渡辺一美	全学年			○		○	2017年度までは「 <small>イギリス文化概論</small> 」 4単位 通年で開講
イギリス文化概論B	2	後期	渡辺一美	全学年			○		○	
アメリカ文化概論A	2	前期	鈴木周太郎	全学年			○		○	2017年度までは「 <small>アメリカ文化概論</small> 」 4単位 通年で開講
アメリカ文化概論B	2	後期	鈴木周太郎	全学年			○		○	

英語学概論A	2	前期	宮下治政	全学年	○			○	○	2017年度までは「英語学概論」4単位 通年で開講
英語学概論B	2	後期	宮下治政	全学年	○			○	○	
英語コミュニケーション概論A	2	前期	草薙優加	全学年	○				○	2017年度までは「英語コミュニケーション概論」4単位 通年で開講
英語コミュニケーション概論B	2	後期	草薙優加	全学年	○				○	

(2) 選択B群

各自が選択したコースに指定された科目の中から20単位以上を修得しなければならない。

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	コース毎の指定科目 (○印)				他学科	備考
					英語コミュニケーション	英語文学	国際文化	英語教育		
海外英語研修	4	集中	—————	全学年	○			○	○	★隔年開講 2022年度閉講
海外文化研修	4	集中	菅野素子 深谷素子	全学年			○	○	○	★隔年開講
TOEIC IA	2	集中	(a)内田 愛 (b)山口哲央	全学年	○				○	土曜午後前期集中 注3
TOEIC IB	2	集中	山口哲央	全学年	○				○	土曜午後後期集中
オーラル・コミュニケーション集中A	2	集中	—————	全学年	○				○	隔年開講夏季集中 2022年度閉講
オーラル・コミュニケーション集中B	2	集中	ミラー	全学年	○				○	隔年開講夏季集中
イギリス史A	2	前期	土方史織	全学年			○	○	○	2017年度までは「イギリス史」4単位 通年で開講
イギリス史B	2	後期	土方史織	全学年			○	○	○	
アメリカ史A	2	前期	鈴木周太郎	全学年			○	○	○	2017年度までは「アメリカ史」4単位 通年で開講
アメリカ史B	2	後期	鈴木周太郎	全学年			○	○	○	
英語文学入門A	2	前期	(a)木村利夫 (b)野川浩美	全学年		○				
英語文学入門B	2	後期	宮崎敬子	全学年		○				
英文法A	2	前期	(a)市川泰弘 (b)片山七三雄	全学年				○		2017年度までは「英文法」4単位 通年で開講
英文法B	2	後期	(a)市川泰弘 (b)片山七三雄	全学年				○		
スクリーン・イングリッシュA	2	前期	広川 治	2・3・4			○			2017年度までは「スクリーン・イングリッシュ」4単位 通年で開講
スクリーン・イングリッシュB	2	後期	広川 治	2・3・4			○			
英語音声学A	2	前期	(a)宮下治政 (b)竹田道代	2・3・4				○		2017年度までは「英語音声学」4単位 通年で開講
英語音声学B	2	後期	(a)宮下治政 (b)竹田道代	2・3・4				○		
エッセイ・ライティングA	2	前期	(a)宮崎敬子 (b)上村祐子 (c)松村香奈	2・3・4		○		○		2017年度までは「エッセイ・ライティング」4単位 通年で開講

エッセイ・ライティングB	2	後期	(a) 宮崎敬子 (b) 上村祐子 (c) 松村香奈	2・3・4		○		○		
ビジネス・ライティングA	2	前期	(a) 宮崎敬子 (b) 鶴岡公幸	2・3・4	○			○		2017年度までは「ビジネスライティング」4単位 通年で開講
ビジネス・ライティングB	2	後期	(a) 宮崎敬子 (b) 鶴岡公幸	2・3・4	○			○		
プレゼンテーション・スキルA	2	前期	根岸純子	2・3・4	○			○		2017年度までは「プレゼンテーション」4単位 通年で開講
プレゼンテーション・スキルB	2	後期	根岸純子	2・3・4	○			○		
コミュニケーション・スキルIA	2	前期	(a) コネリー (b) ミラー	2・3・4	○					2017年度までは「コミュニケーションI」4単位 通年で開講
コミュニケーション・スキルIB	2	後期	(a) コネリー (b) ミラー	2・3・4	○					
リーディング・スキルA	2	前期	(a) 山口哲央 (b) 有賀明子	2・3・4		○				2017年度までは「リーディング」4単位 通年で開講
リーディング・スキルB	2	後期	(a) 山口哲央 (b) 有賀明子	2・3・4		○				
TOEIC II A	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○				○	土曜午後前期集中 注4
TOEIC II B	2	集中	鶴岡公幸	2・3・4	○				○	土曜午後後期集中 注4
イギリス小説研究A	2	前期	コネリー	2・3・4		○				
イギリス小説研究B	2	後期	コネリー	2・3・4		○				
アメリカ小説研究A	2	前期	深谷素子	2・3・4		○				
アメリカ小説研究B	2	後期	深谷素子	2・3・4		○				
英米児童文学研究A	2	前期	渡辺一美	2・3・4		○			○	
英米児童文学研究B	2	後期	渡辺一美	2・3・4		○			○	
イギリス文化研究A	2	前期	土方史織	2・3・4				○	○	
イギリス文化研究B	2	後期	土方史織	2・3・4				○	○	
アメリカ文化研究A	2	前期	鈴木周太郎	2・3・4				○	○	
アメリカ文化研究B	2	後期	鈴木周太郎	2・3・4				○	○	
英語教育研究 A	2	前期	根岸純子	2・3・4					○	
英語教育研究 B	2	後期	根岸純子	2・3・4					○	
特別実習	2	集中	加川順治	2・3・4	○	○	○	○		
特別英語研修	2	集中	菅野素子	2・3・4	○	○	○	○		
異文化間コミュニケーション研究A	2	前期	松山明子	3・4	○			○	○	2017年度までは「異文化間コミュニケーション研究」4単位 通年で開講
異文化間コミュニケーション研究B	2	後期	松山明子	3・4	○			○	○	
翻訳演習 A	2	前期	菅野素子	3・4		○				2017年度までは「翻訳演習」4単位 通年で開講
翻訳演習 B	2	後期	菅野素子	3・4		○				
英米詩研究	2	前期	内田 愛	3・4		○				
英米演劇研究	2	後期	木村利夫	3・4		○				
比較文化研究 A	2	前期	加川順治	3・4				○	○	
比較文化研究 B	2	後期	梅 香央里	3・4				○	○	

社会言語学研究 A	2	前期	松山明子	3・4	○			○	○	2017年度までは「社会言語学研究」4単位 通年で開講
社会言語学研究 B	2	後期	松山明子	3・4	○			○	○	
国際文化研究 A	2	前期	梅 香央里	3・4			○		○	2017年度までは「コミュニケーション・スキルⅡ」4単位 通年で開講
国際文化研究 B	2	後期	加川順治	3・4			○		○	
コミュニケーション・スキルⅡA	2	前期	(a)(b)エルウッド	3・4	○					2017年度までは「コミュニケーション・スキルⅡ」4単位 通年で開講
コミュニケーション・スキルⅡB	2	後期	(a)(b)エルウッド	3・4	○					

★〔海外英語研修〕は英語圏の大学での集中語学研修3週間であり、研修の修了書の確認によって単位が認定される。

★〔海外文化研修〕は英語圏への文化・文学の研修旅行2週間である。事前授業があり、旅行後提出されるレポートの点検後、単位が認定される。

なお、〔海外英語研修〕と〔海外文化研修〕の実施は隔年を原則とする。

注3) 人数調整のため、履修登録後にクラス指定を行なう場合もある。

注4) TOEIC IA・IB 履修者及び TOEIC 受験経験者対象。

長期留学制度

長期留学制度とは鶴見大学と協定を結んでいる大学に留学する制度である。本年度はカナダ、サスカチュワン州立リジャイナ大学及びオーストラリア、ニューサウスウェールズ州のニューイングランド大学への留学プログラムが実施される。このプログラムは、留学時に2年次以上の学生を対象とする。プログラムに参加する学生は、鶴見大学を休学することなく留学することができ、留学期間終了後、リジャイナ大学及びニューイングランド大学での英語コースを所定の期間履修することにより、英語英米文学科の卒業所要単位として認定される。また参加学生には、留学支援金が支給される。詳しくは、留学プログラム学生募集時に説明する。

なお、この長期留学制度を利用しないで留学することもできる。その場合は「文学部学生の外国留学に関する内規」に従う。

文化財学科

2021(令和3)年度以降入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	36 単位以上	124 単位以上(注)
	外国語科目	6	4	14 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	18	4			
専門科目	必修科目	40 単位		78 単位以上		
	選択科目	32 単位以上				
	卒業論文	6 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 124 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修18単位、必選4単位、選択14単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	鈴木一馨	1	
日 本 語	4	必修	通年	小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a) アン オガワ (b) 内田 愛 (再) 松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a) 伊藤満里 (b) 椀台七重 (再) 深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a) アン オガワ (b) 内田 愛 (再) 草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	2022 年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	必選	前期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
フランス語 II B	1	必選	後期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	必選	前期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
ドイツ語 II B	1	必選	後期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
中国語 II A	1	必選	前期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
中国語 II B	1	必選	後期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講

◎必修選択科目の外国語(フランス語・ドイツ語・中国語)より1ヵ国語を選択し、I A・I B、II A・II Bの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

㉔文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

㉕人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲 学	2	選択	前期	小林直子	1	
言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	

心 理 学 II	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)横山 博 (2)鈴木かおり	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)(b)安藤 裕	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	手塚芳晴	2	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

文化財学科の専門科目では、文化財に対する知識を得るだけでなく、それらを実際に取り扱い、分析・研究し、保存修復できるよう、実物・実地学習にも重点を置いている。

文化財を理解し、その生み出された背景を知るために、1・2年次において必修の「基礎概説科目」として1年次にオムニバス形式の文化財研究法、1・2年次に考古学・文化人類学・地理学、2年次に博物館概論・博物館経営論・歴史資料講読を置いている。また、文化財の扱いについて精通するため、1年次から4年次まで必修の「実習科目」が用意されている。3年次進級時に、必修の「演習科目」の指導教員並びに自己の専攻分野を決定する。卒業論文は演習の担当教員によって指導される。

2年次より履修できる選択科目（専攻科目）は、1期で完結する多数の科目が3系列にわかれている。自己の専攻とする系列だけではなく、幅広い選択履修が望ましい。

①必修科目

区分	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
基礎概説科目	文化財研究法	4	通年	宗基秀明・矢島律子・西澤美穂子 田中和彦・緒方啓介・近藤祐介 鈴木一馨・星野玲子	1		注
	考古学	4	通年	宗基秀明	1・2	○	
	文化人類学	4	通年	廣田龍平	1・2	○	
	地理学	4	通年	落合康浩	1・2	○	
	博物館概論	2	前期	緒方啓介	2		
	博物館経営論	2	後期	矢島律子	2		
	歴史資料講読	2	前期	近藤祐介	2		
実習科目	実習ⅠA(巡検)	2	集中	(1)宗基秀明 (2)田中和彦	1		
	実習ⅠB(考古資料)	2	後期	(a)田中和彦(b)宗基秀明(c)古田土俊一	1		
	実習ⅡA(古文書)	2	後期	(a)西澤美穂子(b)星野玲子(c)山口悟史	2		
	実習ⅡB(発掘実習)	2	集中	(1)(2)田中和彦	2		
	実習ⅢA (材質研究と保存処理)	2	前期		3		
	実習ⅢB (文化財の取り扱いと保存環境)	2	集中		3		
	実習Ⅳ	2	集中		4		
演習科目	文化財演習Ⅰ	2	後期		3		
	文化財演習Ⅱ	2	通年		4		
卒業論文	6				4		
必要単位合計	46						

- ※ 今年度の実習は、I Aは校外での文化財巡検（見学）を主とし、土曜・日曜を利用して実施する。実習II Bは野外考古学（発掘調査）であり、夏季休暇期間に実施する。実習III Bは学内と学外（旅行）を実施する。実習IVは国外・国内・自主の中から、3年次に希望をとり実施する。
- ※ 文化財演習Iは、2年次の11月に担当者を決定する。詳細は研究室からの掲示で指示する。
- 注）8人の講師によるオムニバス方式

②選択科目（専攻科目）

以下の科目の中から、自己の専攻する系列より8科目16単位以上、その他の各系列より3科目6単位以上、合計16科目32単位以上修得すること。

専攻系列の登録は3年次であるので、2年次では各自の興味あるところや将来の進路見通しにしたがって、自由かつ幅広い選択履修が可能である。

系列	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
【歴史・地理系列】	日本史Ⅰ	2	前期	工藤健一	2・3・4	○	
	日本史Ⅱ	2	後期	西澤美穂子	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅰ	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅱ	2	後期	近藤祐介	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅰ	2	前期	尾崎正善	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅱ	2	後期	尾崎正善	2・3・4	○	
	古文書学Ⅰ	2	前期	西澤美穂子	2・3・4	○	
	古文書学Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○	
	歴史地理学	2	前期	落合康浩	2・3・4	○	
	歴史地誌学	2	後期	工藤健一	2・3・4	○	
	日本史概論	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
	世界史概論	2	後期	宗基秀明	2・3・4	○	
	地誌学概論	2	後期	落合康浩	2・3・4	○	
宗教学概論	2	前期	鈴木一馨	2・3・4	○		
【考古・美術系列】	先史考古学	2	前期	田中和彦	2・3・4	○	
	歴史考古学	2	後期	宗基秀明	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅰ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅱ	2	後期	緒方啓介	2・3・4	○	
	建築史Ⅰ	2	前期	大野 敏	2・3・4	○	
	建築史Ⅱ	2	後期	大野 敏	2・3・4	○	
	工芸史Ⅰ	2	前期	矢島律子	2・3・4	○	
	工芸史Ⅱ	2	後期	原田ロクゴー	2・3・4	○	
	史跡特論Ⅰ	2	前期	久保田和彦	2・3・4	○	
史跡特論Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○		
【文化財系列】	博物館資料保存論Ⅰ	2	前期	星 恵理子	2・3・4	○	
	博物館資料保存論Ⅱ	2	後期	星 恵理子	2・3・4	○	
	博物館展示論	2	後期	高橋真作	2・3・4	○	
	有職故実Ⅰ	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
	有職故実Ⅱ	2	後期	近藤祐介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅰ	2	前期	星野玲子	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅱ	2	後期	佐藤寛介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅲ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
文化財各論Ⅳ	2	後期	室瀬 祐	2・3・4	○		

文化財各論Ⅴ	2	集中	高橋真作・佐藤明生・諏訪間順・ 谷口 肇	2・3・4	○	
学外館務実習	1	集中		4		※
	32					

※ 学芸員課程履修者

2020(令和2)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	36 単位以上	124 単位以上(注)
	外国語科目	6	4	14 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	18	4			
専門科目	必修科目	40 単位		78 単位以上		
	選択科目	32 単位以上				
	卒業論文	6 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 124 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修18単位、必選4単位、選択14単位以上を修得すること。

④基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	鈴木一馨	1	
日 本 語	4	必修	通年	小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a)アンオガワ (b)内田 愛 (再)松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a)伊藤満里 (b)梶台七重 (再)深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a)アンオガワ (b)内田 愛 (再)草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	2022 年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	必選	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語 II B	1	必選	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	必選	前期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
ドイツ語 II B	1	必選	後期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
中国語 II A	1	必選	前期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
中国語 II B	1	必選	後期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、I A・I B、II A・II Bの計4単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲 学	2	選択	前期	小林直子	1	
言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	

心 理 学 II	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
地 球 環 境 論 Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地 球 環 境 論 Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科 学 技 術 論 Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科 学 技 術 論 Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健 康 科 学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)横山 博 (2)鈴木かおり	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)(b)安藤 裕	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	手塚芳晴	2	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

文化財学科の専門科目では、文化財に対する知識を得るだけでなく、それらを実際に取り扱い、分析・研究し、保存修復できるよう、実物・実地学習にも重点を置いている。

文化財を理解し、その生み出された背景を知るために、1・2年次において必修の「基礎概説科目」として1年次にオムニバス形式の文化財研究法、1・2年次に考古学・文化人類学・地理学、2年次に博物館概論・博物館経営論・歴史資料講読を置いている。また、文化財の扱いについて精通するため、1年次から4年次まで必修の「実習科目」が用意されている。3年次進級時に、必修の「演習科目」の指導教員並びに自己の専攻分野を決定する。卒業論文は演習の担当教員によって指導される。

2年次より履修できる選択科目（専攻科目）は、1期で完結する多数の科目が3系列にわかれている。自己の専攻とする系列だけではなく、幅広い選択履修が望ましい。

①必修科目

区分	科目名	単位	開講期間	担 当 者	履修学年	他学科	備考
基礎概説科目	文化財研究法	4	通年	宗基秀明・矢島律子・西澤美穂子 田中和彦・緒方啓介・近藤祐介 鈴木一馨・星野玲子	1		注
	考古学	4	通年	宗基秀明	1・2	○	
	文化人類学	4	通年	廣田龍平	1・2	○	
	地理学	4	通年	落合康浩	1・2	○	
	博物館概論	2	前期	緒方啓介	2		
	博物館経営論	2	後期	矢島律子	2		
	歴史資料講読	2	前期	近藤祐介	2		
実習科目	実習ⅠA(巡検)	2	集中	(1)宗基秀明 (2)田中和彦	1		
	実習ⅠB(考古資料)	2	後期	(a)田中和彦(b)宗基秀明(c)古田土俊一	1		
	実習ⅡA(古文書)	2	後期	(a)西澤美穂子(b)星野玲子(c)山口悟史	2		
	実習ⅡB(発掘実習)	2	集中	(1)(2)田中和彦	2		
	実習ⅢA (材質研究と保存処理)	2	前期	(1)(2)星野玲子	3		
	実習ⅢB (文化財の取り扱いと保存環境)	2	集中	(1)矢島律子 (2)緒方啓介	3		
	実習Ⅳ	2	集中		4		
演習科目	文化財演習Ⅰ	2	後期	(a)緒方啓介(b)矢島律子(c)星野玲子 (d)近藤祐介(e)田中和彦(f)西澤美穂子 (g)小林恭治(h)宗基秀明(i)鈴木一馨	3		
	文化財演習Ⅱ	2	通年		4		
卒業論文	6				4		
必要単位合計	46						

※ 今年度の実習は、I Aは校外での文化財巡検（見学）を主とし、土曜・日曜を利用して実施する。実習II Bは野外考古学（発掘調査）であり、夏季休暇期間に実施する。実習III Bは学内と学外（旅行）を実施する。実習IVは国外・国内・自主の中から、3年次に希望をとり実施する。
 ※ 文化財演習Iは、2年次の11月に担当者を決定する。詳細は研究室からの掲示で指示する。
 注）8人の講師によるオムニバス方式

②選択科目（専攻科目）

以下の科目の中から、自己の専攻する系列より8科目16単位以上、その他の各系列より3科目6単位以上、合計16科目32単位以上修得すること。

専攻系列の登録は3年次であるので、2年次では各自の興味あるところや将来の進路見通しにしたがって、自由かつ幅広い選択履修が可能である。

系列	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
【歴史・地理系列】	日本史Ⅰ	2	前期	工藤健一	2・3・4	○	
	日本史Ⅱ	2	後期	西澤美穂子	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅰ	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅱ	2	後期	近藤祐介	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅰ	2	前期	尾崎正善	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅱ	2	後期	尾崎正善	2・3・4	○	
	古文書学Ⅰ	2	前期	西澤美穂子	2・3・4	○	
	古文書学Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○	
	歴史地理学	2	前期	落合康浩	2・3・4	○	
	歴史地誌学	2	後期	工藤健一	2・3・4	○	
	日本史概論	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
	世界史概論	2	後期	宗基秀明	2・3・4	○	
	地誌学概論	2	後期	落合康浩	2・3・4	○	
宗教学概論	2	前期	鈴木一馨	2・3・4	○		
【考古・美術系列】	先史考古学	2	前期	田中和彦	2・3・4	○	
	歴史考古学	2	後期	宗基秀明	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅰ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅱ	2	後期	緒方啓介	2・3・4	○	
	建築史Ⅰ	2	前期	大野 敏	2・3・4	○	
	建築史Ⅱ	2	後期	大野 敏	2・3・4	○	
	工芸史Ⅰ	2	前期	矢島律子	2・3・4	○	
	工芸史Ⅱ	2	後期	原田ロクゴー	2・3・4	○	
	史跡特論Ⅰ	2	前期	久保田和彦	2・3・4	○	
史跡特論Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○		
【文化財系列】	文化財科学Ⅰ	2	前期	星 恵理子	2・3・4	○	
	文化財科学Ⅱ	2	後期	星 恵理子	2・3・4	○	
	有職故実Ⅰ	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
	有職故実Ⅱ	2	後期	近藤祐介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅰ	2	前期	星野玲子	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅱ	2	後期	佐藤寛介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅲ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅳ	2	後期	高橋真作	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅴ	2	後期	室瀬 祐	2・3・4	○	

文化財各論Ⅵ	2	集中	高橋真作・佐藤明生・諏訪間順・ 谷口 肇	2・3・4	○	
学外館務実習	1	集中		4		※
	32					

※ 学芸員課程履修者

2019(令和元)年度以前入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基 礎 科 目	10	—	—	38 単位以上	130 単位以上(注)
	外 国 語 科 目	6	4	16 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	2	—			
	計	18	4			
専門科目	必 修 科 目	40 単位		78 単位以上		
	選 択 科 目	32 単位以上				
	卒 業 論 文	6 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修18単位、必選4単位、選択16単位以上を修得すること。

④基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	鈴木一馨	1	
日 本 語	4	必修	通年	小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a) アン オガワ (b) 内田 愛 (再) 松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a) 伊藤満里 (b) 梶台七重 (再) 深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a) アン オガワ (b) 内田 愛 (再) 草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	2022 年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	必選	前期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
フランス語 II B	1	必選	後期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	必選	前期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
ドイツ語 II B	1	必選	後期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
中国語 II A	1	必選	前期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
中国語 II B	1	必選	後期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より 1 ヶ国語を選択し、I A・I B、II A・II B の計 4 単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世 界 歴 史 Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日 本 歴 史 Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政 治 学 Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社 会 学 Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経 済 学 Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫 理 学 Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲 学	2	選択	前期	小林直子	1	
言 語 学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	

心 理 学 II	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論Ⅰ	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論Ⅱ (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
地球環境論Ⅰ	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論Ⅱ	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論Ⅰ	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツⅠ	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツⅡ	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
情報リテラシーⅠ	2	必修	前期・後期	(1)横山 博 (2)鈴木かおり	1	指定クラスで履修
情報リテラシーⅡ	2	選択	後期	(a)(b)安藤 裕	2	
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b)手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習Ⅰ	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習Ⅱ	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習Ⅲ	2	選択	前期	(a)(b)手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅳ	2	選択	後期	手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習Ⅴ	2	選択	後期	中野修一	3	注1

注1 2017(平成29)年度以前入学生に対して開講。

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

文化財学科の専門科目では、文化財に対する知識を得るだけでなく、それらを実際に取り扱い、分析・研究し、保存修復できるよう、実物・実地学習にも重点を置いている。

文化財を理解し、その生み出された背景を知るために、1・2年次において必修の「基礎概説科目」として1年次にオムニバス形式の文化財研究法、1・2年次に考古学・文化人類学・地理学、2年次に博物館概論・博物館経営論・歴史資料講読を置いている。また、文化財の扱いについて精通するため、1年次から4年次まで必修の「実習科目」が用意されている。3年次進級時に、必修の「演習科目」の指導教員並びに自己の専攻分野を決定する。卒業論文は演習の担当教員によって指導される。

2年次より履修できる選択科目（専攻科目）は、1期で完結する多数の科目が3系列にわかれている。自己の専攻とする系列だけではなく、幅広い選択履修が望ましい。

①必修科目

区分	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
基礎概説科目	文化財研究法	4	通年	宗墓秀明・矢島律子・西澤美穂子 田中和彦・緒方啓介・近藤祐介 鈴木一馨・星野玲子	1		注
	考古学	4	通年	宗墓秀明	1・2	○	
	文化人類学	4	通年	廣田龍平	1・2	○	
	地理学	4	通年	落合康浩	1・2	○	
	博物館概論	2	前期	緒方啓介	2		
	博物館経営論	2	後期	矢島律子	2		
実習科目	歴史資料講読	2	前期	近藤祐介	2		
	実習ⅠA(巡検)	2	集中	(1)宗墓秀明 (2)田中和彦	1		
	実習ⅠB(考古資料)	2	後期	(a)田中和彦(b)宗墓秀明(c)古田土俊一	1		
	実習ⅡA(古文書)	2	後期	(a)西澤美穂子(b)星野玲子(c)山口悟史	2		
	実習ⅡB(発掘実習)	2	集中	(1)(2)田中和彦	2		
	実習ⅢA (材質研究と保存処理)	2	前期	(1)(2)星野玲子	3		
	実習ⅢB (文化財の取り扱いと保存環境)	2	集中	(1)矢島律子 (2)緒方啓介	3		
演習科目	実習Ⅳ	2	集中	(a)緒方啓介(b)矢島律子(c)田中和彦	4		
	文化財演習Ⅰ	2	後期	(a)緒方啓介(b)矢島律子(c)星野玲子 (d)近藤祐介(e)田中和彦(f)西澤美穂子 (g)小林恭治(h)宗墓秀明(i)鈴木一馨	3		
卒業論文	文化財演習Ⅱ	2	通年	(a)緒方啓介(b)矢島律子(c)星野玲子 (d)近藤祐介(e)田中和彦(f)西澤美穂子 (g)小林恭治(h)宗墓秀明(i)鈴木一馨	4		
	卒業論文	6		(a)緒方啓介(b)矢島律子(c)星野玲子 (d)近藤祐介(e)田中和彦(f)西澤美穂子 (g)小林恭治(h)宗墓秀明(i)鈴木一馨	4		
必要単位合計		46					

※ 今年度の実習は、ⅠAは校外での文化財巡検（見学）を主とし、土曜・日曜を利用して実施する。実習ⅡBは野外考古学（発掘調査）であり、夏季休暇期間に実施する。実習ⅢBは学内と学外（旅行）を実施する。実習Ⅳは国外・国内・自主の中から、3年次に希望をとり実施する。
 ※ 文化財演習Ⅰは、2年次の11月に担当者を決定する。詳細は研究室からの掲示で指示する。
 注）8人の講師によるオムニバス方式

②選択科目（専攻科目）

以下の科目の中から、自己の専攻する系列より8科目16単位以上、その他の各系列より3科目6単位以上、合計16科目32単位以上修得すること。

専攻系列の登録は3年次であるので、2年次では各自の興味あるところや将来の進路見通しにしたがって、自由かつ幅広い選択履修が可能である。

系列	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
【歴史・地理系列】	日本史Ⅰ	2	前期	工藤健一	2・3・4	○	
	日本史Ⅱ	2	後期	西澤美穂子	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅰ	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
	日本文化史Ⅱ	2	後期	近藤祐介	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅰ	2	前期	尾崎正善	2・3・4	○	
	日本仏教史Ⅱ	2	後期	尾崎正善	2・3・4	○	
	古文書学Ⅰ	2	前期	西澤美穂子	2・3・4	○	
	古文書学Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○	
	歴史地理学	2	前期	落合康浩	2・3・4	○	
	歴史地誌学	2	後期	工藤健一	2・3・4	○	
	日本史概論	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	注1
	世界史概論	2	後期	宗基秀明	2・3・4	○	注1
	地誌学概論	2	後期	落合康浩	2・3・4	○	注1
宗教学概論	2	前期	鈴木一馨	2・3・4	○	注1	
【考古・美術系列】	先史考古学	2	前期	田中和彦	2・3・4	○	
	歴史考古学	2	後期	宗基秀明	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅰ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
	日本美術史Ⅱ	2	後期	緒方啓介	2・3・4	○	
	建築史Ⅰ	2	前期	大野 敏	2・3・4	○	
	建築史Ⅱ	2	後期	大野 敏	2・3・4	○	
	工芸史Ⅰ	2	前期	矢島律子	2・3・4	○	
	工芸史Ⅱ	2	後期	原田ロクゴー	2・3・4	○	
	史跡特論Ⅰ	2	前期	久保田和彦	2・3・4	○	
史跡特論Ⅱ	2	後期	久保田和彦	2・3・4	○		
【文化財系列】	文化財科学Ⅰ	2	前期	星 恵理子	2・3・4	○	
	文化財科学Ⅱ	2	後期	星 恵理子	2・3・4	○	
	有職故実Ⅰ	2	前期	近藤祐介	2・3・4	○	
	有職故実Ⅱ	2	後期	近藤祐介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅰ	2	前期	星野玲子	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅱ	2	後期	佐藤寛介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅲ	2	前期	緒方啓介	2・3・4	○	
	文化財各論Ⅳ	2	後期	高橋真作	2・3・4	○	
文化財各論Ⅴ	2	後期	室瀬 祐	2・3・4	○		

文化財各論Ⅵ	2	集中	高橋真作・佐藤明生・諏訪間順・ 谷口 肇	2・3・4	○	
学外館務実習	1	集中	矢島律子・緒方啓介	4		※
	32					

※ 学芸員課程履修者

注 1) 2019(令和元)年度以降入学生に開講。

ドキュメンテーション学科

2022(令和4)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	34 単位以上	124 単位以上(注)
	外国語科目	6	2	14 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	—	—			
	計	16	2			
専門科目	必修科目	32 単位			78 単位以上	
	選択科目	46 単位以上				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 124 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修16単位、必選2単位、選択14単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	鈴木一馨	1	
日 本 語	4	必修	通年	小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a)宮崎敬子 (b)朝田美穂子 (再)松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a)大西 慧 (b)竹田道代 (再)深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年		2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期		2	
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期		2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	2022年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	選択	前期		2	
フランス語 II B	1	選択	後期		2	
ドイツ語 II A	1	選択	前期		2	
ドイツ語 II B	1	選択	後期		2	
中国語 II A	1	選択	前期		2	
中国語 II B	1	選択	後期		2	
フランス語 III A	1	選択	前期		2	※
フランス語 III B	1	選択	後期		2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期		2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期		2	※
中国語 III A	1	選択	前期		2	※
中国語 III B	1	選択	後期		2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、I A・I Bの計2単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲 学	2	選択	前期	小林直子	1	
言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	

心 理 学 II	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論I	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論II (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期		2	

⑤生活・環境系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
地 球 環 境 論 I	2	選択	前期	市川清士	1	
地 球 環 境 論 II	2	選択	後期	市川清士	1	
科 学 技 術 論 I	2	選択	前期	山本剛史	1	
科 学 技 術 論 II	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健 康 科 学	2	選択	後期		2	
生涯スポーツ I	1	選択	前期		2	※
生涯スポーツ II	1	選択	後期		2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b) 手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習I	2	選択	前期		2	
キャリアスキル演習II	2	選択	後期		2	
キャリアスキル演習III	2	選択	前期		2	
キャリアスキル演習IV	2	選択	後期		2	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

本学科は、一般の図書・書類にとどまらず、世の中に存在するあらゆる資料（ドキュメント）をその性質に応じて研究・整理し、コンピュータ技術を用いてデータ化し、データベースあるいは検索システム等の構築を通じて広く社会の利用に供する、という一連の作業のための専門的な知識と技術を学ぶことを目的としている。また、そのための基礎として、社会人としての幅広い教養や柔軟な思考力を養うことも重視している。

取り扱う対象や技術の違いに応じて、つぎの3つのコースを設ける。学生は3年次にそのいずれかに所属する。

- 1 図書館学コース
デジタル時代の図書館員を養成する図書館学中心のコース
- 2 書誌学コース
江戸時代以前の書物の扱い方を学ぶ書誌学中心のコース
- 3 情報学コース
情報の専門家を養成する情報学中心のコース

1年次前期に配置されている基礎演習では、4年間の学びに必要な基礎的なスキルと学習する姿勢を身につける。1年次および2年次前期には、基礎的な科目としてコンピュータ関係の概論および演習、司書課程の科目に読み替えられる図書館学関係の科目、書誌学の入門的な科目を設置している。

各コースの専門的な科目の多くは2年次以降に設置されている。学生は所属したコースの科目を20単位以上修得しなければならないが、それ以外は他のコースの科目も自由に履修できる。

4年次には各教員の卒業課題研究（ゼミ）に所属し、教員の指導のもと、4年間の学習の集大成として卒業課題に取り組む。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
基礎演習	2	前期	(a)伊倉史人 (b)田辺良則 (c)河西由美子 (d)大矢一志 (e)角田裕之 (f)元木章博 (g)小南理恵	1		
情報機器教育論	2	前期	(1)(2)元木章博	1		
図書館概論	2	前期	小南理恵	1		
情報システム概論	2	前期	大矢一志	1	○	
コンピュータ概論	2	後期	榎本 聡	1	○	
ネットワーク概論	2	後期	元木章博	1	○	
情報資源組織論	2	後期	角田裕之	1		
情報基礎演習1	2	後期	(1)大矢一志 (2)榎本 聡	1	○	
情報基礎演習2	2	後期	(1)(2)田辺良則	1	○	
情報基礎演習3	2	前期		2	○	
情報基礎演習4	2	前期		2	○	
情報サービス概論	2	前期		2		
日本語演習	2	後期		2		

卒業課題研究	6	通年		4		注 1
計	32					

注 1) 教員の指導により卒業課題研究の成果物を教務課に提出する際は、12月の定められた3日間に提出しなければならない。

②選択科目

各自が選択したコースの科目を20単位以上含む、合計46単位以上修得すること。

コース	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
	プレゼンテーション演習	2	前期		2		
	特別実習	2	集中		3		
図書館学 コース	図書館情報資源論 1	2	前期		2		
	図書館情報資源論 2	2	後期		2		
	図書館学各論 1 a	2	後期		2		
	図書館学各論 1 b	2	後期		2		
	図書館学各論 1 c	2	後期		2		
	図書館サービス論 1	2	後期		2		
	図書館学演習 1	2	前期		2		
	図書館学演習 2	2	前期		2		
	図書館学演習 3	2	後期		2		
	児童サービス論	2	後期		3		
	図書館学各論 2 a	4	通年		3		
	図書館学各論 2 b	4	通年		3		
	図書館学各論 2 c	4	通年		3		
	図書館学研究 1	2	前期		3		
	図書館学研究 2	2	後期		3		
	図書館学研究 3	2	後期		3		
図書館サービス論 2	2	前期		3			
書誌学 コース	書誌学概論 1	2	後期		1	○	
	書誌学概論 2	2	前期	伊倉史人	1	○	
	書誌学基礎講義 1	2	前期		2	○	
	書誌学基礎講義 2	2	後期		2	○	
	書誌学基礎演習	2	後期		2		
	書誌学各論 1 a	2	後期		2	○	
	書誌学各論 1 b	2	後期		2	○	
	古典籍読解演習 1	2	前期		2		
	古典籍読解演習 2	2	前期		3		
	書誌学各論 2 a	4	通年		3		
	書誌学各論 2 b	4	通年		3		
	古写本演習	4	通年		3		
	古版本演習	4	通年		3		
	書誌学特別演習 1	2	前期		3		
書誌学特別演習 2	2	後期		3			

	古 筆 鑑 賞	4	通年		3		
情報学 コース	マルチメディア概論	2	前期		2	○	
	情報学理論	2	前期		2	○	
	プログラミング概論	2	後期		2	○	
	データベース概論	2	後期		2	○	
	データベース演習	2	後期		2		
	ネットワーク演習	2	後期		2		
	マルチメディア演習	2	後期		2		
	情報学各論 1 a	2	後期		2	○	
	情報学各論 1 b	2	後期		2	○	
	情報学各論 1 c	2	後期		2	○	
	情報学演習 a	2	前期		3		
	情報学演習 b	2	前期		3		
	情報学演習 c	2	後期		3		
	情報学演習 d	2	後期		3		
	情報学理論演習 1	2	前期		3		
	情報学理論演習 2	2	前期		3		
	プログラミング演習	2	前期		3		
	情報社会と倫理	2	前期		3	○	
	情報と職業	2	後期		3	○	
	情報学各論 2 a	4	通年		3		
情報学各論 2 b	4	通年		3			
情報学各論 2 c	4	通年		3			

2020(令和2)～2021(令和3)年度入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	34 単位以上	124 単位以上(注)
	外国語科目	6	2	16 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	—	—			
	計	16	2			
専門科目	必修科目	32 単位		80 単位以上		
	選択科目	44 単位以上				
	卒業論文	4 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 124 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修16単位、必選2単位、選択16単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	鈴木一馨	1	
日 本 語	4	必修	通年	小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

⑨外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語 I	2	必修	通年	(a) 宮崎敬子 (b) 朝田美穂子 (再) 松山明子	1	指定クラスで履修
英語 II	2	必修	通年	(a) 大西 慧 (b) 竹田道代 (再) 深谷素子	1	指定クラスで履修
英語 III	2	必修	通年	(a) 宮崎敬子 (b) 朝田美穂子 (再) 草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語 I	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語 II	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 III	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 IV	1	選択	前期	—————	2	2022 年度閉講
選択英語 V	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語 VI	1	選択	後期	—————	2	2022 年度閉講
フランス語 I A	1	必選	前期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語 I B	1	必選	後期	(a) 山崎俊明 (b)(c) 加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I A	1	必選	前期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語 I B	1	必選	後期	(d) 梅 香央里 (e)(f) 松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語 I A	1	必選	前期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語 I B	1	必選	後期	(g)(h) 小松原ゆり (i)(j) 内田じゅん子 (k) 張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語 II A	1	選択	前期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
フランス語 II B	1	選択	後期	(a) 加川順治 (b) 森 繁	2	
ドイツ語 II A	1	選択	前期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
ドイツ語 II B	1	選択	後期	(c) 梅 香央里 (d) 松澤智子	2	
中国語 II A	1	選択	前期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
中国語 II B	1	選択	後期	(e) 張 名揚 (f)(g) 土屋文子	2	
フランス語 III A	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語 III B	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語 III A	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語 III B	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語 III A	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語 III B	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
フランス語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
ドイツ語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV A	1	選択	前期	—————	2	※ 2022 年度閉講
中国語 IV B	1	選択	後期	—————	2	※ 2022 年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、I A・I B の計2単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲 学	2	選択	前期	小林直子	1	
言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	

心 理 学 II	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論I	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論II (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

⑤生活・環境系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
地球環境論 I	2	選択	前期	市川清士	1	
地球環境論 II	2	選択	後期	市川清士	1	
科学技術論 I	2	選択	前期	山本剛史	1	
科学技術論 II	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健康科学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツ I	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツ II	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

⑥キャリア形成科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b) 手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習I	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習II	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習III	2	選択	前期	(a)(b) 手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習IV	2	選択	後期	手塚芳晴	2	

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

本学科は、一般の図書・書類にとどまらず、世の中に存在するあらゆる資料（ドキュメント）をその性質に応じて研究・整理し、コンピュータ技術を用いてデータ化し、データベースあるいは検索システム等の構築を通じて広く社会の利用に供する、という一連の作業のための専門的な知識と技術を学ぶことを目的としている。また、そのための基礎として、社会人としての幅広い教養や柔軟な思考力を養うことも重視している。

取り扱う対象や技術の違いに応じて、つぎの3つのコースを設ける。学生は3年次にそのいずれかに所属する。

- 1 書誌学コース
江戸時代以前の書物の扱い方を学ぶ書誌学中心のコース
- 2 図書館学コース
デジタル時代の図書館員を養成する図書館学中心のコース
- 3 情報学コース
情報の専門家を養成する情報学中心のコース

1年次および2年次前期には、基礎的な科目としてコンピュータ関係の概論および基礎演習、司書課程の科目に読み替えられる図書館学関係の科目、書誌学の入門的な科目を設置している。また、英語力の養成を重視して、2、3年次にも英語の専門科目をおいている。

各コースの専門的な科目の多くは2年次以降に設置されている。選択A群は主として講義科目、選択B群は主として演習科目である。学生は所属したコースの科目をA群から12単位以上、B群から8単位以上、それぞれ修得しなければならないが、それ以外は他のコースの科目も自由に履修できる。

4年次には各教員の卒業論文演習（卒論ゼミ）に所属し、教員の指導のもと、4年間の学習の集大成として卒業論文を作成する。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
図書館概論	2	前期	小南理恵	1		
情報システム概論	2	前期	大矢一志	1	○	
情報機器教育論	2	前期	(1)(2)元木章博	1		
ドキュメント処理概論	2	後期	角田裕之	1		
ネットワーク概論	2	後期	元木章博	1	○	
コンピュータ概論	2	後期	榎本 聡	1	○	
データベース概論	2	後期	田辺良則	1	○	
情報サービス概論	2	前期	河西由美子	2		
情報基礎演習Ⅰ (ネットワーク)	2	前期	(1)大矢一志 (2)榎本 聡	2	○	
情報基礎演習Ⅱ (アプリケーション)	2	前期	(1)湯浅能史 (2)田辺良則	2	○	
情報基礎演習Ⅲ (データベース)	2	前期	(1)田辺良則 (2)湯浅能史	2	○	

日 本 語 演 習	2	後期	(a)伊倉史人 (b)大内瑞恵 (c)	2		
英 語 演 習 I	1	前期	(1)山口哲央 (2)広川 治	2		
英 語 演 習 II	1	後期	(1)山口哲央 (2)広川 治	2		
英 語 演 習 III	1	前期	(1)梶台七重 (2)渡辺一美	3		
英 語 演 習 IV	1	後期	(1)梶台七重 (2)渡辺一美	3		
卒 業 論 文 演 習	4	通年		4		
卒 業 論 文	4			4		
計	36					

②選択科目

以下の各群で規定された単位修得条件を充足したうえで、合計 44 単位以上修得する。

(1) 選択 A 群

各自が選択したコースに開講された科目の中から 12 単位以上修得すること。

コース	科 目 名	単位	開講期間	担 当 者	履修学年	他学科	備 考
書誌学 コース	書 物 文 化 論	2	後期		1	○	
	古 典 基 礎	2	前期	伊倉史人	1	○	
	書 誌 学 基 礎 講 義 I	2	前期	高橋裕次	2	○	
	書 誌 学 基 礎 講 義 II	2	後期	伊倉史人	2	○	
	日 本 書 誌 学	4	通年	伊倉史人	3・4	○	
	古 筆 鑑 賞	4	通年	石澤一志	3・4	○	
	書 誌 学 特 殊 講 義 I	2	前期	幾浦裕之	3・4	○	
	書 誌 学 特 殊 講 義 II	2	後期		3・4	○	
図書館学 コース	電 子 出 版 論	2	前期	小南理恵	3・4	○	
	図 書 館 情 報 資 源 論 I	2	後期	新藤 透	2		
	ドキュメント処理各論 I	2	後期	小南理恵	2	○	
	情 報 サービス 各 論 I	2	後期	河西由美子	2		
	図 書 館 サービス 論	2	前期	児玉 関	2		
	図 書 館 情 報 技 術 論	2	前期	藤田岳久	2		
	ドキュメント処理各論 II	4	通年	角田裕之・小南理恵	3・4		
	情 報 サービス 各 論 II	4	通年	河西由美子	3・4		
	図 書 館 制 度 ・ 経 営 論	2	前期	大蔵綾子	3・4		
	図 書 館 情 報 資 源 論 II	2	前期	大蔵綾子	3・4		
	デジタル情報と著作権	2	後期	穂坂道子	3・4	○	
情報学 コース	児 童 サービス 論	2	後期	河西由美子	3・4		
	記 録 管 理 論	2	後期	大蔵綾子	3・4	○	
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 概 論	2	後期	大矢一志	2	○	
	マ ル チ メ デ ィ ア 概 論	2	前期	元木章博	2	○	

情報学 コース	情報理論	2	前期	田辺良則	2	○	
	情報システム各論Ⅰ	2	後期	大矢一志	2	○	
	データベース各論Ⅰ	2	後期	田辺良則	2	○	
	ネットワーク各論Ⅰ	2	後期	元木章博	2	○	
	データベース各論Ⅱ	4	通年	田辺良則	3・4		
	ネットワーク各論Ⅱ	4	通年	元木章博	3・4		
	情報システム各論Ⅱ	4	通年	大矢一志	3・4		
	情報社会と倫理	2	前期	宇佐美雅紀	3・4	○	
	情報と職業	2	後期	宇佐美雅紀	3・4	○	

(2) 選択B群

各自が選択したコースに開講された科目の中から8単位以上修得すること。

コース	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
書誌学 コース	古典籍読解演習Ⅰ	2	前期	伊倉史人	2		
	書誌学基礎演習	2	後期	(a) (b)幾浦裕之	2		
	古写本演習	4	通年	伊倉史人	3・4		
	古版本演習	4	通年	伊倉史人	3・4		
	古典籍読解演習Ⅱ	2	前期	幾浦裕之	3・4		
	書誌学特別演習	2	後期	西川 和	3・4		
図書館学 コース	ドキュメント処理演習Ⅰ	2	前期	(a)(b)角田裕之 (c) 鶴田拓哉	2		
	情報サービス演習Ⅰ	2	前期・後期	(a)河西由美子 (b)(c) 宮原志津子	2		
	ドキュメント処理演習Ⅱ	2	後期	(a)大蔵綾子 (b)(c) 竹之内明子	2		
	情報サービス演習Ⅱ	2	後期	(a)河西由美子 (b)小南理恵 (c)江草由佳	2		
	ビジネス・ライティング A	2	前期	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	3・4		
	ビジネス・ライティング B	2	後期	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	3・4		
	特別実習Ⅰ	2	集中	元木章博・角田裕之・大矢一志 伊倉史人・田辺良則・河西由美子 小南理恵	3・4		
	特別実習Ⅱ	2	集中	元木章博・角田裕之・大矢一志 伊倉史人・田辺良則・河西由美子 小南理恵・張 名揚	1		
情報学 コース	ドキュメント処理演習Ⅲ	2	後期	角田裕之	3・4		
	プレゼンテーション演習	2	前期	(a)小南理恵 (b)周東聡子	2		
	データベース演習Ⅰ	2	後期	西澤弘毅	2		
	マルチメディア演習	2	後期	元木章博	2		
	ネットワーク演習Ⅰ	2	後期	横山 博	2		
	プログラミング演習Ⅰ	2	前期	大矢一志	3・4		
	ネットワーク演習Ⅱ	2	前期	元木章博	3・4		
	データベース演習Ⅱ	2	前期	田辺良則	3・4		
	情報理論演習Ⅰ	2	後期	田辺良則	3・4		
	プログラミング演習Ⅱ	2	後期	田辺良則	3・4		
	情報システム演習	2	後期	大矢一志	3・4		
	情報理論演習Ⅱ	2	前期	大矢一志	3・4		

2019(令和元)年度以前入学生に適用

1. 卒業所要単位

区 分		卒業所要単位				備考
		必修	必選	選択		
共通科目	基礎科目	10	—	—	36 単位以上	130 単位以上(注)
	外国語科目	6	2	18 単位以上		
	文化・芸術系科目	—	—			
	人間・社会系科目	—	—			
	生活・環境系科目	—	—			
	キャリア形成科目	—	—			
	計	16	2			
専門科目	必修科目	32 単位		80 単位以上		
	選択科目	44 単位以上				
	卒業論文	4 単位				

(注) 共通科目、専門科目それぞれに規定された卒業所要単位の充足を条件として、以下の単位を卒業所要単位 130 単位に算入することができる。

①他学科の指定された専門科目の修得単位

各学科専門科目開講科目表の「他学科」欄に○印が記載されている。

②資格に関する科目のうち指定された科目の修得単位

資格課程の開講科目表の注記で該当科目が指定されている。

③横浜市内大学間単位互換制度により修得した単位 (8 単位以内)

2. 2022(令和4)年度開講科目及び担当者

《共通科目》

カリキュラムの目的及び特徴

共通科目は文学部の全学生に対して共通に開講する科目である。広い世界認識と深い自己認識に基づく自己開発の実現と、現代社会の多様なニーズに応えることのできる教養・知恵およびスキルの育成を目的としている。

基礎科目群には、本学建学の基盤である仏教をはじめとする宗教全般にわたる理解を深める「宗教学」、情報伝達ツールとして「書く」「聞く」「話す」など日本語の表現能力を磨く「日本語」、生涯にわたる健康の基盤づくりをめざす「体育」の3科目が全学科共通の必修科目として用意されている。

外国語科目群には、「英語」「フランス語」「ドイツ語」「中国語」が用意されている。国際社会において必須の「英語」は英語英米文学科以外の3学科で必修科目である。「英語Ⅰ」はリーディング中心の総合英語、「英語Ⅱ」はリスニング中心の総合英語、「英語Ⅲ」は英語発信能力を高めることをめざす総合英語である。この3科目はプレースメントテストによる習熟度別授業を実施する。さらに英語力のスキルアップや資格英語をめざす「選択英語Ⅰ～Ⅵ」が用意されている。また全学科共通に英語以外の外国語1ヵ国語を必修選択科目として履修する必要がある。Ⅰ・Ⅱはそれぞれの外国語の基礎を学ぶ入門編、Ⅲは日常表現を学ぶ初級編、Ⅳはさらなるレベルアップをめざす応用編である。

文化・芸術系科目群には、美術、映像、音楽、舞台芸術などを内容とする「表象文化論」、世界各地の言語や文化を内容とする「地域文化研究」、世界各地の文学を対象とする「外国文学」が用意されており、幅広く世界各地の言語、文化、文学について学ぶことが可能である。

人間・社会系科目群には、「法学」「経済学」「社会学」「世界歴史」「日本歴史」「哲学」「心理学」などの科目があり、社会制度や歴史、思想、人間についての理解を深めることが可能である。

生活・環境系科目群には、最新の科学技術や環境について学ぶ「地球環境論」「科学技術論」、健康維持に役立つ知識や実践を学ぶ「健康科学」「生涯スポーツ」などがある。

キャリア形成科目群には、自立した社会人として求められるコミュニケーションや自己表現などのヒューマンスキルの向上をめざす「キャリア形成論」「キャリアスキル演習Ⅰ～Ⅳ」が用意されている。また情報化社会で必須ツールとなったパーソナルコンピュータによる情報処理技術を学ぶ「情報リテラシーⅠ」はドキュメンテーション学科を除く3学科での必修科目である。

※以下の科目の中から、必修16単位、必選2単位、選択18単位以上を修得すること。

①基礎科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
宗 教 学	4	必修	通年	鈴木一馨	1	
日 本 語	4	必修	通年	小林恭治	1	指定クラスで履修
体 育	2	必修	通年	(1)(2) 田村浩志 平川澄子、鈴木清美	1	指定クラスで履修
体育(保健コース)	2	必修	通年	平川澄子	1	※

※保健コースは、健康上の理由で長期にわたって運動が不可能、あるいは運動に何らかの制限があり、正規の体育を履修できない学生を対象に開講する。履修については担当教員と相談の上、決定する。

②外国語科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
英語Ⅰ	2	必修	通年	(a)宮崎敬子 (b)朝田美穂子 (再)松山明子	1	指定クラスで履修
英語Ⅱ	2	必修	通年	(a)大西 慧 (b)竹田道代 (再)深谷素子	1	指定クラスで履修
英語Ⅲ	2	必修	通年	(a)宮崎敬子 (b)朝田美穂子 (再)草薙優加	2	指定クラスで履修
選択英語Ⅰ	1	選択	前期	松村香奈	2	
選択英語Ⅱ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅲ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅳ	1	選択	前期	—————	2	2022年度閉講
選択英語Ⅴ	1	選択	後期	松村香奈	2	
選択英語Ⅵ	1	選択	後期	—————	2	2022年度閉講
フランス語ⅠA	1	必選	前期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
フランス語ⅠB	1	必選	後期	(a)山崎俊明 (b)(c)加川順治	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠA	1	必選	前期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
ドイツ語ⅠB	1	必選	後期	(d)梅 香央里 (e)(f)松澤智子	1	指定クラスで履修
中国語ⅠA	1	必選	前期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
中国語ⅠB	1	必選	後期	(g)(h)小松原ゆり (i)(j)内田じゅん子 (k)張 名揚	1	指定クラスで履修
フランス語ⅡA	1	選択	前期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
フランス語ⅡB	1	選択	後期	(a)加川順治 (b)森 繁	2	
ドイツ語ⅡA	1	選択	前期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
ドイツ語ⅡB	1	選択	後期	(c)梅 香央里 (d)松澤智子	2	
中国語ⅡA	1	選択	前期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
中国語ⅡB	1	選択	後期	(e)張 名揚 (f)(g)土屋文子	2	
フランス語ⅢA	1	選択	前期	山崎俊明	2	※
フランス語ⅢB	1	選択	後期	山崎俊明	2	※
ドイツ語ⅢA	1	選択	前期	梅 香央里	2	※
ドイツ語ⅢB	1	選択	後期	梅 香央里	2	※
中国語ⅢA	1	選択	前期	小松原ゆり	2	※
中国語ⅢB	1	選択	後期	小松原ゆり	2	※
フランス語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
フランス語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講
ドイツ語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
ドイツ語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講
中国語ⅣA	1	選択	前期	—————	2	※ 2022年度閉講
中国語ⅣB	1	選択	後期	—————	2	※ 2022年度閉講

◎必修選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）より1ヵ国語を選択し、ⅠA・ⅠBの計2単位を修得すること。

※2年次以降、必修選択科目の外国語は他の外国語に変更することができる。

※選択科目の外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅢA・ⅢB とⅣA・ⅣB は、外国語（フランス語・ドイツ語・中国語）ⅠA・ⅠB を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

◎文化・芸術系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
表象文化論Ⅰ	2	選択	前期	山本 樹	1	
表象文化論Ⅱ	2	選択	後期	調 文明	1	
表象文化論Ⅲ	2	選択	前期	清水英夫	1	
表象文化論Ⅳ	2	選択	後期	清水英夫	1	
地域文化研究Ⅰ	2	選択	前期	越智直子	1	
地域文化研究Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
地域文化研究Ⅲ	2	選択	前期	加川順治	1	
地域文化研究Ⅳ	2	選択	後期	梅 香央里	1	
地域文化研究Ⅴ	2	選択	前期	韓 興鉄	1	
地域文化研究Ⅵ	2	選択	後期	海老原志穂	1	
外国文学Ⅰ	2	選択	前期	石川就彦	1	
外国文学Ⅱ	2	選択	後期	朴 智慧	1	
外国文学Ⅲ	2	選択	前期	梅 香央里	1	
外国文学Ⅳ	2	選択	後期	加川順治	1	

◎人間・社会系科目

科目名	単位	履修形態	開講期間	担当者	履修学年	備考
法学Ⅰ(日本国憲法)	2	選択	前期	(a)(b) 中路喜之	1	
法 学 Ⅱ	2	選択	後期	中路喜之	1	
世界歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	尾崎修治	1	
世界歴史Ⅱ	2	選択	後期	尾崎修治	1	
日本歴史Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a) 西澤美穂子 (b) 近藤祐介	1	
日本歴史Ⅱ	2	選択	後期	西澤美穂子	1	
政治学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 倉西雅子	1	
政治学Ⅱ	2	選択	後期	(a)(b) 倉西雅子	1	
社会学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	(a)(b) 工藤 豪	1	
社会学Ⅱ	2	選択	後期	工藤 豪	1	
経済学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	高木 聖	1	
経済学Ⅱ	2	選択	後期	高木 聖	1	
倫理学Ⅰ(概説)	2	選択	前期	山本剛史	1	
倫理学Ⅱ	2	選択	後期	山本剛史	1	
地誌学概説	2	選択	後期	中岡裕章	1	
哲 学	2	選択	前期	小林直子	1	
言語学	2	選択	前期	海老原志穂	1	
心理学Ⅰ	2	選択	前期	(a)(b) 吉村順子	1	

心 理 学 II	2	選択	後期	(a)(b) 吉村順子	1	
ジャーナリズム論I	2	選択	前期	長谷川一	1	
ジャーナリズム論II (メディアリテラシー)	2	選択	後期	長谷川一	1	
コミュニケーション論	2	選択	後期	吉村順子	2	

㊦生活・環境系科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
地 球 環 境 論 I	2	選択	前期	市川清士	1	
地 球 環 境 論 II	2	選択	後期	市川清士	1	
科 学 技 術 論 I	2	選択	前期	山本剛史	1	
科 学 技 術 論 II	2	選択	後期	山本剛史	1	
ボランティア論	2	選択	後期	永井健夫	1	
健 康 科 学	2	選択	後期	平川澄子	2	
生涯スポーツ I	1	選択	前期	平川澄子	2	※
生涯スポーツ II	1	選択	後期	田村浩志	2	※

※ 体育を履修し、単位を修得した学生のみ履修することができる。

㊦キャリア形成科目

科 目 名	単位	履修形態	開講期間	担 当 者	履修学年	備 考
キャリア形成論	2	選択	後期	(a)(b) 手塚芳晴	1	
キャリアスキル演習I	2	選択	前期	大内瑞恵	2	
キャリアスキル演習II	2	選択	後期	河 京樹	2	
キャリアスキル演習III	2	選択	前期	(a)(b) 手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習IV	2	選択	後期	手塚芳晴	2	
キャリアスキル演習V	2	選択	後期	中野修一	3	注1

注 1) 2017(平成 29)年度以前入学生に対して開講。

《専門科目》

カリキュラムの目的及び特徴

本学科は、一般の図書・書類にとどまらず、世の中に存在するあらゆる資料（ドキュメント）をその性質に応じて研究・整理し、コンピュータ技術を用いてデータ化し、データベースあるいは検索システム等の構築を通じて広く社会の利用に供する、という一連の作業のための専門的な知識と技術を学ぶことを目的としている。また、そのための基礎として、社会人としての幅広い教養や柔軟な思考力を養うことも重視している。

取り扱う対象や技術の違いに応じて、つぎの3つのコースを設ける。学生は3年次にそのいずれかに所属する。

- 1 書誌学コース
江戸時代以前の書物の扱い方を学ぶ書誌学中心のコース
- 2 図書館学コース
デジタル時代の図書館員を養成する図書館学中心のコース
- 3 情報学コース
情報の専門家を養成する情報学中心のコース

1年次および2年次前期には、基礎的な科目としてコンピュータ関係の概論および基礎演習、司書課程の科目に読み替えられる図書館学関係の科目、書誌学の入門的な科目を設置している。また、英語力の養成を重視して、2、3年次にも英語の専門科目をおいている。

各コースの専門的な科目の多くは2年次以降に設置されている。選択A群は主として講義科目、選択B群は主として演習科目である。学生は所属したコースの科目をA群から12単位以上、B群から8単位以上、それぞれ修得しなければならないが、それ以外は他のコースの科目も自由に履修できる。

4年次には各教員の卒業論文演習（卒論ゼミ）に所属し、教員の指導のもと、4年間の学習の集大成として卒業論文を作成する。

①必修科目

科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
図書館概論	2	前期	小南理恵	1		
情報システム概論	2	前期	大矢一志	1	○	
情報機器教育論	2	前期	(1)(2)元木章博	1		
ドキュメント処理概論	2	後期	角田裕之	1		
ネットワーク概論	2	後期	元木章博	1	○	
コンピュータ概論	2	後期	榎本 聡	1	○	
データベース概論	2	後期	田辺良則	1	○	
情報サービス概論	2	前期	河西由美子	2		
情報基礎演習Ⅰ (ネットワーク)	2	前期	(1)大矢一志 (2)榎本 聡	2	○	
情報基礎演習Ⅱ (アプリケーション)	2	前期	(1)湯浅能史 (2)田辺良則	2	○	
情報基礎演習Ⅲ (データベース)	2	前期	(1)田辺良則 (2)湯浅能史	2	○	

日 本 語 演 習	2	後期	(a)伊倉史人 (b)大内瑞恵 (c)	2		
英 語 演 習 I	1	前期	(1)山口哲央 (2)広川 治	2		
英 語 演 習 II	1	後期	(1)山口哲央 (2)広川 治	2		
英 語 演 習 III	1	前期	(1)梶台七重 (2)渡辺一美	3		
英 語 演 習 IV	1	後期	(1)梶台七重 (2)渡辺一美	3		
卒 業 論 文 演 習	4	通年	(a)伊倉史人 (b)角田裕之 (c)河西由美子 (d)小南理恵 (e)田辺良則 (f)大矢一志 (g)元木章博	4		
卒 業 論 文	4		(a)伊倉史人 (b)角田裕之 (c)河西由美子 (d)小南理恵 (e)田辺良則 (f)大矢一志 (g)元木章博	4		
計	36					

②選択科目

以下の各群で規定された単位修得条件を充足したうえで、合計 44 単位以上修得する。

(1) 選択 A 群

各自が選択したコースに開講された科目の中から 12 単位以上修得すること。

コース	科 目 名	単位	開講期間	担 当 者	履修学年	他学科	備 考
書誌学 コース	書 物 文 化 論	2	後期		1	○	
	古 典 基 礎	2	前期	伊倉史人	1	○	
	書 誌 学 基 礎 講 義 I	2	前期	高橋裕次	2	○	
	書 誌 学 基 礎 講 義 II	2	後期	伊倉史人	2	○	
	日 本 書 誌 学	4	通年	伊倉史人	3・4	○	
	古 筆 鑑 賞	4	通年	石澤一志	3・4	○	
	書 誌 学 特 殊 講 義 I	2	前期	幾浦裕之	3・4	○	
	書 誌 学 特 殊 講 義 II	2	後期		3・4	○	
図書館学 コース	電 子 出 版 論	2	前期	小南理恵	3・4	○	
	図 書 館 情 報 資 源 論 I	2	後期	新藤 透	2		
	ドキュメント処理各論 I	2	後期	小南理恵	2	○	
	情 報 サービス各論 I	2	後期	河西由美子	2		
	図 書 館 サービス論	2	前期	児玉 関	2		
	図 書 館 情 報 技 術 論	2	前期	藤田岳久	2		
	ドキュメント処理各論 II	4	通年	角田裕之・小南理恵	3・4		
	情 報 サービス各論 II	4	通年	河西由美子	3・4		
	図 書 館 制 度・経 営 論	2	前期	大蔵綾子	3・4		
	図 書 館 情 報 資 源 論 II	2	前期	大蔵綾子	3・4		
	デジタル情報と著作権	2	後期	穂坂道子	3・4	○	
情報学 コース	児 童 サービス論	2	後期	河西由美子	3・4		
	記 録 管 理 論	2	後期	大蔵綾子	3・4	○	
	プ ロ グ ラ ミ ン グ 概 論	2	後期	大矢一志	2	○	
	マ ル チ メ デ ィ ア 概 論	2	前期	元木章博	2	○	

情報学 コース	情報理論	2	前期	田辺良則	2	○	
	情報システム各論Ⅰ	2	後期	大矢一志	2	○	
	データベース各論Ⅰ	2	後期	田辺良則	2	○	
	ネットワーク各論Ⅰ	2	後期	元木章博	2	○	
	データベース各論Ⅱ	4	通年	田辺良則	3・4		
	ネットワーク各論Ⅱ	4	通年	元木章博	3・4		
	情報システム各論Ⅱ	4	通年	大矢一志	3・4		
	情報社会と倫理	2	前期	宇佐美雅紀	3・4	○	
情報と職業	2	後期	宇佐美雅紀	3・4	○		

(2) 選択B群

各自が選択したコースに開講された科目の中から8単位以上修得すること。

コース	科目名	単位	開講期間	担当者	履修学年	他学科	備考
書誌学 コース	古典籍読解演習Ⅰ	2	前期	伊倉史人	2		
	書誌学基礎演習	2	後期	(a) (b)幾浦裕之	2		
	古写本演習	4	通年	伊倉史人	3・4		
	古版本演習	4	通年	伊倉史人	3・4		
	古典籍読解演習Ⅱ	2	前期	幾浦裕之	3・4		
	書誌学特別演習	2	後期	西川 和	3・4		
図書館学 コース	ドキュメント処理演習Ⅰ	2	前期	(a)(b)角田裕之 (c)鴫田拓哉	2		
	情報サービス演習Ⅰ	2	前期・後期	(a)河西由美子 (b)(c)宮原志津子	2		
	ドキュメント処理演習Ⅱ	2	後期	(a)大蔵綾子 (b)(c)竹之内明子	2		
	情報サービス演習Ⅱ	2	後期	(a)河西由美子 (b)小南理恵 (c)江草由佳	2		
	ビジネス・ライティング A	2	前期	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	3・4		2017年度までは 「ビジネス・ライ ティング」4単 位 通年で開講
	ビジネス・ライティング B	2	後期	(a)宮崎敬子 (b)鶴岡公幸	3・4		
	特別実習Ⅰ	2	集中	元木章博・角田裕之・大矢一志 伊倉史人・田辺良則・河西由美子 小南理恵	3・4		
	特別実習Ⅱ	2	集中	元木章博・角田裕之・大矢一志 伊倉史人・田辺良則・河西由美子 小南理恵・張 名揚	1		
情報学 コース	ドキュメント処理演習Ⅲ	2	後期	角田裕之	3・4		
	プレゼンテーション演習	2	前期	(a)小南理恵 (b)周東聡子	2		
	データベース演習Ⅰ	2	後期	西澤弘毅	2		
	マルチメディア演習	2	後期	元木章博	2		
	ネットワーク演習Ⅰ	2	後期	横山 博	2		
	プログラミング演習Ⅰ	2	前期	大矢一志	3・4		
	ネットワーク演習Ⅱ	2	前期	元木章博	3・4		
	データベース演習Ⅱ	2	前期	田辺良則	3・4		
	情報理論演習Ⅰ	2	後期	田辺良則	3・4		
	プログラミング演習Ⅱ	2	後期	田辺良則	3・4		
	情報システム演習	2	後期	大矢一志	3・4		
	情報理論演習Ⅱ	2	前期	大矢一志	3・4		

資 格 課 程

教 職 課 程

(1) 教職課程について

大学卒業後、教員を希望する者は、教育職員免許法（以下免許法）に基づいて授与される教育職員免許状（以下免許状）を有していなければならない。

本学の教職課程は、中学校および高等学校の免許状の取得を希望する学生のために、免許法ならびに同法施行規則に基づいて開設されている。この課程を履修しようとする者は、履修登録の際、資格申請をし、また定められた期日に教職課程費を納入しなければならない。なお、本課程の科目は1年次から履修できるので、卒業までに無理なく単位の修得ができるよう、計画をたてることが望ましい。

(2) 取得できる免許状の種類

卒業に必要な単位を修得し、所定の共通科目、教科に関する科目、教職に関する科目の単位を修得した者に対し、本人の申請に基づいて各学科ごとに以下の免許状が与えられる。なお、中学校の免許状を取得する場合は、後述する「介護等の体験」が必要となる。

2019(令和元)年度以降入学生

学 科	免許状の種類・教科	基礎資格等	取得に要する最低単位数		
			教科科目※	教職科目	計
日 本 文 学 科	中学校教諭一種免許状 国語	1. 学士の学位を有すること	58	27	85 単位
	高等学校教諭一種免許状 国語		58 又は 56	23 又は 25	81 単位
	高等学校教諭一種免許状 書道		66 又は 64	23 又は 25	89 単位
英 語 英 米 文 学 科	中学校教諭一種免許状 英語	2. 指定共通科目を4科目8単元以上修得	40	27	67 単位
	高等学校教諭一種免許状 英語		36	23 又は 25	59 単位
文 化 財 学 科	中学校教諭一種免許状 社会		46	27	73 単位
	高等学校教諭一種免許状 地理歴史		42 又は 40	23 又は 25	65 単位
ドキュメンテーション学科	高等学校教諭一種免許状 情報		36	23	59 単位

※各教科の指導法を含む

2018(平成30)年度入学生

学 科	免許状の種類・教科	基礎資格等	取得に要する最低単位数		
			教科科目	教職科目	計
日 本 文 学 科	中学校教諭一種免許状 国語	1. 学士の学位を有すること	50	35	85 単位
	高等学校教諭一種免許状 国語		54 又は 52	27 又は 29	81 単位
	高等学校教諭一種免許状 書道		62 又は 60	27 又は 29	89 単位
英 語 英 米 文 学 科	中学校教諭一種免許状 英語	2. 指定共通科目を4科目8単元以上修得	34	35	69 単位
	高等学校教諭一種免許状 英語		34	29	63 単位
文 化 財 学 科	中学校教諭一種免許状 社会		48	35	83 単位
	高等学校教諭一種免許状 地理歴史		46 又は 44	27 又は 29	73 単位
ドキュメンテーション学科	高等学校教諭一種免許状 情報		36	27	63 単位

(3) 単位履修方法

2019(令和元)年度以降入学生に適用

① 指定共通科目

免許状を取得する場合には、教科に関する科目、教職に関する科目以外に、特に必要な科目として文部科学省令で定められた科目がある。本学ではこれらに相当するものとして次の共通科目等を指定するので、卒業するまでに必ず履修し、単位を修得しなければならない。

◇「法学Ⅰ(日本国憲法)」2単位

◇「体育」2単位

◇・英語英米文学科：「オーラル・コミュニケーション」2単位

・上記以外の学生：「英語Ⅱ」2単位

◇・ドキュメンテーション学科：「情報機器教育論」2単位

・上記以外の学生：「情報リテラシーⅠ」2単位

② 教科および教科の指導法に関する科目

i. 教科および教科の指導法に関する科目は各学科の専門科目等からなり、次表に示す通りである。

※免許法に規定されている科目名「各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)」については、2019(令和元)～2021(令和3)年度入学生は、「各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)」とする。

a. 日本文学科

(イ) 中学校・高等学校(国語)

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			
	科 目	単位数		備 考
		必修	選択	
国語学 (音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	日本語学概論	4		卒業必修
	日本語史	4		
国文学 (国文学史を含む。)	国文学概論		4	卒業必修 何れか2科目必修
	国文学史 上代・中古		4	
	国文学史 中世・近世		4	
	国文学史 近代		4	
	国文学演習 上代・中古Ⅰ		4	
	国文学演習 上代・中古Ⅱ		4	
	国文学演習 上代・中古Ⅲ		4	
	国文学演習 中世・近世Ⅰ		4	
	国文学演習 中世・近世Ⅱ		4	
	国文学演習 中世・近世Ⅲ		4	
	国文学演習 近代Ⅰ		4	
	国文学演習 近代Ⅱ		4	
	国文学演習 近代Ⅲ		4	
	国文学演習 近代Ⅳ		4	
漢文学	中国古典文学	4		卒業必修
	漢文講読	2		卒業必修

書道（書写を中心とする。）	書道Ⅰ	2		中学校のみ
	書道Ⅱ	2		中学校のみ
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	国語科教育法Ⅰ	4		中学校のみ
	国語科教育法Ⅱ	4		
大学が独自に設定する科目	上代文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	中古文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	中世文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	近世文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	近代文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	日本語学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	教職国語科	4		

※1 中学校免許状を取得する場合は上記の科目のうち、必修54単位（書道Ⅰ・Ⅱを含む）、選択4単位、合計58単位以上修得すること。

※2 高等学校免許状を取得する場合は上記の科目のうち、必修46単位、選択12単位、合計58単位以上修得すること。ただし、教職に関する科目の「道徳教育」2単位を修得した場合は選択10単位、合計56単位でよい。

(ロ) 高等学校（書道）

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数				
	科 目	単位数		備 考	
		必修	選択		
書道（書写を含む。）	書道Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	8			
書道史	書道史	4			
「書論、鑑賞」	古筆鑑賞	4			
「国文学、漢文学」	国文学史 上代・中古	4		卒業必修 何れか2科目必修	
	国文学史 中世・近世	4			
	国文学史 近代	4			
	国文学概論	4			
	国文学演習 上代・中古Ⅰ		4		
	国文学演習 上代・中古Ⅱ		4		
	国文学演習 上代・中古Ⅲ		4		
	国文学演習 中世・近世Ⅰ		4		
	国文学演習 中世・近世Ⅱ		4		
	国文学演習 中世・近世Ⅲ		4		
	国文学演習 近代Ⅰ		4		
	国文学演習 近代Ⅱ		4		
	国文学演習 近代Ⅲ		4		
	国文学演習 近代Ⅳ		4		
	中国古典文学	4			卒業必修
	漢文講読	2			卒業必修
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	書道科教育法	4			

大学が独自に設定する科目	書道Ⅴ		2	} 何れか1科目必修
	書道Ⅵ		2	
	上代文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	中古文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	中世文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	近世文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	近代文学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
	日本語学講義Ⅰ・Ⅱ		8	各4単位
教職国語科		4		

※ 上記の科目のうち、必修52単位、選択14単位、合計66単位以上修得すること。ただし、教職に関する科目の「道德教育」2単位を修得した場合は選択12単位、合計64単位でよい。

b. 英語英米文学科

中学校・高等学校（英語）

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			
	科 目	単位数		備 考
		必修	選択	
英語学	英語学概論A	2		
	英語音声学A	2		◎
	英文法B	2		◎
	社会言語学研究A	2		
英語文学	英語文学概論ⅠA	2		
	英語文学概論ⅡB	2		
英語コミュニケーション	エングリッシュ・イングリッシュA・B	2		
	リーディングA・B	2		
	ライティング・スキルA・B	4		
	オーラル・コミュニケーションⅠA・ⅠB	2		
	オーラル・コミュニケーションⅡA・ⅡB	2		◎
異文化理解	イギリス文化概論B	2		
	アメリカ文化概論A	2		
	英語コミュニケーション概論B	2		
教科及び教科の指導法に関する科目における複数の事項を合わせた内容に係る科目	英語教育研究B	2		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	英語科教育法Ⅰ	4		中学校のみ
	英語科教育法Ⅱ	4		

※1 中学校免許状を取得する場合は上記の必修科目、40単位を修得すること。

※2 高等学校免許状を取得する場合は上記の必修科目、36単位を修得すること。

※3 備考欄の◎印は教育実習（実習校実習）参加要件科目を示す。詳細は149頁参照のこと。

c. 文化財学科

(イ) 中学校 (社会)

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			
	科 目	単位数		備 考
		必修	選択	
日本史・外国史	日本史概論	2		卒業必修 卒業必修
	世界史概論	2		
	考古学	4		
	文化財研究法	4		
地理学 (地誌を含む。)	地理学	4		卒業必修 卒業必修
	地誌学概論	2		
	歴史地誌学	2		
	文化人類学	4		
「法学、政治学」	政治学 I (概説)・II	4		
「社会学、経済学」	社会学 I (概説)・II	4		
「哲学、倫理学、宗教学」	宗教学概論	2		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	社会科教育法 I (社会・公民)	2		
	社会科教育法 II (社会・公民)	2		
	地理歴史科教育法 I	2		
	地理歴史科教育法 II	2		
大学が独自に設定する科目	日本史 I・II		4	各 2 単位
	日本文化史 I・II		4	各 2 単位
	日本仏教史 I・II		4	各 2 単位
	日本美術史 I・II		4	各 2 単位
	歴史資料講読		2	卒業必修
	歴史考古学		2	
	歴史地理学		2	
	経済学 I (概説)・II		4	

※ 上記の科目のうち、必修42単位、選択4単位、合計46単位以上修得すること。

(ロ) 高等学校 (地理歴史)

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			
	科 目	単位数		備 考
		必修	選択	
日本史	日本史概論	2		卒業必修 卒業必修
	考古学	4		
	文化財研究法	4		
外国史	世界史概論	2		
人文地理学・自然地理学	地理学	4		卒業必修 卒業必修
	歴史地理学	2		
	文化人類学	4		

地誌	地誌学概論	2		
	歴史地誌学	2		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	地理歴史科教育法Ⅰ	2		
	地理歴史科教育法Ⅱ	2		
大学が独自に設定する科目	日本史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	日本文化史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	日本仏教史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	日本美術史Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	有職故実Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位
	歴史資料講読		2	卒業必修
	歴史考古学		2	
	史跡特論Ⅰ・Ⅱ		4	各2単位

※ 上記の科目のうち、必修30単位、選択12単位、合計42単位以上修得すること。ただし、教職に関する科目の「道德教育」2単位を修得した場合は、選択10単位、合計40単位でよい。

d. ドキュメンテーション学科

【2022（令和4）年度入学生】

高等学校（情報）

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			
	科 目	単位数		備 考
		必修	選択	
情報社会・情報倫理	情報社会と倫理	2		
コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	コンピュータ概論	2		卒業必修
	プログラミング概論	2		
	プログラミング演習	2		
	情報学理論	2		
	情報学理論演習1	2		
情報システム (実習を含む。)	情報システム概論	2		卒業必修
	データベース概論	2		
	データベース演習		2	
	情報基礎演習3	2		
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	ネットワーク概論	2		卒業必修
	ネットワーク演習		2	
	情報基礎演習1	2		
マルチメディア表現・マルチメディア技術 (実習を含む。)	マルチメディア概論	2		卒業必修
	マルチメディア演習		2	
	プレゼンテーション演習	2		
	情報基礎演習2	2		
情報と職業	情報と職業	2		
各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）	情報科教育法	4		

※ 上記の科目のうち、必修34単位、選択2単位、合計36単位以上修得すること。

【2019(令和元)～2021(令和3)年度入学生】

高等学校(情報)

免許法に規定されている科目名	左記に相当する本学開講科目および単位数			
	科 目	単位数		備 考
		必修	選択	
情報社会・情報倫理	情報社会と倫理	2		
コンピュータ・情報処理 (実習を含む。)	コンピュータ概論	2		卒業必修
	プログラミング概論	2		
	プログラミング演習Ⅰ	2		
	情報理論	2		
	情報理論演習Ⅰ	2		
情報システム (実習を含む。)	情報システム概論	2		卒業必修
	データベース概論	2		卒業必修
	データベース演習Ⅰ		2	
	情報基礎演習Ⅲ(データベース)	2		卒業必修
情報通信ネットワーク (実習を含む。)	ネットワーク概論	2		卒業必修
	ネットワーク演習Ⅰ		2	
	情報基礎演習Ⅰ(ネットワーク)	2		卒業必修
マルチメディア表現・マルチメディア技術 (実習を含む。)	マルチメディア概論	2		卒業必修
	マルチメディア演習		2	
	プレゼンテーション演習	2		
	情報基礎演習Ⅱ(アプリケーション)	2		
情報と職業	情報と職業	2		
各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)	情報科教育法	4		

※ 上記の科目のうち、必修34単位、選択2単位、合計36単位以上修得すること。

ii. 各教科の指導法に関する科目

免許法に規定されている科目名	本学開講科目および単位数			開講期間	担当者	履修学年	備 考
	科 目	必修	選択				
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法Ⅰ	4		通年	岩間正則	2	日本文学科に開講
	国語科教育法Ⅱ	4		通年	野谷 健	3	
	書道科教育法	4		通年	横倉佳男		
	英語科教育法Ⅰ	4		通年	伊藤満里	2	英語英米文学科に開講
	英語科教育法Ⅱ	4		通年	根岸純子	3	
	社会科教育法Ⅰ(社会・公民)	2		前期	中野修一	2	文化財学科に開講
	社会科教育法Ⅱ(社会・公民)	2		前期	中野修一	3	
	地理歴史科教育法Ⅰ	2		後期	中野修一	2	
	地理歴史科教育法Ⅱ	2		後期	中野修一	3	
情報科教育法	4		通年	福本 徹	3	ドキュメンテーション学科に開講	

各教科の「教育法」は取得する免許教科ごとに選択必修であるが、次の通り、各学科ごとに履

修条件に規定があるので注意されたい。

〔日本文学科〕 中学校（国語）を取得する場合は、国語科教育法Ⅰ・Ⅱの計8単位を修得しなければならない。

高等学校（国語）を取得する場合は、国語科教育法Ⅱの4単位を修得しなければならない。

〔英語英米文学科〕 専門科目の「オーラル・コミュニケーションⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB」及び「ライティング A・B」の単位が未修得の場合は、英語科教育法Ⅱを履修できない。

中学校（英語）を取得する場合は、英語科教育法Ⅰ・Ⅱの計8単位を修得しなければならない。

高等学校（英語）を取得する場合は、英語科教育法Ⅱの4単位を修得しなければならない。

〔文化財学科〕 中学校（社会）を取得する場合は、社会科教育法Ⅰ（社会・公民）・Ⅱ（社会・公民）および、地理歴史科教育法Ⅰ・Ⅱの計8単位を修得しなければならない。

高等学校（地理歴史）を取得する場合は、地理歴史科教育法Ⅰ・Ⅱの計4単位を修得しなければならない。

〔ドキュメンテーション学科〕 特に定めなし。

③ 教職に関する科目

【2022（令和4）年度入学生】

免許法に規定されている 科目名及び単位数		本学開講科目および単位数			開講 期間	担当者	履修 学年	備 考
		科 目	必修	選択				
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	2		前期	(a)(b) 田中里佳	1	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	学校の制度	2		後期	(a)(b) 高山有紀		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教師論	2		前期		3	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	1		前期		10	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育の方法	1		集中			
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2		前期			
生徒・徳指導、総合的な学習の時間等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育		2	前期		2	中学校は必修
	総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2		後期			
	特別活動の指導法							
	教育の方法及び技術	教育の方法及び技術（ICT活用を含む）	2		後期			
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法							
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導とキャリア形成	2		前期			
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法							
教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2		後期				
教育実習に関する科目	教育実習	中学校教育実習Ⅰ	1		後期		3	学内指導
		中学校教育実習Ⅱ	4		—		4	実習校実習
		高等学校教育実習Ⅰ	1		後期		3	学内指導
		高等学校教育実習Ⅱ	2		—		4	実習校実習
	教職実践演習	2	教職実践演習（中・高）	2		後期	4	

※1 上記の科目は、中学校、高等学校に共通である。中学校は27単位、高等学校は23単位修得すること。

※2 「道徳教育」は中学校にのみ必修であるが、高等学校の「情報」を除く教科に関する科目の単位数に含むことができる。

※3 上記の科目のうち、以下の科目の単位は、卒業所要単位に算入することができる。

「教育原理」「教育の方法及び技術（ICT活用を含む）」

※4 教育実習の中止等により「中学校教育実習Ⅱ」または「高等学校教育実習Ⅱ」の修得が見込めない場合には、その年度については「教職実践演習」を履修することはできない。

【2019(令和元)～2021(令和3)年度入学生】

免許法に規定されている 科目名及び単位数		本学開講科目および単位数			開講 期間	担当者	履修 学年	備 考
		科 目	必修	選択				
教育の基礎的 理解に 関する 科目	教育の理念並びに教育に 関する歴史及び思想	教育原理	2		前期	(a)(b) 田中里佳	1	
	教育に関する社会的、制度的又は 経営的事項(学校と地域との連携 及び学校安全への対応を含む。)	学校の制度	2		後期	(a)(b) 高山有紀		
	教職の意義及び教員の役割・職務内 容(チーム学校運営への対応を含む。)	教師論	2		前期	(a)(b) 岩間正則	3	
	幼児、児童及び生徒の心身 の発達及び学習の過程	教育心理学	1		前期	(a)(b) 吉村順子	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児 童及び生徒に対する理解	特別支援教育の方法	1		集中	河合高鋭		
	教育課程の意義及び編成の方法(カ リキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2		前期	(a)(b) 田中里佳		
	道徳の理論及び指導法	道徳教育		2	前期	(a)(b) 岩間正則		
生徒徳、 総合的 な学習 等に時 間等 の指導 法及び 指導	総合的な学習の時間の指導法 特別活動の指導法	特別活動及び総合的な 学習の時間の指導法	2		後期	(a)(b) 岩間正則	2	
	教育の方法及び技術(情報 機器及び教材の活用を含む。)	教育の方法と技術	2		後期	(a)(b) 鈴木かおり		
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導とキャリア形成	2		前期	(a)(b) 吉村順子		
	進路指導及びキャリア教育 の理論及び方法	教育相談	2		後期	(a)(b) 吉村順子		
	教育相談(カウンセリングに関する基 礎的な知識を含む。)の理論及び方法							
関する 実践 科目に	教育実習	中学校教育実習Ⅰ	1		後期	(a)(b) 岩間正則	3	学内指導
		中学校教育実習Ⅱ	4		—	岩間正則	4	実習校実習
		高等学校教育実習Ⅰ	1		後期	(a)(b) 岩間正則	3	学内指導
		高等学校教育実習Ⅱ	2		—	岩間正則	4	実習校実習
	教職実践演習	2	教職実践演習(中・高)	2		後期	中野修一・遠藤佳那子 根岸純子・近藤祐介 田辺良則・元木章博	4

※1 上記の科目は、中学校、高等学校に共通である。中学校は27単位、高等学校は23単位修得すること。

※2 「道徳教育」は中学校にのみ必修であるが、高等学校の「情報」を除く教科に関する科目の単位数に含むことができる。

※3 上記の科目のうち、以下の科目の単位は、卒業所要単位に算入することができる。
「教育原理」「教育の方法と技術」

※4 教育実習の中止等により「中学校教育実習Ⅱ」または「高等学校教育実習Ⅱ」の修得が見込めない場合には、その年度については「教職実践演習」を履修することはできない。

(4) 教育実習について

① 教育実習は学内で行なう事前および事後の指導と実習校における実習からなり、中学校は5単位、高等学校は3単位である。

本学では、中学校教育実習Ⅰ、高等学校教育実習Ⅰを事前および事後の指導1単位とし、免許状の種類に関らず、何れか1単位を修得すればよい。

教育実習Ⅱは実習校での実習であり、取得する免許状の種類により、中学校(4単位)または高等学校(2単位)において実習を行なう。ただし、中学校と高等学校の免許状を併せて取得する場合は、中学校で実習を行なえばよい。

② 実習は取得免許状により中学校または高等学校で実施するものとする。実習校の選定については、種々の事務的な手続き等が必要である。本学ではそのための実習説明会を開催し、詳細を説明するので、教育実習履修希望者は定められた説明会に必ず出席し遺漏のないよう注意すること。説明会の日程は掲示により連絡する。

③ 実習校実習を行なう時期は原則として4年次の5月から10月までとし、期間は中学校は3週間、高等学校は2週間を原則とする。

④ 実習校実習に参加するための要件は次の通りである。

i. 次の科目の単位を修得していること。

2020(令和2)年度以降入学生に適用

	共通科目	専 門 科 目 (単位)	教職並びに各教科の指導法に関する科目
日本文学科	必修 18 単位 必選 2 単位 選択 16 単位	必修 16 単位 選択 16 単位	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科の指導法 ・教育実習Ⅱ及び教職実践演習を除く全科目(高等学校で実習する場合は道德教育を除く)
英語英米文学科	必修 12 単位 必選 4 単位 選択 14 単位	英文法 B (2) 英語音声学 A (2) オーラル・コミュニケーションⅡA・ⅡB (2)	
文化財学科	必修 18 単位 必選 4 単位 選択 14 単位		
ドキュメンテーション学科	必修 16 単位 必選 2 単位 選択 16 単位		

2019(令和元)年度以前入学生に適用

	共通科目	専 門 科 目 (単位)	教職並びに各教科の指導法に関する科目
日本文学科	必修 18 単位 必選 2 単位 選択 18 単位	[2014(平成26)～2017(平成29)年度入学生] 必修・必修選択 16 単位 選択 16 単位 [2018(平成30)年度以降入学生]	[2014(平成26)～2018(平成30)年度入学生] 教育実習Ⅱ及び教職実践演習を除く全科目(高等学校で実習する場合は道德教育を除く)

		必修 16 単位 選択 16 単位	
英語英米文学科	必修 12 単位 必選 4 単位 選択 16 単位	[2014 (平成26) ~ 2017 (平成29) 年度入学生] 英文法 A・B (4) 英語音声学 A・B (4) オーラル・コミュニケーションⅡA・ⅡB (2) [2018 (平成 30) ~ 2019 (令和元) 年度入学生] 英文法 B (2) 英語音声学 A (2) オーラル・コミュニケーションⅡA・ⅡB (2)	[2019 (令和元) 年度入学生] ・各教科の指導法 ・教育実習Ⅱ及び教職実践演習を除く全科目 (高等学校で実習する場合は道德教育を除く)
文化財学科	必修 18 単位 必選 4 単位 選択 16 単位		
ドキュメンテーション学科	必修 16 単位 必選 2 単位 選択 18 単位		

- ii. 中学校または高等学校の教育実習Ⅰを履修していること。
- iii. 定期健康診断を受診し異常のないこと。
- iv. 前後3回の教育実習説明会に全て出席していること。

(5) 「介護等の体験」について

「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例に関する法律」および同法施行規則により、義務教育課程の免許状を取得する場合は、特別支援学校および社会福祉施設等での7日間の介護、介助、交流等の体験が義務づけられている。従って中学校の免許状取得を希望する者は、この体験を行なう必要がある。

本学では、体験を行なう学年を3年次と定め、大学が窓口となり関係諸施設等と交渉、連絡にあたる。このための説明会並びに事前指導を2～3年次に行ない、詳細を説明するので、中学校免許状取得希望者は必ず出席すること。説明会の日程は掲示により連絡する。

(6) 実習等にあたっての注意

教育実習や介護等の体験への取り組みの姿勢や行動に、重大な問題があると判断される場合には、教職課程履修の中止等の措置をとることがある。よって、実習生は言動に注意すること。

(7) 免許状授与申請について

所定の単位を修得した者(中学校免許状取得予定者は介護等の体験を終了している者)は、自ら申請することにより教育委員会から免許状が授与される。その申請の方法は二通りある。

① 一括申請

神奈川県教育委員会に対して大学を通じて一括して免許状授与申請を行なう、一括申請手続きがある。この取り扱いを希望する者に対しては説明会を開催するので、必ず出席し遺漏

のないようにすること。説明会の日程は掲示により連絡する。

一括申請の取り扱いを受けた者には、卒業時に免許状が配付される。

② 個人申請

一括申請によらない場合は、各自が住民票のある都道府県教育委員会に申請し、免許状の交付を受ける。

司書・司書教諭課程

1. 司書課程について

「図書館法」（昭和25年公布）第四条には「図書館に置かれる専門的職員を司書及び司書補と称する。司書は、図書館の専門的事務に従事する。司書補は司書の職務を助ける。」と規定されている。この法律でいう図書館とは、社会教育の重要な施設としての一般公共図書館のことである。図書館における専門的事務とは、図書館活動に必要な図書館資料を選択収集し、これを専門技術によっていつでも利用できる状態に整理保存し、さらに人々の要求に応じて所蔵資料の十分な活用を図ることである。したがって図書館業務に従事しようとする者には、この資格は必要欠くべからざるものとなっている。

この資格を取得するためには、この法律の第五条に三つの方法が示されているが、その一つに「大学を卒業した者で大学において文部科学省令で定める図書館に関する科目を履修したもの」という条項がある。本学の司書課程はこの条項に基づいて設置されたもので、第1年次から第4年次までの間に所定の科目の単位を修得すれば、卒業と同時に司書となる資格を取得したことを証明する「修了証書」が、本学学長名で交付される。

2. 司書教諭課程について

司書教諭とは「学校図書館法」（昭和28年公布）で規定された学校図書館の専門的職員で、同法第五条には「学校には、学校図書館の専門的職務を掌らせるため、司書教諭を置かなければならない」とある。ここでいう学校図書館とは小、中、高校に設けられた図書館を指している。この司書教諭の資格取得については、同法第五条の2項に「前項の司書教諭は、主幹教諭（養護又は栄養の指導及び管理をつかさどる主幹教諭を除く。）、指導教諭又は教諭（以下この項において「主幹教諭等」という。）をもって充てる。この場合において、当該主幹教諭等は、司書教諭の講習を修了した者でなければならない。」と規定されている。本学の司書教諭課程はこの講習を代行するものとして設置されたものであるが、この課程で資格を取得しようとする者は、卒業と同時に教育職員免許状をもあわせて取得できるように配慮しなければならない。

司書教諭の資格は、申請に基づいて文部科学省から「修了証書」が交付されるが、申請に関する書類ならびに手続きについては、4年次の学年末に本学において説明会を行なうので、必ずこれに出席して所定の手続きを行わなければならない。

3. 登録ならびに課程費納入について

(1) 登録

司書・司書教諭課程を履修しようとする者は、履修登録の際、資格申請をしなければならない。

(2) 課程費納入

司書・司書教諭課程履修者は、2年次の定められた期日に課程費を納入しなければならない。

4. 単位履修方法について

(1) 履修上の注意

- (イ) 本課程の履修は1年次より許可する。
- (ロ) 本課程は別表の学年配当によって履修し、最低2年以上にわたって受講しなければならない。

(2) 履修方法

司書の資格を得ようとする者は、(イ) 図書館に関する科目の表中、必修全13科目22単位と選択科目8単位の中から2科目4単位以上をあわせて修得しなければならない。

司書教諭の資格を得ようとする者は、(ロ) 学校図書館に関する科目の表中、全科目12単位を修得しなければならない。

(イ) 図書館に関する科目

図書館法施行規則に定められている科目名及び単位	本学開講科目	必・選	単 位	開講 期間	担 当 者	履修 学年	備 考
図書館概論(2)	図書館概論	必	2	後期	望月有希子	1	
情報資源組織論(2)	情報資源組織論	必	2	後期	望月有希子		
生涯学習概論(2)	生涯学習概論	必	2	前期	(a)(b)片岡了	2	学芸員課程と共通
図書館情報技術論(2)	図書館情報技術論	必	2	前期	藤田岳久		
図書館サービス概論(2)	図書館サービス論	必	2	前期	児玉 関		
図書館情報資源概論(2)	図書館情報資源論Ⅰ	必	2	後期	新藤 透		
情報資源組織演習(2)	情報資源組織演習Ⅰ	必	1	前期	望月有希子		
	情報資源組織演習Ⅱ	必	1	後期	大蔵綾子		
図書館制度・経営論(2)	図書館制度・経営論	必	2	前期	大蔵綾子	3	
児童サービス論(2)	児童サービス論	必	2	後期	河西由美子		
情報サービス論(2)	情報サービス論	必	2	前期	宮原志津子		
情報サービス演習(2)	情報サービス演習Ⅰ	必	1	後期	宮原志津子		
	情報サービス演習Ⅱ	必	1	後期	江草由佳		
図書館情報資源特論(1)	図書館情報資源論Ⅱ	選	2	前期	大蔵綾子		
図書館サービス特論(1)	図書館サービス特論	選	2	前期	元木章博		
図書館基礎特論(1)	情報リテラシーⅠ	選	2	前・後	小南理恵、鈴木かおり、横山 博		
図書・図書館史(1)	図書・図書館史	選	2	後期	新藤 透		

※ 上記の科目のうち、以下の科目の単位は、卒業所要単位に算入することができる。

「生涯学習概論」「図書館概論」

(ロ) 学校図書館に関する科目

【2019(令和元)年度以降入学生】

学校図書館司書教諭講習規定に定められている科目名及び単位	本学開講科目	必 選	単 位	開講 期間	担 当 者	履修 学年	備 考
学校経営と学校図書館 (2)	学校経営と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	2	
学校図書館メディアの構成 (2)	図書館情報資源論 I	必	2	後期	新藤 透	2	
	情報資源組織論	必	2	後期	望月有希子	1	
学習指導と学校図書館 (2)	学習指導と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	4	
読書と豊かな人間性 (2)	読書と豊かな人間性	必	2	後期	塩谷京子	3	
情報メディアの活用 (2)	情報メディアの活用	必	2	前・後	小南理恵、鈴木かおり、 横山 博	1	※

【2018(平成30)年度以前入学生】

学校図書館司書教諭講習規定に定められている科目名及び単位	本学開講科目	必 選	単 位	開講 期間	担 当 者	履修 学年	備 考
学校経営と学校図書館 (2)	学校経営と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	4	
学校図書館メディアの構成 (2)	図書館情報資源論 I	必	2	後期	新藤 透	2	
	情報資源組織論	必	2	後期	望月有希子	1	
学習指導と学校図書館 (2)	学習指導と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	4	
読書と豊かな人間性 (2)	読書と豊かな人間性	必	2	後期	塩谷京子	3	
情報メディアの活用 (2)	情報メディアの活用	必	2	前・後	小南理恵、鈴木かおり、 横山 博	1	※

※ 「情報メディアの活用」は、日本文学科、英語英米文学科、文化財学科の学生は「情報リテラシー I」を履修し単位を修得すること。

ドキュメンテーション学科の学生は「情報機器教育論」を履修し、単位を修得すること。

◎ドキュメンテーション学科の学生の司書・司書教諭課程履修について

ドキュメンテーション学科の学生は、下表右欄に掲げた学科専門科目の単位を修得することにより、左欄に掲げた図書館・学校図書館に関する科目の単位を修得したものとみなす。

【2022(令和4)年度入学生】

図書館・学校図書館に関する科目及び単位	ドキュメンテーション学科専門科目及び単位
図書館概論 (2)	図書館概論 (2)
情報資源組織論 (2)	情報資源組織論 (2)
情報リテラシー I (2)	情報機器教育論 (2)
情報サービス論 (2)	情報サービス概論 (2)
図書館サービス論 (2)	図書館サービス論 1 (2)
図書館情報資源論 I (2)	図書館情報資源論 1 (2)

図書館情報資源論Ⅱ(2)	図書館情報資源論 2 (2)
児童サービス論 (2)	児童サービス論 (2)
図書館サービス特論 (2)	図書館サービス論 2 (2)

【2021(令和3)年度以前入学生】

図書館・学校図書館に関する科目及び単位	ドキュメンテーション学科専門科目及び単位
図書館概論 (2)	図書館概論 (2)
情報資源組織論 (2)	ドキュメント処理概論 (2)
情報リテラシーⅠ(2)	情報機器教育論 (2)
情報サービス論 (2)	情報サービス概論 (2)
情報資源組織演習Ⅰ(1)	ドキュメント処理演習Ⅰ(2)
情報資源組織演習Ⅱ(1)	ドキュメント処理演習Ⅱ(2)
情報サービス演習Ⅰ(1)	情報サービス演習Ⅰ(2)
情報サービス演習Ⅱ(1)	情報サービス演習Ⅱ(2)
図書館情報技術論 (2)	図書館情報技術論 (2)
図書館サービス論 (2)	図書館サービス論 (2)
図書館情報資源論Ⅰ(2)	図書館情報資源論Ⅰ(2)
図書館情報資源論Ⅱ(2)	図書館情報資源論Ⅱ(2)
図書館制度・経営論 (2)	図書館制度・経営論 (2)
児童サービス論 (2)	児童サービス論 (2)

5. 資格修了証について

司書については、本学所定の単位を修得した場合は、本学学長名で「修了証書」を交付する。

司書教諭については、本学所定の単位を修得し、かつ教育職員免許状を取得した者に対して、本人の申請に基づき本学が文部科学省に一括して申請する。「修了証書」は卒業後文部科学省から交付される。該当者は4年次の学年末に行う説明会に必ず出席し、申請に要する書類を所定の期日までに教務課へ提出すること。

学 芸 員 課 程

(1) 学芸員課程について

博物館は人類共有の財産である貴重な資料を分かち合い、文化を継承、創造していく機関である。博物館は、過去と現在と未来をつなぐことで、豊かな感性と知性にあふれる力ある社会を築くことに貢献する（「博物館関係者の行動規範」から 日本博物館協会 平成24年制定）。

日本の博物館には、美術館、郷土館、文学館、植物園、動物園、水族館、天文館など多様で大小様々な規模の館・園があり、「博物館法」（昭和26年制定）により規定されている。設置者や開館日数などの制度的諸条件により「登録博物館」と「相当施設」に分類し、何れも館長及び学芸員をおくことを条件の一つとしている。博物館の設置者には、国、地方公共団体、公益法人、宗教法人その他の法人などがあり、館種や成り立ち、地域に即した特色ある活動をしている。現在の日本の学芸員総数は8,403人、博物館数は、登録博物館が914館、相当施設は372館、そのほかの施設は4,452館の総計5,738館である。（令和元年10月、文化庁の集計）。さらに統計に集計されない多数の施設が他にも存在している。

平成20年に博物館法が大幅に改正されて学芸員の養成課程では、履修科目と履修単位が充実され本学も準拠している。改正の理由は、より高い資質の学芸員の養成が社会から求められたからである。加えて平成31年4月1日から前年改定の文化財保護法が施行されて、文化財の活用と保護、制度改正などが打ち出され、社会の要請に応えようとしている。日本国内だけでなく、海外向けや来日する外国人を対象に、文化財の更なる発信・活用を目指している。中央官庁としては初めて東京から京都に移転する新・文化庁の構想も今後の文化行政を充実させるねらいである。

学芸員とは博物館の専門的職員で博物館資料（収藏品）の「収集、保管、展示および調査研究その他」などの専門的事項をつかさどると、博物館法第4条に規定されている。また同法第5条に学芸員となるための資格を得るには、学士の学位を有し、大学において文部科学省令で定める博物館に関する所定の科目の単位を修得したものとされている。本学では文学部の学生を対象に、人文系博物館の学芸員を養成するために設置している。

(2) 登録ならびに課程費納入について

① 登録

学芸員課程を履修しようとする者は、履修登録の際、資格申請をしなければならない。

② 課程費納入

学芸員課程履修者は、2年次の定められた期日に課程費を納入しなければならない。

(3) 単位履修方法について

① 履修上の注意

(イ) 本課程の履修は1年次より許可する。

(ロ) 本課程は別表の学年配当によって履修し、最低2年以上にわたって受講しなければならない。

(ハ) 博物館実習は実技を主とする科目であるから、出席回数を絶対基準としており、最低5分の4以上の出席を必要とする。

② 受講上の注意

(イ) 博物館実習Ⅰを受講する者は県内または東京都内の博物館見学に参加し、レポートを提出しなければならない。

(ロ) 博物館実習Ⅱを受講する者は、3年次終了までに博物館概論及び博物館実習Ⅰの単位を

修得していなければならない。

(ハ) 博物館実習Ⅱを受講する者は、学内実技及び博物館実務実習に参加し、レポートを提出しなければならない。なお、3年次にガイダンスが行なわれるので、必ず出席し、必要な手続きを怠らないようにしなければならない。

必要な手続きを怠らないようにしなければならない。

(ニ) 博物館実習Ⅱ及び学外館務実習における博物館での実務実習は4年次で行なうことを原則とする。

(ホ) 博物館実習に関する掲示は、教務課掲示板に掲示する。

③ 履修方法

2021(令和3)年度以降入学生に適用

科目名	必・選	単位	開講期間	担当者	履修学年	備考
博物館概論	必	2	前期	緒方啓介	2	司書課程と共通
博物館経営論	必	2	後期	矢島律子		
生涯学習概論	必	2	前期	(a)(b)片岡 了		
博物館情報・メディア論	必	2	後期	高尾 曜		
博物館教育論	必	2	前期	高橋典子		
博物館展示論	必	2	後期	高橋真作		
博物館資料論	必	2	前期		3	
博物館実習Ⅰ	必	1	後期	大工原 豊	2	文化財学科では実習Ⅰ～Ⅳ及び学外館務実習をもってこれにかえる※1
博物館実習Ⅱ	必	2	通年		4	
博物館資料保存論Ⅰ	選	2	前期	星 恵理子	2～4	いずれか1科目を必ず修得すること
博物館資料保存論Ⅱ	選	2	後期	星 恵理子		
考古学	選	4	通年	宗基秀明	1～4	
文化人類学	選	4	通年	廣田龍平		
日本文化史Ⅰ	選	2	前期	近藤祐介	2～4	
日本文化史Ⅱ	選	2	後期	近藤祐介		
日本美術史Ⅰ	選	2	前期	緒方啓介		
日本美術史Ⅱ	選	2	後期	緒方啓介		
有職故実Ⅰ	選	2	前期	近藤祐介		
有職故実Ⅱ	選	2	後期	近藤祐介		
表象文化論Ⅰ	選	2	前期	山本 樹	1～4	
表象文化論Ⅱ	選	2	後期	調 文明		
古筆鑑賞	選	4	通年		3・4	

2020(令和2)年度以前入学生に適用

科目名	必・選	単位	開講期間	担当者	履修学年	備考
博物館概論	必	2	前期	緒方啓介	2	司書課程と共通 教職課程と共通(2018年度以前入学生) ※2019年度以前入学生に開講 ※2020年度以降入学生に開講
博物館経営論	必	2	後期	矢島律子		
生涯学習概論	必	2	前期	(a)(b)片岡 了		
視聴覚教育	必	2	前期	鈴木かおり		
博物館情報・メディア論	必	2	前期	高尾 曜		

博物館教育論	必	2	前期	高橋典子		
文化財各論Ⅳ	必	2	後期	高橋真作		
博物館資料論	必	2	前期	大工原 豊	3	
博物館実習Ⅰ	必	1	後期	大工原 豊	2	文化財学科では実習Ⅰ～Ⅳ及び学外 館務実習をもってこれにかえる※1
博物館実習Ⅱ	必	2	通年	金子智哉	4	
文化財科学Ⅰ	選	2	前期	星 恵理子	2～4	いずれか1科目を必ず修得する こと
文化財科学Ⅱ	選	2	後期	星 恵理子		
考古学	選	4	通年	宗基秀明	1～4	
文化人類学	選	4	通年	廣田龍平		
日本文化史Ⅰ	選	2	前期	近藤祐介	2～4	
日本文化史Ⅱ	選	2	後期	近藤祐介		
日本美術史Ⅰ	選	2	前期	緒方啓介		
日本美術史Ⅱ	選	2	後期	緒方啓介		
有職故実Ⅰ	選	2	前期	近藤祐介		
有職故実Ⅱ	選	2	後期	近藤祐介		
表象文化論Ⅰ	選	2	前期	山本 樹	1～4	
表象文化論Ⅱ	選	2	後期	調 文明		
古筆鑑賞	選	4	通年	石澤一志	3・4	

上記より必修科目19単位、選択科目の中から2科目以上8単位以上の合計27単位以上を修得しなければならない。ただし、美術史（有職故実Ⅰ・Ⅱ、表象文化論Ⅰ・Ⅱ、古筆鑑賞を含む）のみの8単位の選択は認めない。

※1 2014(平成26)年度以降入学の文化財学科の学生は、実習ⅠA・ⅠB、ⅡA・ⅡB、ⅢA・ⅢB及び博物館概論、博物館経営論の単位が未修得の場合は、学外館務実習を履修できない。

※2 上記の科目のうち、以下の科目の単位は、卒業所要単位に算入することができる。

「生涯学習概論」「視聴覚教育」「博物館情報・メディア論」

(4) 科目等履修生について

在学中に学芸員資格取得のための単位が得られなかった場合には、科目等履修生となり、必要な単位を修得することができる。

(5) 資格修了証について

本学所定の単位を修得した場合は、本学学長名で「修了証書」を交付する。

宗侶養成課程

1. 宗侶養成課程について

本学は「建学の精神」のなかに「仏教主義、特に禅の実践によって、感謝とよろこびに充たされた、情操ゆたかな人柄が生まれる」と謳っているように仏教、特に禅の思想に導かれた教育を目指している。そのような趣旨のもと、本学において曹洞宗有為の人材を養成するために、曹洞宗宗侶養成課程（仏教専修科）が設置されている。

曹洞宗の教師資格の取得を希望する者は、卒業に必要な単位を修得し、さらに曹洞宗教育規程に基づく所定の単位を修得しなければならない。本課程は、曹洞宗教育規程に基づいて設置されたもので、これらの単位を修得し、所定の手続きをした者に対して、曹洞宗宗務庁より無試験で教師資格が付与される。本課程で取得できる教師資格は2等教師資格である。ただし在学中に一定の安居条件（曹洞宗宗制に定める僧堂において、規程の特殊安居）を満たしていることが必要で、未了の場合は卒業後の安居が必要となる。

2. 登 録

本課程を履修できる者は、曹洞宗の得度者（得度予定の者も含む）に限る。履修を希望する者は1年次の履修登録期間内に、教務課に届け出なければならない。併せて、所定の期間内に課程費を納入しなければならない。

3. 履修方法

下記の表に示すとおり、曹洞宗教育規程科目に対応する本学開講科目のうち、必修14単位、選択16単位、あわせて30単位以上を履修すること。

曹洞宗教育規程科目（単位）	本学開講科目	必 選	単 位	開講 期間	担 当 者	履 修 学 年	備 考	
宗 乗 (8)	禅学	選	4	通年	鈴木一馨	1	2022年度閉講	
	禅宗史	選	4	通年	—————	全学年		
	宗典研究Ⅰ	必	2	前期	池田道浩	2・3・4		
	宗典研究Ⅱ	必	2	後期	池田道浩			
余 乗 (8)	宗教学	必	4	通年	鈴木一馨 宮崎展昌	1		
	文化人類学	選	4	通年	廣田龍平	全学年		
	日本仏教史Ⅰ	選	2	前期	尾崎正善	2・3・4		
	日本仏教史Ⅱ	選	2	後期	尾崎正善			
	日本文化史Ⅰ	選	2	前期	近藤祐介			
日本文化史Ⅱ	選	2	後期	近藤祐介				
教 化 (4)	倫理学Ⅰ（概説）	選	2	前期	山本剛史	全学年		
	倫理学Ⅱ	選	2	後期	山本剛史			
	社会学Ⅰ（概説）	選	2	前期	(a)(b)工藤 豪			
	社会学Ⅱ	選	2	後期	工藤 豪			
布 教 (4)	コミュニケーション論	選	2	後期	吉村順子	2・3・4		
	日本美術史Ⅰ	選	2	前期	緒方啓介			
	日本美術史Ⅱ	選	2	後期	緒方啓介			
	仏教保育	選	2	後期	橋本弘道			全学年

参 禅 (4)	参禅Ⅰ	必	2	集中	鈴木一馨	全学年	} 大本山總持寺にて 実施
	参禅Ⅱ	必	2	集中	鈴木一馨		
法式声明 (2)	宗学実習	必	2	集中	鈴木一馨		
合 計			30				

履修する上で次の事項に注意すること。

- 1) 宗乗8単位の履修にあたっては、「禅学」または「禅宗史」のうち何れか1科目4単位を履修すること。
- 2) 備考欄中に短大部開講科目と記載されている科目は鶴見大学短期大学部に開設されている科目である。履修にあたっては、教務課の指示を受けること。
- 3) 「参禅」および「宗学実習」は大本山總持寺にて実施する実習科目である。

4. 実習科目について

「参禅Ⅰ」・「参禅Ⅱ」および「宗学実習」は実習科目であり、実施場所は主として大本山總持寺であるが、実施にあたっては予め教務課が行なう宗侶養成課程実習説明会に出席し、説明を受け、諸手続きを行なう必要がある。実習説明会に欠席した場合は、実習科目の履修を認めない。

- 1) 「参禅Ⅰ」は大本山總持寺において行なわれる日曜参禅会等に20回参加することにより2単位が与えられる。これを参禅実習という。
- 2) 「参禅Ⅱ」および「宗学実習」は大本山總持寺において行なわれる摂心会に参加することにより4単位が与えられる。これを摂心会実習という。
- 3) 参禅実習、摂心会実習のいずれかにおいても学内で行なわれる事前及び事後の指導を受け、定められた期日にレポートを提出しなければならない。

5. 修了証書について

定められた科目、単位を修得した者には、卒業時に本学学長名で「修了証書」を授与する。

6. 特殊安居について

2等教師の資格を得るためには、本課程を修了すること以外に、各自が曹洞宗宗制による特殊安居を完了しなければならない。

学校司書養成プログラム

2019(令和元)年度以降入学のドキュメンテーション学科学生に適用

1. 学校司書養成プログラムについて

学校司書養成プログラムは、文部科学省が定めた学校司書のモデルカリキュラムに基づいて本学に設置された。学校司書は、平成26年に学校図書館法が一部改正され、学校には、学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員として学校司書を置くよう努めなければならない旨が規定された。また、学校図書館法の附則第2項においては、国は、学校司書の職務の内容が専門的知識及び技能を必要とするものであることに鑑み、この法律の施行後速やかに、新法の施行の状況等を勘案し、学校司書としての資格の在り方、その養成の在り方等について検討を行い、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとされた。文部科学省では、学校図書館の運営に係る基本的な視点や学校司書の資格・養成等の在り方等について検討するため、「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議」を設置し、平成28年10月に「これからの学校図書館の整備充実について（報告）」を取りまとめ、文部科学省が、「学校司書のモデルカリキュラム」を定めた。

2. 登録について

学校司書養成プログラムを履修しようとする者は、履修登録の際、学校司書養成プログラム並びに司書資格申請をしなければならない。

3. 単位履修方法について

(1) 履修上の注意

(イ) 学校司書養成プログラムの履修は1年次より許可する。

(ロ) 学校司書養成プログラムは別表の学年配当によって履修しなければならない。

(2) 履修方法

学校司書養成プログラムに関する科目の表中、必修全13科目28単位を修得しなければならない。

学校司書養成に関する科目

【2022(令和4)年度入学生】

本学開講科目	必 選	単 位	開講 期間	担 当 者	履修 学年
学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目				10科目 20単位	
学校経営と学校図書館	必	2	前期		2
図書館情報技術論	必	2	前期		2
図書館情報資源論1	必	2	後期		2
情報資源組織論	必	2	後期	角田裕之	1
情報資源組織演習Ⅰ	必	2	前期		2
情報資源組織演習Ⅱ			後期		
図書館学各論1b	必	2	後期		2
情報サービス概論	必	2	前期		2

情報サービス演習Ⅰ	必	2	前期	2
情報サービス演習Ⅱ			後期	
児童生徒に対する教育支援に関する科目			3科目	8単位
図書館学各論 2b	必	2	通年	3
学習指導と学校図書館	必	2	前期	4
読書と豊かな人間性	必	2	後期	3

【2019(令和元)～2021(令和3)年度入学生】

本学開講科目	必 選	単 位	開講 期間	担 当 者	履修 学年
学校図書館の運営・管理・サービスに関する科目			10科目	20単位	
学校経営と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	2
図書館情報技術論	必	2	前期	藤田岳久	2
図書館情報資源論Ⅰ	必	2	後期	新藤 透	2
ドキュメント処理概論	必	2	後期	角田裕之	1
ドキュメント処理演習Ⅰ	必	4	前期	I(a)(b)角田裕之 (c)鵜田拓哉	2
ドキュメント処理演習Ⅱ			後期	II(a)大蔵綾子 (b)(c)竹之内明子	
情報サービス各論Ⅰ (学校図書館サービス論)	必	2	後期	河西由美子	2
情報サービス概論	必	2	前期	河西由美子	2
情報サービス演習Ⅰ	必	4	前期/後期	I(a)河西由美子 (b)(c)宮原志津子	2
情報サービス演習Ⅱ			後期	II(a)河西由美子 (b)小南理恵 (c)江草由佳	
児童生徒に対する教育支援に関する科目			3科目	8単位	
情報サービス各論Ⅱ (学校教育概論)	必	4	通年	河西由美子	3
学習指導と学校図書館	必	2	前期	中山美由紀	4
読書と豊かな人間性	必	2	後期	塩谷京子	3

◎ドキュメンテーション学科の学生の学校司書養成プログラム履修について

ドキュメンテーション学科の学生は、下記右欄に掲げた学科専門科目および資格科目の単位を修得することにより、左欄に掲げた学校司書養成に関する科目の単位を修得したものとみなす。

【2022(令和4)年度入学生】

学校司書養成に関する科目及び単位	ドキュメンテーション学科専門科目(専門)、 資格課程(資格)及び単位
学校図書館概論 (2)	(資格) 学校経営と学校図書館 (2)
図書館情報技術論 (2)	(資格) 図書館情報技術論 (2)
図書館情報資源概論 (2)	(専門) 図書館情報資源論Ⅰ (2)
情報資源組織論 (2)	(専門) 情報資源組織論 (2)
情報資源組織演習 (2)	(資格) 情報資源組織演習Ⅰ(Ⅰ)Ⅱ(Ⅰ)
学校図書館サービス論 (2)	(専門) 図書館学各論 1b (2)
学校図書館情報サービス論 (2)	(専門) 情報サービス概論 (2) (資格) 情報サービス演習Ⅰ(Ⅰ)Ⅱ(Ⅰ)

学校教育概論 (2)	(専門) 図書館学各論 2b (2)
学習指導と学校図書館 (2)	(資格) 学習指導と学校図書館 (2)
読書と豊かな人間性 (2)	(資格) 読書と豊かな人間性 (2)

【2019(令和元)～2021(令和3)年度入学生】

学校司書養成に関する科目及び単位	ドキュメンテーション学科専門科目(専門)、 資格課程(資格)及び単位
学校図書館概論 (2)	(資格) 学校経営と学校図書館 (2)
図書館情報技術論 (2)	(専門) 図書館情報技術論 (2)
図書館情報資源概論 (2)	(専門) 図書館情報資源論 I (2)
情報資源組織論 (2)	(専門) ドキュメント処理概論 (2)
情報資源組織演習 (2)	(専門) ドキュメント処理演習 I (2)II(2)
学校図書館サービス論 (2)	(専門) 情報サービス各論 I (2)
学校図書館情報サービス論 (2)	(専門) 情報サービス概論 (2) (専門) 情報サービス演習 I (2)II(2)
学校教育概論 (2)	(専門) 情報サービス各論 II (4)
学習指導と学校図書館 (2)	(資格) 学習指導と学校図書館 (2)
読書と豊かな人間性 (2)	(資格) 読書と豊かな人間性 (2)

4. 資格修了証について

本学所定の単位を修得した場合は、卒業と同時に本学学長名で修了証書「学校司書」を交付する。

諸 規 程

文学部学生の外国留学に関する内規

鶴見大学文学部派遣留学に関する内規

鶴見大学文学部スチューデント・アシスタント規程

鶴見大学文学部転科規程

鶴見大学文学部科目等履修生規程

鶴見大学日本文学会会則

鶴見大学英語英文学会会則

鶴見大学文化財学会会則

鶴見大学ドキュメンテーション学会会則

文学部学生の外国留学に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、鶴見大学学則第33条（以下「学則」という。）の規定に基づく留学のうち、鶴見大学文学部（以下「本学」という。）の学生で外国の受け入れ大学等高等教育機関において正規の学生として留学するものについて、必要な事項を定めることを目的とする。

(届出)

第2条 留学する者は、学則に基づき、留学前に休学願及び留学届を学長に提出しなければならない。

(授業科目の取り扱い)

第3条 授業継続願を事前に学長に提出することにより、同一科目の授業は留学前の1期と留学後の1期を継続することができる。

(留学修了手続)

第4条 留学を修了して帰国したときは、速やかに次に掲げる書類を学長に提出しなければならない。

- (1) 復学願
- (2) 留学修了届
- (3) 留学先の大学が発行の履修期間及び成績が明記された単位修得証明書

(修得単位の認定)

第5条 留学前及び留学後に、本学において履修した単位については1期ごとの出席状況、試験、レポートなどの成績により、担当教員が合格と判定した科目については文学部教授会の審議を経て、所定の単位が与えられる。

- 2 留学生受け入れ大学において修得した単位は、文学部教授会の審議を経て、30単位を上限として、認定することがある。

附 則

- 1 この内規は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 この内規の施行に伴い、昭和51年4月1日施行の文学部学生の外国留学に関する内規は廃止する。

鶴見大学文学部派遣留学に関する内規

(目的)

第1条 この内規は、鶴見大学学則第33条の規定に基づく留学のうち、鶴見大学（以下「本学」という）の文学部学生（以下「学生」という）の派遣留学について、必要な事項を定めることを目的とする。

(派遣留学)

第2条 派遣留学とは、学生が、本学を休学することなく、本学と学術交流協定等を締結している外国の大学において、本学文学部が定める所定のプログラムに基づき、授業科目を履修することをいう。

(留学期間)

第3条 留学期間は、原則として1年以内とする。

2 留学期間の始期は4月1日又は10月1日、終期は9月30日又は3月31日とし、これらの日の前後に出国又は帰国する場合は、いずれかの日に読み替えることとする。

(留学期間中の学籍)

第4条 派遣留学期間中の学籍は、「留学」とし、この期間は在学年数に算入する。

(留学期間中の学納金)

第5条 派遣留学の期間における本学の学生納付金は、これを徴収する。

(留学支援金)

第6条 派遣留学生の修学を支援するため本学より留学支援金を支給することとする。

2 留学支援金の対象並びに金額は、個々の派遣留学プログラムにより決定する。

(修得単位の認定)

第7条 派遣留学において履修した授業科目について修得した単位は、文学部教授会の審議を経て、本学において修得した単位として認定することができる。

2 単位認定の方法及び単位数は、個々の派遣留学プログラムの内容に従い、文学部教授会の審議を経て、学長が決定する。

(出願手続)

第8条 派遣留学を希望する学生は、個々の派遣留学プログラムの出願要領に従い、出願手続を行なうこととする。

(選考)

第9条 派遣留学生の選考については、文学部教授会の審議を経て、学長が決定する。

(留学届)

第10条 選考された派遣留学生は、所定の留学届により、学長に届け出なければならない。

(留学修了手続)

第11条 派遣留学生在が派遣留学を修了して帰国したときは、速やかに次に掲げる書類を学長に提出しなければならない。

(1) 留学修了届（所定用紙）

(2) 履修期間及び成績が明記された単位修得証明書

附 則

この内規は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この改正内規は、平成27年4月1日から施行する。

鶴見大学文学部スチューデント・アシスタント規程

(趣旨)

第1条 この規程は、鶴見大学（以下「本学」という。）における文学部スチューデント・アシスタント（以下「SA」という。）について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第2条 SAは、本学文学部学生が教育補助業務に従事することにより、授業の活性化並びに学生相互の成長を図ることを目的とする。

(業務内容)

第3条 SAは、所属の本学文学部学科主任（以下「学科主任」という。）の監督のもと担当教員の指導に従い、次の各号に定める教育補助業務に従事する。

- (1) 講義、演習、実習などの授業補助
- (2) その他学科主任が必要と認めた補助業務

(資格等)

第4条 SAとなることができる者は、本学文学部2年次生以上の学年に在学する優秀な学生とする。ただし、担当科目を履修済みである者とする。

2 前項に該当する応募者は、指定された期日までに鶴見大学文学部SA申込書（別紙様式第1号）を学科主任の許可を得たうえで文学部長に提出するものとする。

(採用の可否)

第5条 科目担当教員（以下「担当教員」という。）が、次年度の教育計画上SAを必要とする場合は、次年度予算編成前に鶴見大学文学部SA申請書（別紙様式第2号）を文学部長へ提出しなければならない。

2 前項に基づきSAの採用の可否については、担当教員の推薦に基づき文学部教授会の議を経て、文学部長が学長に上申し、学長が任命する。

(任用)

第6条 SAの任用期間は、1年とする。ただし、再任用を妨げない。

(勤務時間)

第7条 SAの勤務時間は、当該学生が受ける授業及び研究指導等に支障が生じないように配慮するものとする。

(給与等)

第8条 SAの給与は、当該年度の本学「臨時職員手当支給基準（時給）」表の学生（一般）単価を適用する。

ただし、手当は時給のみとし、他の給与及び手当等は原則として支給しないものとする。

2 交通費は、支給しないものとする。ただし、大学の定める長期休暇期間中の雇用については別に定める。

(守秘義務)

第9条 SAが業務上知り得た情報は、他に漏らしてはならない。当該学生がその業務を離れた場合も、同様とする。

(事務所管)

第10条 SAに関する事務は、教務事務部文学部教務課が所管し、事務処理を行うものとする。

(その他)

第11条 この規程に定めるもののほか、SAについて必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

鶴見大学文学部転科規程

(目的)

第1条 この規程は、鶴見大学学則（以下「学則」という。）第30条の2第2項の規定に基づき、鶴見大学文学部（以下「文学部」という。）の他の学科への転科を志願する者の取扱いについて、必要な事項を定めることを目的とする。

(転科)

第2条 転科とは、文学部に在籍する者が、所属学科とは異なる文学部の他の学科へ転ずることをいう。

(時期)

第3条 転科の時期は、学年の始めとする。

(出願書類等)

第4条 転科を志願する者は、受入学科に教育の支障が生じない場合に限り、当該学科による選考のうえ、文学部教授会の審議を経て、学長が許可するものとする。

2 転科を志願する者は、次の各号の書類に所定の検定料を添えて期日までに文学部教務課に願い出るものとする。

- (1) 転科願（本学所定のもの）
- (2) 事由書（本学所定のもの）
- (3) 単位成績証明書
- (4) 健康診断書

(出願期間)

第5条 転科を志願する者の出願は、転科を希望する年度の前年度とし、受付期間は11月末日までとする。

(選考方法)

第6条 転科の選考方法は、受入学科の定める面接試験、書類審査等によるものとする。

(受入年次)

第7条 転科を許可された者の受入年次は、前条の選考に基づき、文学部教授会の審議を経て、学長が決定する。

(学生納付金等)

第8条 転科に関する検定料及び学納金等は、転科を許可された年度の受入学科の入学生に準ずるものとする。ただし、入学金は免除する。

(既修得単位認定)

第9条 転科を許可された者の既修得単位の認定は、学則第16条の規定を準用するものとする。

(修業年限)

第10条 転科後、既に在学した年数と合わせ所定の年限を在学した者は、学則第6条の修業年限を在学したものとする。

(在学期間)

第11条 転科を許可された者の在学期間は、学則第7条に定める在学期間から転科を許可された学年までの経過年数を減じた年数とする。

(その他)

第12条 この規程の改廃は、文学部教授会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

鶴見大学文学部科目等履修生規程

(目的)

- 第1条 この規程は、鶴見大学学則（以下「学則」という。）第49条に基づき、鶴見大学文学部科目等履修生（以下「科目等履修生」という。）について必要な事項を定めることを目的とする。
- 2 高大連携による特別履修生を科目等履修生として受け入れる場合は、この規程の定めにかかわらず、高大連携高等学校との協定書及び覚書の定めるところによる。

(出願資格)

- 第2条 科目等履修を志願することのできる者は、学則第22条に規定する入学資格を有する者とする。
- 2 前条第2項に定める特別履修生は、高大連携高等学校との協定書及び覚書に基づき志願することができる。

(受入範囲)

- 第3条 科目等履修を志願する者のあるときは、正規の学生の学修の妨げにならない範囲で、選考のうえ受け入れる。

(履修の科目)

- 第4条 科目等履修において履修することのできる科目は、当該年度開講科目とする。ただし、科目等履修除外科目を別に定める。
- 2 履修できる単位数は、16単位を超えないものとする。

(履修の期間)

- 第5条 科目等履修の期間は、1年又は6ヵ月とする。

(出願手続)

- 第6条 科目等履修を志願する者は、所定の期日までに、次の各号に掲げる書類に検定料を添えて願出するものとする。
- (1) 願書（本学所定の用紙）
 - (2) 最終学校の卒業証明書及び単位成績証明書 ただし、大学（短期大学を含む。）に在学中の者は在学証明書及び単位成績証明書（履修中の科目を明示したもの。）
 - (3) 履歴書
 - (4) 健康診断書（本学所定の用紙）
 - (5) 検定料 10,000円
- 2 科目等履修を修了した者が引続き出願をするときは、前項第2号の書類並びに第5号の検定料を省略することができる。

(審査方法)

- 第7条 科目等履修生の審査方法は、書類審査による。

(審査及び履修許可)

- 第8条 科目等履修の審査は、文学部教授会の審議を経て、学長が科目等履修を許可する。

(履修手続)

- 第9条 科目等履修を許可された者は、所定の期日までに、次の各号に掲げる登録料及び受講料を納入し、誓約書等の書類を提出しなければならない。

- (1) 登録料 21,000 円 (ただし、本学の卒業生は半額とする。)
- (2) 受講料 (別途定める。)
- (3) 誓約書 (本学所定の用紙)
- (4) 写真
- (5) 住民票記載事項証明書 (本学所定の用紙) ただし、外国人の証明書は別に定める。
- (6) 履修届

- 2 科目等履修を修了した者が引続き履修許可されたときは、前項第 1 号の登録料の納入及び第 5 号の書類の提出を免除する。

(科目等履修生証の交付)

第10条 科目等履修手続を完了した者には、科目等履修生証を交付する。

(単位の認定)

第11条 科目等履修を修了した者には単位を認定することができる。単位の認定に当たっては、正規の学生に準じ、出席日数並びに担当教員の指定する試験・レポート等の評価に基づいて、学長が決定する。

(履修許可の取消)

第12条 科目等履修生が本学の秩序を乱すと認めるとき、又は疾病その他の事由により学修の見込みがないと認められた者に対しては、学長が、履修許可を取消することがある。

(規程の準用)

第13条 この規程に定めるもののほか、科目等履修生に関する事項は、学則及びその他学内諸規程を準用する。

附 則

この規程は、平成 4 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成27年 4 月 1 日から施行する。

鶴見大学日本文学会会則

1. 本会は鶴見大学日本文学会と称する。
2. 本会は鶴見大学文学部日本文学科・同文学研究科日本文学専攻の教職員・学生および卒業生その他の関係者をもって組織する。
3. 本会は日本文化を背景とする国文学・国語学について会員相互の研究を推進しかつ親睦をはかり学術の発展に貢献することを目的とする。
4. 本会は総会を毎年1回開く。ただし、必要に応じて随時会長がこれを招集することができる。
5. 本会は第3条の目的を達成するために次の事業を行う。
 - (1) 研究会・研究発表会
 - (2) 講演会・展示会等の開催
 - (3) 会誌・論叢等の編集刊行
 - (4) 見学等の実施
 - (5) 他の学会との交流
 - (6) その他の事業
6. 本会に次の役員を置く。
 - (1) 会長（1名） 会長は本会を代表し会務を統括する。日本文学科主任がこれに当たる。
 - (2) 委員（若干名） 委員は諸事業の企画運営をはかり実務にたずさわる。委員は専任教職員・学生会員のあいだでそれぞれ互選する。任期は1年とし重任を妨げない。
 - (3) 顧問 必要に応じて置く。
7. 本会の経費は会費（年額千円）・寄付金その他の収入をもってこれに当てる。
8. 本会は事務所を鶴見大学日本文学科研究室に置く。

附則 本会則は昭和40年5月29日から施行する。

平成10年2月3日一部改正。

鶴見大学英語英文学会会則

第1条 本会は鶴見大学英語英文学会（The Tsurumi Society of English Studies）と称する。

第2条 本会は広く英語、英米文学の研究ならびに会員相互の親睦をはかることを目的とする。

第3条 本会は次の事業を行なう。

- (1) 研究会
- (2) 講演会
- (3) 研究誌の刊行
- (4) その他

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 普通会員 本大学の英語英米文学科の教職員および在学生
- (2) 準会員 本大学の英語英米文学科の卒業生
- (3) 特別会員 (1)、(2) に該当しない者で本会に入会を希望する者
(ただし会員1名の推薦に基づいて会長の承認を得なければならない)
- (4) 名誉会員 本学を退職された教授

第5条 本会には次の役員をおき、任期は2年とする。

- (1) 会長1名（英語英米文学科主任が務め、任期は学科主任在職中とする）
- (2) 委員

{	各クラス2名（普通会員より選出）
	教員 若干名

第6条 総会は講演会と同時に開催する。ただしこの他に必要に応じて開くことができる。

第7条 本会の会計年度は毎年4月1日より始まり翌年3月31日に終る。

第8条 会員は次の会費を収めることを原則とする。（ただし名誉会員を除く）

- | | |
|----------------|------------|
| (1) 教職員および特別会員 | 年額 1,500 円 |
| (2) 学 生 | 年額 1,000 円 |
| (3) 卒 業 生 | 年額 600 円 |

第9条 本会の事務局は横浜市鶴見区鶴見2-1-3 鶴見大学文学部英語英米文学科研究室におく。

附 則 本会会則は、1979年4月1日から発効せるものとする。

鶴見大学文化財学会会則

第1条 本会は鶴見大学文化財学会と称する。

第2条 本会は鶴見大学文化財学科教職員・学生および卒業生、その他の関係者をもって組織する。

第3条 本会は文化財にかかわる人文・自然諸科学の学問交流を活発化し、会員相互の研究を推進し、かつ親睦をはかることを目的とする。

第4条 本会は総会を毎年一回開く。ただし必要に応じて随時会長がこれを招集することができる。

第5条 本会はその目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 研究等の発表
- (2) 講演会の開催
- (3) 会誌・会報等の編集刊行
- (4) 研究部会活動
- (5) HP上での広報活動
- (6) 親睦その他の事業

第6条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会長（1名）は学科主任とし、本会を代表し会務を統括する
- (2) 委員（若干名）。委員は会員の互選とし、会長の任命を受け会の運営にあたる
任期は1年とし重任を妨げない
- (3) 会計監査（2名）を置く

第7条 本会の会員は年会費（千五百円）を納入する。経費は会費・寄付金その他の収入をもってこれにあてる。

第8条 本会は事務局を鶴見大学文化財学科合同研究室に置く。

附則

この会則は、平成11年10月16日から施行する。

附則

この改正会則は、平成28年4月1日から施行する。

鶴見大学ドキュメンテーション学会会則

- 第1条 本会は鶴見大学ドキュメンテーション学会と称する。
- 第2条 本会は鶴見大学ドキュメンテーション学科及びドキュメンテーション専攻の教職員・学生および卒業生、その他の関係者をもって組織する。
- 第3条 本会は広い範囲における文献情報の処理に関する知識と技術についての研究を推進し会員相互の研鑽をつむと共に親睦をはかることを目的とする。
- 第4条 本会は毎年1回総会を開く。ただし、必要に応じて随時会長がこれを招集することができる。
- 第5条 本会は第3条の目的を達成するために次の事業を行なう。
- (1) 研究会
 - (2) 講演会・研究発表会の開催
 - (3) 会誌・会報等の編集刊行
 - (4) 見学会の実施
 - (5) その他の事業
- 第6条 本会に次の役員を置く。
- (1) 会長（1名） 会長は学科主任とし、本会を代表し会務を統括する。
 - (2) 委員（若干名） 委員は会員の互選とし、会長の任命を受け会の運営にあたる。
任期は1年とし重任を妨げない。
 - (3) 会計監査（2名）を置く。
- 第7条 本会の会員は年会費（千円）を納入する。経費は会費・寄付金その他の収入をもってこれにあてる。
- 第8条 本会は事務局を鶴見大学文学部ドキュメンテーション学科合同研究室に置く。

附則

この会則は、平成16年7月7日から施行する。

附則

この改正会則は、平成30年7月14日から施行する。

《文学研究科》

鶴見大学大学院における3つのポリシーについて

【文学研究科博士前期課程】

◆ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

文学研究科博士前期課程では、学問の意義と研究者の責務を理解し、所定の年限在籍、必要単位を履修し十分な学力を獲得して、適切な研究指導に基づく修士論文の作成及び最終試験合格の要件を満たした場合において、修士（文学・文化財学）を授与します。

1. 学問の意義と研究者の倫理的・社会的責任を理解する。
2. 専門分野に関する研究上の自己確立を目指す。
3. 高度の専門性を有する職業等に必要な能力を備える。
4. 専門的知識と研究能力を活かし、学術的・社会的貢献にむけて努力する。

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

文学研究科博士前期課程では、学問の意義と研究者の責任を正しく理解し、研究上の自己確立・社会的自立・社会貢献を達成する人材育成のために、以下の教育課程を編成し、実施しています。

1. 専門教育

基礎的領域に関する知識・技能の再確認を行う科目をはじめ、隣接諸学・補助学等の多彩な科目を設置、他専攻の開講科目も履修可能とし、豊かな学問基盤を形成する。個別専攻分野の高度な学術研究に加え、社会的自立・社会貢献に資する科目群も開設している。

2. 研究指導

大学院生一人一人の関心・能力に合わせた個別的指導と、協働・対話を重視する小集団の指導を適切に組み合わせ、貴重書・美術資料・分析機材等、本学独自の施設設備を活用した教育を行い、独創的で高度な研究を目指す。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

文学研究科博士前期課程では、学問の意義を正しく理解し、新たな知的価値を創造して社会に貢献する、以下のような人を歓迎します。

1. 学問の意義を理解し、倫理的・社会的責任を自覚している人。
2. 学士課程修了段階に相当する十分な学力を有する人。
3. 研究成果に基づき社会的に自立する強い意志を持つ人。
4. 専門的知識・技能により学術的・社会的貢献を目指す人。

【文学研究科博士後期課程】

◆ディプロマ・ポリシー（修了認定・学位授与の方針）

文学研究科博士後期課程では、学問の意義と倫理的・社会的責務を理解し、研究者としての能力を錬磨して、所定の年限在籍し必要単位を履修のうえ、適切な研究指導に基づき高度の学術的達成が認められる博士論文を作成し、最終試験合格の要件を満たした場合において、博士（文学・文化財学）を授与します。

上記以外の学位請求論文については、博士後期課程修了者と同等以上の学力を有すると認められ、論文審査及び最終試験合格の要件を満たした場合において、博士（文学・文化財学）を授与します。

1. 学問の意義と研究者の倫理的・社会的責任を深く理解する。
2. 独自の研究を基盤として自己確立を達成する。
3. 高度に専門的な業務に必要な能力と見識を有する。
4. 専門的知識と研究能力を活かし、知的価値創造と社会的貢献に資する。

◆カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

文学研究科博士後期課程では、学問の意義と研究者の責任を深く理解し、高い見識と独創的研究への道を開き、専門的職業に従事して社会的に自立し、研究成果を説得的に伝達する能力を備えた人材育成のために、以下の教育課程を編成し、実施しています。

1. 専門教育

徹底した実証性と明晰な論理性を重視する専門性の高い科目を設置し、研究対象の特性に即した犀利な分析法や幅広い視野で研究を構築する能力を養成する。

2. 研究指導

前期課程の成果を踏まえ、より高度で専門的な研究指導を行う。後期課程在籍生を自立した研究者として鍛え、獲得した学術的知見を説得的・客観的に伝達し発信する能力を養成する。学術と社会の発展に寄与する指導的人材の育成を目指すものである。

◆アドミッション・ポリシー（入学者受入れの方針）

文学研究科博士後期課程では、学問の意義を深く理解し、独創性豊かな研究を遂行して社会に貢献する、以下のような人を歓迎します。

1. 学問の意義を深く理解し、倫理的・社会的責任を自覚している人。
2. 専門分野に関する高度な知識・技能を持ち、独自の発想ができる人。
3. より高度な専門的業務に従事するための能力を有する人。
4. 研究成果を発信し、学術的・社会的貢献を目指す人。

2022 (令和 4) 年度大学院文学研究科学年暦

2022 年 4 月 4 日 (月)	オリエンテーション
5 日 (火)	入学式
5 日 (火) から } 12 日 (火) まで }	履修登録期間
6 日 (水)	前期授業開始
29 日 (金)	昭和の日 (授業実施)
5 月 3 日 (火)	憲法記念日
4 日 (水)	みどりの日
5 日 (木)	こどもの日
6 月 1 日 (水) から } 2 日 (木) まで }	修士論文題目届提出期間
7 月 1 日 (金)	精霊祭 (2 時限)
14 日 (木)	前期定期試験時間割発表
18 日 (月)	海の日 (授業実施)
22 日 (金)	補講日
23 日 (土)	補講日
25 日 (月)	補講日
26 日 (火)	前期授業最終日
27 日 (水) から } 8 月 2 日 (火) まで }	前期試験期間
3 日 (水) から } 9 月 14 日 (水) まで }	夏季休暇期間
8 月 11 日 (木)	山の日
9 月 15 日 (木)	後期授業開始
19 日 (月)	敬老の日 (授業実施)
23 日 (金)	秋分の日 (授業実施)
10 月 10 日 (月)	スポーツの日 (授業実施)
13 日 (木)	御征忌
14 日 (金)	大学祭準備 (全時限休講)
15 日 (土) から } 16 日 (日) まで }	大学祭 (全時限休講)
17 日 (月)	大学祭後片付け (1・2 時限休講) ※午後は通常授業
20 日 (木)	防災訓練 (2 時限)
11 月 3 日 (水)	文化の日
9 日 (水) から } 10 日 (木) まで }	修士論文最終題目届提出期間
18 日 (金)	太祖降誕会 (予修)
21 日 (月)	開学記念日 (授業実施)
23 日 (水)	勤労感謝の日

12月	8日(木)	成道会(2時限)
	22日(木)	後期定期試験時間割発表
	27日(火)	補講日
2023年1月	29日(木)から	冬季休暇期間
	5日(木)まで	
	6日(金)	授業再開
	9日(月)	成人の日
	11日(水)から	修士論文提出期間
	12日(木)まで	
	13日(金)	午前補講日 ※午後休講
	14日(土)	大学入学共通テスト
	16日(月)	午前月曜授業振替日 午後補講日 後期授業最終日
	17日(火)	補講日
	18日(水)	補講日
	19日(木)	補講日
	20日(金)から	後期試験期間
	31日(火)まで	
2月	11日(土)	建国記念の日
	15日(水)	涅槃会(予修)
	23日(木)	天皇誕生日
3月	14日(火)	学位記授与式
	21日(火)	春分の日

※ この学年暦は事情により変更することがあります。

開講科目及び担当者

1. 日本文学専攻

博士前期課程

科 目		単 位	開講期	担 当 者	備 考
I 群	文献読解Ⅰ(古典)	2	後期	講師(非) 石澤一志	
	文献読解Ⅱ(近代)	2	前期	教授 片山倫太郎	
	文献読解Ⅲ(漢文)	2	後期	准教授 表野和江	
	文献読解Ⅳ(日本語学)	2	後期	—————	本年度閉講
II 群	日本文学研究Ⅰ(上代)	4	通年	教授 新沢典子	注(1)
	日本文学研究Ⅱ(中古)	4	通年	准教授 田口暢之	
	日本文学研究Ⅲ(中世)	4	通年	教授 中川博夫	
	日本文学研究Ⅳ(近世)	4	通年	准教授 神林尚子	注(2)
	日本文学研究Ⅴ(近代)	4	通年	教授 片山倫太郎	注(3)
	日本語学研究	4	通年	講師 遠藤佳那子	
	中国文学研究	4	通年	准教授 表野和江	注(4)
	日本書誌研究	4	通年	—————	本年度閉講
	人文情報管理研究	4	通年	教授 田辺良則	※
人文情報検索研究	4	通年	教授 河西由美子	※	
III 群	日本文学演習Ⅰ	4	通年	—————	本年度閉講
	日本文学演習Ⅱ	4	通年	—————	本年度閉講
	日本文学演習Ⅲ	4	通年	—————	本年度閉講
	日本文学演習Ⅳ	4	通年	—————	本年度閉講
	日本文学演習Ⅴ	4	通年	—————	本年度閉講
	日本語学演習	4	通年	—————	本年度閉講
	日本史史料演習	4	通年	—————	本年度閉講
	日本書誌演習Ⅰ(古典)	4	通年	教授 伊倉史人	
	日本書誌演習Ⅱ(近代)	4	通年	—————	本年度閉講

修了所要単位32単位のうち、I群より4科目8単位、II群、III群よりそれぞれ3科目12単位以上を履修し、単位を修得しなければならない。なお、I群は必修とし原則として1年次に履修すること。

各群所要単位を超える科目を履修する場合は、科目担当者の了承を得て他専攻の開講科目を履修することができ、単位は認定される。

II群、III群については同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定される。

注(1) 後期課程科目「上代文学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅰ(上代)」、後期課程の学生は「上代文学特殊研究」として履修することとする。

注(2) 後期課程科目「近世文学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅳ(近世)」、後期課程の学生は「近世文学特殊研究」として履修することとする。

注(3) 後期課程科目「近代文学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅴ(近代)」、後期課程の学生は「近代文学特殊研究」として履修することとする。

注(4) 後期課程科目「中国文学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「中国文学研究」、後期課程の学生は「中国文学特殊研究」として履修することとする。

※ 「人文情報管理研究」「人文情報検索研究」は2019(令和元)年度以前入学生に開講する。

博士後期課程

科 目		単 位	開講期	担 当 者	備 考
I 群	上代文学特殊研究	4	通年	教授 新沢典子	注(1)
	中古文学特殊研究	4	通年	—————	本年度閉講
	中世文学特殊研究	4	通年	教授 中川博夫	
	近世文学特殊研究	4	通年	准教授 神林尚子	注(2)
	近代文学特殊研究	4	通年	教授 片山倫太郎	注(3)
	日本語学特殊研究	4	通年	—————	本年度閉講
	中国文学特殊研究	4	通年	准教授 表野和江	注(4)
II 群	上代文学演習	4	通年	—————	本年度閉講
	中古文学演習	4	通年	—————	本年度閉講
	中世文学演習	4	通年	教授 中川博夫	
	近世文学演習	4	通年	—————	本年度閉講
	近代文学演習	4	通年	—————	本年度閉講
	日本語学演習	4	通年	—————	本年度閉講

指導教授の授業科目12単位を含め、20単位以上履修し単位を修得すること。同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定され、修了所要単位の中に含まれる。

注(1) 前期課程科目「日本文学研究Ⅰ(上代)」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅰ(上代)」、後期課程の学生は「上代文学特殊研究」として履修することとする。

注(2) 前期課程科目「日本文学研究Ⅳ(近世)」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅳ(近世)」、後期課程の学生は「近世文学特殊研究」として履修することとする。

注(3) 前期課程科目「日本文学研究Ⅴ(近代)」と合併して開講し、前期課程の学生は「日本文学研究Ⅴ(近代)」、後期課程の学生は「近代文学特殊研究」として履修することとする。

注(4) 前期課程科目「中国文学研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「中国文学研究」、後期課程の学生は「中国文学特殊研究」として履修することとする。

2. 英米文学専攻

博士前期課程

2020(令和2)年度以降入学生

科 目	単位	開講期	担 当 者	備 考
イギリス文学演習	4	通年	准教授 菅野素子	注(1)
アメリカ文学演習	4	通年	教授 深谷素子	注(2)
英語学演習	4	通年	—————	本年度閉講
英米文化演習	4	通年	—————	本年度閉講
イギリス文学研究	4	通年	—————	本年度閉講
アメリカ文学研究	4	通年	—————	本年度閉講
英語学研究	4	通年	准教授 宮下治政	注(3)
英米文化研究	4	通年	准教授 鈴木周太郎	注(4)
ヨーロッパ文学・文化研究	4	通年	—————	本年度閉講
比較文学・文化研究	4	通年	—————	本年度閉講
言語学研究	4	通年	—————	本年度閉講
表象文化研究	4	通年	—————	本年度閉講
異文化間コミュニケーション研究	4	通年	教授 松山明子	注(5)
アカデミック・ライティング	4	通年	—————	本年度閉講
アカデミック・プレゼンテーション	4	通年	教授 コネリー	
英語教育研究	4	通年	教授 根岸純子	
英語教育演習	4	通年	教授 草薙優加	注(6)
国際文化研究	4	通年	教授 加川順治	注(7)

注(1) 後期課程科目「英文学特殊研究Ⅰ」と合併して開講し、前期課程の学生は「イギリス文学演習」、後期課程の学生は「英文学特殊研究Ⅰ」として履修することとする。

注(2) 後期課程科目「米文学特殊研究Ⅰ」と合併して開講し、前期課程の学生は「アメリカ文学演習」、後期課程の学生は「米文学特殊研究Ⅰ」として履修することとする。

注(3) 後期課程科目「英語学特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英語学研究」、後期課程の学生は「英語学特殊研究」として履修することとする。

注(4) 後期課程科目「英米文化特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英米文化研究」、後期課程の学生は「英米文化特殊研究」として履修することとする。

注(5) 後期課程科目「異文化間コミュニケーション特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「異文化間コミュニケーション研究」、後期課程の学生は「異文化間コミュニケーション特殊研究」として履修することとする。

注(6) 後期課程科目「英語教育特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英語教育演習」、後期課程の学生は「英語教育特殊研究」として履修することとする。

注(7) 後期課程科目「国際文化特殊研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「国際文化研究」、後期課程の学生は「国際文化特殊研究」として履修することとする。

博士後期課程

科 目	単位	開講期	担 当 者	備 考
英 文 学 特 殊 研 究 I	4	通年	准教授 菅野素子	注(1)
英 文 学 特 殊 研 究 II	4	通年	—————	本年度閉講
米 文 学 特 殊 研 究 I	4	通年	教 授 深谷素子	注(2)
米 文 学 特 殊 研 究 II	4	通年	—————	本年度閉講
英 語 学 特 殊 研 究	4	通年	准教授 宮下治政	注(3)
英 文 学 演 習	4	通年	教 授 コネリー	
米 文 学 演 習	4	通年	教 授 深谷素子	
英 語 学 演 習	4	通年	准教授 宮下治政	
英 米 文 化 特 殊 研 究	4	通年	准教授 鈴木周太郎	注(4)
比 較 文 学・文 化 特 殊 研 究	4	通年	—————	本年度閉講
英 語 教 育 特 殊 研 究	4	通年	教 授 草薙優加	注(5)
国 際 文 化 特 殊 研 究	4	通年	教 授 加川順治	注(6)
異文化間コミュニケーション特殊研究	4	通年	教 授 松山明子	注(7)

注(1) 前期課程科目「イギリス文学演習」と合併して開講し、前期課程の学生は「イギリス文学演習」、後期課程の学生は「英文学特殊研究Ⅰ」として履修することとする。

注(2) 前期課程科目「アメリカ文学演習」と合併して開講し、前期課程の学生は「アメリカ文学演習」、後期課程の学生は「米文学特殊研究Ⅰ」として履修することとする。

注(3) 前期課程科目「英語学研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英語学研究」、後期課程の学生は「英語学特殊研究」として履修することとする。

注(4) 前期課程科目「英米文化研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「英米文化研究」、後期課程の学生は「英米文化特殊研究」として履修することとする。

注(5) 前期課程科目「英語教育演習」と合併して開講し、前期課程の学生は「英語教育演習」、後期課程の学生は「英語教育特殊研究」として履修することとする。

注(6) 前期課程科目「国際文化研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「国際文化研究」、後期課程の学生は「国際文化特殊研究」として履修することとする。

注(7) 前期課程科目「異文化間コミュニケーション研究」と合併して開講し、前期課程の学生は「異文化間コミュニケーション研究」、後期課程の学生は「異文化間コミュニケーション特殊研究」として履修することとする。

3. 文化財学専攻

博士前期課程

科 目		単位	開講期	担 当 者	備 考
A 群	文化財学特殊講義Ⅰ (文献資料学)	4	通年	准教授 近藤祐介	
	文化財学特殊講義Ⅱ (文献資料学)	4	通年	准教授 西澤美穂子	
	文化財学特殊講義Ⅲ (考古資料学)	4	通年	教授 宗基秀明	
	文化財学特殊講義Ⅳ (考古資料学)	4	通年	准教授 田中和彦	
	文化財学特殊講義Ⅴ (美術・工芸資料学)	4	通年	教授 矢島律子	
	文化財学特殊講義Ⅵ (美術・工芸資料学)	4	通年	教授 緒方啓介	
	文化財学特殊講義Ⅶ (分析・保存科学)	4	通年	教授 星野玲子	
B 群	文化財学演習Ⅰ (文献資料学)	4	通年	准教授 西澤美穂子 准教授 近藤祐介	
	文化財学演習Ⅱ (考古資料学)	4	通年	教授 宗基秀明 准教授 田中和彦	
	文化財学演習Ⅲ (美術・工芸資料学)	4	通年	教授 矢島律子 教授 緒方啓介	
	文化財学演習Ⅳ (分析・保存科学)	4	通年	教授 星野玲子	
C 群	建築文化財特殊講義	4	通年	講師(非) 大野 敏	
	日本仏教史特殊講義	4	通年	准教授 鈴木一馨	
	文献資料演習 (文字・訓点)	4	通年	教授 小林恭治	

博士後期課程

科 目	単位	開講期	担 当 者	備 考
文化財学特殊研究Ⅰ (文献資料学)	4	通年	教授 小林恭治 准教授 近藤祐介	
文化財学特殊研究Ⅱ (考古資料学)	4	通年	教授 宗基秀明 准教授 田中和彦	
文化財学特殊研究Ⅲ (美術・工芸資料学)	4	通年	教授 矢島律子 教授 緒方啓介	
文化財学特殊研究Ⅳ (分析・保存科学)	4	通年	教授 星野玲子	
研 究 指 導			教授 緒方啓介	
			教授 宗基秀明	
			教授 星野玲子	
			教授 矢島律子	

4. ドキュメンテーション専攻

博士前期課程

科 目		単 位	開講期	担 当 者	備 考
基礎科目	ドキュメンテーション基礎	8	通年	教授 元木章博 教授 角田裕之 教授 大矢一志 教授 伊倉史人 教授 田辺良則 教授 河西由美子 講師 小南理恵	
研究指導科目	研究論文演習Ⅰ	4	通年	教授 元木章博 教授 角田裕之 教授 大矢一志 教授 伊倉史人 教授 田辺良則 教授 河西由美子 講師 小南理恵	
	研究論文演習Ⅱ	4	通年	—————	本年度閉講
課題型科目群	課題研究Ⅰ	4	集中	教授 元木章博 教授 角田裕之 教授 大矢一志 教授 伊倉史人 教授 田辺良則 教授 河西由美子 講師 小南理恵	注(1)
	課題研究Ⅱ	4	集中	—————	本年度閉講 注(1)
	実地研究Ⅰ	4	集中	教授 元木章博 教授 角田裕之 教授 大矢一志 教授 伊倉史人 教授 田辺良則 教授 河西由美子 講師 小南理恵	注(1)
	実地研究Ⅱ	4	集中	—————	本年度閉講 注(1)
個別領域科目群 A群	図書館情報学研究Ⅰa	2	前期	教授 角田裕之	
	図書館情報学研究Ⅰb	2	後期	教授 角田裕之	
	図書館情報学研究Ⅰc	2	前期	—————	本年度閉講
	図書館情報学研究Ⅰd	2	後期	—————	本年度閉講
	図書館情報学研究Ⅱa	2	前期	教授 河西由美子	
	図書館情報学研究Ⅱb	2	後期	教授 河西由美子	
	図書館情報学研究Ⅱc	2	前期	—————	本年度閉講

個別領域科目群	A群	図書館情報学研究Ⅱd	2	後期	—	本年度閉講
		図書館情報学研究Ⅲa	2	前期	講師 小南理恵	2022年度入学生に開講
		図書館情報学研究Ⅲb	2	後期	講師 小南理恵	2022年度入学生に開講
		図書館情報学研究Ⅲc	2	前期	—	2022年度入学生に開講 本年度閉講
		図書館情報学研究Ⅲd	2	後期	—	2022年度入学生に開講 本年度閉講
		人文情報学研究Ⅰa	2	前期	教授 大矢一志	
		人文情報学研究Ⅰb	2	後期	教授 大矢一志	
		人文情報学研究Ⅰc	2	前期	—	本年度閉講
		人文情報学研究Ⅰd	2	後期	—	本年度閉講
		人文情報学研究Ⅱa	2	前期	教授 田辺良則	
		人文情報学研究Ⅱb	2	後期	教授 田辺良則	
		人文情報学研究Ⅱc	2	前期	—	本年度閉講
		人文情報学研究Ⅱd	2	後期	—	本年度閉講
		人文情報学研究Ⅲa	2	前期	教授 元木章博	
		人文情報学研究Ⅲb	2	後期	教授 元木章博	
		人文情報学研究Ⅲc	2	前期	—	本年度閉講
		人文情報学研究Ⅲd	2	後期	—	本年度閉講
		書誌学研究Ⅰa	2	前期	教授 伊倉史人	
		書誌学研究Ⅰb	2	後期	教授 伊倉史人	
		書誌学研究Ⅰc	2	前期	—	本年度閉講
		書誌学研究Ⅰd	2	後期	—	本年度閉講
	書誌学研究Ⅱa	2	前期	—	本年度閉講	
	書誌学研究Ⅱb	2	後期	—		
	書誌学研究Ⅱc	2	前期	—	本年度閉講	
	書誌学研究Ⅱd	2	後期	—	本年度閉講	
	B群	ドキュメンテーション研究Ⅰ	2	通年	講師(非) 植村 要	
		ドキュメンテーション研究Ⅱ	2	通年	講師(非) 加藤 弓枝	

基礎科目 8 単位、研究指導科目から 4 単位以上、個別領域科目群から 12 単位以上、合計で 32 単位以上履修すること。但し、社会人入試により入学した学生は、個別領域科目群の代わりに課題型科目群の授業を選択することができる。

注（１）社会人入試により入学し、かつ現在雇用されている所属を持つ者のみ履修することができる。但し、履修登録の際には研究計画書を提出し、それが審査の上で承認されることで履修することができる。なお、研究計画書には、所属する部門長の承認を示す文書を添付する必要がある。

博士後期課程

科 目	単 位	開講期	担 当 者	備 考
研究指導Ⅰ	4	通年	—————	本年度閉講
研究指導Ⅱ	4	通年	教 授 元木章博 教 授 角田裕之 教 授 大矢一志 教 授 伊倉史人 教 授 田辺良則 教 授 河西由美子	
研究指導Ⅲ	4	通年	—————	本年度閉講
ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ	4	通年	教 授 角田裕之 教 授 河西由美子	
ドキュメンテーション特殊研究Ⅱ	4	通年	教 授 元木章博 教 授 大矢一志 教 授 田辺良則	
ドキュメンテーション特殊研究Ⅲ	4	通年	教 授 伊倉史人	

研究指導Ⅰ～Ⅲから4単位以上、ドキュメンテーション特殊研究Ⅰ～Ⅲから4単位以上を含み、合計12単位以上を修得すること。

履修方法・研究指導

1. 博士前期課程

(1) 指導教授

- ① 学生は所定の期日までに研究題目を提出しなければならない。
- ② 研究題目に従って、各専攻は、所属教員が学生と面接した上、履修届の提出期日以前に、指導教授を決定する。
- ③ 指導教授は、学生の修士の学位論文（以下「修士論文」という）作成等、研究の指導を行う。
- ④ 研究題目に依り、指導教授は別に指導教員を定めることができる。
- ⑤ 原則として、指導教授の授業を、1学年ごとに1科目は履修しなければならない。

(2) 授業科目の履修

- ① 学生は本研究科の各専攻に従って、所定の授業科目について修了所要単位32単位以上を修得しなければならない。
- ② 授業科目の履修については必ず指導教授の承認を得なければならない。
- ③ 単位の履修方法は、次の通りとする。

【日本文学専攻】

修了所要単位32単位のうち、I群より4科目8単位、II群、III群よりそれぞれ3科目12単位以上を履修し、単位を修得しなければならない。なお、I群は必修とし原則として1年次に履修すること。

各群所要単位を超える科目を履修する場合は、科目担当者の了承を得て他専攻の開講科目を履修することができ、単位は認定される。

II群、III群については同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定される。

【英米文学専攻】

修了所要単位32単位のうちには、科目担当者の了承を得て他専攻の開講科目を履修し修得した単位を、8単位を上限として含めることができる。

同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定され、修了所要単位の中に含まれる。

【文化財学専攻】

修了所要単位32単位のうち、A群より3科目12単位以上、B群より2科目8単位以上を履修し、単位を修得しなければならない。

各群所定単位を超える科目を履修する場合は、科目担当者の了承を得て他専攻の開講科目を履修し修得した単位を、2科目8単位を上限として修了所要単位に含めることができる。

同一科目を重ねて履修した場合も、単位は認定され、修了所要単位の中に含まれる。

【ドキュメンテーション専攻】

修了所要単位 32 単位のうち、基礎科目 8 単位、研究指導科目から 4 単位以上、個別領域科目群から 12 単位以上の単位を修得しなければならない。

各区分所定の単位を超える科目を履修する場合は、科目担当者の了解を得て他専攻の開講科目を履修し修得した単位を、8 単位を上限として含めることができる。

④ 他大学院の授業科目の履修

他大学院の授業科目を履修し修得した単位は、文学研究科委員会の審議を経た上で、15 単位を上限として本大学院で修得したものとみなすことができる。ただし、修了要件に算入できる単位は、各専攻で定める他専攻開講科目の修得単位を含めて12単位以内とする。

なお、他大学院の授業科目の履修にあたっては、事前に指導教授の承認を得なければならない。

⑤ 授業の方法

授業は対面のほか、遠隔で実施することがある。遠隔授業は同時双方向型、オンデマンド型等があり、担当教員の指示に従い、学内外でインターネットを介しパソコン等の端末を利用して受講する。

(3) 修士論文

【修士論文審査基準】

文学研究科においては、以下の基準に従い、厳正・公平に修士の学位論文審査を行うものとする。

1. 当該分野に関する幅広い知識を備えていること。
2. 専攻分野における一定の研究能力を有すること。
3. 高度な専門性を必要とする社会的活動や職業を担いうること。

① 論文の作成

1年以上在学し、所定の授業科目について20単位以上修得したものは、修士論文を提出することができる。

② 論文題目の届け出

- (a) 修士論文を提出しようとする者は、所定の用紙に指導教授の承認印を得て論文の題目を文学部教務課大学院係に届け出なければならない。
- (b) 当該年度修士論文を提出しない者は、その旨必ず指導教授・教務課に報告しなければならない。
- (c) 題目提出の期限は6月1日(水)・2日(木)
- (d) 最終題目の届出並びに題目変更届(所定用紙は教務課)は11月9日(水)・10日(木)午後4時までとする。

③ 論文作成上の注意

- (a) 論文および論文要旨枚数等

専攻	論文		論文要旨
	用紙・枚数	書式	用紙・枚数
日本文学専攻	手書きの場合はB4版2つ折、400字詰原稿用紙100枚以上 ワープロ使用の場合B5版、400字詰原稿用紙換算100枚分以上	縦書きを原則とする	400字詰原稿用紙10枚程度 ワープロ使用の場合もこれに準ずる
英米文学専攻	英文の場合	1. ワープロまたは英文タイプライターを使用すること。 2. 用紙：A4版用紙使用。 3. 分量：1ページ1行60文字、25行で40枚以上。ただし、Title Page, Contents, Appendix は枚数に算入しない。	横書き タイプ用紙またはワープロ印刷用紙3枚程度 英文による
英米文学専攻	和文の場合	A4版 400字詰原稿用紙 80枚以上 ワープロ使用の場合は1ページ1行30文字	横書き タイプ用紙またはワープロ印刷用紙

	場合	20行とし、これに準じて枚数を計算する(A4版ワープロ印刷用紙)		3枚程度 英文による
文化財学 専攻		用紙判型はA4とする。 枚数は指導教授の課するところとする。(手書きの場合は400字詰原稿用紙を使用。ワープロ・パソコン使用のときは字数換算とする。)	縦書き、横書きは指導教授の定めるところとする。	400字詰原稿用紙5～10枚程度(ワープロ・パソコン使用の場合もこれに準ずる。)
ドキュメンテーション 専攻		用紙判型はA4とする。 枚数は指導教授の課するところとする。(手書きの場合は400字詰原稿用紙を使用。ワープロ・パソコン使用のときは字数換算とする。)	縦書き、横書きは指導教授の定めるところとする。	400字詰原稿用紙5～10枚程度(ワープロ・パソコン使用の場合もこれに準ずる。)

- (注) 1. 論文本文は、日本文学専攻では自筆(黒または青インクを使用)またはワープロで作成すること(鉛筆・ボールペンは不可)。
2. 英米文学専攻では、論文作成は英文または和文のいずれによってもよいが、その決定には、必ず指導教授の指導を受けなければならない。英文論文の場合は英文タイプライターまたはワープロで作成すること。和文論文の場合は自筆(黒または青インクを使用)またはワープロで作成すること。
3. 文化財学専攻では、論文作成は和文または英文いずれでもよい。自筆またはワープロ・パソコン使用は、指導教授の定めるところに従うこと。
4. ドキュメンテーション専攻では、論文作成は和文または英文のいずれでもよい。自筆またはワープロ・パソコン使用は、指導教授の定めるところに従うこと。
5. 論文は必ず製本すること。ただし簡易製本でもよい。
6. 論文要旨の書式は、論文に準ずる。表紙も論文と同じ様式とし、「論文要旨」と明記すること。

(b) 論文および論文要旨作成部数

論文 3部作成し、提出すること。副本2部は正本からコピーしたものでよい。

要旨 3部作成し、論文に添えて提出すること。2部はコピーしたものでよい。

(c) 修士論文の表紙・体裁

日本文学専攻・文化財学専攻・ドキュメンテーション専攻(縦書きのとき) 英米文学専攻・文化財学専攻・ドキュメンテーション専攻(横書きのとき)

大学院文学研究科 ○○○専攻 氏名	論文題目 — 副 題 —	令和 ○年度	令和○年度修士論文 指導 ○○○○教授 論文題目 — 副 題 — 大学院文学研究科 ○○○専攻 氏名
		○ ○ ○ ○ 教授	
		論文題目	
		氏名	

④ 論文の提出

(a) 修士論文 正本1部 副本2部に論文要旨3部・修士論文審査申請書（所定の様式）を添付し、学生証を提示のうえ提出する。

(b) 提出日時並びに提出場所

提出日時 2023年1月11日(水)・12日(木) 午後4時（厳守）

提出場所 文学部教務課大学院係

⑤ 論文の審査および最終試験

(a) 提出された修士論文は、各専攻において主査および副査があらかじめ審査を行い、その後、各専攻の専任教員全員の審査を経て、最終試験を口頭で行う。

(b) 文学研究科委員会は、各専攻における修士論文の審査および最終試験の結果を審議し、合格を決定する。

(c) 最終試験（口頭試問）の日時等については、掲示で連絡する。

⑥ 合格した論文の取扱

最終試験に合格した論文の正本は指導教授のもとに保管し、残り2部は学位記授与式当日に返却する。

(4) 履修手続き

① 履修科目の登録は、1年間の修学方針を決める上で最も重要なことであり、単位修得に欠かすことのできないものである。具体的な履修登録の手続きは本文243頁「履修登録の手引き」による。期日までに指導教授の承認を得て、この手続きをとらなかった場合は、たとえ授業を受け、試験に合格しても全て無効となるので、十分に注意をし、手続きすることが必要である。

② 科目を登録する際には、次の諸点に注意が必要である。

履修科目の登録は、指定された期間に必ず本人が行うものとする。登録期間内に手続きができない場合は必ず事前に教務課に申し出ること。

(5) 試験および成績の評価

① 試験

(a) 学年末に試験（筆記試験・レポートまたは口述試験）を行う。

(b) 試験の方法等は、1月上旬に掲示によって発表する。

(c) 受験上の諸注意

(イ) 提出した履修登録確認表に記載されている科目でなければ受験することができない。

(ロ) 授業料などの学納金未納者は、受験することができない。

(ハ) 受験中は机上に学生証を提示しなければならない。

(ニ) レポート提出の場合は、題目、枚数、提出期限、提出先を掲示等により確認し、必ず指定された期日に提出しなければならない。

② 成績の評価並びに単位の認定

各科目の成績は、優(100点～80点)、良(79点～70点)、可(69点～60点)、不可(59点～0点)を以て評価され、不可は不合格とする。

合格した科目については、所定の単位を認定する。

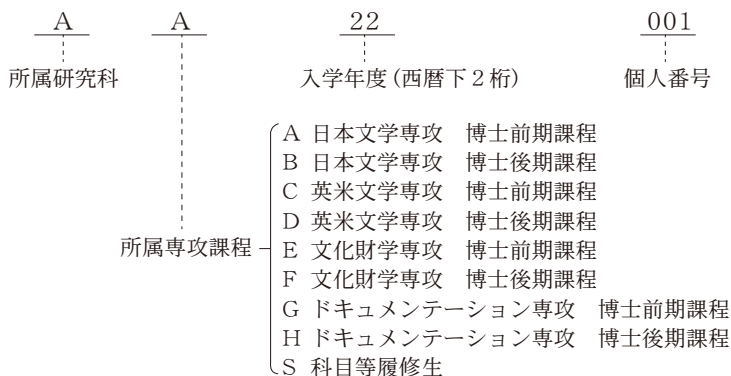
③ 成績発表

- (a) 試験の結果は、年度末に発表する。
- (b) 成績の質疑については決められた日時に教務課窓口に応じ出ること。

(6) 学籍番号

- ① 入学と同時に各学生の学籍番号が決められ、課程修了までこれを用いる。
- ② 学籍番号の構造は次のとおりである。

〈2019 (令和元) 年度以降入学生〉



〈2018 (平成 30) 年度以前の入学生〉



- ③ 試験、諸証明書申込等、学内の事務は、すべて学籍番号によって処理されるので、正確に記入しなくてはならない。

(7) 学籍・身上に関する異動

- ① 博士前期課程の修業年限は2年である。ただし、在学できる最長年数、4年を超えることはできない。
- ② 休学、復学、退学をする場合には、学則第8章第25条、第27条、第32条（「学生生活」参照）により、所定の書類を提出しなければならない。

(a) 休学

休学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の休学願に、病気の場合は医師の診断書を添えて、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

書類の提出先は教務課。

休学を許可された者には、休学許可書を交付する。

(b) 復学

休学の事情が解消して復学しようとする時は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の

復学願に、病気休学の場合は医師の診断書を添えて、休学期間終了の1ヵ月前までに学長に願い出て、許可を受けて復学することができる。

書類の提出先は教務課。

復学を許可された者には、復学許可書を交付する。

復学後の事項については、必要に応じて連絡する。

(c) 退 学

退学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の退学願により、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

書類の提出先は教務課。

退学願提出と同時に学生証を返還しなければならない。

退学を許可された者には、退学許可書を交付する。

(d) 除 籍

学則第8章第33条の2（「学生生活」参照）により、以下のいずれかに該当する者を学長は除籍することができる。

(1) 指定の期日までに学生納付金等を納入せず、督促してもなお納入に応じない者

(2) 学則第 24 条に定める在学期間を超えた者

(3) 学則第 26 条に定める休学期間を超えて復学できない者

(4) 死亡の届けがあった者

(注) 1 提出書類はすべてペン書とし、鉛筆書は受け付けない。

2 提出書類は押印を要するものが多いので、常に印鑑を用意のこと。

(8) 長期履修制度について

文学研究科においては、長期履修制度により、時間的な制約等がある学生に対し負担軽減を図り、柔軟な学習機会を提供することとしている。そのため、学生が職業を有している等の事情により、長期履修（標準修業年限を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修し修了すること）を申し出たときは、審査の上、認めることがある。長期履修を希望する学生は、必ず指導教授に申し出て、承認を得た上で、所定の期間に申請すること。

なお、長期履修学生の修業年限は、許可された長期履修期間とする。ただし、在学できる最長年数、4年を超えることはできない。

(9) 教育職員免許状の取得について

① 本学大学院文学研究科で取得できる免許状の種類並びに免許教科

専 攻	免 許 状 の 種 類	教 科
日本文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	国 語
英米文学専攻	中学校教諭専修免許状 高等学校教諭専修免許状	外 国 語 (英 語)
文化財学専攻	中学校教諭専修免許状	社 会
	高等学校教諭専修免許状	地 理 歴 史
ドキュメンテーション専攻	※取得できる免許状なし	—

② 基礎資格並びに最低修得単位数

所要資格 免許状	基礎資格	本学大学院における最低修得単位数
中学校教諭 専修免許状	修士の学位を有すること (大学院に1年以上在学し、30 単位以上修得した場合を含む)	24 単位
高等学校教諭 専修免許状	修士の学位を有すること (大学院に1年以上在学し、30 単位以上修得した場合を含む)	24 単位

(a) すでに中学校教諭一種免許状並びに高等学校教諭一種免許状を取得しているか、又は同免許状の取得に必要な教科並びに教職に関する科目の単位を修得している者。

(b) 上記の中学校教諭一種免許状並びに高等学校教諭一種免許状の教科と大学院で取得しようとする中学校教諭専修免許状並びに高等学校教諭専修免許状の教科は同じでなければならない。

③ 単位の履修方法

【日本文学専攻】

本大学院における最低修得単位数24単位は、開講科目のうち「日本文学研究Ⅰ～Ⅴ」「日本文学演習Ⅰ～Ⅴ」の中より修得しなければならない。

【英米文学専攻】

本学大学院における最低修得単位数24単位は、開講科目のうち「ヨーロッパ文学・文化研究」「表象文化研究」「言語学研究」「比較文学・文化研究」「国際文化研究」以外の科目の中より修得しなければならない。

【文化財学専攻】

本学大学院における最低修得単位数24単位は、開講科目のうちA・B群の中より修得しなければならない。ただし、「文化財学特殊講義Ⅶ(分析・保存科学)」「文化財学特殊講義Ⅷ(人文情報検索研究)」「文化財学演習Ⅳ(分析・保存科学)」「文化財学演習Ⅴ(情報検索学)」は、単位数に含めることができない。

④ 中学校並びに高等学校教諭一種免許状の取得について

新たに中学校並びに高等学校教諭一種免許状を取得するために、教職課程の履修を希望する者は、本学文学部の教職課程科目等履修生として履修することができる。

ただし、大学院本来の学修・研究に支障のない限りにおいて、これを許可する。この場合、まず、大学院の指導教授の許可を得たのち、履修科目、手続き等については、4月5日(火) 16:00までに教務課に申し出ること。

2. 博士後期課程

(1) 指導教授

【日本文学専攻】

- ① 学生があらかじめ提出した研究計画概要に従って、学位論文作成の指導を受ける指導教授が決定される。
- ② 指導教授は、学生の学位論文作成等、研究の指導を行う。
- ③ 指導教授の授業科目を、1学年ごとに1科目は履修しなければならない。

【英米文学専攻】

- ① 学生があらかじめ提出した研究計画概要に従って、学位論文作成の指導を受ける指導教授が決定される。
- ② 指導教授は、学生の学位論文作成等、研究の指導を行う。
- ③ 指導教授の演習科目または特殊研究を1年次から3年次まで毎年履修し、計12単位を修得しなければならない。

【文化財学専攻】

- ① 学生があらかじめ提出した研究計画概要に従って、学位論文作成の指導を受ける指導教授が決定される。
- ② 指導教授は、学生の学位論文作成等、研究の指導を行う。
- ③ 単位化されていないが、指導教授の「研究指導」を受けなければならない。

【ドキュメンテーション専攻】

- ① 学生があらかじめ提出した研究計画概要に従って、学位論文作成の指導を受ける指導教授が決定される。
- ② 指導教授は、学生の学位論文作成等、研究の指導を行う。
- ③ 指導教授が担当する授業を、1年ごとに1科目は履修しなければならない。

(2) 研究計画書

1年次生は、10月1日(土)から31日(月)までの間に研究題目と研究計画の内容を記載した「研究計画書」に指導教授の承認を得て、教務課に提出しなければならない。(用紙は教務課で配布する)

(3) 授業科目の履修

1. 履修方法は、次の通りとする。

【日本文学専攻】

- ① 学生は博士後期課程の所定の授業科目について修了所要単位20単位以上を修得しなければならない。
- ② 授業科目の履修については必ず指導教授の承認を得なければならない。
- ③ 単位の履修方法は、次のとおりとする。

指導教授の授業科目12単位を含め、20単位以上を履修し単位を修得すること。学生は各自の専門分野を担当する指導教授のもとに履修すべき科目を選定し、かつ指導教授について原則として週1回の論文指導を受け、学位論文を作成するものとする。

【英米文学専攻】

- ① 学生は博士後期課程の所定の授業科目について修了所要単位20単位以上修得しなければならない。
- ② 授業科目の履修については必ず指導教授の承認を得なければならない。
- ③ 単位の履修方法は、次のとおりとする。
指導教授の演習科目および特殊研究12単位を含め、20単位以上履修し単位を修得すること。学生は各自の専門分野を担当する指導教授のもとに履修すべき科目を選定し、承認を得なければならない。

【文化財学専攻】

- ① 学生は博士後期課程の所定の授業科目について修了所要単位8単位以上を修得しなければならない。
- ② 授業科目の履修については必ず指導教授の承認を得なければならない。
- ③ 「研究指導」に関しては、指導教授と相談し、「研究日」または「研究時間」を決めなければならない。

【ドキュメンテーション専攻】

- ① 学生は博士後期課程の所定の授業科目について修了所要単位12単位以上を修得しなければならない。
- ② 授業科目の履修については必ず指導教授の承認を得なければならない。
- ③ ドキュメンテーション専攻博士前期課程以外の課程を修了した者は、指導教授の指導に従い各特殊研究の授業を履修しなければならない。

2. 他大学院の授業科目の履修

他大学院の授業科目を履修し修得した単位は、文学研究科委員会の審議を経た上で、15単位を上限として本大学院で修得したものとみなすことができる。ただし、修了要件に算入できる単位は、各専攻において以下の通りとする。

【日本文学専攻】	12 単位以内
【英米文学専攻】	10 単位以内
【文化財学専攻】	4 単位以内
【ドキュメンテーション専攻】	4 単位以内

3. 授業の方法

授業は対面のほか、遠隔で実施することがある。遠隔授業は同時双方向型、オンデマンド型等があり、担当教員の指示に従い、学内外でインターネットを介しパソコン等の端末を利用して受講する。

(4) 学位論文

【博士論文審査基準】

文学研究科においては、以下の基準に従い、厳正・公平に博士の学位論文審査を行うものとする。

1. 当該分野に関する幅広く深い学識を備え、資料の適切な把握がなされていること。
2. 先行研究への理解が的確であり、専攻分野における高い研究能力を有すること。
3. 研究目的・研究対象および研究方法が十分に妥当であること。
4. 研究者として自立し、学界への貢献が期待されること。

- ① 論文の作成に当たっては、指導教授の指導を受けなければならない。
- ② 博士論文の作成並びに提出方法については別に定める。

(5) 試験および成績の評価

① 試験

- (a) 学年末に試験（筆記試験・レポート又は口述試験）を行う。
- (b) 試験の方法等は、1月上旬に掲示によって発表する。
- (c) 受験上の諸注意
 - (イ) 提出した履修登録確認表に記載されている科目でなければ受験することができない。
 - (ロ) 授業料などの学納金未納者は、受験することができない。
 - (ハ) 受験中は机上に学生証を提示しなければならない。
- (ニ) レポート提出の場合は、題目、枚数、提出期限、提出先を掲示等により確認し、必ず指定された期日に提出しなければならない。

② 成績の評価並びに単位の認定

各科目の成績は、優（100点～80点）、良（79点～70点）、可（69点～60点）、不可（59点～0点）を以て評価され、不可は不合格とする。
合格した科目については、所定の単位を認定する。

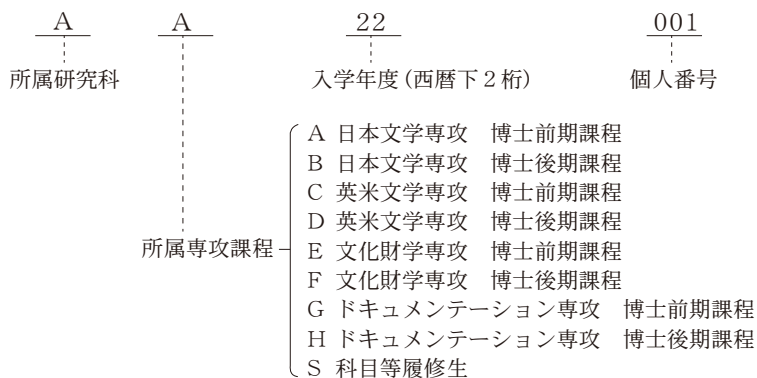
③ 成績発表

- (a) 試験の結果は、年度末に発表する。
- (b) 成績の質疑については決められた日時に教務課窓口申し出ること。

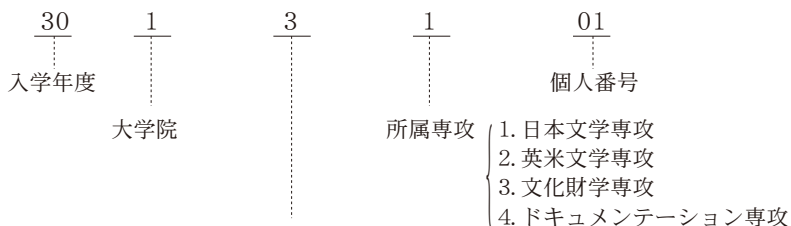
(6) 学籍番号

- ① 入学と同時に各学生の学籍番号が決められ、課程修了までこれを用いる。
- ② 学籍番号の構造は次のとおりである。

〈2019（令和元）年度以降入学生〉



〈2018（平成30）年度以前の入学生〉



所属研究科	{ 1. 歯学研究科 2. 文学研究科 (博士前期課程) 3. 文学研究科 (博士後期課程)

- ③ 試験、諸証明書申込等、学内の事務は、すべて学籍番号によって処理されるので、正確に記入しなければならない。

(7) 学籍・身上に関する異動

- ① 博士後期課程の修業年限は3年である。ただし、在学できる最長年数、6年を超えることはできない。
- ② 休学、復学、退学を希望する場合には、学則第8章第25条、第27条、第32条（「学生生活」参照）により、所定の書類を提出しなければならない。

(a) 休学

休学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の休学願に、病気の場合は医師の診断書を添えて、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

書類の提出先は教務課。

休学を許可された者には、休学許可書を交付する。

(b) 復学

休学の事情が解消して復学しようとする時は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の復学願に、病気休学の場合は医師の診断書を添えて、休学期間終了の1ヵ月前までに学長に願い出て、許可を受けて復学することができる。

書類の提出先は教務課。

復学を許可された者には、復学許可書を交付する。

復学後の事項については、必要に応じて連絡する。

(c) 退学

退学しようとする場合は、本学所定の様式（「学生生活」参照）の退学願により、学長に願い出て、許可を受けなければならない。

書類の提出先は教務課。

退学願提出と同時に学生証を返還しなければならない。

退学を許可された者には、退学許可書を交付する。

(d) 除籍

学則第8章第33条の2（「学生生活」参照）により、以下のいずれかに該当する者を学長は除籍することができる。

- (1) 指定の期日までに学生納付金等を納入せず、督促してもなお納入に応じない者
- (2) 学則第24条に定める在学期間を超えた者
- (3) 学則第26条に定める休学期間を超えて復学できない者
- (4) 死亡の届けがあった者

- (注) 1 提出書類はすべてペン書とし、鉛筆書は受け付けない。
 2 提出書類は押印を要するものが多いので、常に印鑑を用意のこと。

(8) 長期履修制度について

文学研究科においては、長期履修制度により、時間的な制約等がある学生に対し負担軽減を図り、柔軟な学習機会を提供することとしている。そのため、学生が職業を有している等の事情により、長期履修（標準修業年限を超えて一定の期間にわたり、計画的に教育課程を履修し修了すること）を申し出たときは、審査の上、認めることがある。長期履修を希望する学生は、必ず指導教授に申し出て、承認を得た上で、所定の期間に申請すること。

なお、長期履修学生の修業年限は、許可された長期履修期間とする。ただし、在学できる最長年数、6年を超えることはできない。

その他の事項

1. 授 業 時 間

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:00 }	10:40 }	13:00 }	14:40 }	16:20 }
10:30	12:10	14:30	16:10	17:50

※補講については
その都度掲示する。

2. 掲 示

学生に対する伝達事項は、すべて大学院掲示板によって行う。登校、下校の際は必ず掲示板を見ること。

3. 休 講

(1) 担当教員より連絡があり次第、大学院文学研究科の掲示板にその旨を掲示する。始業時間より30分以上経過しても連絡のない場合は、教務課に申し出てその指示を受けること。

(2) 「暴風警報」、「大雨警報」、「洪水警報」、「大雪警報」、「暴風雪警報」又は「特別警報」の気象警報が発令された場合

(1) 対象となる警報並びに条件

神奈川県下に「暴風警報・大雨警報・洪水警報」が同時に発令された場合及び「大雪警報」、「暴風雪警報」又は「特別警報」が発令された場合、次項(2)の基準を適用する。

(2) 授業・試験の実施基準

【警報解除時刻】	【授業・試験の取扱】
午前7時までに警報が解除された場合	平常どおり実施
午前11時までに警報が解除された場合	1・2時限目は休講・試験延期とし、 3時限目から実施
午後1時までに警報が解除された場合	1・2・3時限目は休講・試験延期とし、 4時限目から実施
午後1時を過ぎても警報が解除されない場合	全時限休講・試験延期

※授業又は試験中に上記の事態が発生した場合は、学長の判断で措置を決定し、掲示（鶴見大学ポータルシステム、大学ホームページへの掲載を含む）や緊急放送等を以って速やかに通知しますので、これに従ってください。

(3) 自然災害や交通ストライキによって交通機関の運行が停止した場合

(1) 対象となる交通機関

下記2線のいずれも不通となった場合のみ、次項(2)の基準を適用する。

JR 京浜東北線・根岸線（東京～大船間）

私鉄 京浜急行線（品川～三崎口間）

(2) 授業・試験の実施基準

【運行開始時刻】	【授業・試験の取扱】
午前 7 時までに運行開始された場合	平常どおり実施
午前11時までに運行開始された場合	1・2時限目は休講・試験延期とし、 3時限目から実施
午後 1 時までに運行開始された場合	1・2・3時限目は休講・試験延期とし、 4時限目から実施
午後 1 時を過ぎても不通の場合	全時限休講・試験延期

※授業又は試験中に上記の事態が発生した場合は、学長の判断で措置を決定し、掲示（鶴見大学ポータルシステム、大学ホームページへの掲載を含む）や緊急放送等を以って速やかに通知しますので、これに従ってください。

(4) 南海トラフ地震臨時情報が発令された場合の措置等については、286頁を参照してください。

4. 問い合わせ

行事予定、休講、その他授業および試験等に関するの電話での問い合わせにはいっさい応じない。

必要ある場合は、登校のうえ、掲示板を見るか関係事務室窓口で問い合わせること。

5. 健康診断

春の定期健康診断は、必ず受けなければならない。これを受けなければ、諸証明書の発行は認められない。

6. 複写機の利用

学修・研究資料作成のための複写機の利用について次のとおり定める。

- (a) 用途 演習等の資料作成および研究上の資料収集に限る。
- (b) 枚数 博士前期課程 1人 1,000枚（年間）
博士後期課程 1人 2,000枚（年間）
- (c) 期間 2022年4月1日～2023年3月31日
- (d) 使用複写機 図書館・学生用コピー機
- (e) カードの交付 博士前期課程
1学年度、1人2枚のICカード（500枚限定）を交付する。
博士後期課程
1学年度、1人4枚のICカード（500枚限定）を交付する。
- (f) カードの交付時 カードは年度毎に発行する。修了並びに退学の場合は、教務課に、速やかに返還する。
- (g) カードの管理方法 自己管理とする。なお、紛失した場合は、速やかに教務課に届け出る。再発行はしない。
- (h) 本人以外の利用は認めない。

7. 院生控室の図書の利用

文学研究科学生の学修並びに研究活動の便を計るため、院生控室を設け、文学研究科各専攻に必要なと思われる、基本的な辞書・辞典を備えている。大学院学生の利用は自由であるが、室外への持ち出しは禁止されている。

8. ロッカーの利用

- (1) 学修・研究のために使用する資料等保管の便を計るため、院生控室にロッカーを置く。
- (2) ロッカーは在学期間中貸与する。
- (3) ロッカーの利用にあたっては次の事項に留意すること。
 - ① 鍵は利用する者に貸与する。
 - ② 鍵は各自責任をもって管理すること。
 - ③ ロッカーは常に整理・整頓に努めること。
 - ④ 現金・貴重品類は入れてはならない。各自がその責に当たること。(盗難・紛失等の事故が生じてても大学は責任を負わない)
 - ⑤ ロッカーの破損や鍵の紛失等で使用できない場合は、教務課に申し出ること。
 - ⑥ ロッカーの使用時間は6号館開館時間帯とする。

9. 各種証明書

証明書発行について

各証明書の発行については、証明書自動発行機及び教務課窓口申込の2通りの方法がある。教務課で発行する証明書及び手数料は次のとおりである。

①証明書自動発行機による発行

事 項	手数料	交付日	有効期限	備 考
単位成績証明書 (和文)	200	即日	3ヶ月	
単位修得証明書 (和文)	200	〃	〃	
修了見込証明書 (和文)	100	〃	〃	履修登録終了後より発行
在学証明書 (和文)	100	〃	〃	

(イ) 利用時間は教務課窓口取扱時間内とする。

※大学行事、メンテナンス等により利用時間が変更となる場合には、掲示及び鶴見大学ポータルシステムで知らせる。

(ロ) 証明書自動発行機の操作には、学生証と鶴見大学ポータルシステムのログイン用パスワードが必要である。操作方法は証明書自動発行機に表示される手順に従って行なうこと。

- (ハ) 証明書用封筒は教務課窓口にある。また、厳封が必要な場合には教務課窓口に出ること。
- (二) 証明書自動発行機での証明書発行は在学生のみとなる。修了年次生については卒業式以降の証明書発行は、教務課窓口での申込受付となるので注意すること。

②教務課窓口申込による発行

事 項	手数料(円)		交 付 日	有効期限
	和文	英文		
単 位 成 績 証 明 書	200	1,000	3日以降 (英文は7日以降)	3ヶ月
単 位 修 得 証 明 書	200	1,000	3日以降	〃
修 了 (見 込) 証 明 書	100	500	3日以降 (英文は7日以降)	〃
学 位 授 与 証 明 書 (博士後期課程修了者のみ)	200	1,000	3日以降 (英文は7日以降)	〃
教員免許状取得見込証明書	100		3日以降 (英文は7日以降)	
調 査 書	1,000		7日以降	〃
在 学 証 明 書	100	500	3日以降 (英文は7日以降)	〃

- (ホ) 申込用紙に必要事項を記入し、所定の料金分の証紙を貼付の上、教務課窓口へ申し込むこと。なお、英文証明書申し込みの際は、教務課に相談すること。証明書交付の所要日数は原則として3日以降とする。ただし、英文による証明書並びに調査書は、7日以降とする。
- (ヘ) 電話による申し込みは受け付けない。

10. 事務室の事務取り扱い時間

◇授業実施期間 (※補講を含む)

月～金曜日 8時50分～18時00分

土曜日 8時50分～13時00分

◇上記以外の期間

月～金曜日 8時50分～16時50分

土曜日 8時50分～13時00分

ただし、春、夏、冬の休暇および定期試験期間の事務取り扱い時間については、その都度掲示で連絡する。

諸 規 程

鶴見大学大学院文学研究科博士学位論文審査内規

大学院文学研究科院生控室利用内規

鶴見大学大学院文学研究科科目等履修生規程

鶴見大学大学院文学研究科聴講生規程

鶴見大学文学部ティーチング・アシスタント規程

鶴見大学大学院文学研究科学生以外の大学院における授業科目履修に関する取扱規程

大学院文学研究科の長期履修に関する規程

鶴見大学大学院文学研究科博士学位論文審査内規

(趣旨)

第 1 条 この内規は、鶴見大学学位規程（以下「学位規程」という。）に基づき、鶴見大学大学院文学研究科（以下「研究科」という。）に博士学位請求論文（以下「学位論文」という。）を提出する場合の要領について、必要な事項を定めることを目的とする。

(学位論文提出者)

第 2 条 博士学位論文の提出者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 学位規程第 3 条第 3 項の規定により博士学位を取得しようとする者
- (2) 学位規程第 3 条第 4 項の規定により博士学位の請求を行う者

(提出の手続)

第 3 条 前条第 1 号の規定による学位論文提出者は、当該の専攻（以下「各専攻」という。）に次の各号に掲げる文書を提出する。

- (1) 学位論文 4 部と論文要旨 4 部
- (2) 添付書類
 - (ア) 学位論文審査申請書（様式 1） 1 通
 - (イ) 論文目録（様式 3） 1 通
 - (ウ) 履歴書（様式 4） 1 通
 - (エ) 研究業績書（様式 5） 1 通
 - (オ) 参考論文提出の場合 各 4 部

2 前条第 2 号の規定による論文提出者は、各専攻に次の各号に掲げる文書を提出する。

- (1) 学位請求論文 4 部と論文要旨 4 部
- (2) 添付書類
 - (ア) 学位請求申請書（様式 2） 1 通
 - (イ) 論文目録 1 通
 - (ウ) 履歴書 1 通
 - (エ) 研究業績書 1 通
 - (オ) 最終学校卒業証明書 1 通
 - (カ) 参考論文提出の場合 各 4 部

(提出の時期)

第 4 条 学位論文提出の時期は、毎年 9 月 1 日から 9 月 30 日とする。

(用語)

第 5 条 学位論文の用語は、各専攻において定める。

(受理)

第 6 条 第 2 条第 1 号の規定による学位論文提出者の指導教授は、各専攻に諮って論文の受理の可否を審議する。

2 第 2 条第 2 号の規定による学位論文提出者から審査を依頼された本学教員は、各専攻に諮って学位論文の受理の可否を審議する。

第 7 条 前条第 1 項の規定により受理を妥当とする場合、各専攻主任は文学研究科長に学位論文の受理を文書で要請する。

2 前条第 2 項の規定により受理を妥当とする場合、各専攻主任は文学研究科長を経て、学長に

学位論文の受理を文書で要請する。

(学位論文審査料)

第 8 条 前条の規定により学位論文が受理された場合は、学位規程第 5 条並びに第 6 条により審査料を納付する。

2 納付された審査料は、返戻しない。

(審査)

第 9 条 文学研究科長は、文学研究科委員会において、学位論文審査委員会(以下「審査委員会」という。)を設置し、審査委員会は学位論文の審査を行う。

(報告)

第 10 条 学位論文審査委員会の構成・審査・審査の報告は、次の各号による。

(1) 第 7 条第 1 項の規定により受理された学位論文の場合、審査委員は、主査 1 名、副査 2 名、計 3 名とし、原則として主査は学位論文提出者の指導教授、副査のうち 1 名は研究科専任教員、他の 1 名は研究科内外の関連分野の研究者とする。

(2) 第 7 条第 2 項の規定により受理された学位論文の場合、審査委員は、主査 1 名、副査 2 名、計 3 名とし、主査、及び副査のうち 1 名は研究科専任教員、副査の他の 1 名は研究科内外の関連分野の研究者とする。

(3) 審査委員は、学位論文の内容が研究者として自立できるための基礎をなしているか否かを 1 年以内に審査し、同時に学位規程第 9 条第 1 項で定める最終試験又は試験、あるいは学位規程第 9 条第 3 項で定める試問を行い、全員出席の委員会で判定する。ただし、学外の委員は書面で審査結果を報告することができる。

(4) 審査委員会は、審査の結論とその理由を文学研究科委員会に報告する。

(合否の判定)

第 11 条 学位論文の合否の判定は、文学研究科委員会の審議を経て、学長が行う。

2 文学研究科委員会は、学位論文審査委員会の報告及び論文提出者の属する専攻の意見を参考にし合否の審議を行う。

3 合否の判定は、審議を経たうえで、無記名投票により出席委員の 3 分の 2 以上の多数決をもって行い、その結果を学長に上申する。

(研究科長の上申)

第 12 条 提出論文が合格し、他の必要な条件が満たされている場合、文学研究科長は学位規程第 13 条の規定により、学長に上申する。

(その他)

第 13 条 学位規程及び本内規にない事項については、その都度文学研究科委員会の審議を経て学長が決定するものとする。

附則

この内規は、平成14年4月1日から施行する。

平成27年4月1日一部改正

(様式1)

学位論文審査申請書	
鶴見大学長殿	年 月 日
鶴見大学大学院文学研究科 博士後期課程	専攻
氏 名	印
	年 月 日生
鶴見大学学位規程第3条第3項の規定により博士()の学位の授与の申請を したいので自著論文を提出いたします。御審査くださるよう下記の通り関係書類 を添えて申請いたします。	
論 文 題 目	
記	
1. 学位論文 (4部)	1. 研究業績書 (1通)
1. 論文要旨 (4部)	1. その他(参考論文がある場合ここに記載して下さい)
1. 論文目録 (1通)	(各4部)
1. 履歴書 (1通)	

受付日 (研究科事務担当)	委員会 受付日	委員会 議決日	教務課

(様式2)

学位請求申請書	
鶴見大学長殿	年 月 日
現住所	
氏 名	印
	年 月 日生
鶴見大学学位規程第3条第4項の規定により博士()の学位の授与の申請を したいので自著論文を提出いたします。御審査くださるよう下記の通り関係書類 を添えて申請いたします。	
論 文 題 目	
記	
1. 学位請求論文 (4部)	1. 最終学校卒業証明書 (1通)
1. 論文要旨 (4部)	(他大学出身者のみ)
1. 論文目録 (1通)	1. その他(参考論文がある場合ここに記載して下さい)
1. 履歴書 (1通)	(各4部)
1. 研究業績書 (1通)	

受付日 (研究科事務担当)	委員会 受付日	委員会 議決日	教務課

(様式3)

論文目録		
		申請者氏名
		印
主 論 文	題名	
	印刷公表の方法および時期	
	冊数	
参 考 論 文	題名	
	印刷公表の方法および時期	
	冊数	

備考

1. 未公表の論文の場合は、原稿の枚数、予定している公表の方法および時期を記入すること。
2. 参考論文が2以上ある場合は、それぞれ題名および冊数を記入すること。

(様式4)

履 歴 書				
ふりがな 氏名				印
生年月日	年 月 日生	本籍地	都道府県	
現住所	(都道府県、市町村番地を正確に記入すること)			
学	大学	学部	年 月 日	卒業 中途退学
		学科		
歴	大学大学院修士課程 研究科	専攻	年 月 日 年 月 日	入学 修了 中途退学
	大学大学院博士課程 研究科	専攻	年 月 日 年 月 日	入学 修了 所定単位取得退学 中途退学
研究歴				
職歴				

上記のとおり相違ありません

年 月 日

(様式5)

研 究 業 績 書				
申請者氏名			印	
著 書 名		発行年月日	発行所	部数
学 術 論 文				
学術論文名・書名		発行年月日	発表雑誌又は発表学会名	

大学院文学研究科院生控室利用内規

1. この内規は、本学大学院文学研究科院生控室（以下「院生控室」という）の利用について、必要な事項を定める。
2. 院生控室は、本学大学院文学研究科学生の学修・研究活動に利用することを目的とする。
3. 院生控室を利用できる者は、文学研究科博士前期並びに博士後期課程の在学学生および学長が許可した者とする。
4. 院生控室の円滑な運営をはかり、学修・研究活動の一層の成果を期するため、各専攻ごとに1名の連絡責任者を置くものとする。
5. 前項に定める責任者は、当該院生控室内における秩序維持と円滑な運営をはかることを主たる任務とする。
6. 院生控室は、次の各号に掲げる日は閉室とする。
 - (1) 日曜日・国民の祝日に関する法律に定められた休日。
 - (2) 本学開学記念日および全学研修日。
 - (3) その他、大学が定めた日。
7. 第6項各号に定める閉室日に院生控室の利用を希望する場合は、あらかじめ、学長の許可を得なければならない。
8. 院生控室は、前項で定める日を除き午前8時30分から午後8時（土曜日は午後4時30分）まで開室する。
9. 院生控室においては、次の各号に掲げる事項を禁止する。
 - (1) 第3項に定める者以外の入室・利用。
 - (2) 学修・研究活動以外の利用。
 - (3) 酒類・危険物品等の持込み。
 - (4) 他の者の研究活動の妨げとなる行為。
 - (5) 所定のもの以外の各種電気器具および熱器具の使用。
10. 院生控室を利用する者は、次の各号に掲げる事項を遵守するものとする。
 - (1) 第8項で定める利用時間。
 - (2) 室内は禁煙とする。
 - (3) 常に室内の清潔・整頓に努め、通常の清掃は各人が行うこと。
 - (4) 許可なく、什器・備品等の移動を行わないこと。
 - (5) 火災その他、非常事態が発生したときは、教職員の指示に従うこと。
 - (6) 掲示物および連絡等の貼紙は所定の掲示板を利用すること。
 - (7) 所持品の保管は、各人がその責に当たること（盗難・紛失等の事故が生じてても大学は責任を負わない）。
11. 故意又は過失により、院生控室の施設・設備・什器・備品等を破損・汚損し、または紛失した者は、その損害の実費を償うものとする。
12. 院生控室を利用する者で、その内規に著しく違反する事実があったときは、文学研究科委員会の議を経て、学長がその利用を停止させることがある。
13. この内規に定めるものの外、院生控室の利用に関する必要な事項は、関係機関と協議してこれを定める。
14. この内規は、平成2年4月1日から実施する。

鶴見大学大学院文学研究科科目等履修生規程

(目的)

第1条 この規程は、鶴見大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第41条に基づき、鶴見大学大学院文学研究科（以下「文学研究科」という。）が受け入れる鶴見大学大学院文学研究科科目等履修生（以下「科目等履修生」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。

(出願資格)

第2条 科目等履修を志願することのできる者は、文学研究科の学生以外の者で、博士前期課程においては大学院学則第20条に規定する文学研究科博士前期課程第1号から第5号のいずれかに該当する者とし、博士後期課程においては大学院学則第20条に規定する文学研究科博士後期課程第1号から第4号のいずれかに該当する者とする。

(受入範囲)

第3条 科目等履修を志願する者のあるときは、正規の学生の学修の妨げにならない範囲で、選考のうえ受け入れる。

(履修の科目)

第4条 科目等履修において履修することのできる科目は、当該年度開講科目とする。ただし、科目等履修除外科目を別に定める。

2 科目等履修生が履修できる単位数は、15単位を超えないものとする。

(履修期間)

第5条 科目等履修生の履修期間は、一年又は一学期（前期又は後期をいう。）とする。

(出願手続)

第6条 科目等履修を志願する者は、所定の期日までに、次の各号に掲げる書類に検定料を添えて願出するものとする。

(1) 鶴見大学大学院文学研究科科目等履修生願書（別紙様式第1号）

(2) 履歴書

(3) 出身大学の学部単位成績証明書及び卒業証明書 ただし、大学院の修了者又は在学中の者は、大学院単位成績証明書及び修了証明書又は在学証明書を併せて提出するものとする。

(4) 社会人の場合は勤務先所属長の承諾書

(5) 健康診断書（本学所定の用紙）

(6) 検定料 10,000円

2 科目等履修を修了した者が引続き志願をするときは、前項第3号の書類並びに第6号の検定料を省略することができる。

(選考及び履修の許可)

第7条 志願者の選考は、志願者が履修を希望する授業科目の所属専攻が行い、文学研究科委員会の審議を経て、学長が科目等履修を許可する。

(履修手続)

第8条 前条の規定により科目等履修を許可された者は、所定の期日までに次の各号に掲げる書類を提出し、登録料及び受講料を納入しなければならない。

(1) 登録料 21,000円（ただし、本学の卒業生は半額、継続者は免除）

- (2) 受講料（別途定める。）
- (3) 誓約書（本学所定の用紙）
- (4) 写真
- (5) 住民票記載事項証明書（本学所定の用紙、外国人は併せて在留カードの写し又は特別永住者証明書の写し）
- (6) 履修届

（科目等履修生証の交付）

第9条 前条の規定により手続きを完了した者には、科目等履修生証を交付する。

（単位の認定）

第10条 履修した授業科目については、正規の学生に準じ、出席日数並びに担当教員の指定する試験・レポート等の学修の成果を評価のうえ、合格者に所定の単位を認定する。

（納付金の取扱い）

第11条 既納の検定料及び登録料等は、理由の如何にかかわらず返還しない。

（履修の制限）

第12条 文学研究科学生の教育研究に支障がある場合は、履修を認めない場合がある。

- 2 文学研究科学生の履修登録のない科目又は履修者無しとなった等の事由により閉講科目となったときは、当該科目の履修を取消すものとする。

（履修許可の取消）

第13条 科目等履修生が、次の各号のいずれかに該当する場合、学長は、履修許可を取消することがある。

- (1) 大学院学則又は学内諸規程、諸規則に反したとき。
- (2) 病気その他の事由により学修の見込みがないと認めたとき。
- (3) 本学の秩序を乱すと認めたとき。

（単位修得証明書及び単位成績証明書の交付）

第14条 科目等履修生は、願出により単位修得証明書及び単位成績証明書を受けることができる。

（適用除外）

第15条 他の大学院との協定等に基づく科目等履修生については、第6条及び第8条の規定を適用しない。

（規程の準用）

第16条 この規程に定めるもののほか、科目等履修生に関する事項は、大学院学則その他の学内諸規程、諸規則を準用する。

（規程の改廃）

第17条 この規程の改廃は、文学研究科委員会の審議を経て、学長が決定する。

附 則

- 1 この規程は、令和4年4月1日から施行する。

鶴見大学大学院文学研究科科目等履修生願書

年 月 日

鶴見大学長 殿

氏 名： _____ ㊞

生年月日： _____
 昭和 年 月 日
 平成

鶴見大学大学院文学研究科科目等履修生規程第6条の規定により下記のとおり授業科目の履修をしたいので、御許可くださるよう必要書類を添えてお願いいたします。

記

履 修 目 的	(詳しく書いてください。)				
履 修 希 望 授 業 科 目	曜 日	時 限	授 業 科 目 名	単 位	履 修 期 間
					年 月 日 ~ 年 月 日
					年 月 日 ~ 年 月 日
					年 月 日 ~ 年 月 日
					年 月 日 ~ 年 月 日
					年 月 日 ~ 年 月 日

鶴見大学大学院文学研究科聴講生規程

(目的)

第 1 条 この規程は、鶴見大学大学院学則（以下「学則」という。）第41条に基づき、鶴見大学大学院文学研究科聴講生（以下「聴講生」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。

2 他の大学との協定等に基づく聴講生の受け入れにあたっては、第6条、第8条、第10条の規定にかかわらず、当該協定等に基づき定められたところによる。

(出願資格)

第 2 条 聴講生として出願することができる者は、大学を卒業した者又はこれと同等以上の学力があると認められた者とする。

(聴講の科目)

第 3 条 聴講生が聴講することのできる科目は、原則として講義科目とし、当該年度開講科目とする。

2 聴講できる科目数は、年間3科目以内とする。

(受入範囲)

第 4 条 聴講生は、正規の学生の学修の妨げにならない範囲で許可する。

(聴講の期間)

第 5 条 聴講の期間は、1年とし、聴講開始は、学年の始めとする。

2 聴講期間の延長を希望する者があるときは、1年に限り、学長が聴講を認めることがある。

(出願手続)

第 6 条 聴講を志願する者は、所定の期日までに次の各号に掲げる書類に選考料を添えて願い出るものとする。

- (1) 聴講願書（本学所定用紙）
- (2) 履歴書
- (3) 最終出身学校の成績証明書及び卒業又は修了証明書
- (4) 健康診断書
- (5) 選考料 10,000 円

2 聴講期間の延長を出願をするときは、前項第3号の書類の提出及び第5号の選考料の納入を免除する。

(審査方法)

第 7 条 聴講生の審査方法は、書類審査による。

(審査及び聴講許可)

第 8 条 聴講生の審査は、当該科目担当教員が当たり、文学研究科委員会の承認を経て、学長が聴講を許可する。

(聴講手続)

第 9 条 聴講を許可された者は、所定の期日までに、次の費用の納入及び書類の提出を完了しなければならない。

- (1) 登録料 21,000 円
ただし、本学の卒業生は、半額とする。

- (2) 聴講料 10,000 円 (1 単位)
- (3) 誓約書
- (4) 社会人の場合は勤務先の所属長の承諾書
- (5) 住民票記載事項証明書 (本学所定の用紙) ただし、外国人の証明書は別に定める
- (6) 写真 2 枚 (3 か月以内に撮影したもの。タテ 4cm× ヨコ 3cm)
- (7) 履修届

2 第 5 条第 2 項による聴講期間の延長手続は、前項第 1 号の登録料の納入及び第 3 号、第 5 号及び第 6 号の書類の提出は免除する。

(聴講生証の交付)

第10条 聴講手続きを完了した者には、聴講生証を発行する。

(単位の認定)

第11条 聴講した科目の単位の認定はしない。ただし、本人の願い出により聴講証明書を交付することができる。

(聴講許可の取消)

第12条 聴講生が次の各号のいずれかに該当する場合、学長は、聴講許可を取消することがある。

- (1) 学則又は学内諸規程に反したとき
- (2) 病気その他の事由により聴講の継続が不可能になったとき

(規程の準用)

第13条 この規程に定めるもののほか、聴講生に関する事項は、学則及びその他学内規程を準用する。

(適用除外)

第14条 他の大学等との協定等に基づく聴講生については、第 6 条、第 8 条及び第 10 条の規定を適用しない。

附 則

- 1 この規程は、平成 2 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程に定めのない事項については、鶴見大学大学院学則を準用する。

附 則

この改正規程は、平成15年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この改正規程は、平成26年 4 月 1 日から施行する。

附 則

- 1 この改正規程は、平成27年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規程に定めのない事項については、鶴見大学大学院学則を準用する。

鶴見大学文学部ティーチング・アシスタント規程

(趣旨)

第 1 条 この規程は、鶴見大学(以下「本学」という。)における文学部ティーチングアシスタント(以下「TA」という。)について、必要な事項を定めるものとする。

(目的)

第 2 条 TAは、本学大学院文学研究科博士後期課程(以下「博士後期課程」という。)に在籍する優秀な学生に対し、教育的配慮の下に本学文学部学生のための補助業務を行わせ、大学教育の充実及び教育者としてのトレーニングの機会を提供するとともに、これに対する給与を支給することにより、学生の処遇改善に資することを目的とする。

(任用等)

第 3 条 TAは、原則として、博士後期課程に在籍する優秀な学生とし、本学大学院文学研究科各専攻より推薦された者を文学部教授会の審議を経て、学長が任用する。

2 TAの任用は、各専攻より2人以内とする。

3 TAの任用期間は、1年とする。ただし、再任用を妨げない。

(業務内容)

第 4 条 TAは、本学文学部学科主任(以下「学科主任」という。)の責任・指導の下に、次の文学部教育補助業務を行う。

(1) 授業に必要な教材の収集・整備

(2) 演習の指導

(3) 学生の勉学上の助言

(4) その他、学科主任が必要と認める業務

(勤務時間)

第 5 条 TAの勤務時間は、週5時間以内とする。

(給与等)

第 6 条 TAの給与等の処遇については、別に定める。

附 則

1 この規程は、平成10年4月1日から施行する。

2 この規程の改正は教授会が行う。

附 則

この改正規程は、平成27年4月1日から施行する。

鶴見大学大学院文学研究科学生への他の大学院における授業科目履修に関する取扱規程

(目的)

第 1 条 この規程は、鶴見大学大学院学則(以下「学則」という。)第 10 条第 1 項の規定に基づき、鶴見大学大学院文学研究科(以下「文学研究科」という。)学生への他の大学院における授業科目履修に関する取扱いについて、必要な事項を定めることを目的とする。

(単位を認定する学修)

第 2 条 文学研究科における授業科目の履修とみなして単位を認定する学修は、次の各号によるものとする。

- (1) 他の大学院との協議、並びに単位互換協定に基づく学修
- (2) 前項に規定するもののほか、個々の学生の意欲や関心による学修要求に基づき、当該学生の研究遂行に資するものであり、かつ、文学研究科委員会における審議により、文学研究科における履修計画に支障がないと判断された教育上有益と認められる学修

(協議)

第 3 条 前条第 1 号に規定する学修については、文学研究科長が学長の承認を得て、あらかじめ当該他の大学院と次の各号に掲げる事項について協議するものとする。

- (1) 履修対象科目及び単位数
- (2) 履修期間
- (3) 対象となる学生数
- (4) 単位の認定方法
- (5) 検定料、入学科及び授業料等費用
- (6) 学生の身分
- (7) その他必要な事項

(履修授業科目の位置付け)

第 4 条 第 2 条第 2 号に規定する学修については、他の大学院で履修することを許可した授業科目を文学研究科の授業科目に位置付けるものとする。

- 2 授業科目は、文学研究科として教育上有益な科目とし、教育課程上の位置付けに応じて次の各号により取扱うものとする。
 - (1) 必修科目についての単位認定にあたっては、他の大学院の授業科目と文学研究科の授業科目の間に、内容・水準等について一対一の対応関係がある場合に限り認定ができるものとする。
 - (2) 選択科目についての単位認定にあたっては、他の大学院の授業科目が、文学研究科の選択科目の特定の科目群の範囲内とみなせる程度の同等性がある場合には、内容・水準等について一対一の対応関係までは要しない。
 - (3) 前 2 号以外の他専攻開講科目等から学生の選択により履修するもののうち、卒業要件として一定の単位の修得が義務付けられているものについては選択科目と同様に取扱うものとし、卒業要件とはされていないものについては必ずしも文学研究科の授業科目と内容・水準について一対一の対応関係を要しない。
- 3 前項各号のいずれに位置付けるかについては、各専攻において決定するものとする。

(受入れ依頼)

第 5 条 文学研究科長は、第 2 条第 1 号の規定による他の大学院の授業科目の履修願いが出た場合は、文学研究科委員会の審議を経て、当該他の大学院の研究科長等へ受入れを依頼するものとする。

(履修許可申請手続)

第 6 条 第 2 条第 2 号の規定により、他の大学院で授業科目を履修しようとする学生は、事前に指導教授の承認を得たうえで、他の大学院の授業科目履修願書(別紙様式第 1 号)を

学長に提出しなければならない。

(履修の許可)

第7条 他の大学院の授業科目の履修の許可は、文学研究科委員会の審議を経て、学長が行う。

- 2 履修を許可された学生は、授業に関する諸事項については、当該授業科目を開講する他の大学院の指示に従うものとする。

(履修期間)

第8条 学生が、他の大学院の授業科目の履修を許可する期間は1年以内とし、当該年度を超えないものとする。

(修得単位の認定手続)

第9条 他の大学院の授業科目の履修を終了した学生は、速やかに他の大学院の授業科目単位認定申請書(別紙様式第2号)に次に掲げる書類を添えて、学長に提出しなければならない。

- (1) 単位を修得した大学院が発行した単位成績証明書又は単位修得証明書
- (2) 単位を修得した授業科目の授業計画(シラバス)の写し(A4版)
- (3) その他、各専攻が定める書類

(単位認定)

第10条 前条の提出書類による修得単位の認定は、文学研究科委員会の審議を経て、学長が行う。

- 2 前項により認定された修得単位のうち、修了要件に算入できる単位は、次の各号に掲げるとおりとする。
 - (1) 文学研究科博士前期課程においては、各専攻で定める他専攻開講科目の修得単位を含めて12単位以内とする。
 - (2) 文学研究科博士後期課程においては、次のとおりとする。
 - 日本文学専攻 12単位以内
 - 英米文学専攻 10単位以内
 - 文化財学専攻 4単位以内
 - ドキュメンテーション専攻 4単位以内

(単位認定の通知)

第11条 学長は、前条第1項の規定により認定を行った場合には、他の大学院の授業科目修得単位認定通知書(別紙様式第3号)により当該学生に通知する。

(成績評価の表示)

第12条 第10条の規定により認定した授業科目の成績評価は、第2条第1号に規定する学修については、学則第12条第1項の規定によるものとする。

- 2 第2条第2号に規定する学修については、学則第12条第1項の規定にかかわらず、「認定」として取り扱う。

(授業料の納付)

第13条 他の大学院の授業科目の履修を許可された学生は、当該期間中においても学則に規定する授業料を納付しなければならない。

(雑則)

第14条 この取扱規程に定めるもののほか、文学研究科学生の他の大学院における授業科目履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

他の大学院の授業科目履修願書

年 月 日

鶴見大学長 殿

所 属：文学研究科 専攻
 博士 課程 年

氏 名： _____ ㊞

鶴見大学大学院学則第10条第1項の規定に基づき、下記のとおり他の大学院の授業科目の履修をしたいので、許可願います。

記

履修大学院			
履修大学院における在籍身分			
履修希望授業科目	授業科目名	単位	履修期間
			年 月 日 ~ 年 月 日
			年 月 日 ~ 年 月 日
			年 月 日 ~ 年 月 日
			年 月 日 ~ 年 月 日
履修希望理由			

指導教授 _____ ㊞

備考

* 本紙は、履修大学院が複数ある場合には、履修大学院ごとに1枚に記入すること。

他の大学院の授業科目単位認定申請書

年 月 日

鶴見大学長 殿

所 属： 文学研究科 博士 課程 年

学籍番号： _____

氏 名： _____ ㊞

鶴見大学大学院学則第10条第1項の規定により本大学院における授業科目の単位として認定を受けたいので、下記により申請します。

記

単位修得 大学院	
学修期間	年 月 日 ~ 年 月 日
添付書類	1. 単位を修得した大学院が発行した単位成績証明書又は単位修得証明書 2. 単位を修得した授業科目の授業計画（シラバス）の写し（A4版）

認定を希望する既修得単位 (本大学院で開設する授業科目名及び単位数)		他の大学院において修得した授業科目名の単位			
授 業 科 目 名	単位数	授 業 科 目 名	単位数	評価	備考
合計	科目 単位	合計	科目 単位		

備 考

* 右欄に記載する授業科目等に対応させて、左欄の認定を希望する当該授業科目の授業科目名及び単位数を記入すること。

他の大学院の授業科目修得単位認定通知書

年 月 日

文学研究科 専攻

博士 課程 年

学籍番号

氏 名 殿

鶴見大学長

鶴見大学大学院学則第10条第1項の規定に基づき、下記の授業科目及び単位を本大学院において修得したものとして認定する。

認 定 す る 授 業 科 目			他の大学院において修得した授業科目及び単位数			
科目区分	授業科目名	単位数	授業科目名	単位数	評価	備考
合計		科目 単位	合計		科目 単位	

大学院文学研究科の長期履修に関する規程

(目的)

第1条 この規程は、鶴見大学大学院学則（以下「学則」という。）第6条の2に基づき、鶴見大学大学院文学研究科（以下「文学研究科」という。）における長期履修について、必要な事項を定めることを目的とする。

(対象となる学生)

第2条 長期履修を申し出ることができる者は、文学研究科の在学生及び入学予定者で、学則第6条に規定する標準修業年限（以下「標準修業年限」という。）を超える一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し修了することを希望し、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- (1) 職業を有する者（正規雇用・臨時雇用は問わない。ただし、単発的なアルバイトは除く。）で、職務上の事情により、標準修業年限で修了することが困難な者
- (2) 育児、介護等により、標準修業年限で修了することが困難な者
- (3) その他やむを得ない事情により、標準修業年限で修了することが困難であると学長が認めた者

(長期履修の期間等)

第3条 長期履修の期間（以下「長期履修期間」という。）は、前期課程4年、後期課程6年を限度とする。ただし、休学期間は在学期間に算入しない。

2 学則第14条の規定にかかわらず、長期履修を許可された者（以下「長期履修生」という。）の修了に必要な在学期間は、許可された長期履修期間とする。

(申請)

第4条 長期履修を希望する者は、所定の期間内に所定の申請書類等を学長に提出しなければならない。ただし、修了する予定の学年時における申請は認めない。

(許可等)

第5条 前条の規定による申請の許可は、文学研究科委員会の審議を経て、学長が決定する。

2 長期履修を許可した場合は、長期履修許可書により通知する。

(長期履修の期間の変更等)

第6条 長期履修期間の変更または長期履修の辞退（以下「期間の変更または履修の辞退」という。）は、長期履修生として入学した者についてのみ、1年単位での申請を受け付ける。

2 前項の規定に基づく申請を希望する者は、期間の変更または履修の辞退を希望する前年度の2月末日までに所定の申請書類等を学長に提出しなければならない。ただし、修了する予定の学年時における変更等は認めない。

3 前項の規定による申請の許可は、文学研究科委員会の審議を経て、学長が決定する。

4 期間の変更または履修の辞退を許可した場合は、変更許可書または辞退許可書により通知する。

(学納金等)

第7条 長期履修を許可された者は所定の期間内に学納金等を納入しなければならない。なお、学納金等については、別に定める。

2 前条第3項の規定により許可された者は、変更後の長期履修期間に応じた学納金等を納入しなければならない。

3 許可された長期履修期間を超えた場合の学納金等は、一般の学生と同様の金額を適用する。

(その他の事項)

第8条 この規程に定めるもののほか、長期履修に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

ただし、平成30年度入学生並びに平成30年度在学生より適用する。

《履修登録の手引き》

履修登録について

その年度の授業を受けるためには、学生は学年始めの所定の期間に履修登録を完了しなければなりません。

この手続きを行わない場合は、その年度の履修が認められず、たとえ授業を受けていても試験を受ける資格がありません。したがって単位も認定されません。

このように履修登録は、非常に重要な手続きですので間違いのないように登録期間内に必ず手続きを完了してください。

※履修科目の登録について、履修要項の6（文学部）、205（文学研究科博士前期課程）、212（文学研究科博士後期課程）ページに注意事項が記載されていますので熟読してください。

履修登録完了までの手順

1. 履修登録の準備



2. Web 履修登録説明会（新入学生は必須。それ以外の学生は希望者のみ。）



3. 人数制限科目の Web 履修登録（文学部学生のみ） ※P246参照



4. 人数制限科目以外のすべての科目の Web 履修登録 ※P249参照

4月5日（火）～12日（火）16時（時間厳守）までの間に登録及び修正を行う。



5. 履修登録確認表の配布および確認 ※P250参照

4月14日（木）～20日（水）の9時～18時（土曜は9時～13時）の間に文学部教務課で履修登録確認表を受け取り確認する。受け取りの際には学生証を提示すること。



6. 指導教授の承認（文学研究科生のみ）

履修登録確認表を指導教授まで持参し、承認の署名・捺印をいただく。その後、履修登録確認表を文学部教務課へ提出する。（4月20日（水）16時まで）



7. 履修登録完了

1. 履修登録の準備

(1) 履修登録に必要なもの

- ① 履修要項
- ② 授業時間割
- ③ クラス区分表（文学部1年生のみ）
- ④ 授業概要(web)

(2) 履修登録の準備・手順

① 履修科目の選択

履修要項を熟読のうえ、科目や単位の履修方法をよく確認しながら履修計画をたて、履修する科目を選択します。

文学部学生は特に、学年・指定クラスで履修する科目、必修科目、各資格取得に必要な科目に注意してください。

授業内容については「授業概要」を参照してください。(鶴見大学ポータルシステム・大学のホームページから閲覧できます。)

② 各自時間割表の作成

授業時間割の曜日・時限・科目担当教員等を確認しながら、各自時間割表を作成してください。

※4月の履修登録時に、前期・後期・通年・集中科目すべての科目の登録を行いますので、注意してください。

2. Web 履修登録説明会

下記の日程で Web 履修登録説明会を開催しますので必ず出席してください。

学科・学年	日時	教室
日本文学科1年生	4月1日(金) 16:20～17:20	301・302・402
英語英米文学科1年生	4月1日(金) 14:50～15:50	301・302・402
文化財学科1年生	4月1日(金) 13:20～14:20	301・302
ドキュメンテーション学科1年生	4月1日(金) 13:20～14:20	402・403
全学科2年生～4年生(希望者のみ)	4月4日(月) 15:00～16:00	403
大学院文学研究科1年生及び大学院文学研究科(博士前期課程2年生、博士後期課程2・3年生希望者)	4月4日(月) 15:00～16:00	403

3. 人数制限科目のWeb 履修登録(文学部学生のみ)

授業科目の中には各クラスの定員が設けられ、これを超える履修希望者があった場合、コンピュータによる抽選によって履修者を決定する科目(人数制限科目)があります。人数制限科目の履修を希望する場合は以下の手順に従って登録してください。なお、登録の結果、履修が認められた科目の変更・取り消しは一切できませんので注意してください。

登録・確認については、インターネットに接続できるパソコンがあればどこでも可能です。なお、教室に設置しているパソコンを使用する場合は、授業などで使用していない時間に限りしますので注意してください。

- ① 人数制限科目の履修登録
登録の期間：3月28日(月)9時～4月1日(金)18時まで(時間厳守)
※ただし、1年生については、オリエンテーション時に説明をします。
- ② コンピュータによる抽選処理(文学部教務課が行います。)
- ③ 登録結果発表
4月2日(土)9時より Web上で確認してください。
- ④ 再登録
抽選の結果、定員に満たない科目の中より Web上で再登録することができます。
再登録の期間：4月2日(土)9時～12時(時間厳守)
- ⑤ 再登録結果発表
4月4日(月)9時より Web上で確認してください。
- ⑥ 再々登録
再登録の結果、さらに定員に満たない科目がある場合には、Web上で再々登録することができます。
再々登録の期間：4月4日(月)9時～16時(時間厳守)
結果については、4月5日(火)9時より Web上で確認してください。
- ⑦ 上記の①～⑥の手続きにより人数制限科目の登録が完了します。
なお、定員に満たない科目については、人数制限科目以外の科目の履修登録期間内に Web上にて、先着順で追加履修登録を受け付けます。(先着順での追加登録は、一度履修登録の操作をすると、履修が決定し、取り消せません)

《注意事項》

※ 人数制限科目の登録手続完了後の変更・取消は一切認められません。

人数制限科目 一覧表

《全学科》

〈1年生〉(共通科目)	
キャリア形成論	(a)(b)各80名
表象文化論Ⅲ	30名
〈2年生〉(共通科目)	
キャリアスキル演習Ⅲ	(a)(b)各50名
キャリアスキル演習Ⅳ	70名
生涯スポーツⅠ	60名
生涯スポーツⅡ	60名
〈2年生〉(資格科目)	
視聴覚教育	40名
教育の方法と技術	(a)(b)各40名
〈3年生〉(資格科目)	
情報サービス演習Ⅰ	30名
情報サービス演習Ⅱ	30名

《日本文学科・英語英米文学科・文化財学科》

〈2年生〉（共通科目）	
情報リテラシーⅡ	(a)(b) 各 40 名
〈2年生〉（資格科目）	
情報資源組織演習Ⅰ	(a)(b) 各 40 名
情報資源組織演習Ⅱ	(a)(b) 各 40 名

《日本文学科》

〈2年生〉（選択B群）	
国文学演習 上代・中古Ⅰ / 国文学演習（上代・中古）Ⅰ	30 名
国文学演習 上代・中古Ⅱ / 国文学演習（上代・中古）Ⅱ	30 名
国文学演習 上代・中古Ⅲ / 国文学演習（上代・中古）Ⅲ	30 名
国文学演習 中世・近世Ⅰ / 国文学演習（中世・近世）Ⅰ	30 名
国文学演習 中世・近世Ⅱ / 国文学演習（中世・近世）Ⅱ	30 名
国文学演習 中世・近世Ⅲ / 国文学演習（中世・近世）Ⅲ	30 名
国文学演習 近代Ⅱ / 国文学演習（近代）Ⅱ	30 名
国文学演習 近代Ⅲ / 国文学演習（近代）Ⅲ	30 名
国文学演習 近代Ⅳ	30 名
日本語学演習Ⅰ	30 名
日本語学演習Ⅱ	30 名
国文法演習	30 名
漢文学演習	30 名
〈3年生〉（選択C群）	
中国文学演習	30 名

《英語英米文学科》

〈1年生〉（選択B群）	
英文法 A	(a)(b) 各 40 名
英文法 B	(a)(b) 各 40 名
〈2年生〉（選択B群）	
コミュニケーション・スキルⅠA	(a)(b) 各 30 名
コミュニケーション・スキルⅠB	(a)(b) 各 30 名
リーディング・スキル A	(a)(b) 各 40 名
リーディング・スキル B	(a)(b) 各 40 名
プレゼンテーション・スキル A	20 名
プレゼンテーション・スキル B	20 名
ライティング・スキルA/ エッセイ・ライティング A	(a)(b)(c) 各 25 名
ライティング・スキルB/ エッセイ・ライティング B	(a)(b)(c) 各 25 名
ビジネス・ライティング A	(a)(b) 各 35 名
ビジネス・ライティング B	(a)(b) 各 35 名
英語音声学 A	(a)(b) 各 40 名

英語音声学 B	(a)(b) 各 40 名
スクリーン・イングリッシュ A	35 名
スクリーン・イングリッシュ B	35 名
〈3 年生〉（選択 B 群）	
翻訳演習 A	35 名
翻訳演習 B	35 名
コミュニケーション・スキル II A	(a)(b) 各 30 名
コミュニケーション・スキル II B	(a)(b) 各 30 名

《ドキュメンテーション学科》

〈2 年生〉（選択科目）	
プログラミング概論	24 名
書誌学基礎演習	(a)(b) 各 30 名
情報サービス演習 I	(a)(b)(c) 各 30 名
ドキュメント処理演習 I	(a)(b)(c) 各 30 名
ドキュメント処理演習 II	(a)(b)(c) 各 30 名
情報サービス演習 II	(a)(b)(c) 各 30 名
プレゼンテーション演習	(a)(b) 各 30 名
〈3・4 年生〉（選択科目）	
古写本演習	18 名
古版本演習	18 名
ビジネス・ライティング A	(a)(b) 各 35 名
ビジネス・ライティング B	(a)(b) 各 35 名
情報システム演習	18 名

4. 人数制限科目以外のすべての科目のWeb履修登録

履修登録の準備を経て各自決定した本年度履修科目（人数制限科目を除く）を、指定された期間内にWeb履修登録をします。

登録・確認については、インターネットに接続しているパソコンがあればどこでも可能です。なお、本学の教室に設置しているパソコンを使用する場合は、授業などで使用していない時間に限りしますので注意してください。

履修登録期間（修正を含む）：4月5日（火）～12日（火）16時まで（時間厳守）

※一部人数制限科目を含む。

〈文学部学生・文学研究科生〉

※ 特別な事由により、指定された期間内にWeb履修登録ができない場合は、事前に教務課へ連絡し、指示を受けてください。

※ 人数制限科目以外の登録は所定の期間内であれば自由に履修登録の変更ができます。ただし、それ以後の追加・変更・修正は一切できませんので注意してください。

〈文学部学生のみ〉

※ 履修中止について

正当な理由がある場合、履修中止が認められることがあります。通年・前期・集中科目については4月14日(木)～4月20日(水)の期間内に、後期科目及び後期開講の集中科目については9月22日(木)～9月27日(火)の期間内に文学部教務課へ申し出をしてください。

※ 後期科目の修正について

後期開講科目については、下記の表のとおり修正を受け付けます。修正を希望する学生は9月9日(金)～9月21日(水)の期間内に文学部教務課へ申し出をしてください。

理 由	修正可能科目数
前期成績発表の結果、卒業、資格取得に支障のある場合	卒業、資格取得条件を充足するまで修正できる 修正後、さらに2科目まで修正できる
上記以外の場合	追加のみの場合2科目まで 削除のみの場合2科目まで 削除と追加をする場合は各1科目

※ 履修登録単位数の上限(履修要項6ページを参照)を超えての修正はできません。

※ 人数制限科目等、修正の認められない科目もあります。

5. 履修登録確認表の配布および確認

「履修登録確認表」は、Web履修登録された科目の一覧表として交付されます。

学生は、必ずこの「履修登録確認表」を受取り、履修登録した科目と「履修登録確認表」に記載された科目とを照合し、誤りがないかを確認してください。(特に、曜日・時限・担当者・開講期に注意すること。)

配布および確認：4月14日(木)～4月20日(水)9時～18時(土曜は9時から13時)

「履修登録確認表」の確認を怠り、誤りをそのままにしておくとその科目の履修が無効となり卒業や資格取得に重大な支障をきたすことになります。十分注意してください。

6. 履修登録完了

履修登録確認表の確認の結果、間違いがない場合は本年度の履修登録は完了です。

Web履修登録・資格申請・成績照会の 操作方法

履修登録に関する注意

- 履修登録は4月の履修登録期間に1年分(前期・後期・通年・集中)の科目を登録する。
- 指定クラスで履修する科目は必ず指定されたクラスに登録する。
- 集中講義は、別画面で登録するので注意する。

履修登録・資格申請・成績照会は、インターネットに接続しているパソコンを使用し、Web上で行います。

- ① 本学ホームページを開き、「**キャンパスライフ**」をクリックする。



② 「鶴見大学ポータルシステム」をクリックする。



③ さらに「鶴見大学ポータルシステム」をクリックする。



③ 「履修登録・登録状況照会」をクリックする。



④ ③をクリックすると、「連絡先情報等登録」が表示される。

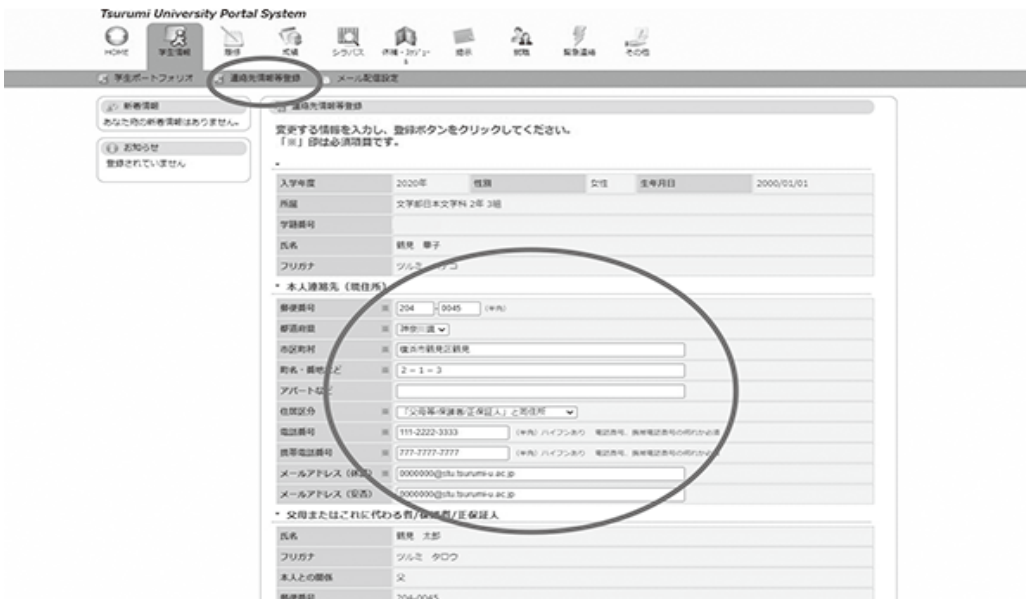
入力項目に変更がある場合には、変更内容を入力する。（一部学生は必須項目が空欄となっているので、入力する。）

入力が完了したら、画面最下部の登録ボタンをクリックする。

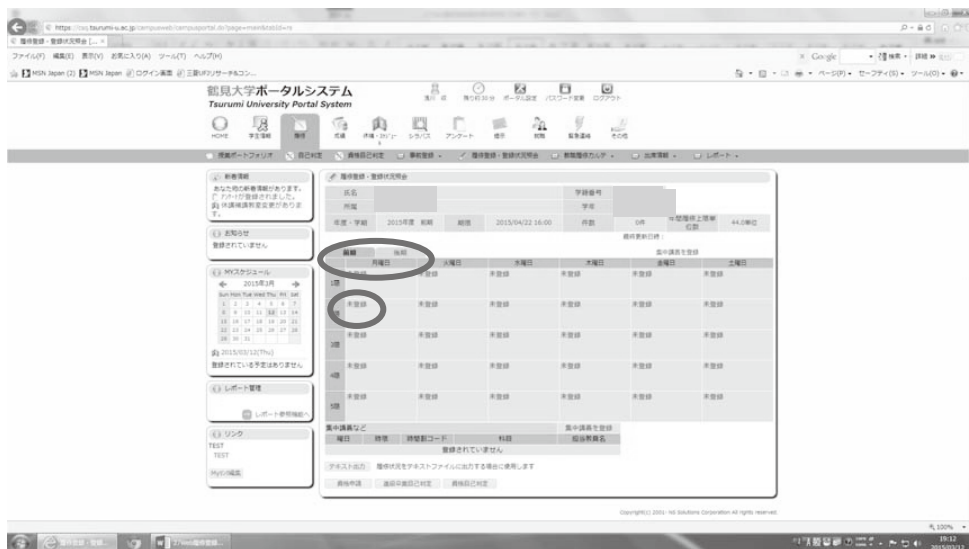
この登録が完了しないと、履修登録画面は表示されません。

※表示のみの項目に変更がある場合には、教務課に変更届を提出してください。

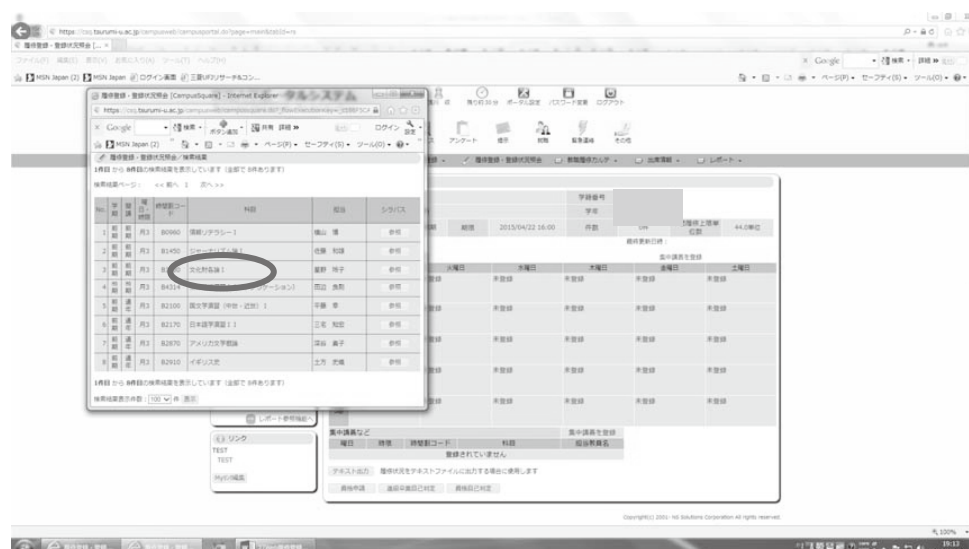
※登録完了後も履修登録期間中は、連絡先情報等登録から入力内容の変更が可能です。



- ⑤ 「履修登録・履修登録照会」の画面から1年間履修する講義を登録する。
 通年科目と前期科目は、「前期」のタグから登録し、次に「後期」のタグから後期で履修する講義を登録する。
 講義を登録するときは、登録する講義の曜日・時間の枠にある「未登録」をクリックする。



- ⑥ 「未登録」をクリックすると当該時間に開講されている講義が別ウィンドウに表示されるので、履修を希望する講義を選択し、「科目欄」にある「講義名」をクリックする。



⑦ 登録した講義が表示される。

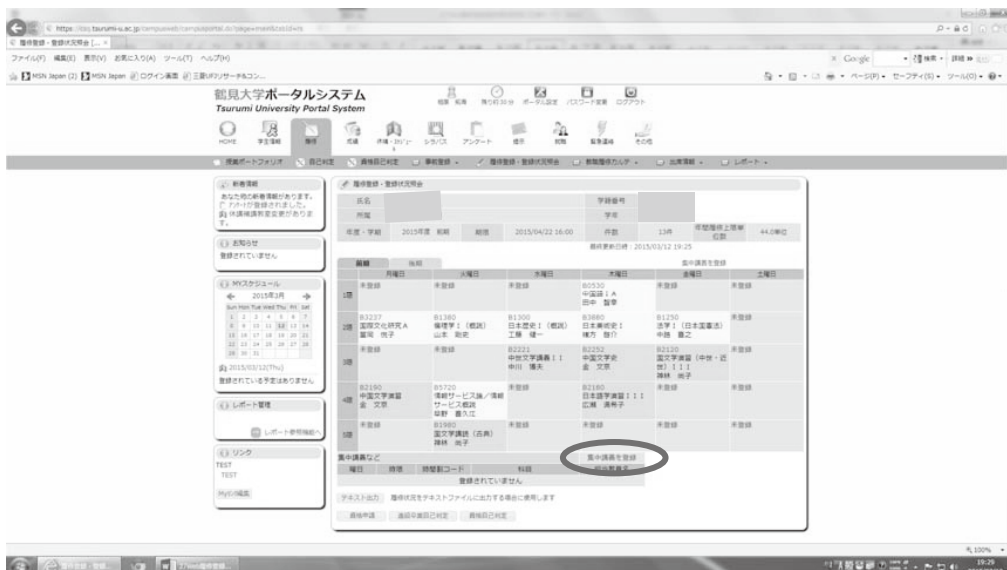
登録するすべての講義について、この作業を繰り返す。

The screenshot shows the Tsurumi University Portal System interface. The main content area displays a table of course registration information. The table has columns for '講義' (Course), '曜日' (Day), '学期' (Semester), '年次' (Year), '科目' (Subject), '単位数' (Credits), and '登録' (Register). The course '文化社会論Ⅰ' (Cultural and Social Studies I) is highlighted, and the '登録' button is circled in red. Below the table, there are sections for '其中講義など' (Among other courses) and 'アカウント能力' (Account capabilities).

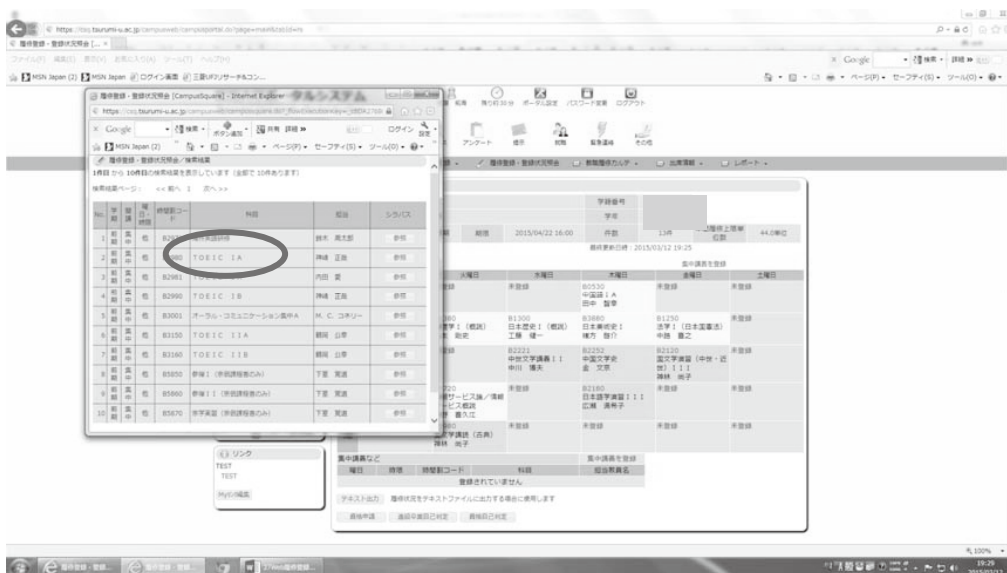
講義	曜日	学期	年次	科目	単位数	登録
1講	水曜日	1学期	1年次	文化社会論Ⅰ	4.0	登録
2講	木曜日	1学期	1年次	文化社会論Ⅱ	4.0	登録
3講	金曜日	1学期	1年次	文化社会論Ⅲ	4.0	登録
4講	土曜日	1学期	1年次	文化社会論Ⅳ	4.0	登録
5講	日曜日	1学期	1年次	文化社会論Ⅴ	4.0	登録

集中講義の登録

① 「集中講義」を履修する場合は、欄外の「集中講義を登録」をクリックする。



② 開講される講義一覧が別ウィンドウで表示されるので、履修を希望する集中講義をクリックする。
集中講義を複数履修する場合は、この作業を繰り返す。



③ 登録した集中講義が表示される。

The screenshot shows the '登録済み・登録待ち授業' (Registered/Waiting for Registration Courses) page. The page includes a navigation menu, a sidebar with utility links, and a main content area with a table of course details. A red circle highlights the '集中講義' (Concentration Course) section at the bottom of the page.

年次・学期	2015年度 前期	2015/04/22 16:00	科目	1408	可能単位上限	44.0単位
登録	待機	登録	登録	登録	登録	登録
月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
非登録	非登録	非登録	02030 中国語ⅠA 田中 登孝	非登録	非登録	非登録
01207 国際文化研究A 富岡 尚子	01300 倫理学Ⅰ(概説) 山本 聡史	01300 日本史Ⅰ(概説) 工藤 健一	01605 日本憲法史Ⅰ 鎌方 登行	01200 数学Ⅰ(日本実数) 中野 謙之	01200 数学Ⅰ(日本実数) 中野 謙之	非登録
非登録	非登録	02221 現代文学講義Ⅰ 中川 博夫	02252 学芸文学史 斎 文京	02100 国文学講義(中世・近世) 111 藤村 尚子	02100 国文学講義(中世・近世) 111 藤村 尚子	非登録
02100 国文学講義(中世・近世) 斎 文京	02720 情報メディア論・演習 藤野 豊久江	非登録	02180 日本語学講義ⅠⅠ 広嶋 長寿子	非登録	非登録	非登録
非登録	02900 国文学講義(古典) 藤村 尚子	非登録	非登録	非登録	非登録	非登録
科目	講義	講義	科目	科目	科目	科目
その他	その他	02900	T O E I C	I B	講義	正論

登録済みの集中講義は、登録待ちの授業と表示されます。

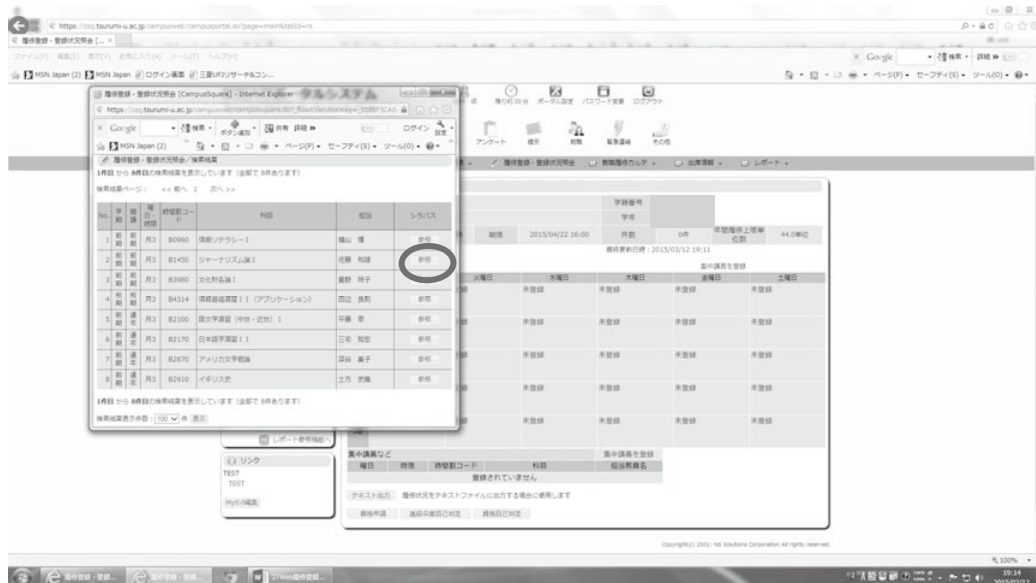
登録待ちの授業は、登録待ちの授業と表示されます。

登録済みの集中講義は、登録待ちの授業と表示されます。

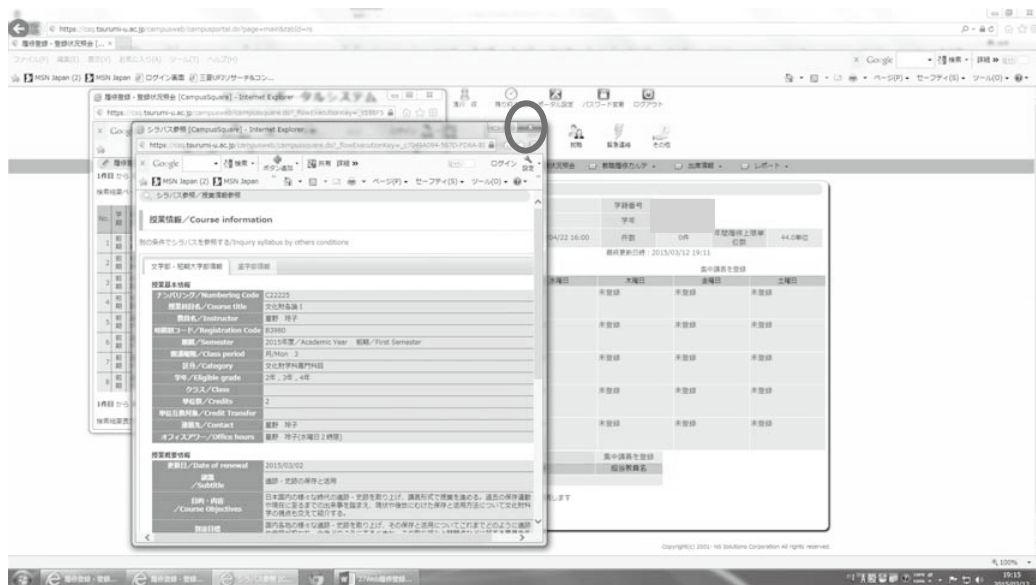
登録待ちの授業は、登録待ちの授業と表示されます。

シラバスの参照

- ① 登録のために講義内容を知りたい場合、シラバスを参照することができる。
希望する曜日の「未登録」をクリックし、「履修登録・登録状況照会／検索結果」を表示する。
科目一覧の右側にある「シラバス」欄の「参照」をクリックする。

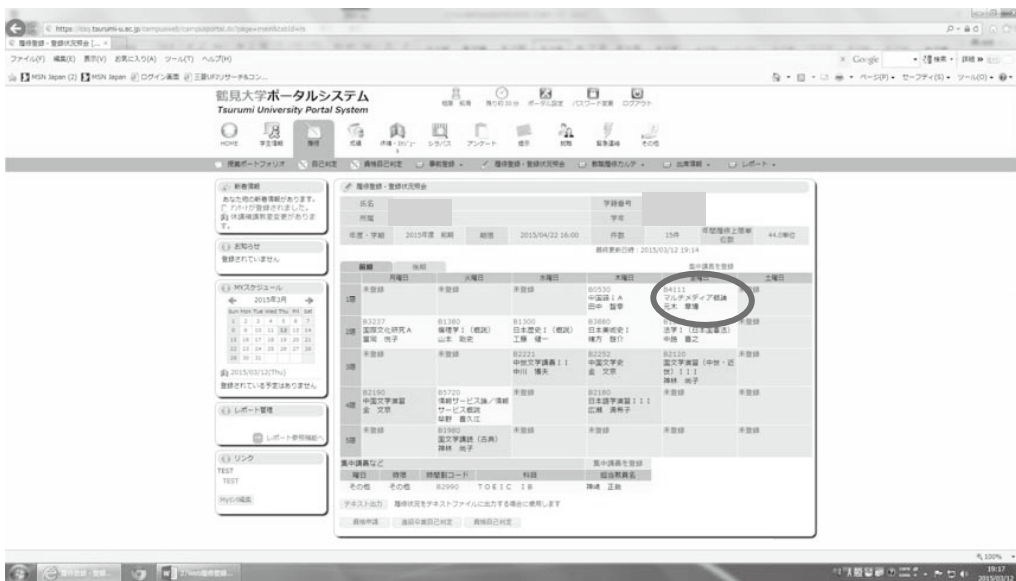


- ② 科目内容が別ウィンドウに表示されるので、授業内容を確認する。シラバスのウィンドウを閉じるときは右上の「×」をクリックする。

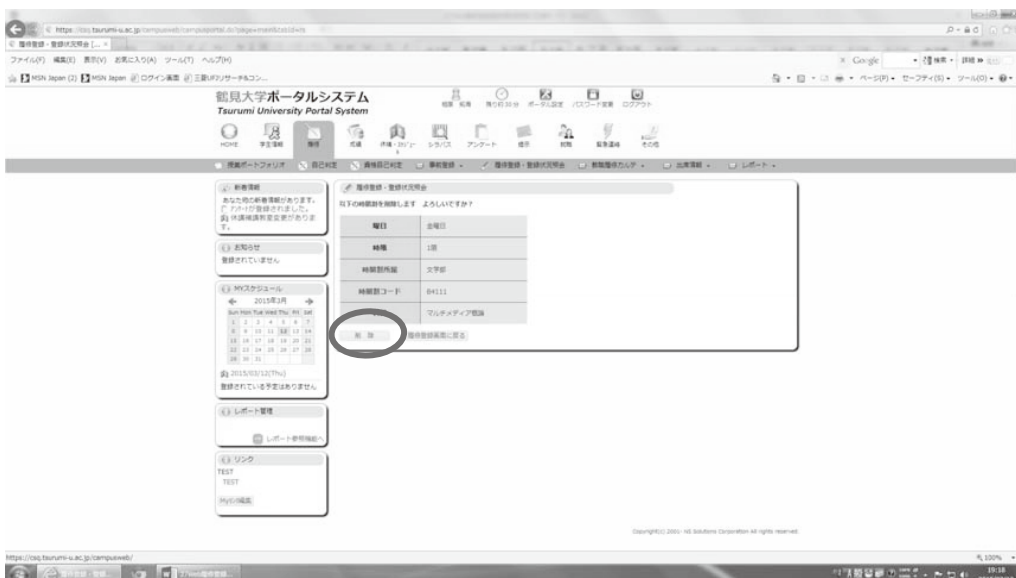


登録講義の削除

- ① 一度登録した講義を削除する場合、当該講義が表示されている枠の左上にある講義コード（Bで始まる4桁の数字）をクリックする。



- ② 削除する講義の詳細が表示される。
 削除する講義の開講曜日講時間、講義名を確認した後、左下の「削除」をクリックする。
 ※削除しない場合は、「削除」の右側にある「履修画面に戻る」をクリックする。



- ③ 「削除」をクリックすると、「**削除してもよろしいですか**」のメッセージボックスが表示されるので、再度削除する講義の開講曜日、講時間、講義名を確認し、メッセージボックスの左下にある「**OK**」をクリックする。

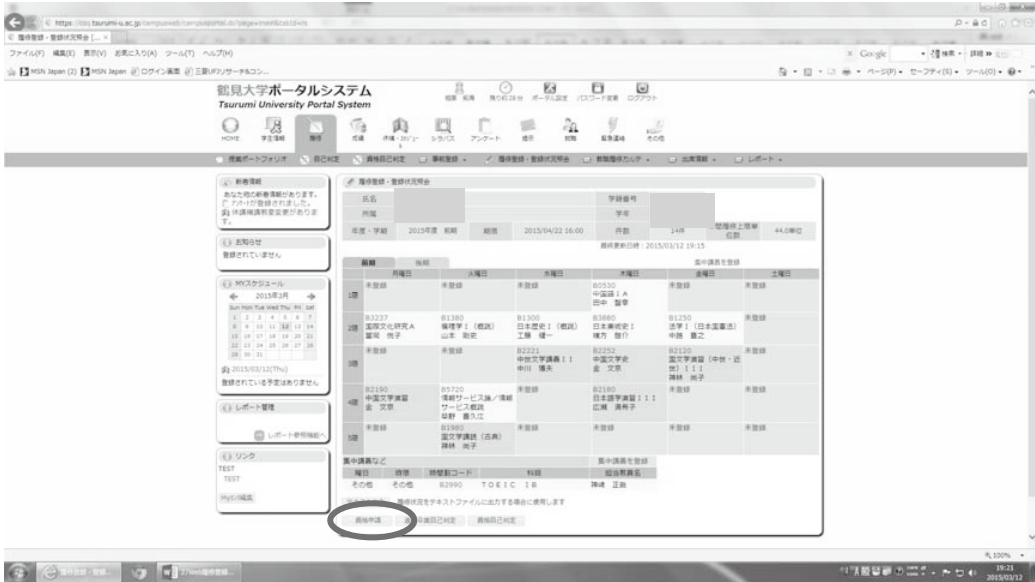


- ④ 削除された時間枠が空欄になる。



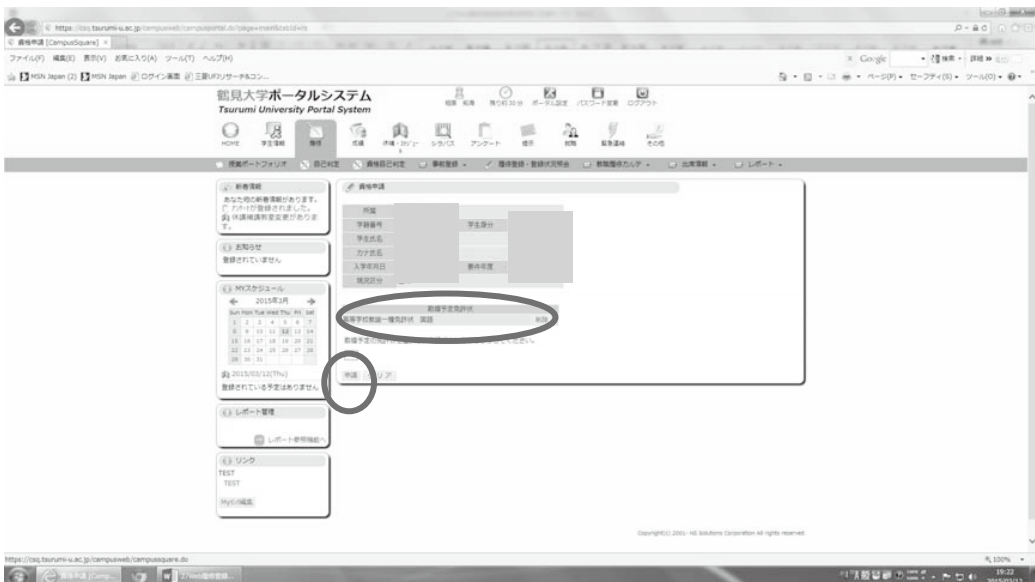
資格の申請

- ① 取得したい資格がある場合には、「履修登録・履修登録照会」の画面の下にある「資格申請」をクリックする。



- ② 「資格申請」の画面を表示すると、2年生以上の場合、すでに登録済みの資格が表示される。新しく資格を登録する場合、**v** をクリックすると各種資格が表示される。希望する資格を選択し「申請」をクリックすると、「取得予定免許状」として表示される。

※各種資格の一覧を表示したもの、選択しない場合は「クリア」をクリックする。



- ③ 登録が終了したら、「履修登録・登録状況照会」をクリックすると、「履修登録・履修登録照会」の画面にもどる。



※注意

登録した資格を中止する場合は、必ず教務課の窓口に応じ出すこと。

卒業所要単位の確認

- ① 卒業するために必要な単位数、不足している単位数を確認できる。
 確認するときは「履修登録、登録状況照会」下にある「**進級卒業自己判定**」をクリックする。

The screenshot shows the '進級卒業自己判定' (Self-judgment of advancement and graduation) page. The page displays student information and a table of course registration status. The '進級卒業自己判定' button is circled in red.

履修	科目	単位数	履修状況	単位数	履修状況	単位数	履修状況	単位数	履修状況
1	英語 I	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
2	英語 II	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
3	英語 III	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
4	英語 IV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
5	英語 V	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
6	英語 VI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
7	英語 VII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
8	英語 VIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
9	英語 IX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
10	英語 X	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
11	英語 XI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
12	英語 XII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
13	英語 XIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
14	英語 XIV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
15	英語 XV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
16	英語 XVI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
17	英語 XVII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
18	英語 XVIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
19	英語 XIX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
20	英語 XX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
21	英語 XXI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
22	英語 XXII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
23	英語 XXIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
24	英語 XXIV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
25	英語 XXV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
26	英語 XXVI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
27	英語 XXVII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
28	英語 XXVIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
29	英語 XXIX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
30	英語 XXX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済



- ② 「判定」をクリックすると、履修登録した現在の状況が確認できる。

The screenshot shows the '判定' (Judgment) page. The page displays student information and a table of course registration status. The '判定' button is circled in red.

履修	科目	単位数	履修状況	単位数	履修状況	単位数	履修状況	単位数	履修状況
1	英語 I	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
2	英語 II	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
3	英語 III	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
4	英語 IV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
5	英語 V	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
6	英語 VI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
7	英語 VII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
8	英語 VIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
9	英語 IX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
10	英語 X	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
11	英語 XI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
12	英語 XII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
13	英語 XIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
14	英語 XIV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
15	英語 XV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
16	英語 XVI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
17	英語 XVII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
18	英語 XVIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
19	英語 XIX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
20	英語 XX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
21	英語 XXI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
22	英語 XXII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
23	英語 XXIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
24	英語 XXIV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
25	英語 XXV	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
26	英語 XXVI	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
27	英語 XXVII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
28	英語 XXVIII	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
29	英語 XXIX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済
30	英語 XXX	5	履修済	5	履修済	5	履修済	5	履修済

成績照会

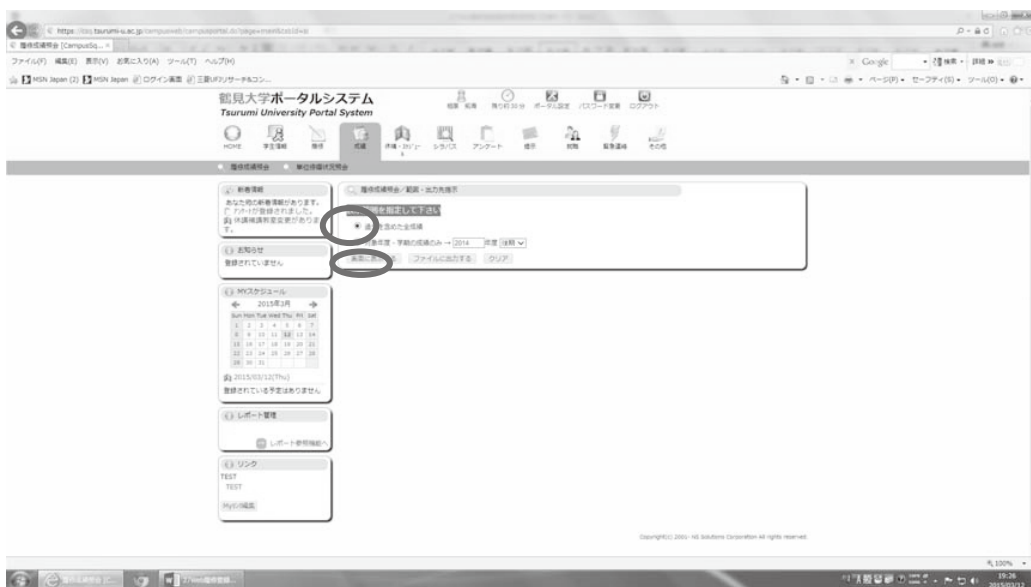
履修登録期間中に限り、自身の成績をWeb上で照会できる。

① 「成績」をクリックする。



② 「成績」をクリックし、成績を表示する範囲を選択する。

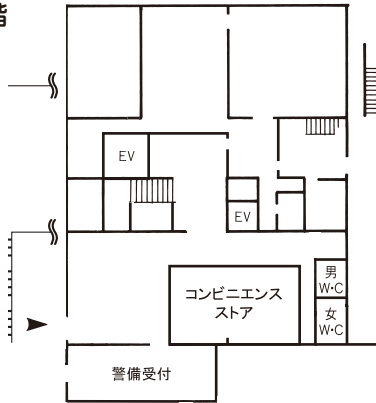
「過去を含めた全成績」または、「特定の学年・学期の成績」のみを表示するかを選択し、下段にある「画面を表示する」をクリックすると、指定した範囲の成績が表示される。



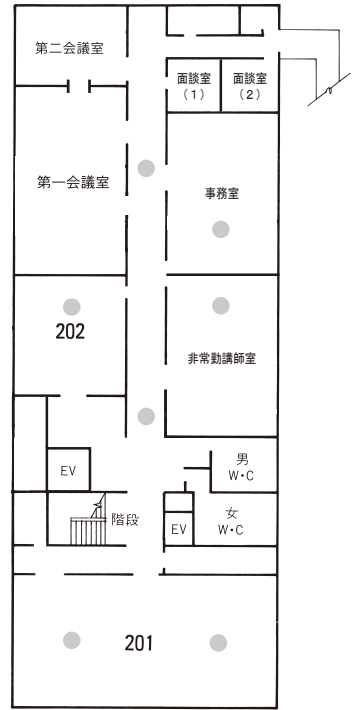
《教室等配置図》

1 号 館

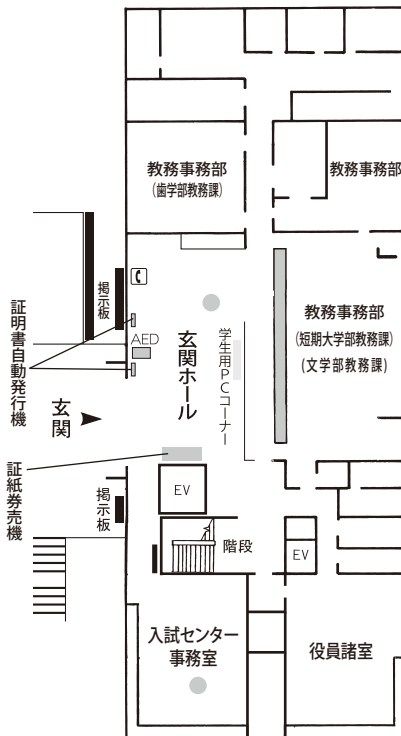
地下1階



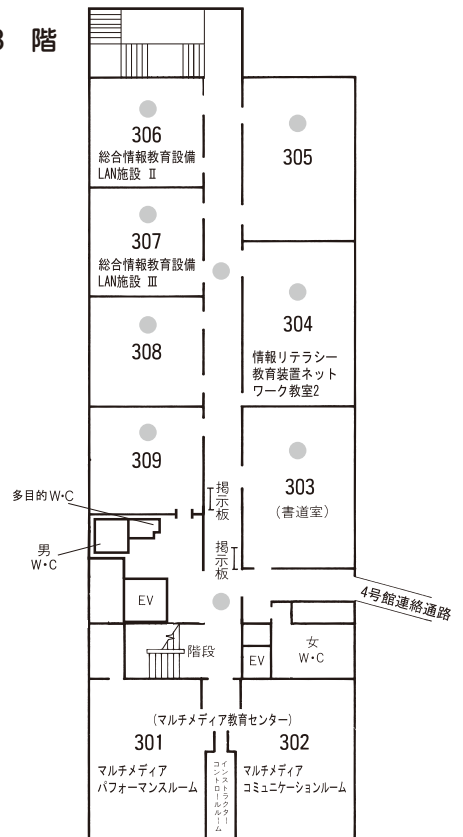
2 階



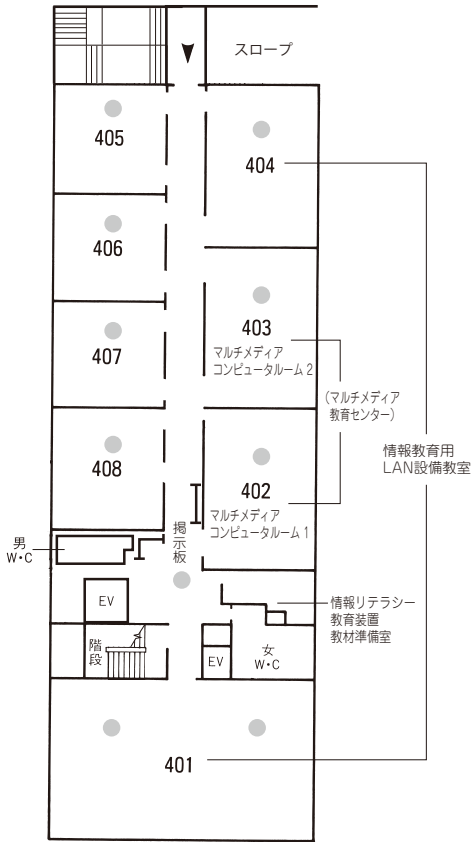
1 階



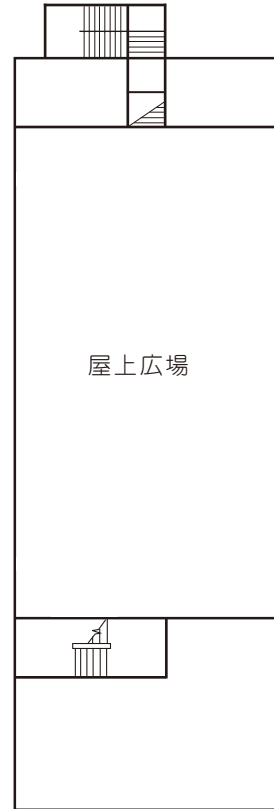
3 階



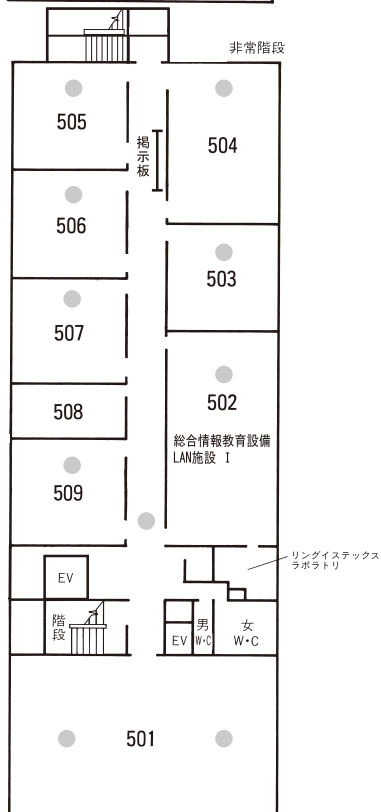
4 階



屋上

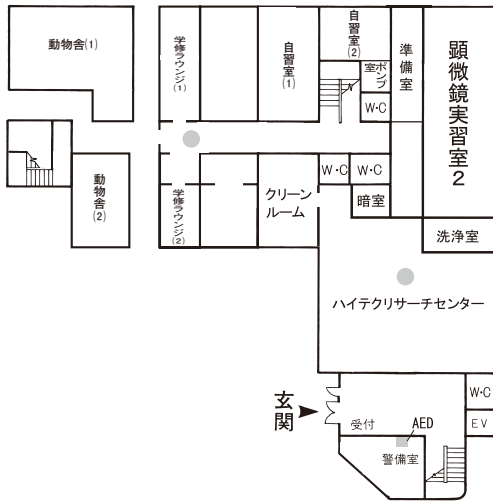


5 階

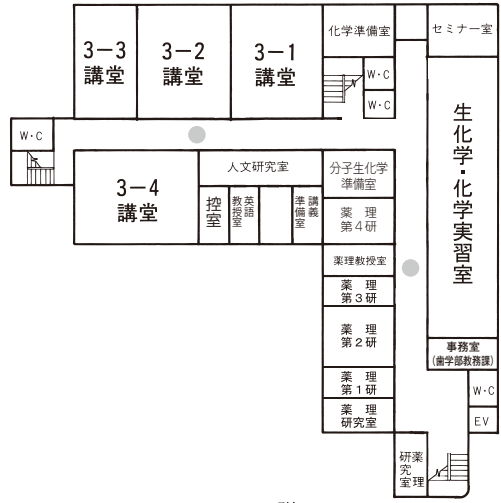


3 号 館

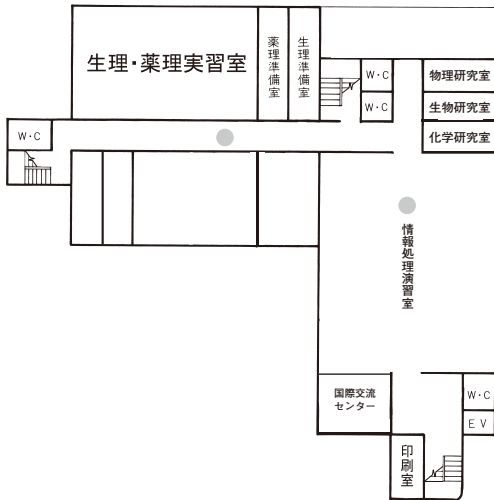
1 階



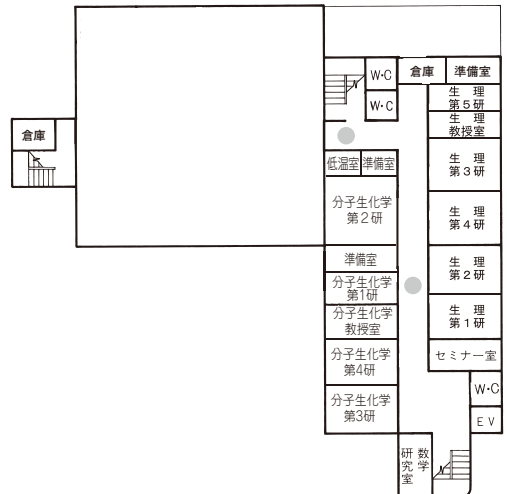
2 階



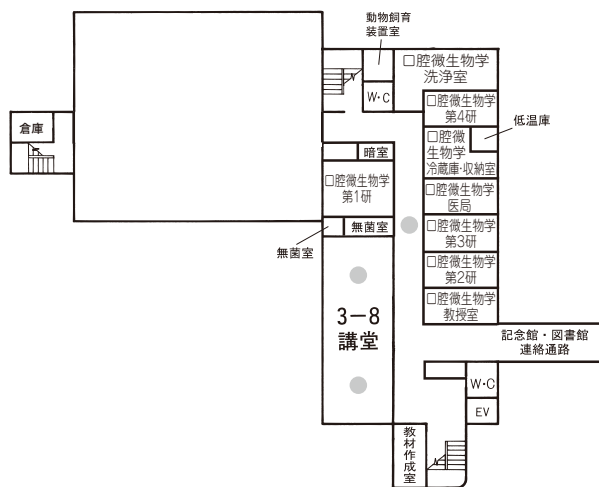
3 階



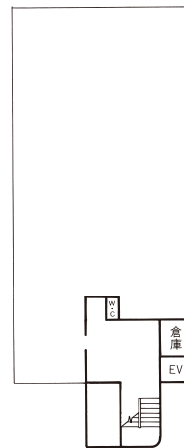
4 階



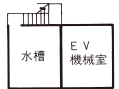
5 階



塔屋1階



塔屋3階

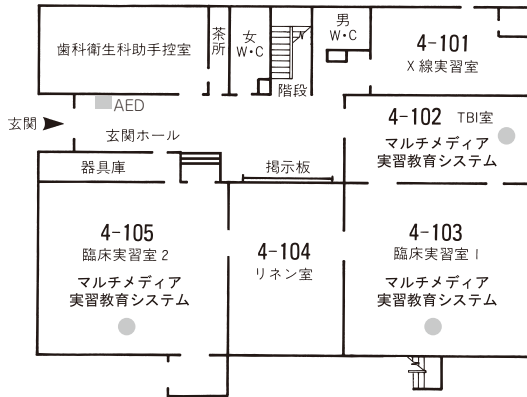


塔屋2階

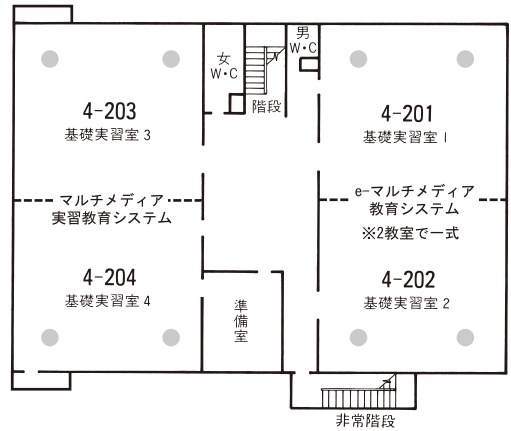


4号館

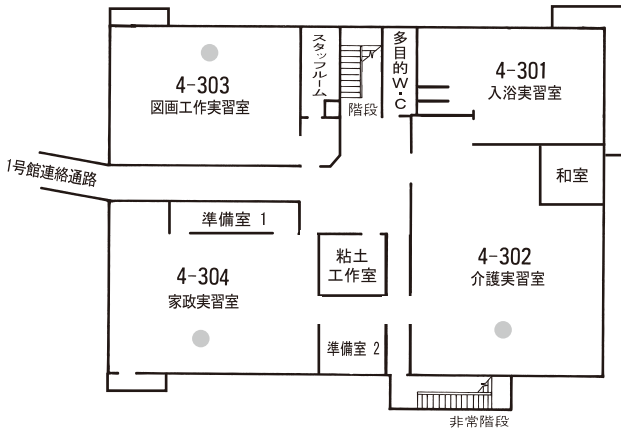
1階



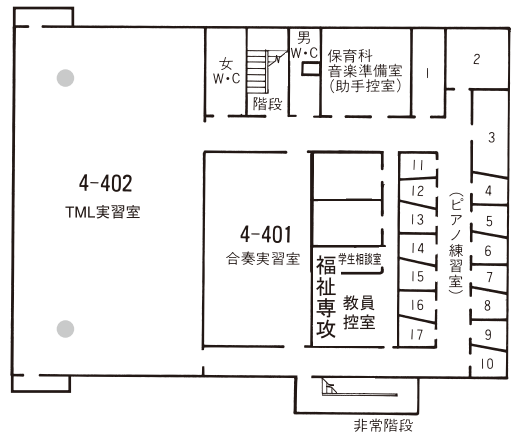
2階



3階

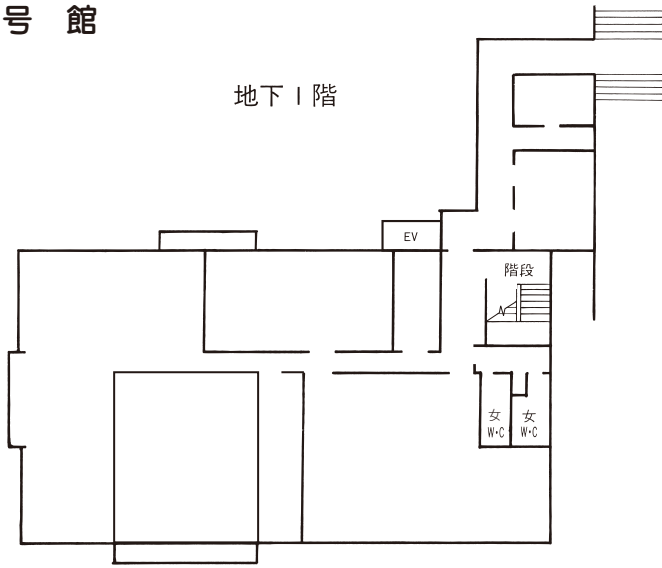


4階

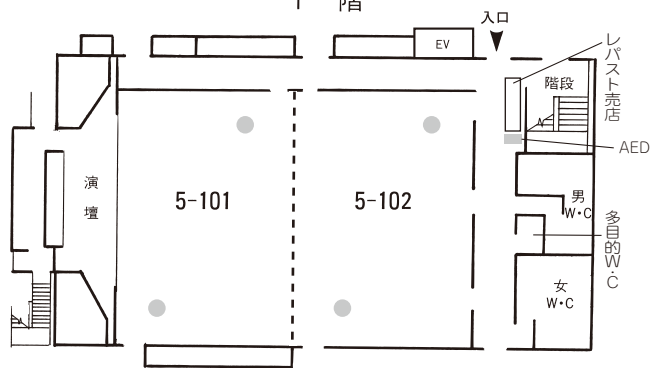


5 号 館

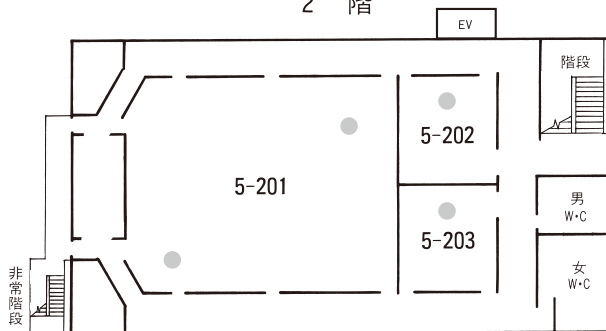
地下 1 階



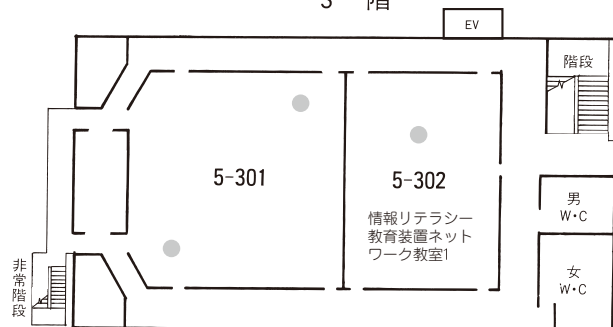
1 階



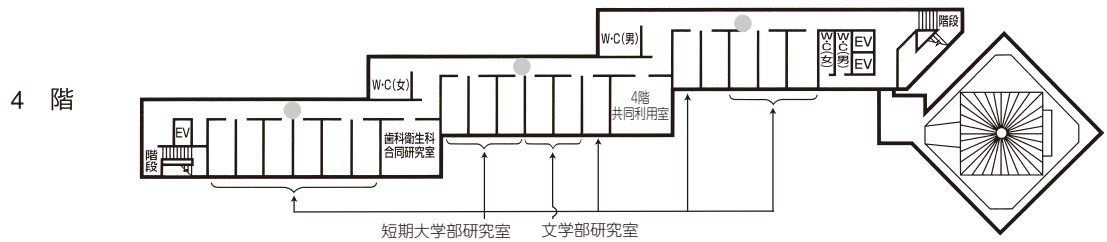
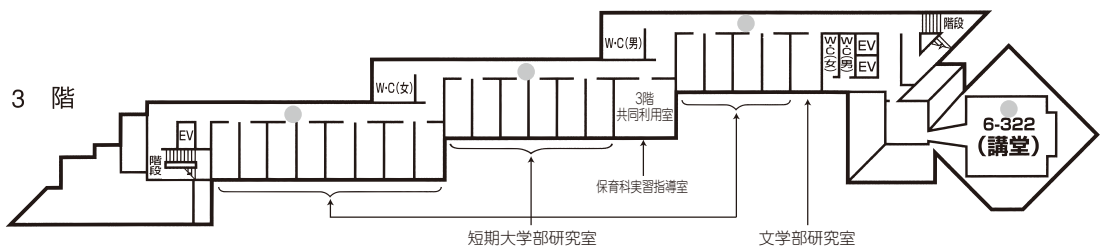
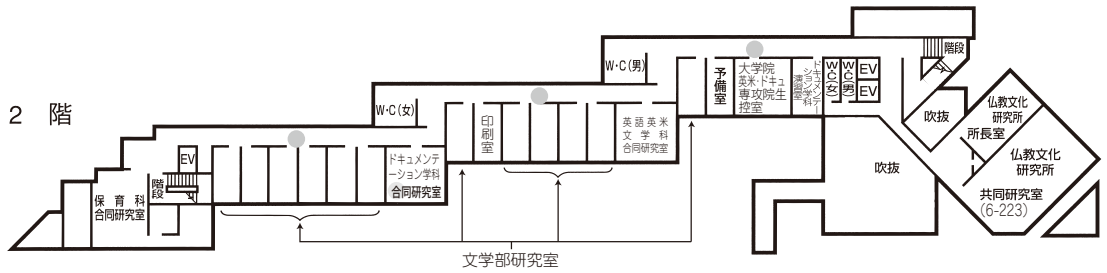
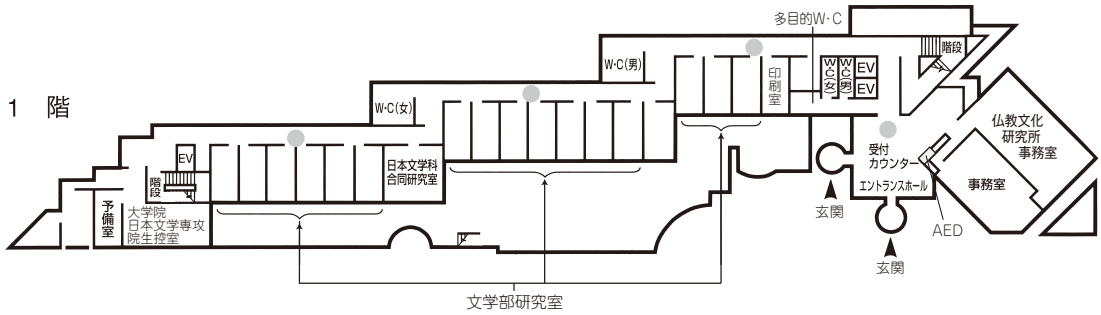
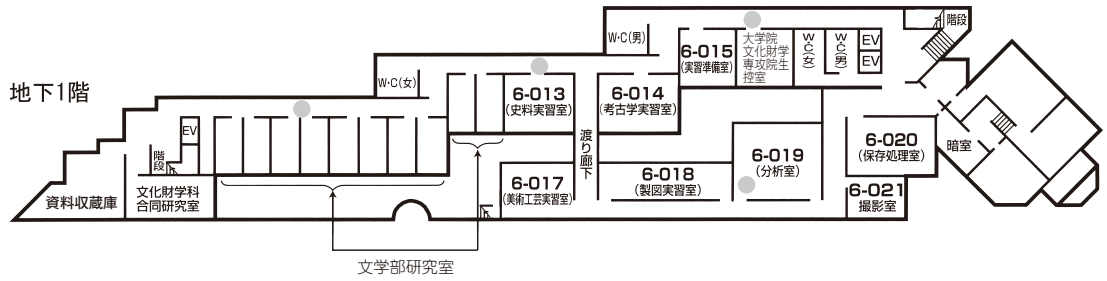
2 階



3 階



6 号 館

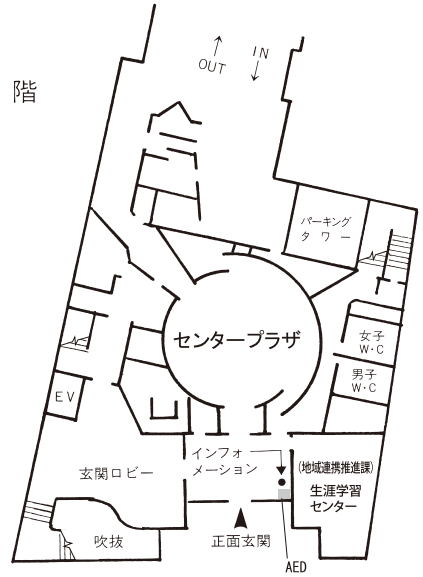


大学会館

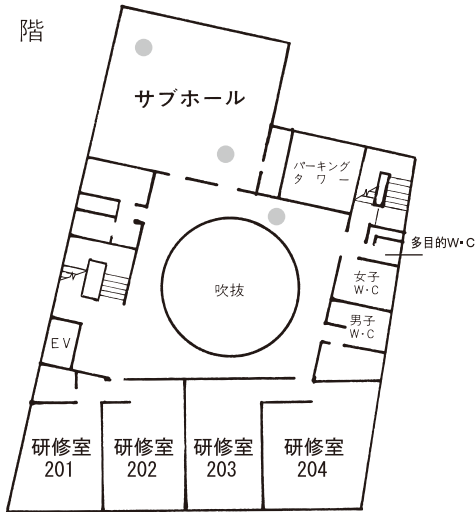
地下1階



1階



2階



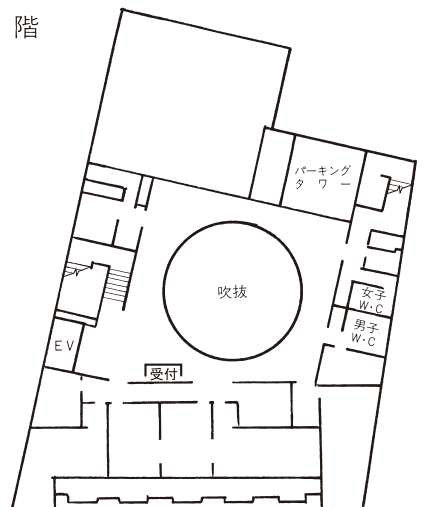
3階



4階

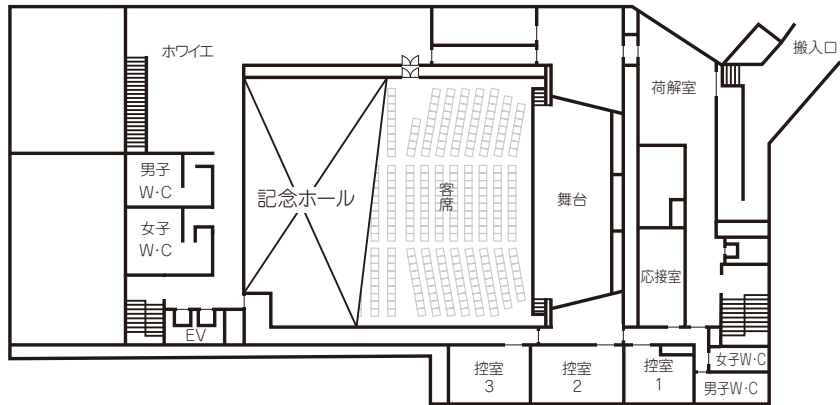


5階

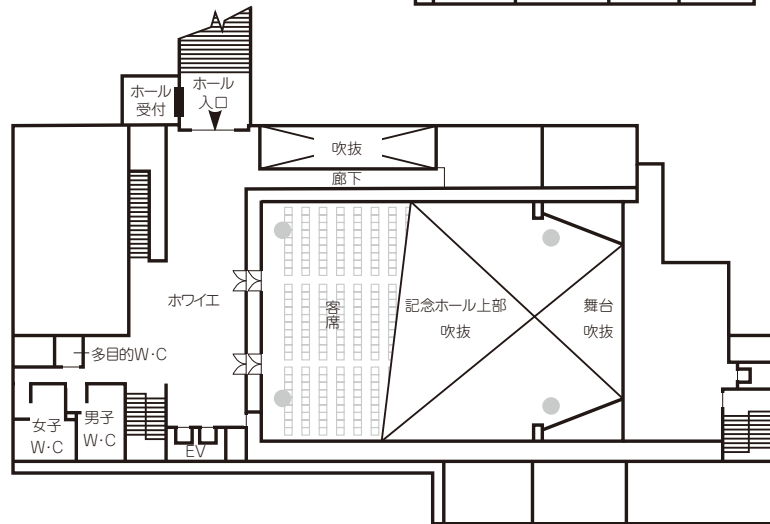


大学記念館

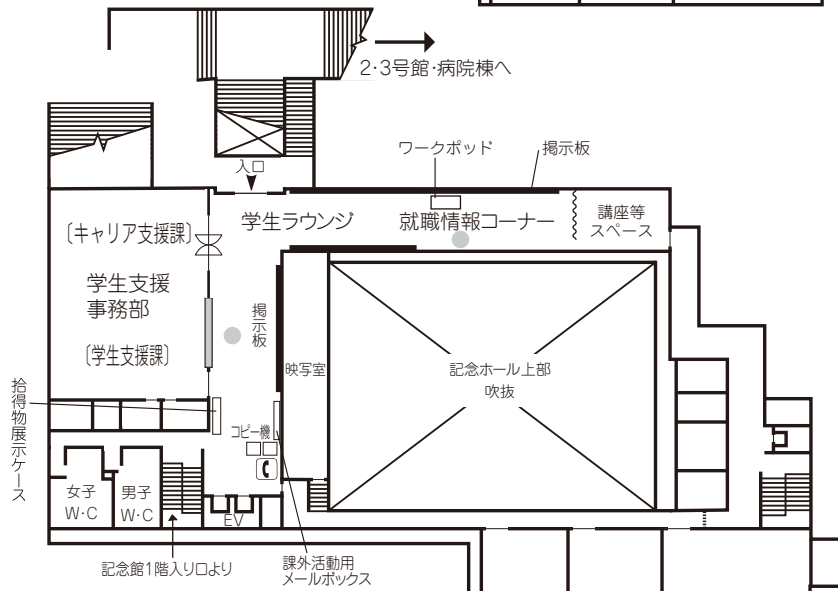
地下3階

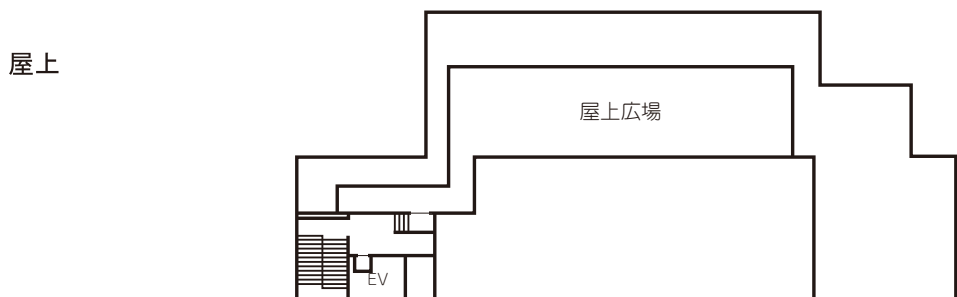
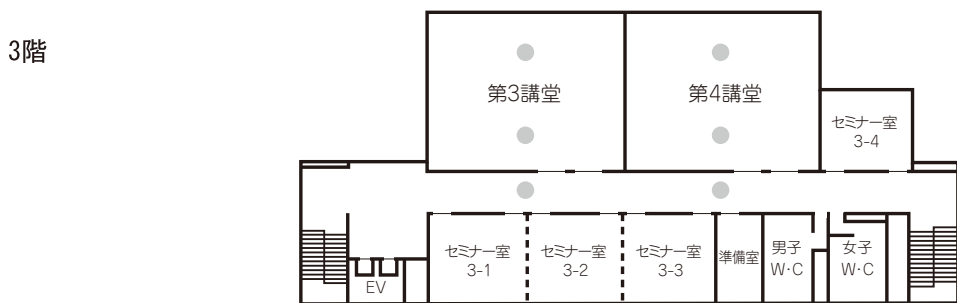
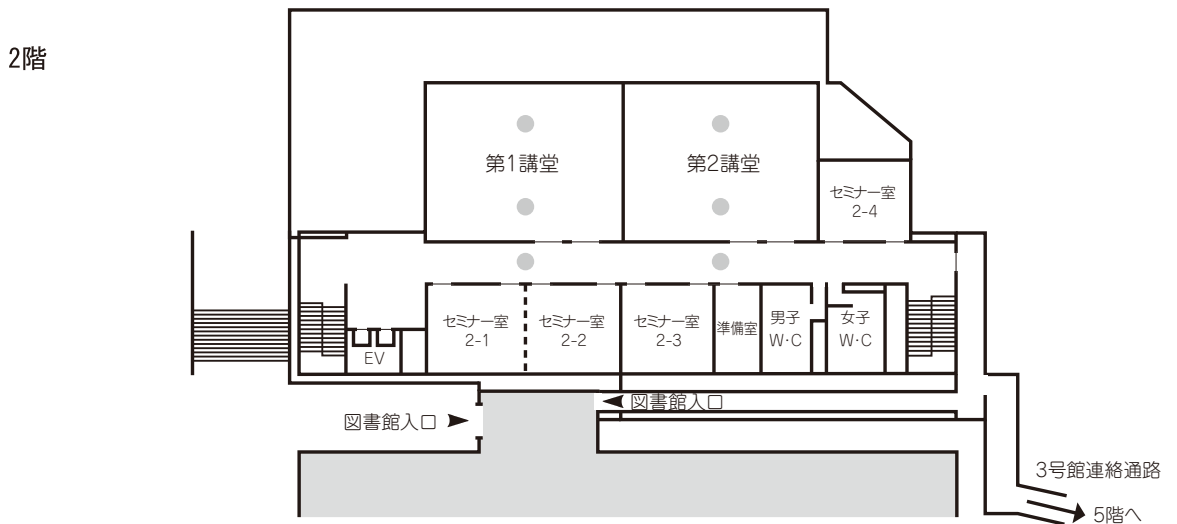
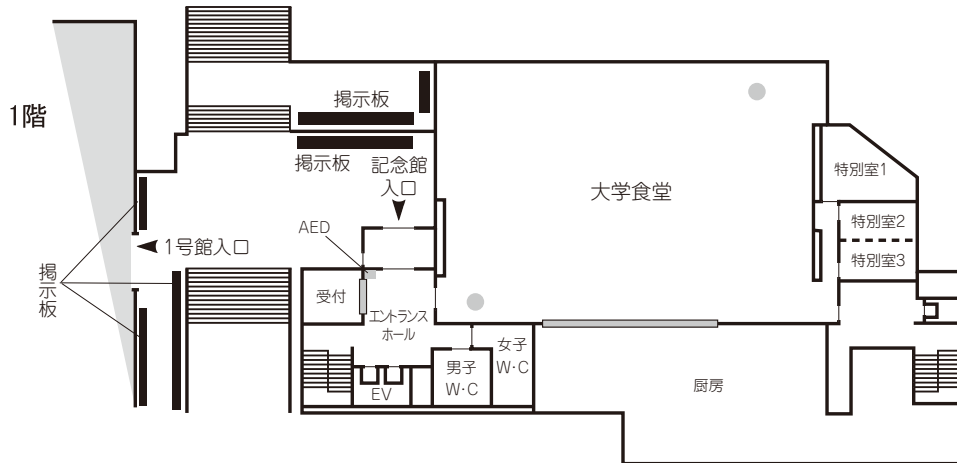


地下2階



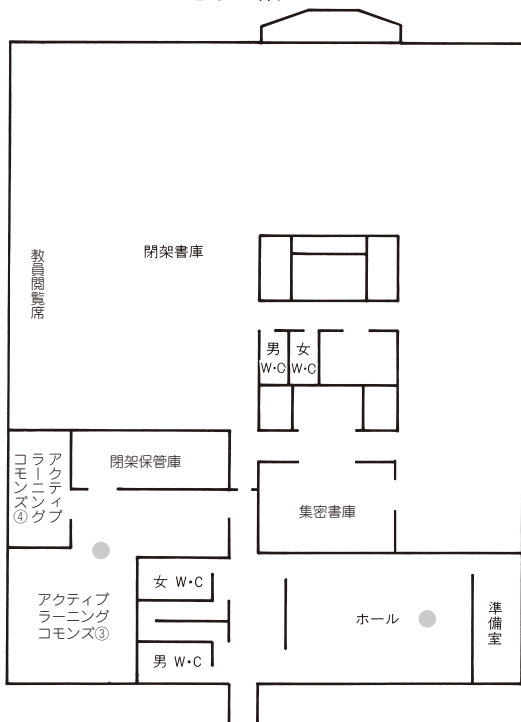
地下1階



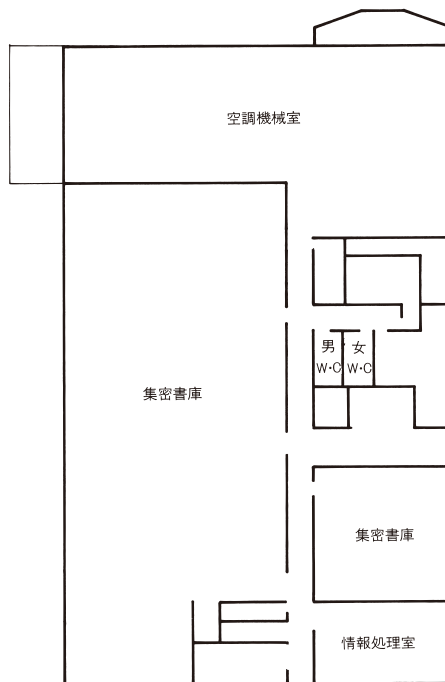


図書館

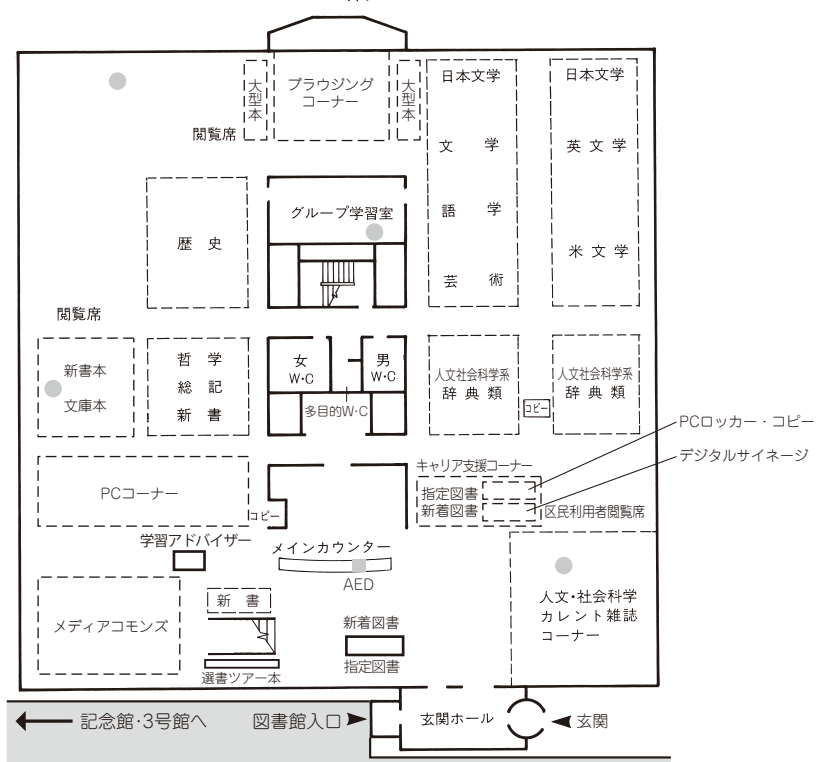
地下1階



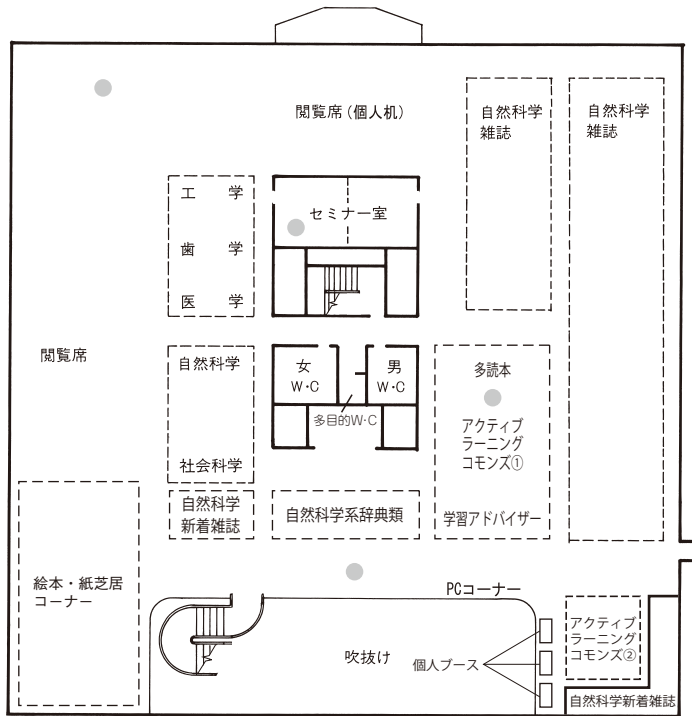
地下2階



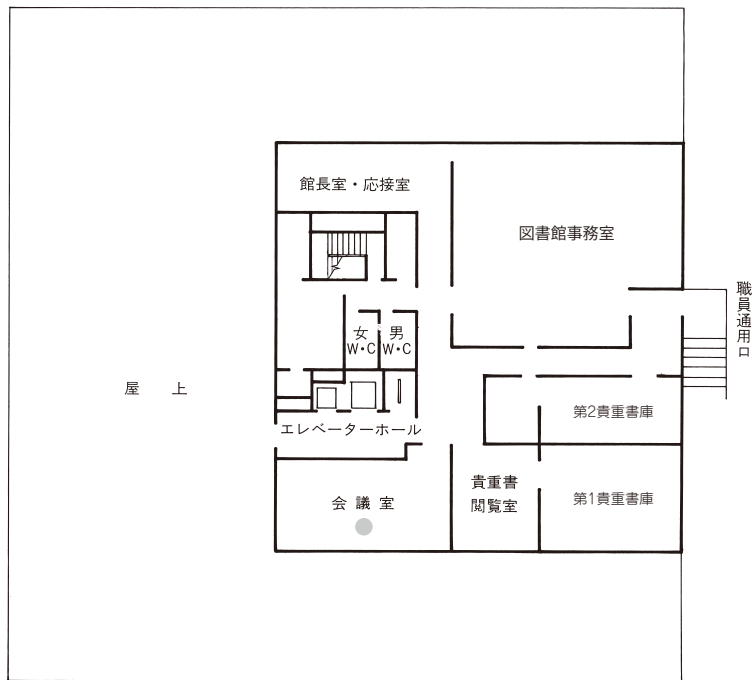
1階



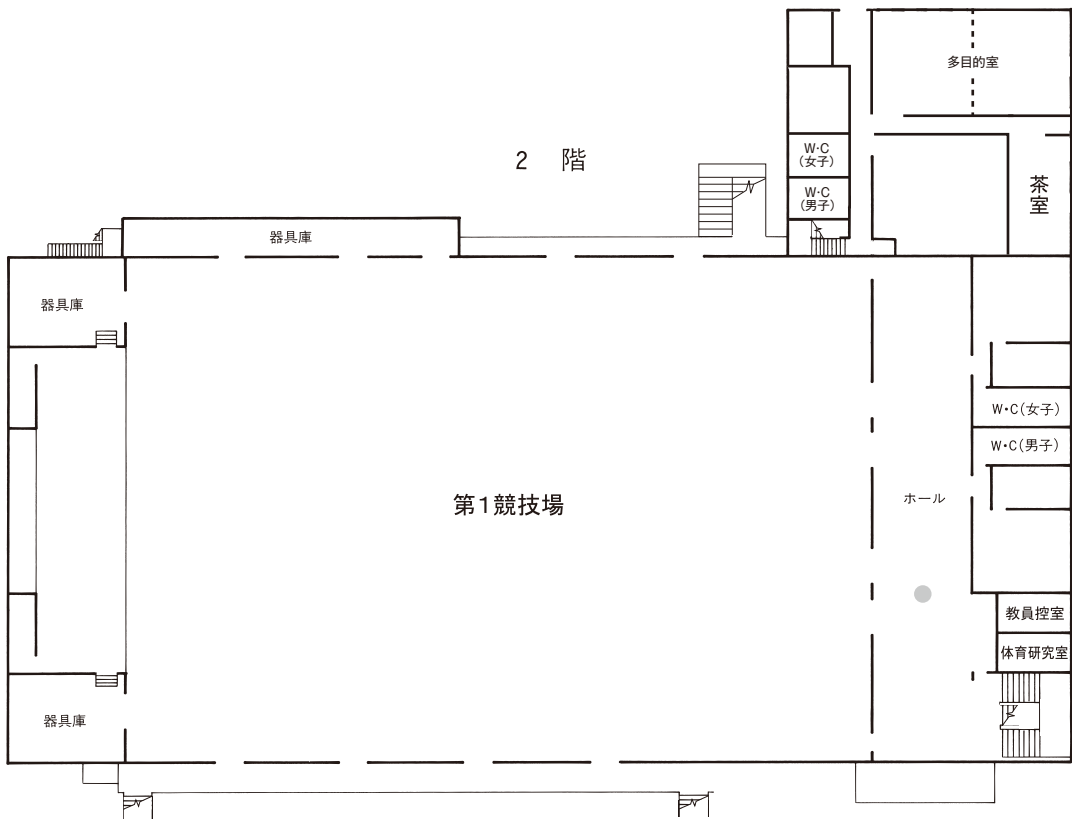
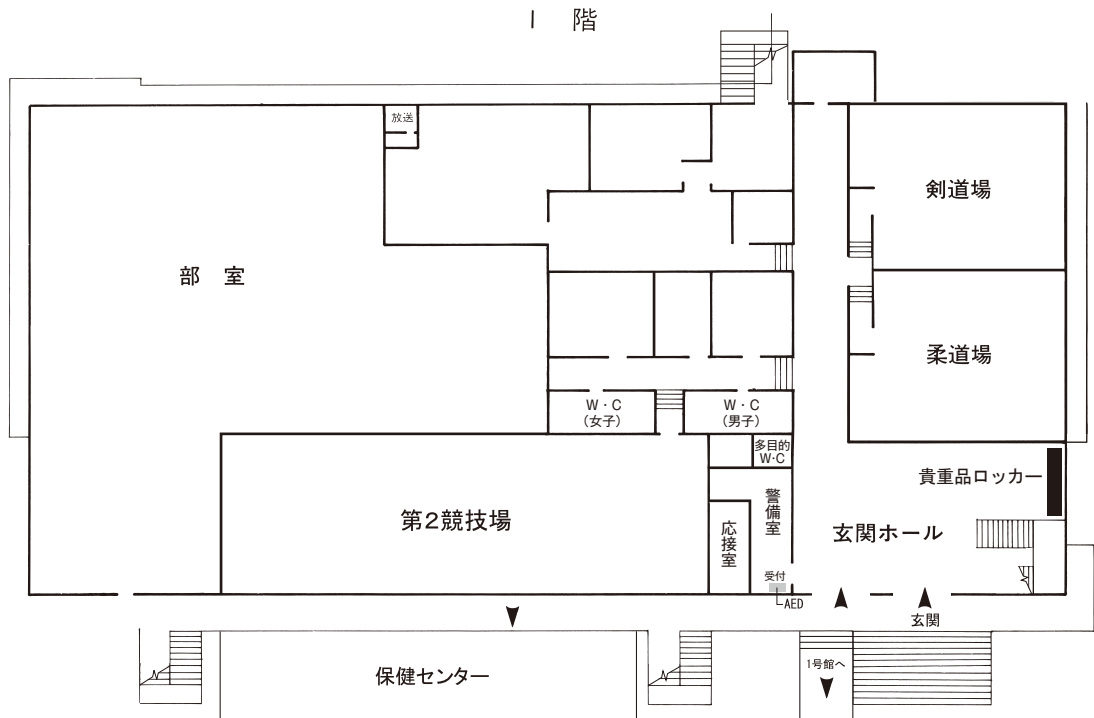
2 階

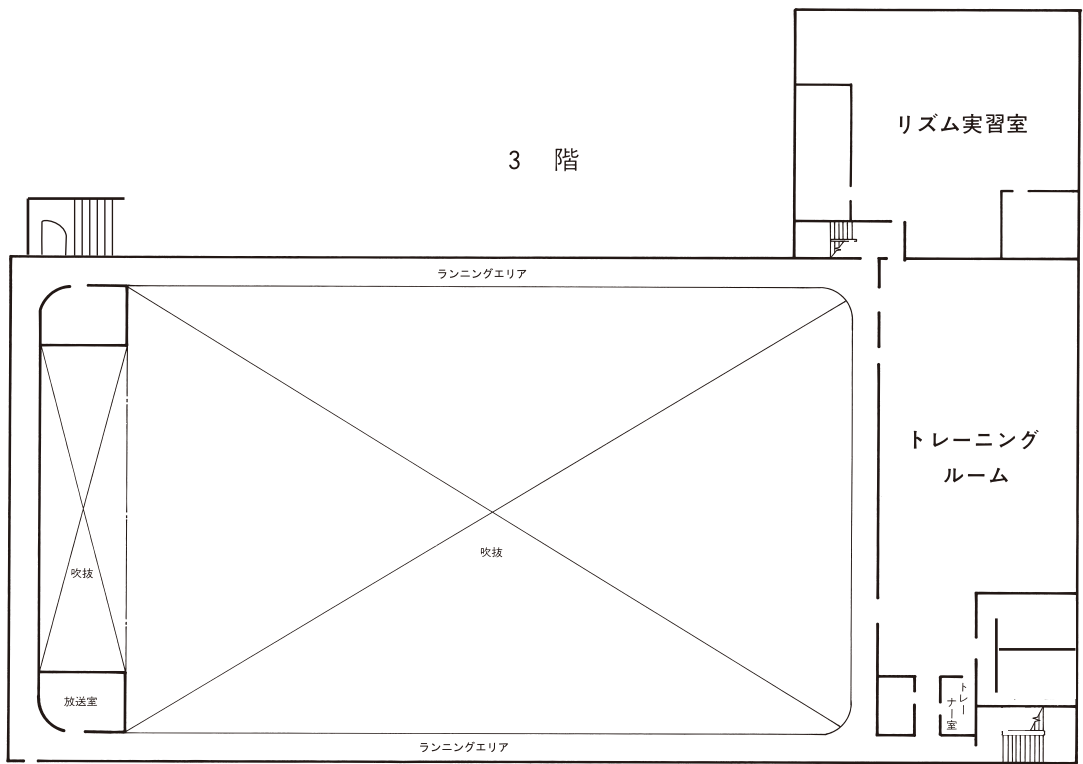


3 階

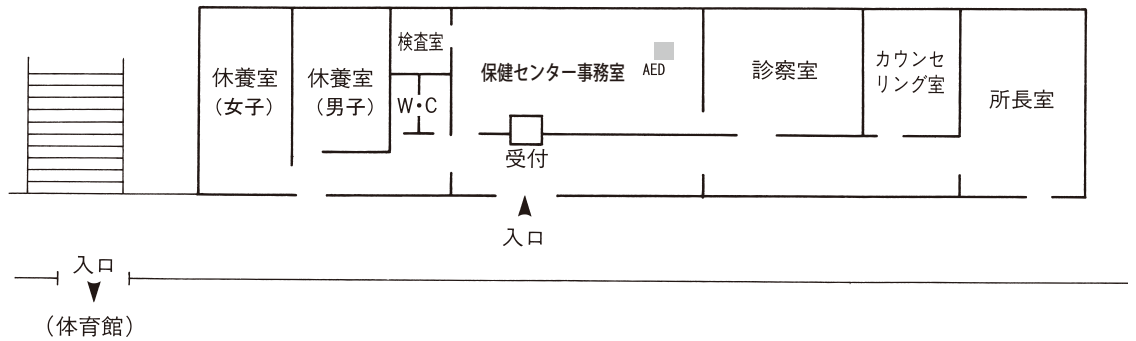


体育館

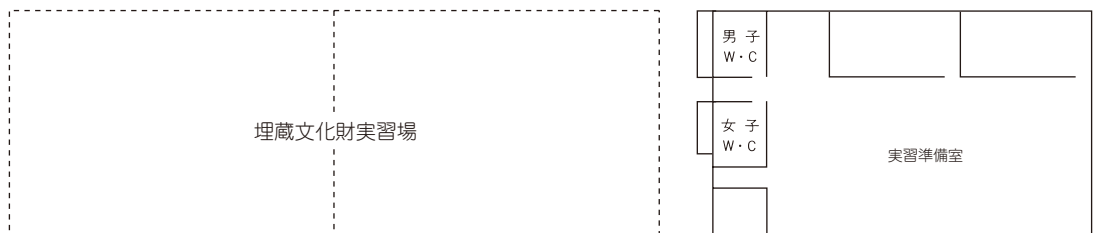




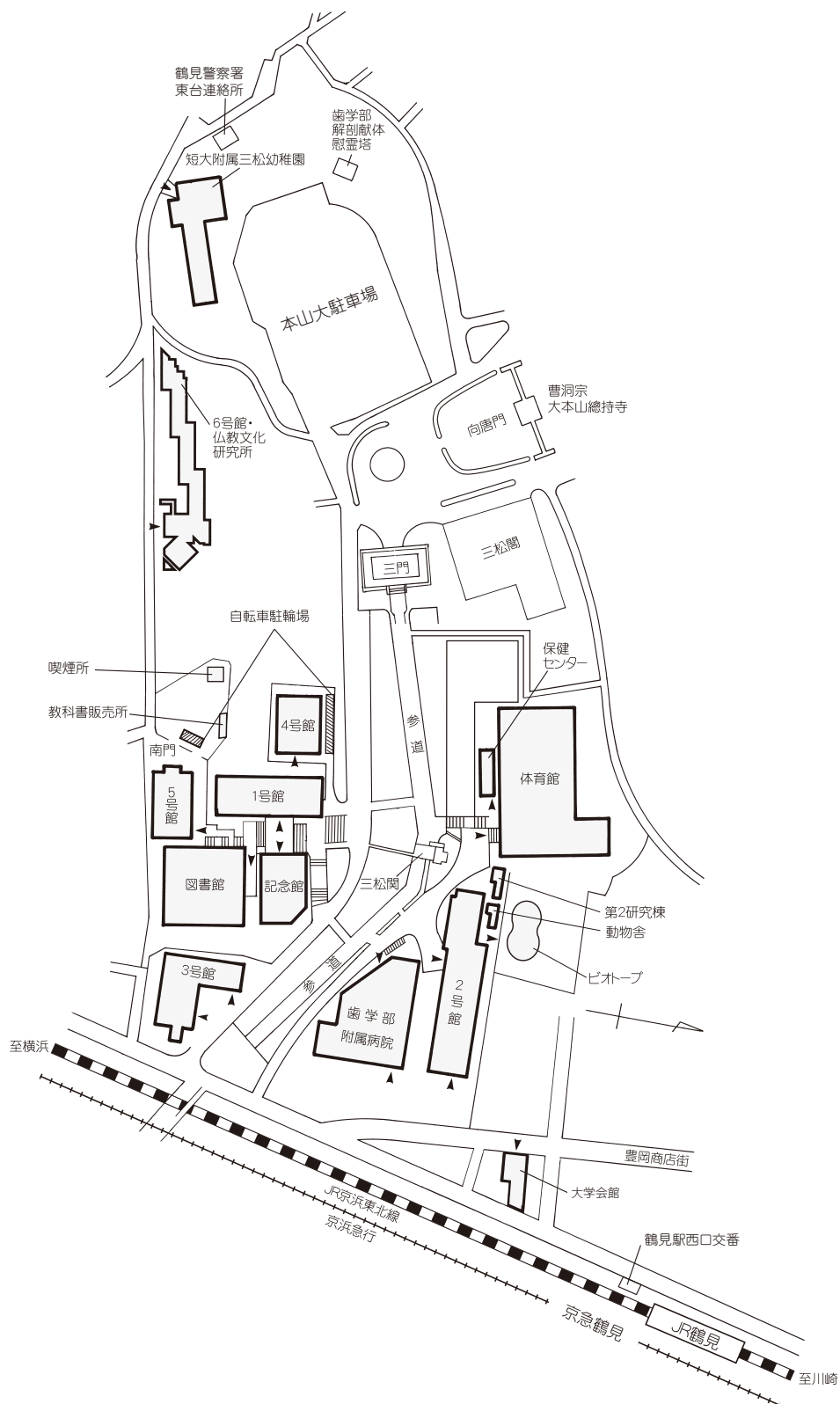
保健センター



文化財学科実習棟 (荒立) ※ 所在は「大学周辺案内図」参照



《校舎配置図》



《 災害等への対応 》

災害等への対応

1. 大規模地震発生時の措置

授業は打ち切りとします。各自持物をまとめ、放送や教職員の指示により速やかに避難してください。

避難場所：本山大駐車場

また、携帯用「大地震対応マニュアル」をお財布等に入れておくとよいでしょう。

【地震発生時の心得】

- ① 出入口のドアを開ける。
- ② 窓ガラスから離れる。
- ③ 机の下に身体を入れるか、丈夫な物に身を寄せる。
- ④ 落下物に気をつけ頭部を守る。
- ⑤ あわてて外に飛び出さない。
- ⑥ 本震は1分以内であるから、震動中は行動を起こさない。
- ⑦ 火災発生の恐れがあるので、直ちに火を消し、ガス・電気等のスイッチを切る。
- ⑧ 避難は指示により、避難順路に従い、特に階段は注意する。
- ⑨ エレベーターの使用は厳禁する。
- ⑩ 本学の緊急避難場所は、本山大駐車場とする。
- ⑪ ハンカチ・タオル等を携帯し、不安定な靴・サンダル等はなるべくさける。

【帰宅対策の準備】

大規模地震の発生により公共交通機関が停止すると、通勤・通学等で外出中の多くの人々が帰宅困難になってしまいます。通常の手段が使えない場合を想定して、徒歩帰宅に備えた準備をしておきましょう。

横浜市：帰宅困難者一時滞在施設検索システム



【携帯】



【スマートフォン】

※帰宅困難者が収容できる施設の情報を検索することができます。

《徒歩帰宅可否判断基準》

下記項目に1つでも当てはまる場合、徒歩帰宅はお勧めできません。

- ・自宅までの距離が20km以上ある。
- ・2.5km/時で歩行した場合、帰宅予定時刻が日没以降となる。
- ・携帯電話等の通信機器を持っていない。
- ・自宅までの道のりをよく知らない(地図を持っていない)。
- ・自宅までのルートが通行制限区域及び火災発生地域になっている。
- ・同一方面の帰宅者がいない。
- ・運動靴等の歩きやすい靴を履いていない。

《日頃から携帯しておく便利なもの》

- ・簡易食料(チョコ、あめなど)
- ・医薬品(ばんそうこう、胃腸薬、解熱剤など)
- ・ハンカチ・タオル
- ・携帯充電池

2. 南海トラフ地震臨時情報発令時の諸注意

気象庁より、南海トラフ地震等発生危険性について、情報が発表されています。特に、南海トラフ地震は、我が国で発生する最大級の地震であり、大きな特徴があります。

- ① 極めて広域にわたり、強い揺れと巨大な津波が発生すること
- ② 津波の到達時間が極めて短い地域が存在すること
- ③ 時間差をおいて複数の巨大地震が発生する可能性があること

これらのことから、被災の範囲は超広域にわたり、その被害はこれまで想定されてきた地震とは全く様相が異なると考えられること等が挙げられ、発生の可能性が通常と比べて相対的に高まったと評価された場合には、気象庁から「南海トラフ地震臨時情報」が発表されます。臨時情報が発令された場合には、情報の確認を最優先し、身の安全を確保してください。

※ 授業又は試験中に上記の事態が発生した場合は、学長の判断で措置を決定し、掲示（鶴見大学ポータルシステム、大学ホームページへの掲載を含む）や緊急放送等を以って速やかに通知しますので、これに従ってください。

授業・試験打ち切り後の行動について

- ① 各教室で指示があるまで勝手に行動せず静かに待機する。
- ② 火を使用している場合には直ちに消し、ガスを使用している場合には完全に栓を閉める。
- ③ 各教室の出入口のドアを開ける。
- ④ エレベーターの使用は厳禁する。
- ⑤ 交通機関の運行状況は、判明次第放送する予定。
- ⑥ 交通機関の状況により帰宅できないものは、指示により次の場所に所持品を持って集合する。

文学部・歯学部・短期大学部……………大学記念館大学食堂

- ⑦ 大規模地震発生時に交通機関が停止したことを想定し、平素から家族と相談のうえ、知人等臨時避難先を決めておき、帰宅できない場合の住所を、事前に明確にしておくように心がけること。

3. Jアラート(全国瞬時警報システム)を活用した緊急情報が配信された場合の対応

Jアラート(全国瞬時警報システム)とは、弾道ミサイル情報、津波警報、緊急地震速報など、対処に時間的余裕のない事態に関する情報を国(内閣官房・気象庁から消防庁を経由)から送信し、市町村防災行政無線(同報系)等を自動起動することにより、国から住民まで緊急情報を瞬時に伝達するシステムです。

特に弾道ミサイル情報が配信された場合の心構えについて、詳細が「学生生活」に記載されていますので、「学生生活」を参照してください。

履 修 要 項

2022(令和4)年度

2022(令和4)年4月1日

編集発行 **鶴見大学**
文学部
文学研究科

〒230-8501 横浜市鶴見区鶴見 2-1-3
TEL 045-580-8211・8212